

講義概要

— 2026 —



Yamaguchi College of Arts

山口芸術短期大学
YAMAGUCHI COLLEGE OF ARTS

目 次

	ページ		ページ
芸術表現学科	2	専攻科	155
保育学科	80		

芸術表現学科 目 次

【1 年次開講科目】

学科目	ページ	学科目	ページ
郷土史	4	メディア表現演習Ⅱ	23
知的財産法入門	5	服飾デザイン	24
英語コミュニケーション	6	芸術表現入門	25
韓国語コミュニケーション	7	キャリアデザイン	26
絵画Ⅰ	8	インターンシップⅠ	27
陶芸	9	インターンシップⅡ	28
デッサンⅠ	10	ビジネス文書	29
デッサンⅡ	11	ビジネスコミュニケーション	30
基礎デザインⅠ（色彩構成）	12	簿記基礎理論	31
基礎デザインⅡ（平面構成）	13	簿記演習	32
色彩論	14	情報リテラシーⅠ	33
広告論	15	情報リテラシーⅡ	34
グラフィックⅠ	16	音楽基礎理論	35
グラフィックⅡ	17	鍵盤Ⅰ	36
イラストレーションⅠ	18	鍵盤Ⅱ	37
画像編集	19	吹奏楽Ⅰ	38
Webデザイン入門	20	吹奏楽Ⅱ	39
WebデザインⅠ	21	合唱Ⅰ	40
メディア表現演習Ⅰ	22	合唱Ⅱ	41

【2 年次開講科目】

学科目	ページ	学科目	ページ
美術概論	43	マーケティング	61
現代社会考察	44	フィナンシャルプランニング	62
文学	45	ビジネス実践演習	63
暮らしと法	46	情報リテラシーⅢ	64
暮らしのなかの科学	47	地域課題解決演習Ⅰ（PBL）	65
体育（実技）	48	地域課題解決演習Ⅱ（PBL）	66
絵画Ⅱ	49	映像音楽論	67
染織	50	ピアノⅢ	68
基礎デザインⅢ（平面構成）	51	ピアノⅣ	69
基礎デザインⅣ（立体構成）	52	電子オルガンⅢ	70
DTPデザイン論	53	電子オルガンⅣ	71
グラフィックⅢ	54	吹奏楽Ⅲ	72
イラストレーションⅡ	55	吹奏楽Ⅳ	73
DTPデザイン演習	56	合唱Ⅲ	74
パッケージデザイン	57	合唱Ⅳ	75
ポートフォリオ制作	58	サウンドデザイン	76
WebデザインⅡ	59	特別演習	77
メディア表現演習Ⅲ	60	卒業研究	78

1 年次開講科目

芸術表現学科

科目名	郷 土 史	教員	河合 良房 （実務経験） （単独）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-L101-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	○
年次	I 年前期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	松下村塾・至誠 山口県の歴史・文化・自然、文化財の保護と活用 プレゼンテーション、地域活性化						
授業概要	建学の精神や松下村塾について学ぶことを通して、本学での学びの動機づけを行う。 山口県内の歴史や文化、自然などについて、文化財を中心に学ぶことで地域の価値を再認識し、誇りと愛着を持つ。 各自が「ふるさと探訪」のテーマを設定して調査・研究を行い、伝わりやすい発表資料を作成する。 プレゼンテーションを行い、相互評価することで、学び合う姿勢を身につける。 文化財などの地域資源を活用し、率先して地域活性化に貢献しようとする意欲を高める。						
到達目標	1. 建学の精神を理解することによって本学で学ぶ意欲を高めることができる。						
	2. 山口県の歴史や文化について理解を深め、自らの言葉で語ることができる。						
	3. 調査、研究の手法を学び、成果を資料にまとめて発表することができる。						
	4. 文化財を通して郷土に誇りと愛着を持ち、それらの資源を生かして地域活性化への意欲を高めることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 建学の精神と松下村塾					1	面接
	2. 空間軸で捉えた山口県					2	面接
	3. 時間軸で捉えた山口県					2	面接
	4. 山口県の国宝					2, 4	面接
	5. 山口県の重要文化財Ⅰ（建造物）					2, 4	面接
	6. 山口県の重要文化財Ⅱ（絵画・彫刻・工芸品）					2, 4	面接
	7. 山口県の史跡・名勝					2, 4	面接
	8. 山口県の特別天然記念物					2, 4	面接
	9. 山口県の重要伝統的建造物群保存地区・重要民俗文化財					2, 4	面接
	10. 山口県の人間国宝					2, 4	面接
	11. ふるさと探訪Ⅰ（テーマ設定・情報収集）					2, 3, 4	面接
	12. ふるさと探訪Ⅱ（プレゼン資料作成）					2, 3, 4	面接
	13. 文化財の価値と活用Ⅰ（発表及び相互評価）					2, 3, 4	面接
	14. 文化財の価値と活用Ⅱ（発表及び相互評価）					2, 3, 4	面接
	15. 文化財の価値と活用Ⅲ（発表及び相互評価）					2, 3, 4	面接
定期試験							
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①課題レポート（10%）②授業態度・授業への参加度（10%）③調査研究・発表（40%）④定期試験（40%）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解及び思考・判断:調査研究の成果を簡潔にまとめ、自分の言葉で表現できる。 ②思考・判断及び態度:教員の説明や他学生の発表に関心を持って聴き、疑問点は質問できる。 ③関心・意欲及び技能・表現:主体的に設定したテーマでプレゼンテーションを行い、互いに評価し合える。 ④知識・理解:授業に関する基本事項に関して理解し、基礎的問題に解答できる。						
フィードバックの方法	質問には適宜対応し、プレゼンテーションは相互評価を行うことで、各自が自らの長所や課題を認識して改善に繋げていきます。定期試験で知識の定着を図ります。						
時間外の学習について	予習：各回のテーマについて事前に調べておく。「ふるさと探訪」のテーマを決め、調査・研究に取り組む。（各回 90 分程度） 復習：発表の資料収集を行い、プレゼンテーション資料および課題レポートを作成する。（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし（プリント配付） 参 考 書：山口県の歴史散歩（山川出版社）、山口県の歴史（山川出版社）、山口県文化財（山口県文化財愛護協会） 参考資料：山口県史及び各市町発行の市・町史、文化財関連 HP						
実務経験を活かした授業について	高校教員（日本史）経験：文化財を通して郷土の価値に気づき、地域への理解と愛着が高まる話をします。						
担当者からのメッセージ等	文化財を通して郷土に対する誇りと愛着を持ち、自分の言葉で郷土の良さを表現できる社会人となって、地域活性化の意欲を高めていきましょう。 Email:授業の際に連絡します。						

科目名	知的財産法入門	教員	柳川 和也 大野 浩光 (複数)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	○
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-L102-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	講義	単位	2				
年次	I 年後期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	知的財産、著作権、特許、意匠、商標						
授業概要	知的財産法は、アイデアや発明、ブランド、デザイン、作品などの知的財産を、創作した人の財産として保護するための制度です。本科目では、社会人に求められる知的財産（著作権・特許・意匠・商標）の基本を学び、日常生活や創作活動、ビジネスの場面で、知的財産に関わる問題に気づき、適切に対処する力を身につけます。						
到達目標	1. 知的財産権法の役割や、社会における位置付けを理解する。						
	2. 著作権、特許、商標、意匠に関する基礎知識や、基本的な考え方を身につける。						
	3. 日常生活や創作活動、ビジネスの場面で、知的財産に関わる問題に気づくことができる。						
	4. 日常生活や創作活動、ビジネスの場面で、ルールを厳守して正しく行動ができる。						
	5. J-platpat を活用して、知的財産に関する情報検索ができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. ガイダンス：社会と知的財産権				I	面接	
	2. 著作権（1）著作物				1, 2, 3, 4	面接	
	3. 著作権（2）著作者人格権				1, 2, 3, 4	面接	
	4. 著作権（3）複製権、公衆送信権				1, 2, 3, 4	面接	
	5. 著作権（4）教育における利用				1, 2, 3, 4	面接	
	6. 著作権（5）演奏権など				1, 2, 3, 4	面接	
	7. 著作権（6）二次的著作物				1, 2, 3, 4	面接	
	8. 著作権（7）著作隣接権				1, 2, 3, 4	面接	
	9. 著作権（8）フリー素材・楽曲の利用				1, 2, 3, 4	面接	
	10. 特許（1）特許法				1, 2, 3, 4	面接	
	11. 特許（2）特許情報検索（J-platpat）				5	面接	
	12. 商標（1）商標法				1, 2, 3, 4	面接	
	13. 商標（2）商標情報検索（J-platpat）				5	面接	
	14. 意匠（1）意匠法				1, 2, 3, 4	面接	
	15. 意匠（2）意匠情報検索（J-platpat）				5	面接	
	◎定期試験（筆記、パソコン実技）						
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①小レポート・ワークシート・宿題レポート（50％） ②定期試験（50％） 評価の基準：①小レポート・ワークシート・宿題レポート ＊思考・判断、関心・意欲を測定 ・授業内容を理解し、正しく説明ができる。 ・知的財産に関心を持ち、身近なトピックとの関連を述べることができる。 ・創作者と利用者の立場を理解し、適切な行動ができる。 ・知的財産に関する問題に対して、自分の意見を述べることができる。 ②定期試験 ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・知的財産に関する正しい知識を身につけている。 ・J-platpat を活用して、知的財産に関する情報検索ができる。						
フィードバックの方法	次回講義で宿題レポートの解答例を示し、解説する。次回講義あるいは Teams で、質問に回答する。						
時間外の学習について	予習： 知的財産に関するニュースに目を通し、知的財産と社会の関係を考察する。（各回 60 分程度） 復習： 授業を振り返り、小レポート、宿題レポート、ワークシートに取り組む。教科書を読む。（各回 120 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：「これからの知財入門 第4版」（ISBN978-4-296-20195-2）、日経 BP 社 参 考 書：特になし 参考資料等：特になし						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	Email: kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）、hoono@yamaguchi-jca.ac.jp（大野）						

科目名	英語コミュニケーション	教員	植村 隆（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-L111-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	
年次	1 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	英語、コミュニケーション						
授業概要	基礎的な英語コミュニケーションスキルを学びながら、英語活動に楽しく前向きに参加することを目指す。						
到達目標	1.基礎的な英語表現を習得し、英語を使う自信をつける。						
	2.自分のことを英語で話すことが出来るようになる。						
	3.効果的に他の人と英語で基礎的なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. Introduction and Classroom English					1, 2, 3	面接
	2. Greetings and Active Listening					1, 2, 3	面接
	3. Interviewing Classmates and Friends					1, 2, 3	面接
	4. Talking about Classmates and Friends					1, 2, 3	面接
	5. Thinking about Happiness					1, 2, 3	面接
	6. Talking about Hobbies					1, 2, 3	面接
	7. Talking about Experiences					1, 2, 3	面接
	8. Talking about Future Dreams					1, 2, 3	面接
	9. Study Strategies					1, 2, 3	面接
	10. Giving Reasons					1, 2, 3	面接
	11. Agreeing and Disagreeing					1, 2, 3	面接
	12. Non-verbal Message and English Communication					1, 2, 3	面接
	13. Basic Presentation Structure					1, 2, 3	面接
	14. Presentations and Effective Strategies					1, 2, 3	面接
15. Presentations and Peer Review					1, 2, 3	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション等						
成績評価基準	評価の方法：①宿題・授業外レポート（50%）②受講者の発表（プレゼン）（30%）③授業態度・授業への参加度（20%） 評価の基準：①知識・理解・態度・意欲・思考・判断 ②技能・表現・知識・理解・意欲 ③態度・意欲						
フィードバックの方法	レポート提出・プレゼン後に個別還元指導						
時間外の学習 について	予習：指定された Lesson について、事前に内容を確認しておく。各回 90 分程度 復習：既習の Lesson の目標表現が円滑に使用できるように反復的に学習をする。各回 90 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：適宜配布 参 考 書：適宜紹介予定 参考資料：適宜配布						
実務経験を活かした 授業について	国際ビジネス経験：企業現場で体得した効果的な英語コミュニケーションの方法を教育内容に活かしていきます。						
担当者からの メッセージ等	・英語が苦手な学生さんも、必要性を感じていたり、関心を少しでも持っていれば歓迎します。まずはアクティブ・ラーニングの中で間違えてもいいので恐れずに英語を使ってみましょう。 ・ジェスチャーやゲーム性のあるアクティビティを取り入れながら英語コミュニケーションをより身近に感じてもらう授業設計をしています。楽しみながら無理なく英語のアウトプットが出来るお手伝いをしていきます。発音練習にも力を入れており、世界のどこでも伝わるような発音の基本を習得していきましょう。 ・連絡先メールアドレス： T0040★yamaquchi-ica.ac.jp（送信時★を@にご変換 植村 隆）						

科目名	韓国語コミュニケーション	教員	全 永竣 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-L112-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	韓国語基礎、ハングル、韓国語、韓国語会話、韓国語コミュニケーション						
授業概要	ハングル文字と韓国語の基本的な語彙と発音・文法・会話スキルを学び基礎的な会話ができることを目指す。						
到達目標	1. ハングル文字の読み書きができる。						
	2. 韓国語の基本文法や語彙を習得し簡単な日常会話ができる。						
	3. 初歩的な韓国語及び韓国の文化が理解できる。						
	4. 旅行・仕事やキャリアに活かせる為の学習の土台ができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. ハングルの仕組みⅠ	：韓国語とハングル文字、基本母音と子音			1, 2, 4	面接	
	2. ハングルの仕組みⅡ	：複合母音、パッチム（音節の最後につく子音）			1, 2, 4	面接	
	3. 発 音 規 則	：発音変化のルール、ハングルの読み書き			1, 2, 4	面接	
	4. 文 法 （助詞）	：韓国語のてにをは、漢数詞（いち、に、さん）			2, 3, 4	面接	
	5. 文法（指示代名詞、疑問詞）	：固有数詞（ひとつ、ふたつ、みっつ）、韓国語のこそあど、疑問文			2, 3, 4	面接	
	6. 文法（指定詞、ハムニダ体）	：～です／ですか、ハムニダ体（丁寧語）、自己紹介			2, 3, 4	面接	
	7. 文法（ヘヨ体、否定形）	：フレンドリーな表現のヘヨ体（丁寧語）、否定文			2, 3, 4	面接	
	8. 文法（過去形、尊敬語）	：～ました／でした、より丁寧な敬語			2, 3, 4	面接	
	9. 文法（存在詞）	：ある・いる／ない・いない、位置と方角の表現			2, 3, 4	面接	
	10. 基礎会話（好き／嫌い）	：～が好きです、語彙を増す			2, 3, 4	面接	
	11. 基礎会話（注文・要求）	：～ください、韓国の食文化			2, 3, 4	面接	
	12. 基礎会話（行動の目的）	：～しに（行きます）、時を表す単語			2, 3, 4	面接	
	13. 基礎会話（願望・意志）	：～したいです、ヘヨ体の復習			2, 3, 4	面接	
	14. 基礎会話（依頼、提案）	：～してください、～しましょう			2, 3, 4	面接	
	15. 文法（連体形、可能形）	：名詞の意味を限定したり説明する連体形、できる／できない			2, 3, 4	面接	
アクティブ・ラーニング	リスニングとシャドーイング、ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法：①宿題・レポート（40%） ②コミュニケーション演習（30%） ③ 授業態度・授業への参加度（30%） 評価の基準：①知識、理解度、表現力を測定（授業内容を十分に理解して語彙・文法の知識を深く理解している） ②知識、思考・判断・表現力、態度を測定（習得した語彙、発音、文法の知識を活かして積極的に表現している） ③態度・意欲を測定（積極的に授業に参加して発言・質問を行っている）						
フィードバックの方法	レポート・宿題の評価とそれに対するコメント、授業中の発音や表現の不完全な部分には適宜適切なアドバイスを行う。						
時間外の学習について	予習：次の授業内容を可能な範囲で理解し新しい語彙をチェックする 復習：学習した表現を繰り返し練習しながら発音と語彙をしっかりと覚える				各回 90 分程度 各回 90 分程度		
教材にかかわる情報	テキスト：ゼロからはじめる韓国語書き込みレッスン キム・スノク著 アルク出版 参 考 書：韓国語辞書（可能であれば） 参考資料：適宜配布						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	外国語学習は単なるコミュニケーションスキルを身に付けるだけでなくその国の文化や歴史、人々の考え方・価値観の理解にも繋がります。韓国語の基礎をしっかりと学びながら皆さんの世界観がより一層広くなることを願います。 ・連絡先メールアドレス：授業内で周知します。						

科目名	絵 画 I	教員	佐々木 範子（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-S111-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	絵画、油彩画、作品制作、作品展示						
授業概要	絵画作品（油彩画）を制作する。制作を通して自己分析を促し、各自の作品テーマに適した表現方法を探求する。完成までの過程や技能と知識を学習する。						
到達目標	1. 油彩画について基本的な画材の使い方と知識を学習する。						
	2. 絵画制作、展示の過程を体験する。						
	3. 自己の経験に基づいたテーマの設定、モチーフの選択ができる。						
	4. 制作を通して考え、発想し、自己の表現を発展させることができる。						
	5. 自己の作品について発表することができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業の目標、計画、制作過程、画材の使用方法、テーマ、モチーフについての理解。					1, 2, 4	面接
	2. 作品制作テーマとモチーフの選択 作品下地塗り					2, 3, 4	面接
	3. 作品下絵（画面構成）作品下地塗り					1, 2, 4	面接
	4. 作品下絵（画面構成）作品制作のための彩色実習					1, 2, 4	面接
	5. 作品下絵（画面構成）作品制作のための彩色実習、下描きについて学習					1, 2, 4	面接
	6. キャンバスに下描き（画面構成）					1, 2, 4	面接
	7. キャンバスに下描き（画面構成）彩色について学習					1, 2, 4	面接
	8. 作品彩色、油絵具の取り扱いについて学習					1, 2, 4	面接
	9. 作品彩色、筆について学習					1, 2, 4	面接
	10. 作品彩色、テーマの表現方法について学習					1, 2, 4	面接
	11. 作品彩色、キャンバス側面の仕上げ方について学習					1, 2, 4	面接
	12. 作品彩色、鑑賞者について学習					1, 2, 4	面接
	13. 作品彩色、絵の具の盛り上げ方、サインについて学習					1, 2, 4	面接
	14. 作品彩色、仕上げ、作品発表準備					1, 2, 4	面接
	15. 完成作品の発表					2	面接
◎定期試験（完成作品の展示, 作品についてのレポート提出）					5	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度、時間外学習（20%）②提出作品(50%) ③完成作品の発表(10%) ④定期試験（作品展示、作品についてのレポート提出）(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲・態度：授業へ意欲的に取り組むことができる。 作品や課題を期限内に提出できるように時間外学習に取り組むことができる。 ②技能・表現：各自で設定したテーマを適切な技能を用いて表現できる。 ③思考・判断・表現：制作した作品や、制作時に思考判断したことを適切な言語を用いて発表できる。						
フィードバックの方法	作品制作、時間外の学習課題に対するフィードバックの方法：目標を達成できるように補足説明や助言をする。						
時間外の学習について	予習：次回の準備（各回 5 分程度、授業内容により時間の増減あり） 復習：制作（各回の授業内容を振り返り、制作を進める。）（各回 40 分程度、授業内容により時間の増減あり）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：各回の学習内容についての資料（講師作成）						
実務経験を活かした授業について	画家、美術講師経験を活かして、絵画の知識や制作について分かりやすく指導します。						
担当者からのメッセージ等	絵画制作の体験を通して成長できるよう、主体的に取り組ましましょう。 Email: T0041@yamaguchi-jca.ac.jp（佐々木）						

科目名	陶 芸	教員	上田 敦之（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-S112-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	陶芸、焼き物、工芸美術、器づくり、技法、創造、窯作業、教養、主体性						
授業概要	陶芸の歴史、種類、産地などの概略を理解するとともに、制作工程や種々の技法などについて習得する。 玉作り、紐作り、板作りなどの技法を用いて日常的に使用する器を制作し、粘土の持つ特性を知ると同時に陶芸の魅力を見つける。 窯作業の一連の流れを身につける。						
到達目標	1. 焼き物の簡単な歴史、種類、代表的な産地を理解する。						
	2. 基本的な技法（土練り、玉作り、板作り、紐作り）を習得する。						
	3. 粘土の持つ特性を理解する。						
	4. 窯作業の一連の流れを理解する。						
履修条件、注意事項	土を扱うという性格上、常に汚れても良い服装で臨むこと。作品が乾きすぎると作業がしづらくなるので、毎回授業に参加すること。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 焼き物の基本的概略の説明					I	面接
	2. 土練り、基礎的な技法の実演・説明					2,3	面接
	3. 作品制作1：玉作りによる作品の制作（茶わん）					2,3	面接
	4. 作品の仕上げ					2,3	面接
	5. 作品制作2：紐づくりによる作品の制作（鉢）					2,3	面接
	6. 作品の仕上げ					2,3	面接
	7. 作品制作3：紐作りによる作品の制作（花入）					2,3	面接
	8. 作品の仕上げと加飾					2,3	面接
	9. 作品制作4：板作りによる作品の制作（皿）					2,3	面接
	10. 皿の仕上げと加飾					2,3	面接
	11. 作品制作5：板作りによる作品の制作（カップ）					2,3	面接
	12. カップの仕上げと加飾					2,3	面接
	13. 〓						面接
	14. 窯作業：窯詰め・素焼き・釉薬かけ・本焼き					4	面接
	15. 窯出し、作品提出、講評					3,4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度・授業への参加度（40%）②提出作品5～6個程度（60%） 評価の基準：①関心・意欲、態度：授業中の作品制作に集中できている。積極的に作品案を考えている。 ②技能・表現：教えた技術が再現できる。作品の完成度、創造性。						
フィードバックの方法	作品制作時に問題点を個々に実技を交えながらコメントし、次回以降の制作に活かす。						
時間外の学習について	予習：陶芸技法書などを次回授業までに読んでおくこと（各回45分程度） 復習：制作に必要な技法、道具の再確認をしておくこと（各回45分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について	窯元・作家活動経験：作品作りの考え方や、さまざまな技法について話をします。						
担当者からのメッセージ等	物作りの楽しさを感じてみてください。 担当者の連絡先は授業内で周知します。						

科目名	デッサンⅠ	教員	渡山 賢二（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-S12I-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	Ⅰ				
年次	Ⅰ 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	基礎造形、鉛筆デッサン、観察力、表現力、ディスカッション						
授業概要	デッサン実技を通じて、造形表現の基礎であるデッサン力（観察力と描写力）を修得する。						
到達目標	1.画材に関する技術、知識の習得						
	2.モチーフの観察方法の理解と習得						
	3.モチーフの形状表現と明暗表現の理解と技術の習得						
	4.モチーフの質感・空間（遠近）表現の理解と技術の習得						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業説明・スキルチェック【講義・実習】					1,2	面接
	2. 明暗表現・遠近表現（透視図法）【講義・実習】					1,2,3	面接
	3. 基礎形体の描き方（立方体）【講義・実習・講評】					1,2,3	面接
	4. 基礎形体の描き方（球体）【講義・実習・講評】					1,2,3	面接
	5. 基礎形体の描き方（円柱）【講義・実習・講評】					1,2,3	面接
	6. 質感表現①【講義・実習・講評】					2,3,4	面接
	7. 質感表現②【講義・実習・講評】					2,3,4	面接
	8. 応用課題Ⅰ【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3	面接
	9. 応用課題Ⅰ【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第8回の続き					1,2,3,4	面接
	10. 応用課題Ⅱ【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3,4	面接
	11. 応用課題Ⅱ【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第10回の続き					1,2,3,4	面接
	12. 応用課題Ⅲ【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3,4	面接
	13. 応用課題Ⅲ【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第12回の続き					1,2,3,4	面接
	14. 応用課題Ⅳ【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3,4	面接
	15. 応用課題Ⅳ【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第14回の続き					1,2,3,4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価方法：①課題提出（45％）②授業姿勢（30％）③試験（25％） 評価基準：①観察力・描写力を評価※提出必須 ②授業への取組、意欲、理解度を評価 ③技術、理解度、修得度を評価						
フィードバックの方法	作品の講評時にフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：デッサンや写真の模写を行う（90分程度） 復習：学習した知識・技術を使い、身近なモノをデッサンする（90分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：適宜資料配布						
実務経験を活かした授業について	デザイナー実務経験：自身の教育実践および制作経験に基づき、デザインとデッサンにおける相関関係を論じる。						
担当者からのメッセージ等	デッサンは、観察力と描写力のスキルです。造形表現の基礎であるデッサンを身につけましょう。 課題についての質問や報告は Teams、またはメールで連絡を行います。E-Mail：ktoyama@yamaguchi-jca.ac.jp(渡山)						

科目名	デッサンⅡ	教員	渡山 賢二（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-SI22-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	基礎造形、鉛筆スケッチ、鉛筆デッサン、観察力、表現力、ディスカッション						
授業概要	スケッチを中心とした実習を通じて、造形表現の基礎であるデッサン力（観察力と描写力）修得する。						
到達目標	1.画材に関する技術、知識の習得						
	2.モチーフの観察方法の理解と習得						
	3.モチーフの形状表現と明暗表現の理解と技術の習得						
	4.モチーフの質感・空間（遠近）表現の理解と技術の習得						
履修条件、注意事項	デッサンⅠ未履修でも履修可能。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業説明・スキルチェック【講義・実習】					1,2	面接
	2. 明暗表現・遠近表現（透視図法）【講義・実習】					1,2,3	面接
	3. 基礎形体の描き方（立方体）【講義・実習・講評】					1,2,3	面接
	4. 基礎形体の描き方（球体）【講義・実習・講評】					1,2,3	面接
	5. 基礎形体の描き方（円柱）【講義・実習・講評】					1,2,3	面接
	6. 模写1【講義・実習・講評】					2,3,4	面接
	7. 模写2【講義・実習・講評】					2,3,4	面接
	8. 応用課題1【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3	面接
	9. 応用課題1【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第8回の続き					1,2,3,4	面接
	10. 応用課題2【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3,4	面接
	11. 応用課題2【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第10回の続き					1,2,3,4	面接
	12. 応用課題3【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3,4	面接
	13. 応用課題3【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第12回の続き					1,2,3,4	面接
	14. 応用課題4【講義・実習・ディスカッション】					1,2,3,4	面接
	15. 応用課題4【講義・実習・ディスカッション・講評】 ※第14回の続き					1,2,3,4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価方法：①課題提出（45％）②授業姿勢（30％）③試験（25％） 評価基準：①観察力・描写力を評価※提出必須 ②授業への取組、意欲、理解度を評価 ③技術、理解度、修得度を評価						
フィードバックの方法	作品の講評時にフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：スケッチや写真の模写を行う（90分程度） 復習：学習した知識・技術を使い、身近なモノをデッサン（スケッチ）する（90分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：適宜資料配布						
実務経験を活かした授業について	デザイナー実務経験：自身の教育実践および制作経験に基づき、デザインとデッサンにおける相関関係を論じる。						
担当者からのメッセージ等	デッサンは、観察力と描写力のスキルです。造形表現の基礎であるデッサンを身につけましょう。 課題についての質問や報告は Teams、メールにて連絡を行う。E-Mail：ktoyama@yamaguchi-jca.ac.jp(渡山)						

科目名	基礎デザインⅠ （色彩構成）	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-SI23-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	I 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	基礎デザイン、色彩構成、配色						
授業概要	実習（色彩構成）を通して、デザインの基礎となる色の弁別能力、配色技法を修得する。						
到達目標	1. アートとデザインの違いを理解する。						
	2. 課題を通して、色の弁別能力を高め、配色技法に対する理解を深める。						
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。						
	4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。						
履修条件、注意事項	「色彩論」を同時履修することが望ましい。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 基礎デザインを学ぶ意義、デザインとアートの違いとは？				I	面接	
	2. 彩色方法				2, 3, 4	面接	
	3. 色彩構成＜課題Ⅰ＞ 課題説明、下書き				2, 3, 4	面接	
	4.	//	彩色①		2, 3, 4	面接	
	5.	//	彩色②		2, 3, 4	面接	
	6.	//	彩色③		2, 3, 4	面接	
	7.	//	振り返り		2, 3, 4	面接	
	8. 色彩構成＜課題Ⅱ＞ 課題説明、アイデアスケッチ				2, 3, 4	面接	
	9.	//	彩色①		2, 3, 4	面接	
	10.	//	彩色②		2, 3, 4	面接	
	11.	//	振り返り		2, 3, 4	面接	
	12. 色彩構成＜課題Ⅲ＞ 課題説明、アイデアスケッチ				2, 3, 4	面接	
	13.	//	彩色①		2, 3, 4	面接	
	14.	//	彩色②		2, 3, 4	面接	
	15.	//	振り返り		2, 3, 4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20％）②デザイン分析（10％）③色彩構成（70％） 評価の基準：①授業内レポートを通して、関心・意欲を測定 ②デザイン分析、アイデアスケッチを通して、知識・理解・判断・表現を測定 ③色彩構成を通して、技能・表現を測定						
フィードバックの方法	課題の評価を口頭でフィードバック。課題毎に振り返りを実施。						
時間外の学習について	予習：デザインのアイデアスケッチ。スケジュールを意識して計画的に制作を進める。 各回 30 分程度 復習：振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回 15 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：プリントを配布						
実務経験を活かした授業について	受験講師・デザイナー経験からの視点で、捉え方・技術をお伝えします。						
担当者からのメッセージ等	経験と実践の積み重ねの中で、「デザイン力」と「客観的に見る力」を付けていきましょう。 担当者の連絡先・E-mail：mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp（中澤）						

科目名	基礎デザインⅡ （平面構成）	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	26JA-S124-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	I		⑧	変化への適応力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	基礎デザイン、平面構成、幾何構成、配色、色彩						
授業概要	デザイン実習（幾何学形態を用いた平面構成）を通して、デザイナーに必要な美的感性（センス）と発想力を養う。						
到達目標	1. 平面における基本的な造形、構成を理解する。						
	2. テーマに応じたイメージを、平面構成（幾何構成）に表現化できる。						
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。						
	4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。						
履修条件、注意事項	「色彩論」、「基礎デザインⅠ（色彩構成）」を履修すること。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 平面構成を学ぶ意義				I	面接	
	2. 平面構成＜課題Ⅰ＞	課題説明、アイデアスケッチ、配色計画			2, 3, 4	面接	
	3. //	配色・作業計画			2, 3, 4	面接	
	4. //	彩色①			2, 3, 4	面接	
	5. //	彩色②			2, 3, 4	面接	
	6. //	振り返り			2, 3, 4	面接	
	7. 平面構成＜課題Ⅱ＞	課題説明、アイデアスケッチ、配色計画			2, 3, 4	面接	
	8. //	彩色①			2, 3, 4	面接	
	9. //	彩色②			2, 3, 4	面接	
	10. //	振り返り			2, 3, 4	面接	
	11. 平面構成＜課題Ⅲ＞	課題説明、アイデアスケッチ、配色計画			2, 3, 4	面接	
	12. //	彩色①			2, 3, 4	面接	
	13. //	彩色②			2, 3, 4	面接	
13. //	彩色③			2, 3, 4	面接		
14. //	プレゼンテーション、振り返り			2, 3, 4	面接		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20％）②デザイン分析（10％）③色彩構成（70％） 評価の基準：①授業内レポートを通して、関心・意欲を測定 ②デザイン分析、アイデアスケッチを通して、知識・理解・判断・表現を測定 ③色彩構成を通して、技能・表現を測定						
フィードバックの方法	課題の評価を口頭でフィードバック。課題毎に振り返りを実施。						
時間外の学習について	予習：デザインのアイデアスケッチ。スケジュールを意識して計画的に制作を進める。 各回 30 分程度 復習：振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回 15 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：プリントを配布						
実務経験を活かした授業について	受験講師・デザイナー経験からの視点で、捉え方・技術をお伝えします。						
担当者からのメッセージ等	経験と実践の積み重ねの中で、「デザイン力」と「客観的に見る力」を付けていきましょう。 担当者の連絡先・E-mail：mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp（中澤）						

科目名	色 彩 論	教員	長田 和美 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-SI25-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	講義	単位	2				
年次	I 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	色彩理論、配色、ユニバーサルデザイン、デザイン、ビジネス						
授業概要	色彩について体系的に学び、デザインやビジネスの場面で色を効果的に活用する力を身につける。実践力を高めるため、カラーカード等の教材を活用した体験型学習や、ペアワーク・グループワークを中心に授業を展開する。						
到達目標	1. 色彩に関わる基礎理論（三属性、表色系、配色理論、色彩心理など）を理解する。						
	2. カラーカード演習を通して、色彩感覚（センス）や色の識別能力を身につける。						
	3. ペアワーク・グループワークを通して、他者との感覚の違いを理解し、自分の感じたことを言語化する力を身につける。						
	4. 色のユニバーサルデザインや多様性について理解し、情報保証のための配色ができる。						
	5. 身近なデザインの配色について、論理的に分析・考察できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス、色の三属性（色相・明度・彩度）					1, 2, 3	面接
	2. 表色系（1）トーン					1, 2, 3	面接
	3. 表色系（2）色相					1, 2, 3	面接
	4. 光と色、混色					1, 2, 3	面接
	5. 眼の仕組み					1, 2, 3	面接
	6. 色の対比、錯視					1, 2, 3	面接
	7. 色彩心理、パーソナルカラー					1, 2, 3	面接
	8. 配色理論（1）色相					1, 2, 3	面接
	9. 配色理論（2）トーン					1, 2, 3	面接
	10. 配色理論（3）面積とバランス					1, 2, 3	面接
	11. 色のユニバーサルデザイン（1）色覚特性					4	面接
	12. 色のユニバーサルデザイン（2）高齢者の見え方					4	面接
	13. 色彩と社会					5	面接
	14. 身近なデザインの配色分析（1）調査					5	面接
	15. 身近なデザインの配色分析（2）意見交換					5	面接
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①カラーカード演習（20％）②小テスト（50％）③レポート（30％） 評価の基準：①カラーカード演習 ＊技能・表現を測定 ・色相・明度・彩度の色差を見分けることができる。 ・色を見比べ、違いを感じ、その違いを言葉で説明できる。 ②小テスト ＊知識・理解を測定 ・前回の授業内容を理解し、設問に解答できる。 ③レポート ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・色彩に関する知識・技能を活かして、身近なデザインの配色を分析できる。 ・分析結果を他者にわかりやすく伝えることができる。						
フィードバックの方法	授業毎に小テストを返却し、解説する。						
時間外の学習について	予習：身近なデザインを観察し、配色例を収集する（各回 60 分程度） 復習：講義スライドや教科書を活用して、理解を深める。カラーカード演習に取り組む。（各回 120 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：AFT 色彩検定 公式テキスト 3 級編、新配色カード 199a（リニューアル版） 参 考 書：AFT 色彩検定 公式テキスト 2 級編、1 級編、UC 級 参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	感覚は才能ではなく、鍛えるものです。理論を知り、観察し、他者との対話を重ねながら、色彩感覚やデザイン力を磨いていきましょう。 連絡先：knagata@yamaguchi-jca.ac.jp（長田）						

科目名	広 告 論	教員	山下 明仁（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-S128-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	2				
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	広告論、伝わる表現、伝わるデザイン、表現技術、オリジナル作品、作品制作、広告大賞						
授業概要	広告はもちろん、社会で必要とされる表現にはクリアしなければならない「基準」が存在します。 その基準を意識化することなく制作しても伝わる表現にはなりません。まずは基準を把握する。それだけで制作物のクオリティが上がり、自分だけのオリジナルな作品が作れるようになります。そのことを実際にポスターを制作しながら学んでいきます。						
到達目標	1. 表現における評価基準に達している。						
	2. どうやって基準をクリアしていくかを理解できる。						
	3. アイデアの切り口と、差別化をできている。						
	4. 伝えるべき本質を可視化できる。						
	5. 自分だけのオリジナルな作品を作ることができる。						
履修条件、注意事項	画像編集、グラフィックⅠ・Ⅱ、デッサンⅠ・Ⅱ、基礎デザインⅠ・Ⅱを履修すること。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 「表現」とは何か。（あらゆる表現の基本となるもの）					1	面接
	2. 「好きなものを作る」では伝わらない、作れない、続かない。					1	面接
	3. 評価されるポスターとは。（実際の広告で確認しよう）					1,2	面接
	4. 評価基準。（たった3つしかない）					1,2	面接
	5. アイデアの出し方。（最初はベタでもいい）					1,2,3	面接
	6. 切り口の見つけ方。（オリジナルな作品とは）					1,2,3	面接
	7. オリジナルな、自分だけの作品にするために。					1,2,3	面接
	8. 切り口の見つけ方 02（さらにオリジナルに）					1,2,3,4	面接
	9. メッセージの「本質」とは。					1,2,3,4	面接
	10. メッセージが届かない理由。					1,2,3,4	面接
	11. 切り口の見つけ方 03（さらにオリジナルに）					1,2,3,4,5	面接
	12. じっさいにポスターを制作しましょう。					1,2,3,4,5	面接
	13. 制作物のプロセスを知ろう。					1,2,3,4,5	面接
	14. 制作物の講評。					1,2,3,4,5	面接
	15. 制作物の仕上げ。広告大賞にエントリーしよう。					1,2,3,4,5	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①課題制作（70％）②課題の完成度により技能・表現を測定。理論の理解（30％） 評価の基準：①課題の完成度により技能・表現を測定：学んだ技能表現をもって完成度の高い作品に仕上がっている。 ②課題による表現の実習により、理論の理解度を測定：表現実習で学んだ理論が理解できている。						
フィードバックの方法	講義でそれぞれの制作課題の講評により行う。						
時間外の学習 について	予習：好きなグラフィック広告、看板など、面白いと感じたものを自分なりに分析してみる。（各回 90 分） 復習：評価基準を意識しながら課題を制作しているか、確認。（各回 90 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配布 参 考 書：具体的事例、グラフィック・映像など。 参考資料等：プリント配布						
実務経験を活かした 授業について	現役の CM プランナー・広告デザイナーです（ACC 賞、山口県広告大賞など受賞歴あり）。現在、仕事で使っている方法、「実戦」で使える技術を伝授します。 コンテンツ制作会社を設立：広告はもちろんコンテンツの制作において重要となるアイデアの生み出し方。そのアイデアを効果的にアウトプットするまでの方法論を実務経験を交えながらお伝えします。						
担当者からの メッセージ等	授業担当者の連絡先：yamashita@studio-hen.com（山下 明仁）						

科目名	グラフィックⅠ	教員	渡山 賢二（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	26JA-S127-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	I		⑧	変化への適応力	
年次	I 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	グラフィックデザイン、DTP、イラスト、Adobe Illustrator、Photoshop、クリエイター能力認定試験						
授業概要	Adobe Illustrator について理解し、基本的な操作方法を習得する。						
到達目標	1. ソフトウェア Adobe Illustrator の基本操作技術の習得						
	2. グラフィックデザインに必要な基礎知識を習得						
	3. 課題発見力と状況に応じた知識の活用能力の習得						
	4. グラフィックデザインの表現力、技術の習得						
履修条件、注意事項	「画像編集」を同時履修することが望ましい。課題提出は必須。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. Illustrator の基本操作					I	面接
	2. オブジェクトの基本操作 1					I, 2	面接
	3. オブジェクトの基本操作 2					I, 2	面接
	4. 課題①					I, 2, 3	面接
	5. パスの描画と編集、課題①講評					I, 2	面接
	6. カラー設定					I, 2	面接
	7. オブジェクトの編集 1					I, 2	面接
	8. オブジェクトの編集 2					I, 2	面接
	9. 課題②					I, 2, 3	面接
	10. テキストの入力と編集 1、課題②講評					I, 2	面接
	11. テキストの入力と編集 2					I, 2	面接
	12. その他よく使われる機能					I, 2	面接
	13. Illustrator と Photoshop					I, 2, 3	面接
	14. 課題③					3, 4	面接
	15. 課題③、講評					3, 4	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①課題提出（70％）②授業の取組姿勢（30％） 評価の基準：①思考・判断・表現技術を評価 ②授業への取組、意欲、理解度を評価						
フィードバックの方法	課題提出後、授業または Teams・メールにてフィードバックを行う。						
時間外の学習 について	予習： 参考書における次回授業内容の範囲をよく読むこと（15 分程度） 復習： Pintarest（画像共有 SNS）を使用し画像収集等を行い、模倣し制作を行う（30 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：知識ゼロからきちんと学べる Illustrator しっかり入門 第2版／SB クリエイティブ株式会社 Illustrator®クリエイター能力認定試験問題集／ウイネット 参 考 書：特になし 参考資料：適宜授業にて配布						
実務経験を活かした 授業について	デザイナー実務経験： Illustrator の使い方を実務経験を交えて説明します。						
担当者からの メッセージ等	Adobe Illustrator の実用的な使用方法を身につけ、活用することで今後活躍されることを期待しています。 課題についての質問や報告は Teams、メールにて（学籍番号・名前記載）E-Mail：ktoyama@yamaguchi-jca.ac.jp（渡山）						

科目名	グラフィックⅡ	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-S227-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	イラストレーター、フォトショップ、グラフィックデザインの基礎知識、プロセス、編集力						
授業概要	制作課題を通じてデザイン制作プロセスを養い、ソフトウェアの基本操作技術を習熟する。						
到達目標	1. デザイン制作のプロセスを理解する。						
	2. デザイン制作におけるコンセプトの重要性を理解する。						
	3. ソフトウェアの操作技術を習熟する。						
	4. デザインの表現力、技術を習得する。						
履修条件、注意事項	画像編集、グラフィックⅠを単位修得していることが望ましい。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. デザインの紹介、収集、小物制作				1, 4	面接	
	2. デザインのルール・コンセプトの重要性				1, 2	面接	
	3. フォント・文字組について				2, 4	面接	
	4. 配色と印象				2, 4	面接	
	5. フライヤー制作（1）ラフ案チェック				2, 4	面接	
	6. フライヤー制作（2）				3, 4	面接	
	7. プレゼンテーション				2	面接	
	8. ロゴデザインについて グループワーク				1, 2, 4	面接	
	9. ロゴ制作（2）・ガイドライン・その他				3, 4	面接	
	10. 課題制作（3）チェック				3, 4	面接	
	11. ロゴ制作（3）・ガイドライン・その他 講評、ブラッシュアップ				4	面接	
	12. 広告制作（1）ラフ案				2, 4	面接	
	13. 広告制作（2）				3, 4	面接	
	14. 広告制作（3）ブラッシュアップ				3, 4	面接	
	15. プレゼンテーション				2	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業中への取組姿勢（30％）②課題作品（60％）③完成度（10％） 評価の基準：①関心・意欲の測定 ②思考・判断・表現技法を測定 ③意識の高さを測定						
フィードバックの方法	課題ごとの講評、プレゼンテーションでは受講者と作品共有しながらフィードバックする。						
時間外の学習 について	予習：日々生活に溢れているデザインに常に注目し、気になったデザイン・情報についてファイリングするように。 （各回 15 分程度） 復習：制作課題は提出期限までに完成させること。（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：トレース&模写で学ぶデザインのドリル＃1、プリント配布 参 考 書：特になし 参考資料：授業中に配布						
実務経験を活かした 授業について	地元印刷会社退職後、フリーデザイナーとして活動してきました。（山口県デザイン展受賞歴あり） これまでの経験を活かして実践的なデザイン、伝えるべきことがカタチにできる技術をお伝えします。						
担当者からの メッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp（中澤）						

科目名	イラストレーションⅠ	教員	種田 和宏（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	26JA-S129-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	Ⅰ		⑧	変化への適応力	
年次	Ⅰ年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	イラストレーション、デジタルイラスト、イラスト制作、Photoshop、キャラクター、図形イラスト、背景イラスト、技能 意欲 表現 創造 制作						
授業概要	様々な題材をモチーフにイラスト作成することでデジタルならではの基本的なテクニック、メリットを学びます。						
到達目標	1. パソコン、タブレット、ソフトウェアを使ったデジタルイラスト制作の基礎知識を習得する。						
	2. ソフトウェアの機能を活かしたデジタルイラスト制作基礎技術を習得する。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. デジタルイラストについて					Ⅰ	面接
	2. Photoshop を使用した線画の練習、簡単な図形イラストの制作 Ⅰ-Ⅰ					Ⅰ	面接
	3. Photoshop を使用した簡単な図形イラストの制作 Ⅰ-2					Ⅰ, 2	面接
	4. Photoshop を使用した簡単な図形イラストの制作 Ⅰ-3 提出					Ⅰ, 2	面接
	5. Photoshop を使用したイラストの制作 2-Ⅰ					Ⅰ, 2	面接
	6. Photoshop を使用したイラストの制作 2-2					Ⅰ, 2	面接
	7. Photoshop を使用したイラストの制作 2-3 提出					Ⅰ, 2	面接
	8. Photoshop を使用したキャラクターイラストの制作 3-Ⅰ					Ⅰ, 2	面接
	9. Photoshop を使用したキャラクターイラストの制作 3-2					Ⅰ, 2	面接
	10. Photoshop を使用したキャラクターイラストの制作 3-3					Ⅰ, 2	面接
	11. Photoshop を使用したキャラクターイラストの制作 3-4 提出					Ⅰ, 2	面接
	12. Photoshop を使用した背景イラストの制作 4-Ⅰ					Ⅰ, 2	面接
	13. Photoshop を使用した背景イラストの制作 4-2					Ⅰ, 2	面接
	14. Photoshop を使用した背景イラストの制作 4-3					Ⅰ, 2	面接
	15. Photoshop を使用した背景イラストの制作 4-4 提出					Ⅰ, 2	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業中の取り組みの姿勢（30％）②提出作品（70％） 評価の基準：①意欲、関心を総合的に測定：興味・関心をもって、意欲的に授業に参加できる。 ②完成度の高さを測定：課題の目的、授業で学んだ技法を理解し、それを活用して再現できている。						
フィードバックの方法	課題提出後、授業内で受講生の作品を共有し講評する時間を設けます。 希望者には提出作品の返却時に評価、改善点等のコメントを添付します。						
時間外の学習について	予習：課題に必要な素材、資料集めを行う。（各回 45 分～） 復習：次回までに作品制作を進める。（各回 45 分～）						
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で PDF、プリント等配布します。 参考書・参考資料：講義内容に応じて必要な場合はその都度紹介します。						
実務経験を活かした授業について	漫画家アシスタント、ゲーム制作の経験をもとに実践的な技術について話をします。						
担当者からのメッセージ等	Photoshop を使用して実演を交えながら一緒にデジタルイラスト制作を学んでいきます。 分からないことがあったら気軽に質問して下さいね。 授業担当者の連絡先：T0042@yamaguchi-jca.ac.jp（種田）						

科目名	画像編集	教員	前田 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-SI26-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	I 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	Photoshop, ソフトウェア操作, 画像編集, 写真, グラフィックデザイン, 認定試験						
授業概要	画像処理の最も代表的なソフトウェアである Adobe Photoshop は、DTP、CAD、Web デザインなどにおいても必須のソフトウェアである。授業では、Adobe Photoshop の基礎を学習する。						
到達目標	1. デジタル画像における画像の理解						
	2. 画像処理のソフトウェア Adobe Photoshop の操作方法の修得						
	3. 画像処理手法の修得						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス、コンピュータの使い方、画像処理ソフトウェアを用いた画像の入出力					1	面接
	2. Photoshop のファイルの作成、保存、画面の基本操作					2	面接
	3. レイヤーの操作と色調補正					2, 3	面接
	4. 選択範囲の作成					2, 3	面接
	5. 色の設定とペイントの操作					2, 3	面接
	6. レイヤーマスクを使う					2, 3	面接
	7. 文字、パス、シェイプ					2, 3	面接
	8. 画像の修正					2, 3	面接
	9. 写真の色を補正する					2, 3	面接
	10. 写真の修正・加工					2, 3	面接
	11. 画像の合成					2, 3	面接
	12. クリエイター能力認定試験問題集：実技問題 ①					3	面接
	13. クリエイター能力認定試験問題集：実技問題 ②					3	面接
	14. クリエイター能力認定試験問題集：実践問題 ①					3	面接
15. クリエイター能力認定試験問題集：実践問題 ②					3	面接	
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	評価の方法：①授業で制作する課題（75％）②授業中の取組姿勢（25％） 評価の基準：①思考・判断・表現技術を測定 ②関心・意欲の測定						
フィードバックの方法	課題内容について個別に評価し、習熟度などを教員・受講生で共有する。						
時間外の学習 について	予習：テキストを読んで大まかな流れを把握しておくこと（30 分程度） 復習：授業で進めたところは次回授業までに進めておくこと（60 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 [改訂 3 版]／技術評論社 Photoshop®クリエイター能力認定試験問題集／ウイネット 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	デザイナー経験：業務では欠かせない Photoshop の実践的な使い方のテクニックやデータの作成方法のコツを交えて話をします。						
担当者からの メッセージ等	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail： t0014@yamaguchi-jca.ac.jp （前田）						

科目名	Web デザイン入門	教員	柳川 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-S132-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	I 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	Web デザイン、サイト制作、HTML、CSS、Dreamweaver、Illustrator、Photoshop						
授業概要	Web サイト制作に必要な基礎的な知識・技術を学び、グラフィックツールを使った Web デザイン制作、HTML&CSS を使った簡単なサイト制作を行います。						
到達目標	1. インターネットや Web の技術についての基礎知識の習得						
	2. Web サイトの各部分の役割の理解とデザインの制作ができる						
	3. Web サイト制作の流れを理解できる						
	4. HTML、CSS の書式、文法の理解						
	5. 制作物についてプレゼンテーションが出来る						
履修条件、注意事項	履修条件：「グラフィック I」、「画像編集」を同時履修すること。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス					I	面接
	2. Web 技術の歴史と仕組み					I	面接
	3. Web デザインの基礎知識、制作環境― 良い Web デザインの考え方					1, 2, 3	面接
	4. HTML、CSS の基礎― Web ページの骨組みを理解する					2, 3, 4	面接
	5. HTML、CSS の基礎― 文字と色のスタイリング					2, 3, 4	面接
	6. HTML、CSS の基礎― レイアウトの基礎					2, 3, 4	面接
	7. HTML、CSS の基礎― 構造と見た目の関係を理解する					2, 3, 4	面接
	8. HTML、CSS の基礎― Web ページの調整と改善					2, 3, 4	面接
	9. グラフィックツールを用いた Web デザイン制作― 視覚的に設計する					2, 3	面接
	10. グラフィックツールを用いた Web デザイン制作― 表現を完成させる					2, 3	面接
	11. Web サイトの分類と調査― 目的別 Web デザインを分析する					3, 4	面接
	12. Web サイトの制作― 企画と構成を考える					3, 4	面接
	13. Web サイトの制作― デザインとコーディング					3, 4	面接
	14. Web サイトの制作― 仕上げと改善					3, 4	面接
	15. Web サイトのプレゼンテーション― 制作意図を伝える					5	面接
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業中の課題（80％）②授業態度（20％） 評価の基準：①思考・判断、技能レベル、表現力を測定 ②関心・意欲の測定						
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：テキストを読んで大まかな流れを把握しておくこと。（各回 45 分） 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。（各回 45 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：I 冊ですべて身につく HTML&CSS と Web デザイン入門講座（第 2 版）、Mana（著）、SB クリエイティブ 参 考 書：特になし 参考資料等：特になし						
実務経験を活かした授業について	教育現場での経験をもとに、演習を中心に授業を進めます。						
担当者からのメッセージ等	予習、復習は必ず行うこと。不明点がある場合は、次の授業までに解決しておくこと。 Email： kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	Web デザイン I	教員	柳川 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-SI33-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	Web デザイン・UI/UX・モバイルアプリ開発（Monaca）・HTML/CSS・Web クリエイター能力認定試験スタンダード						
授業概要	HTML・CSS の基礎的な知識を身につけるとともに、Web デザインを「見た目の装飾」ではなく、情報の構造化やユーザー体験（UX）を設計する行為として学ぶ。 演習を中心に、コードを用いたグラフィック表現などを通して、誰に、何を、どのように伝えるかを考えながら Web 表現を行う力を養う。						
到達目標	1.Web デザインにおける UX（体験設計）の考え方を理解する。						
	2.HTML・CSS を用いて基本的な Web ページを構成できる。						
	3.ターゲットや目的を意識したデザイン設計ができる						
	4.自身のデザイン意図を言語化し、説明できる						
履修条件、注意事項	履修条件；「Web デザイン入門」、「グラフィック I」、「画像編集」を履修していること。さらに「グラフィック II」を同時履修すること。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. ガイダンス				1	面接	
	2. HTML の基礎（構造・タグ）				2	面接	
	3. CSS の基礎（色・文字・レイアウト）				2	面接	
	4. ターゲットを意識した web アプリ考案				3	面接	
	5. UX を意識したアプリ改良				3,4	面接	
	6. 情報源と Web マガジン作成①（構造理解）				2,3	面接	
	7. 地域 Web マガジン制作②				2,3,4	面接	
	8. POP と Web デザインの違い（UX の整理）				1,4	面接	
	9. Web デザインにおける評価と改善				4	面接	
	10. コードによる表現（タートルグラフィックス）				2	面接	
	11. 表現とルール（図形・文字）				2,4	面接	
	12. チームによるアプリ開発①（企画考案）				3,4	面接	
	13. チームによるアプリ開発②（デザイン制作）				2,3	面接	
	14. チームによるアプリ開発③（仕上げ・共有）				3,4	面接	
	15. 成果発表				4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業中の課題（80％）②授業態度（20％） 評価の基準：①思考・判断、技能レベル、表現力を測定 ②関心・意欲の測定						
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。						
時間外の学習 について	予習：Monaca のチュートリアルを確認し、授業の流れをつかむ（各回30分） 復習：授業で実施した UI やコードを振り返り、自ら改善点を考える（各回30分）						
教材にかかわる情報	テキスト：「Monaca で学ぶはじめてのプログラミング ～モバイルアプリ入門編～」 著者：アシアル株式会社 Web クリエイター能力認定試験（HTML5 対応版）スタンダード問題集 参 考 書：特になし 参考資料等： 特になし						
実務経験を活かした 授業について	教育現場での経験をもと、演習中心に授業を進め、アプリや Web 制作の楽しさを伝えながら、学びを資格取得へとつなげていきます。						
担当者からの メッセージ等	アプリや Web を作る楽しさを体験しながら、自然と資格取得に必要な力が身につく授業を展開します。一緒に手を動かしながら学んでいきましょう。 Email： kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	メディア表現演習Ⅰ	教員	矢野 節（実務経験） 前田 和也 柳川 和也 （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-S134-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	Ⅰ				
年次	Ⅰ 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	CG アニメーション、動画編集、After Effects						
授業概要	動画合成ソフト After Effects を使って、動画に視覚効果を加えたりイラストにアニメーション効果を加える方法について学ぶ。また授業内の課題を通して、CG アニメーションを作る上で必要な素材を理解し、著作権、肖像権を守って利用することができる。						
到達目標	1. 動画の基礎知識の習得						
	2. 動画合成ソフトを用いて、イラストを動かす事ができる						
	3. 動画合成ソフトを用いて、動画に視覚効果を加える事ができる						
	4. 必要な素材を、著作権、肖像権を理解して収集できる						
	5. グループワークを通して作品を制作、発表する						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. ガイダンス（作品や動画合成ソフト等の説明 船を動かす）				1	面接	
	2. After Effects 基本操作（歩く人）				1	面接	
	3. 文字に動きをつける（音楽に合わせて動かす）				2	面接	
	4. イラストに動きをつけるⅠ				2	面接	
	5. イラストに動きをつけるⅡ（パペットピンを利用した課題）				2	面接	
	6. 班分け 絵コンテについて 素材の集め方、著作権、肖像権について				1,4	面接	
	7. 絵コンテ				5	面接	
	8. アニメーション作成（素材作成編集 前半）				2	面接	
	9. アニメーション作成（素材作成編集 中間）				4	面接	
	10. アニメーション作成（素材作成編集 後半）				2,3	面接	
	11. アニメーション作成（調整、編集）				2,3	面接	
	12. 中間発表				2,3	面接	
	13. 作品制作（最終編集）				2,3,4	面接	
	14. 作品制作（完成）				2,3,4	面接	
	15. 作品発表				5	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①授業中の課題（40％）②授業態度（20％）③レポート（40％） 評価の基準：①思考、判断、表現技術を測定 ②関心、意欲の測定						
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：次回の授業の準備、作品制作（各回 30 分） 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。（各回 30 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：特になし						
実務経験を活かした授業について	舞踊や演劇、ミュージカル、コンサートなどの舞台監督や舞台美術などの経験を活かして、舞台をはじめとしたメディア全般について話をします。						
担当者からのメッセージ等	アニメーション作品が作成できる技術が身に付くよう、演習中心の授業を行います。 授業担当者の連絡先：T0009@yamaguchi-jca.ac.jp（矢野）、T0014@yamaguchi-jca.ac.jp（前田）、kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	メディア表現演習Ⅱ	教員	矢野 節（実務経験） 前田 和也 柳川 和也 （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-S135-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	Ⅰ				
年次	Ⅰ年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	メディアアート、情報技術、映像制作、プロジェクションマッピング、3D ホログラム、インタラクティブ、表現手法、作品制作、演出機材、舞台演出、舞台設営、メディア、表現演習、創造性、協働性						
授業概要	学生が主体となって、デザインやテキスト、音楽などを用いた創造性豊かなメディアアート作品を協働して制作し、発表を行う。						
到達目標	1.メディアについて理解できる。						
	2.作品制作に必要なソフトウェア（Adobe After Effects 等）の操作方法を修得する。						
	3.本学科で学んだことを活かして、主体的にコンテンツ制作をすることができる。						
	4.演出機材の操作方法を修得する。						
	5.グループワークを通して、コミュニケーション能力や変化への適応力を高める。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1.ガイダンス、演出機材の修得					1,4	面接
	2.演出機材の操作方法修得 照明					1,4	面接
	3.演出機材の操作方法修得 音響					1,4	面接
	4.必要なソフトウェアの操作方法修得					2	面接
	5.必要なソフトウェアの操作方法修得					2	面接
	6.制作する作品について、具体的な内容を検討					1,3,5	面接
	7.作品制作①					2,3,4	面接
	8.作品制作②					2,3,4	面接
	9.作品制作③					2,3,4	面接
	10.会場設営、準備計画の立案					1,2,3,4,5	面接
	11.中間発表					5	面接
	12.作品の修正					1,2,3,4	面接
	13.会場設営、準備					1,2,3,4	面接
	14.発表または展示のリハーサル					1,2,3,4,5	面接
	15.発表または展示の本番の演出					1,2,3,4,5	面接
	◎定期試験（報告会および振り返りを定期試験相当とする）						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度（40％）②グループ活動（30％）③授業内での制作作品（30％） 評価の基準：①関心・意欲・態度を測定：興味・関心を持って積極的かつ意欲的に参加できる。 ②グループ活動における貢献度：グループワークにおいて他者と協働して活動できる。 ③専門分野における知識・技能を測定：学んだ知識・技能を活かして表現することができる。						
フィードバックの方法	各回の成果物について、口頭によるフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：次回の授業の準備、作品制作（各回 30 分） 復習：各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する（各回 30 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：特になし						
実務経験を活かした授業について	舞踊や演劇、ミュージカル、コンサートなどの舞台監督や舞台美術などの経験を活かして、舞台をはじめとしたメディア全般について話をします。						
担当者からのメッセージ等	協働して1つの作品を作り上げていくことの難しさ、楽しさを体験してもらいたいと思います。 授業担当者の連絡先：T0009@yamaguchi-jca.ac.jp（矢野）、T0014@yamaguchi-jca.ac.jp（前田）、 kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	服飾デザイン	教員	片山 涼子（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-S136-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	服飾デザイン、コンセプト、デザイン、ファッションコーディネート、デザイン画、製作、創造力、伝達表現、汎用的能力、被服構成、縫製技術、製作実習、ファッション、知識・技能、プレゼンテーション、衣装表現						
授業概要	ファッションのコーディネートやデザインを自身で考え、選び、プレゼンテーションする。 服についての知識や服が出来ていく行程を把握するとともに、日常生活で活かせる縫製技術を習得する。						
到達目標	1. 被服に関する総合的な知識や技能を習得する。						
	2. ファッションデザイン画の描き方を習得し、伝達する能力を身につける。						
	3. グループ協議での協調性やリーダーシップを身につける。						
	4. コンセプトを元にデザインを考えることで創造力を養う。						
	5. プレゼンテーション能力を身につける。						
履修条件、注意事項	実習に必要な道具・材料等は、基本的に各自で用意をお願いします。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業の概要について。デザイン画の描き方。					1, 2	面接
	2. コンセプトに基づいたコーディネートの検討。グループ協議。					3	面接
	3. コーディネートのグループ協議及びプレゼン準備。					3	面接
	4. コーディネートのプレゼンテーション。					3, 5	面接
	5. 被服のジャンル、形、部位、素材の名称や、製作行程等の知識の習得。					I	面接
	6. ミシンやアイロン等道具の使い方の習得。					I	面接
	7. ボタン付けや裾上げ等、日常生活で活かせる縫製技術の習得。					I	面接
	8. 修得した縫製技術を応用した服飾小物の製作。デザイン企画・パターン製作。					1, 4	面接
	9. 修得した縫製技術を応用した服飾小物の製作。裁断・縫製。					I	面接
	10. 修得した縫製技術を応用した服飾小物の製作。縫製のつづき。					I	面接
	11. 修得した縫製技術を応用した服飾小物の製作。縫製仕上げ。					I	面接
	12. 製作及び完成した服飾小物を用いたファッション広告シミュレーション。					1, 5	面接
	13. 様々な情報から着想を得て衣装をデザインする。舞台衣装、CM 衣装等。リサーチ。					4	面接
	14. 衣装デザインの考察。					2, 4	面接
	15. 衣装デザインの表現。プレゼンテーション。					5	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、製作実習、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度 50%、②提出課題及びプレゼンテーション 50%の割合で評価。 評価の基準：①思考・判断、関心・意欲：検討する際に積極的に発言できる。 ②知識・理解、表現：根拠のある自身の考えを伝達する能力が養えている。						
フィードバックの方法	デザイン画に対し、より良くなる描き方を教える。 プレゼンテーションに対し、他学生も一緒にどう感じたか感想を述べ評価する。						
時間外の学習について	予習・復習：プレゼンテーションに必要な被服の選択（30 分程度） デザインの考察（30 分程度） 商品 CM に関心を持って視聴する（のべ 30 分程度） ファッション広告に関心を持ってリサーチする（のべ 30 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：適宜配布						
実務経験を活かした授業について	服飾デザイナー及びクリエイター経験：ファッションを通しての表現について実践的な技術を交えて話をします。						
担当者からのメッセージ等	着物リメイク服を中心とするオーダーメイドのアトリエ兼ショップを 15 年以上経営しています。 デザインの伝え方や服づくりの技法など、プロのやり方を教えます。 授業担当者の連絡先：a_piece_ryoko_katayama@yahoo.co.jp（片山）						

科目名	芸術表現入門	教員	柳川 和也 中川 聡（実務経験） 河合 良房 中澤 恵（実務経験） 大野 浩光 （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-S16I-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	講義	単位	2				
年次	I 年前期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	芸術表現学科、学びの特徴、カリキュラム理解、大学生活、施設利用、事務手続き						
授業概要	芸術表現学科の学びの特長を理解し、計画的に検定取得や就職活動に取り組む主体的な姿勢を培う。 高校との違いを理解し、大学生に求められるレポートの書き方や資料の収集方法、プレゼンテーションの仕方を修得する。						
到達目標	1. 芸術表現学科の教育理念や PBL の役割を理解し、学科の学びの全体像を説明できる。						
	2. 自身の興味・関心や強みを整理し、分野および社会との関係性の中で捉えることができる。						
	3. 分野別・分野横断的な活動を通して得た気づきを言語化し、他者に伝えることができる。						
	4. PBL や地域の特性を踏まえ、今後の学びや卒業研究の方向性を構想することができる。						
履修条件、注意事項	状況により、遠隔授業を併用することもある。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 建学の精神、教育理念、教育目的、学修成果、3つのポリシー					1	面接
	2. 芸術表現学科の学びの特徴及びガイダンス					1	面接
	3. 芸術表現学科における PBL の役割					1	面接
	4. 自分の強みを活かした表現及び					2	面接
	5. 2 年生による PBL 事例報告					1, 2	面接
	6. 分野別グループワーク①フィールドワーク					2	面接
	7. 分野別グループワーク②意見交換					2, 3	面接
	8. 分野別グループワーク③発表					3	面接
	9. 分野横断グループワーク①：視点の交換					3	面接
	10. 分野横断グループワーク②：協働の設計					3, 4	面接
	11. 2 年生 PBL 企画への参加					2, 3	面接
	12. 体験の持ち帰り・共有					3	面接
	13. 社会と自分の強みの接続（プレゼン）					3, 4	面接
	14. 2 年生報告会参加					4	面接
	15. 自分の強み、地域の特性を活かした卒業研究					4	面接
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート、グループ内での発言（50％）②課題レポート（50％） 評価の基準：①関心・意欲を測定 ②思考・判断、技能・表現を測定						
フィードバックの方法	講義中での発言やレポート等に対して、適宜コメントをする。						
時間外の学習について	予習：配布資料の理解（各回 90 分程度） 復習：課題レポート（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：最新ビジネスマナーと今さら聞けない仕事の超基本、石川和男、朝日新聞出版 参 考 書：特になし 参考資料：必要な資料を随時配布						
実務経験を活かした授業について	教職経験・企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						
担当者からのメッセージ等	芸術表現学科での学びを仕事に繋げるイメージを育み、主体的に学んでいきましょう。 E-mail：kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	キャリアデザイン	教員	柳川 和也 中川 聡（実務経験） 城 浩敏 中澤 恵（実務経験） 大野 浩光 （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	○
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-SI63-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	○
年次	1 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	自分史、自己理解、企業が求める人材、キャリアデザイン、マネープラン、就職活動、エントリーシート、履歴書						
授業概要	芸術表現学科における学びを、社会・他者・実践の文脈へと接続するためのキャリア形成科目。 芸術表現入門で見つめた「自分自身の関心や強み」を出発点に、外部講師や教員との対話、ワークショップを通して、多様な生き方・働き方に触れながら、自身の方向性を仮に定めていく。						
到達目標	1. 自身の関心・強み・価値観を振り返り、言語化する力を身に付ける。						
	2. 多様な生き方・働き方に触れ、自分の可能性を複数の視点から捉えることができる。						
	3 他者との対話や協働を通して、自分の考えを相対化し、更新する。						
	4. 社会や地域と自身の関心・強みを結びつけて考える力を身に付ける。						
	5. PBL 科目に向けて、自身の方向性や役割を仮に設定し、行動につなげる。						
履修条件、注意事項	状況次第で遠隔授業を併用することもある。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. キャリアデザインとは					1,5	面接
	2. 社会における〈仕事〉と〈表現〉の多様性【教員講義】					2	面接
	3. 外部講師①：実践者のキャリアストーリー					2,3	面接
	4. キャリアの捉え方と自己理解【教員講義】					1,4	面接
	5. 外部講師②：地域・社会と関わる仕事					2,4	面接
	6. 社会と自分の接点を探る【教員講義】					1,4	面接
	7. 2 年生による PBL・キャリア事例発表					2,3,5	面接
	8. 分野別ワーク①：自分の分野で社会とどう関わるか					4	面接
	9. 分野別ワーク②：役割と可能性の言語化					1,4	面接
	10. 外部講師③：企業が求める人材					2,3	面接
	11. 外部講師③：企業が求める人材					3,5	面接
	12. 自分のキャリアづくり仮説					1,5	面接
	13. キャリア仮説の整理と表現【教員講義】					1,4	面接
	14. 2 年生によるキ PBL への接続キャリア報告会					2,3,5	面接
15. 年度まとめ：					2,3,5	面接	
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度(20%) ②レポート(20%) ③課題(20%) ④ポートフォリオ (20%) ⑤プレゼンテーション(20%) 評価の基準：①知識・理解・思考・判断 ②関心・意欲 ③思考・表現力 ④理解・思考・表現力 ⑤知識・理解・思考・判断・表現力						
フィードバックの方法	授業での発言やグループワーク等に対して、適宜アドバイスを行う。 授業内レポート・課題・ポートフォリオ・プレゼンテーション原稿にコメントをつけて返却する。 授業アンケートをもとに適宜改善に努める。						
時間外の学習 について	予習：授業テーマに関して、書籍やインターネットで情報収集を行う。(各回 90 分) 復習：課題やレポートのポートフォリオを作成する。(各回 90 分)						
教材にかかわる情報	テキスト：就職ガイドブック、ビジネス系検定試験例題、プリント配付又は資料をスクリーン提示 参 考 書：特に指定しないが、図書館や就職支援室に配架の関連書籍を活用 参考資料：就職状況に関する各種資料及びデータ						
実務経験を活かした 授業について	教育現場での経験を活かした授業を展開します。						
担当者からの メッセージ等	未来に向けて自分を見つめ直し、自分らしい将来像をデザインしましょう。 担当教員の連絡先メールアドレス：授業内で周知します。						

科目名	インターンシップⅠ	教員	大野 浩光(実務経験) (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	○
					②	主体性	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	26JA-S172-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実習	単位	2				
年次	Ⅰ年前後期	卒業要件	面接授業科目				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	インターンシップ、就業体験、勤労観、職業観、社会人マナー、企業分析、キャリア形成						
授業概要	インターンシップ（就業体験）を通じて、社会に出て働く意義を理解し、社会常識、社会人としてのマナーはもとより職場で求められる実践的能力、コミュニケーション能力を習得する。まず社会人としての基礎を学び、夏季休業中には就業体験実習を経験する。事前の研修および就業体験実習、事後の報告書作成、プレゼンテーション等の一連の演習・実習を通して、社会の一員としての心構えやマナー、勤労観・職業観を身に付ける。自己のキャリア形成について主体的に取り組む態度と意欲の向上につなげる。						
到達目標	1. 社会人としての基本的な心構えやマナー、勤労観・職業観を身に付けることができる。						
	2. 山口県内の企業分析を通じて、様々な業界、業種、職種について知ることができる。						
	3. 就業体験の希望先を選択し、進路目標を明確化できる。						
	4. 就業体験を通じて自分自身の適性を再確認し、将来の方向性を導き出すことができる。						
	5. 報告書の作成とプレゼンテーションにより、社会人に必要な表現力を身に付けることができる。						
履修条件、注意事項	受入れ先は、必ず大学を通して決定すること。夏季休業中を中心に1週間程度(5日間以上)の職場実習を行う。						
授業計画						到達目標	授業方法
	【インターンシップの一年を通した流れ】 ※夏季休業中の実習実施を含む 30 回分を実施						
	1. インターンシップとは？					1	面接
	2. 山口県の企業研究Ⅰ ～グループワーク					1,2	面接
	3. 山口県の企業研究Ⅱ ～グループワーク					1,2	面接
	4. 山口県の企業研究Ⅲ ～各グループ毎のプレゼンテーション					1,2,5	面接
	5. 山口県インターンシップ推進協議会HP参照して、インターンシップ希望事業所の検討					1,2,3	面接
	6. インターンシップ申込書類の作成					1,2,3	面接
	7. マナー指導及び受入事業所との打ち合わせなど、インターンシップに係る事前指導					1,2,3	面接
	8～25. 夏休み期間中、一週間程度のインターンシップ実施、体験レポート、プレゼン原稿作成					1,2,3,4,5	面接
	26. 実習日誌のまとめ及び実習先への「礼状」作成・送付					2,3	面接
	27. 報告書の作成					2,3,4,5	面接
	28,29. プレゼンテーション資料の作成					2,3,4,5	面接
	30. 就業体験報告会 ～プレゼンテーション					3,4,5	面接
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①事前の準備（20％）②就業体験先の評価（40％）③実習日誌（10％）④報告書（15％）⑤発表（15％） 評価の基準：①関心・意欲： 実習先の業務内容調査、必要能力把握、ビジネスマナーの習得ができています。 ②思考・判断、関心・意欲、態度、知識・理解： 受け入れ先から高く評価されている。 ③関心・意欲、知識・理解： 実習日誌がきちんと書けている。 ④知識・理解、思考・判断、技能・表現： 実習成果がよくまとまっている。 ⑤知識・理解、技能・表現： 分かり易いプレゼンテーションができています。						
フィードバックの方法	実習日誌による振り返り及び就業体験報告会での質疑応答、担当教員からの講評によりフィードバックを行う。 就業体験先の評価内容を個別面談を通じて、フィードバックする。						
時間外の学習 について	予習：インターネットで産業や職業、会社についての調査及びビジネスマナーの自学自習（各回 90 分） 復習：報告書、実習日誌の作成（各回 90 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：山口県インターンシップ推進協議会「インターンシップ体験レポート」「やまぐちインターンシップ実例レポート」 参考資料：必要に応じて適宜プリントを配布する。						
実務経験を活かした 授業について	教育現場（高校・行政）での実務経験を生かし、実際の就業体験を通じて、社会人としての基本的な心構え等を指導します。						
担当者からの メッセージ等	インターンシップを通して、働くことのやりがい、魅力を見つけることを意識してみましょう。上手く魅力が見つければ、社会に出て働くことが楽しみになり、自分自身にも自信が持てることでしょう。失敗を恐れずチャレンジしましょう。 担当者の連絡先・Email:hoono@yamaguchi-jca.ac.jp （大野）						

科目名	インターンシップⅡ	教員	大野 浩光(実務経験) (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	○
					②	主体性	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	26JA-S267-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実習	単位	2				
年次	Ⅰ年後期・Ⅱ年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	インターンシップ、就業体験、勤労観、職業観、社会人マナー、企業分析、キャリア形成						
授業概要	インターンシップ（就業体験）を通じて、社会に出て働く意義を理解し、社会常識、社会人マナーはもとより職場で求められる実践的能力、コミュニケーション能力を習得する。まず社会人としての基礎を学び、春季休業中には就業体験実習を経験する。事前の研修および就業体験実習、事後の報告書作成、プレゼンテーション等の一連の演習・実習を通して、社会の一員としての心構えやマナー、勤労観・職業観を身に付ける。自己のキャリア形成について主体的に取り組む態度と意欲の向上につなげる。						
到達目標	1. 社会人としての基本的な心構えやマナー、勤労観・職業観を身に付けることができる。						
	2. 山口県内の企業分析を通じて、様々な業界、業種、職種について知ることができる。						
	3. 就業体験の希望先を選択し、進路目標を明確化できる。						
	4. 就業体験を通じて自分自身の適性を再確認し、将来の方向性を導き出すことができる。						
	5. 報告書の作成とプレゼンテーションにより、社会人に必要な表現力を身に付けることができる。						
履修条件、注意事項	受入れ先は、必ず大学を通して決定すること。春季休業中を中心に1週間程度(5日間以上)の職場実習を行う。						
授業計画						到達目標	授業方法
	【インターンシップの一年を通した流れ】 ※春季休業中の実習実施を含む 30 回分を実施						
	1. インターンシップとは？					1	面接
	2. 山口県の企業研究Ⅰ ～グループワーク					1,2	面接
	3. 山口県の企業研究Ⅱ ～グループワーク					1,2	面接
	4. 山口県の企業研究Ⅲ ～各グループ毎のプレゼンテーション					1,2,5	面接
	5. 山口県インターンシップ推進協議会HP参照してインターンシップ希望事業所を探す					1,2,3	面接
	6. インターンシップ申込書類の作成					1,2,3	面接
	7. マナー指導及び受け入れ事業所との打ち合わせなどインターンシップに係る事前指導					1,2,3	面接
	8～25. 春休み期間中、一週間程度のインターンシップ実施、体験レポート、プレゼン原稿作成					1,2,3,4,5	面接
	26. 実習日誌のまとめ及び実習先への「礼状」作成・送付					2,3	面接
	27. 報告書の作成					2,3,4,5	面接
	28,29. プレゼンテーション資料の作成					2,3,4,5	面接
	30. 就業体験報告会 ～プレゼンテーション					3,4,5	面接
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①事前の準備（20％）②就業体験先の評価（40％）③実習日誌（10％）④報告書（15％）⑤発表（15％） 評価の基準：①関心・意欲： 実習先の業務内容調査、必要能力把握、ビジネスマナーの習得ができている。 ②思考・判断、関心・意欲、態度、知識・理解： 就業体験先から高く評価されている。 ③関心・意欲、知識・理解： 実習日誌がきちんと書けている。 ④知識・理解、思考・判断、技能・表現： 実習成果がよくまとまっている。 ⑤知識・理解、技能・表現： 分かり易いプレゼンテーションができている。						
フィードバックの方法	実習日誌による振り返り及び就業体験報告会での質疑応答、担当教員からの講評によりフィードバックを行う。 就業体験先の評価内容を個別面談を通じて、フィードバックする。						
時間外の学習 について	予習：インターネットで産業や職業、会社についての調査及びビジネスマナーの自学自習（各回 90 分） 復習：報告書、実習日誌の作成（各回 90 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：山口県インターンシップ推進協議会「インターンシップ体験レポート」「やまぐちインターンシップ実例レポート」 参考資料：必要に応じて適宜プリントを配布する。						
実務経験を活かした 授業について	教育現場（高校・行政）での実務経験を生かし、実際の就業体験を通じて、社会人としての基本的な心構え等を指導します。						
担当者からの メッセージ等	インターンシップを通して、働くことのやりがい、魅力を見つけることを意識してみましょう。上手く魅力が見つければ、社会に出て働くことが楽しみになり、自分自身にも自信が持てることでしょう。失敗を恐れずチャレンジしましょう。 担当者の連絡先・Email：hoono@yamaguchi-jca.ac.jp（大野）						

科目名	ビジネス文書	教員	城 浩敏（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-SI66-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	
年次	I 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	ビジネス文書基礎、文書作成技術、実践ビジネス文書、ビジネス文書検定						
授業概要	ビジネス文書の基礎を身につけ、職業生活に必要な各種文書の定型を習得するとともに、ビジネス文書検定等に対応する力をつけ、社会人としてのスキルアップを図る。						
到達目標	1. ビジネス文書作成に必要な基礎知識（慣用表現、敬語、用語）を身につけることができる。						
	2. 一般文書及びビジネス文書を作成することができる。						
	3. ビジネス上の事実や事柄などの情報をまとめ、正確に、明瞭に、簡潔に伝えることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. ビジネス文書の作り方				1. 2. 3	面接	
	2. ビジネス文書の基礎（1） 文の構成、仮名遣い、慣用句等				1. 2. 3	面接	
	3. ビジネス文書の基礎（2） わかりやすい文、要約、レポート				1. 2	面接	
	4. ビジネス文書に用いる敬語表現				1. 2. 3	面接	
	5. 文章力（1） 構成力・表現力				1. 2	面接	
	6. 文章力（2） 要約力				1. 2	面接	
	7. 電子メールのルールとメモの取り方				1. 2	面接	
	8. 公文書と私文書				1. 2. 3	面接	
	9. 社内文書の基本と社外文書の形式				1. 2. 3	面接	
	10. ビジネス文書の書き方実践（1） 通知文、案内文				1. 2. 3	面接	
	11. ビジネス文書の書き方実践（2） 依頼文、照会文				1. 2. 3	面接	
	12. ビジネス文書の書き方実践（3） 復命書、報告書				1. 2. 3	面接	
	13. ビジネス文書作成演習（1） 基本構成と文書種別の理解				1. 2. 3	面接	
	14. ビジネス文書作成演習（2） 相手・目的を意識した文書作成				1. 2. 3	面接	
	15. ビジネス文書作成演習（3） 実務を想定した文書作成と振り返りとまとめ				1. 2. 3	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法：①提出プリント・レポート(35%)②授業態度・参加度(30%)③復習小テスト(35%) 評価の基準：①知識・理解、技能・表現、思考・判断を測定 文書作成の基礎が身につき、習得した知識の活用ができる。 ②関心・意欲、態度を測定 ディスカッション・発表等において、主体的に活動ができる。						
フィードバックの方法	小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。						
時間外の学習 について	予習：テキスト課題、授業プリントの事前調べ学習(各回90分程度) 復習：授業プリントをファイルに整理し、復習課題の実施(各回90分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：「ビジネス文書実務 改訂版」石井典子・三村善美 著 早稲田教育出版 参 考 書：「ビジネス文書検定 実問題集 3級」実務技能検定協会 早稲田教育出版 参考資料等：毎時、授業プリント配布						
実務経験を活かした 授業について	教職経験・行政職経験						
担当者からの メッセージ等	ビジネスシーンで求められる各種文書の形式と表現を身につけましょう。 Email：hjyou@yamaguchi-jca.ac.jp（城）						

科目名	ビジネス コミュニケーション	教員	小林 洋子（実務経験） （単独）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-SI65-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	I		⑧	変化への適応力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	ビジネスマナー習得、ビジネス実務マナー検定対応、コミュニケーション力強化、話し方・プレゼンテーション力育成						
授業概要	ビジネスで必要となる様々なコミュニケーションスキルについて講義と実践を通して学びます。						
到達目標	1. 社会人としての基本的なビジネスマナーを習得する。						
	2. 対人コミュニケーションにおける適切な表現ができるようになる。						
	3. わかりやすく伝えるために、話を構成する力を身につける。						
	4. 他者を尊重し、自分の意見を伝えられるようになる。						
	5. チームとして行動するためのコミュニケーションスキルを習得する。						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 社会人に求められるビジネスマナーとコミュニケーション（ビジネス実務マナー検定対応）				1, 2	面接	
	2. 第一印象の重要性、身だしなみ、お辞儀の種類、（ビジネス実務マナー検定対応）				1, 2	面接	
	3. 社会人としての心構えと基礎知識、名刺交換(ビジネス実務マナー検定対応)				1, 2	面接	
	4. 敬語の使い方、報告・連絡・相談の目的と使い分け(ビジネス実務マナー検定対応)				1, 2, 5	面接	
	5. 慶事・弔事に関するマナー、賀寿の種類、ビジネス文書(ビジネス実務マナー検定対応)				1, 2	面接	
	6. 電話応対時の話し方(ビジネス実務マナー検定対応)				1, 2, 4	面接	
	7. 会社組織の知識・機能・役割・責任(ビジネス実務マナー検定対応)				1	面接	
	8. ビジネスマナー総合演習(ビジネス実務マナー検定対応)				1, 2, 3	面接	
	9. 会議を円滑に行うためのファシリテーターの役割と参加者の役割				4, 5	面接	
	10. チームで結果を出すためのリーダーシップとフォロワーシップ				4, 5	面接	
	11. 自分の気持ちを理解し、感情をコントロールする方法				2, 4	面接	
	12. 相手の気持ちを尊重し、自分の意見を伝える話し方				2, 4	面接	
	13. ビジネスの場での自己紹介				2, 3	面接	
	14. プレゼンテーション演習				2, 3	面接	
	15. プレゼンテーション実践				3, 4	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度（50%）②レポート（30%）③プレゼンテーション（20%） 評価の基準：①授業態度 ＊関心、意欲、態度の測定 ・授業中に積極的に発言をする・グループでの話し合いに積極的である・実践を積極的に行う ②レポート/課題 ＊思考・理解を測定 ・授業での話し合いや実践に基づき自分の考えを述べている ③プレゼンテーション ＊技能・表現を測定 ・習得した技術を実践に活かしている						
フィードバックの方法	寸評は実技直後、採点后（記述、レポート）は返却します。						
時間外の学習 について	予習：教科書の該当範囲を読む。（各回 45 分） 復習：検定問題集を解く。（各回 45 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：入社一年目 ビジネスマナーの教科書/プレジデント社/金森たかこ ビジネス実務マナー検定実問題集 3 級/公益財団法人実務技能検定協会 参 考 書：特になし 参考資料：必要に応じて資料を配布						
実務経験を活かした 授業について	アナウンサー、人材育成コンサルタントの経験を活かし、相手に伝わる話し方、ビジネスを円滑に進めるコミュニケーションについて話をします。						
担当者からの メッセージ等	社会人に必要不可欠なコミュニケーションスキルを身につけましょう。連絡先は授業の際に連絡します。						

科目名	簿記基礎理論	教員	城 浩敏 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-S170-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	○
年次	I 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	簿記、商業簿記、決算、貸借対照表、損益計算書、日本商工会議所簿記検定 3 級						
授業概要	簿記の歴史と基本的なしくみについて学ぶ。 ビジネス現場で日常的に発生する取引を、簿記のしくみを使って帳簿に記録・計算・整理する技法を身につける。 商取引において発生する取引を記録・計算・整理する技法を身につける。						
到達目標	1. 簿記が発達した歴史的経緯やそのしくみから、簿記の意義や役割を理解できる。						
	2. 簿記上の取引を記録する方法が理解でき、その技法が身につく。						
	3. 簿記上の取引を計算する方法が理解でき、その技法が身につく。						
	4. 各種の取引事例を記録・計算する方法が理解でき、その技法が身につく。						
履修条件、注意事項	後期開講の「簿記演習」を継続して履修することが望ましい。						
授業計画						到達目標	授業方法
	I 簿記の目的						
	1. 企業の目的と簿記の歴史、意義・役割について					1	面接
	2. 単式簿記と複式簿記及びそのしくみについて					1	面接
	3. 貸借対照表と資産・負債・資本					1,2	面接
	4. 損益計算書と収益・費用					1,2	面接
	II 簿記の流れ						
	5. 取引の処理					2	面接
	6. 仕訳の処理①取引の分析と仕訳の基本					2	面接
	7. 仕訳の処理②仕訳処理の理解と確認					2,3	面接
	8. 勘定及び転記の処理					2,3	面接
	III 決算の予備手続き						
	9. 試算表の作成					2,3	面接
	10. 精算表の作成					2,3	面接
	IV 決算						
	11. 損益計算書・貸借対照表の作成					2,3	面接
	12. 帳簿の締め切り					2,3	面接
	13. 簿記一巡の手続き					2,3	面接
	V 伝票会計のしくみ						
14. 伝票の起票					4	面接	
15. 伝票の集計					2,3,4	面接	
◎定期試験							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（60％）②小テスト（10％）③課題（10％）④授業態度・授業への参加度（20％） 評価の基準：①知識・理解：資格試験レベルの基礎的な問題に解答できる。 ②知識・理解：単元ごとの基礎的な問題に解答できる。 ③関心・意欲及び知識・理解を測定。 ④関心・意欲：積極的な質疑、課題等への意欲的な取組姿勢を測定。						
フィードバックの方法	小テストや課題への解答を示し、習熟度や気づきをコメントする。						
時間外の学習 について	予習：簿記テキスト・問題集の予習。（各回 90 分程度） 復習：授業内容の復習、課題（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：最新段階式 日商簿記検定問題集 3 級 四訂版 / 実教出版 参 考 書：日本商工会議所主催の簿記検定問題集、電卓（授業で指示） 参考資料：適宜配布する。						
実務経験を活かした 授業について	行政職・教育現場における実務経験・指導経験を生かし、基礎的な内容からわかりやすく説明します。基本的な考え方や実務に役立つ内容を学習し、会計基礎力を身に付けられるよう指導します。						
担当者からの メッセージ等	簿記の基礎・基本から学習します。簿記の学習をステップアップすることで専門職を目指すことも可能です。様々な業種で求められるスキルなので学習する価値はあります。 E-mail： ()						

科目名	簿記演習	教員	城 浩敏 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-S17I-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	I		⑧	変化への適応力	○
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	簿記、伝票会計、決算整理、決算、財務諸表、日本商工会議所簿記検定3級						
授業概要	各種帳簿のしくみと役割及び記入方法について学ぶ。 伝票会計のしくみと記入方法について学ぶ。 決算手続きとその意味、財務諸表の作成について学ぶ。						
到達目標	1. 企業での各種帳簿の意義と役割及び記入方法が理解でき、その技法が身につく。						
	2. 伝票起票の処理について理解でき、その技法が身につく。						
	3. 企業における決算の意味及び決算手続きについて理解でき、その技法が身につく。						
	4. 財務諸表が作成でき、各種帳簿を締め切ることができる。						
履修条件、注意事項	前期開講の「簿記基礎理論」に継続して履修することが望ましい。						
授業計画	I 帳簿組織					到達目標	授業方法
	1. 取引、仕訳、元帳、帳簿組織の意義・役割について					I	面接
	2. 現金出納帳、当座預金出納帳への記帳・演習①現金・預金取引の基本的な記帳方法					I	面接
	3. 現金出納帳、当座預金出納帳への記帳・演習②現金・預金取引の記帳演習					I	面接
	4. 仕入帳・売上帳への記帳・演習①仕入取引・売上取引の記帳方法					I	面接
	5. 仕入帳・売上帳への記帳・演習②商品売買取引の記帳演習					I	面接
	6. 商品有高帳（先入先出法）への記帳・演習					I	面接
	II 伝票会計						
	7. 伝票会計（3伝票）のしくみと起票と処理・演習①伝票会計の基本構造の理解					2	面接
	8. 伝票会計（3伝票）のしくみと起票と処理・演習②伝票処理の実践演習					2	面接
	III 取引の記帳と決算						
	9. 各種取引と決算整理					3	面接
	10. 決算整理仕訳①決算整理の考え方と基本仕訳					3	面接
	11. 決算整理仕訳②決算整理仕訳の演習					3	面接
	IV 決算						
	12. 精算表の作成・演習①精算表の構造と作成手順					3,4	面接
	13. 精算表の作成・演習②精算表作成の演習					3,4	面接
	14. 財務諸表の作成（貸借対照表・損益計算書）①財務諸表の構造と役割					3,4	面接
	15. 財務諸表の作成（貸借対照表・損益計算書）②財務諸表作成の演習					1,2,3,4	面接
◎定期試験							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（60％）②小テスト（10％）③課題（10％）④授業態度・授業への参加度（20％） 評価の基準：①知識・理解：資格試験レベルの問題に解答できる。 ②知識・理解：単元ごとの問題に解答できる。 ③関心・意欲：積極的な質疑、課題等への意欲的な取組姿勢を測定。						
フィードバックの方法	毎時間、小テストや課題への解答を示し、習熟度や気づきをコメントする。						
時間外の学習について	予習：簿記テキスト・問題集の予習（60分程度） 復習：授業内容の復習、課題（90分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：最新段階式 日商簿記検定問題集3級 四訂版 /実教出版 参 考 書：日本商工会議所主催の簿記検定問題集、電卓（授業で指示） 参考資料：適宜配布する。						
実務経験を活かした授業について	行政職・教育現場における実務経験・指導経験を生かし、基礎的な取引事例を用いた演習を中心に指導します。基本技能の定着を図り、簿記の基礎理解と実務につながる会計的思考を育成します。						
担当者からのメッセージ等	簿記の学習は、企業の財務状況を理解し、ビジネスやキャリアアップに役立つ幅広い知識とスキルが身につきます。 E-mail：						

科目名	情報リテラシー I	教員	柳川 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-SI67-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	○
年次	I 年前期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	Office365、Word、PowerPoint、インターネット、メール、情報リテラシー、AI						
授業概要	社会人に必要なパソコンスキルや情報技術に関する知識を修得し、質の高いビジネス文書やプレゼンテーション資料を作成する力を身につける。また、社会で起きている変化や、データ・AI 利活用の最新の動向について理解する。						
到達目標	1. Office365 の使い方を修得する。						
	2. コンピュータの基本操作、インターネット・メールに関する基礎知識とマナーを修得する。						
	3. 社会におけるデータ・AI 利活用について理解する。						
	4. Microsoft Word によるビジネス文書の作成ができる。						
	5. Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. Office365 の使い方― 学修環境の理解と基本操作					1	面接
	2. Office365 の使い方― ファイル管理と共同作業					1	面接
	3. Office365 の使い方― 授業・課題提出での実践活用					1	面接
	4. コンピュータの仕組み、Windows の基本操作					2	面接
	5. インターネットとメール					2	面接
	6. 社会におけるデータ・AI 利活用―社会の変化とデータ活用					3	面接
	7. 社会におけるデータ・AI 利活用②―（Society5.0）					3	面接
	8. MS Word によるビジネス文書作成の基礎（1）― ビジネス文書の基礎構造					4	面接
	9. MS Word によるビジネス文書作成の基礎（2）― ビジネス文書の作成実践					4	面接
	10. MS Word によるビジネス文書作成の基礎（3）― 表・図を用いた文書表現					4	面接
	11. MS Word によるビジネス文書作成の基礎（4）― 文書の整形と仕上げ					4	面接
	12. MS Word によるビジネス文書作成の基礎（5）― 実務を想定した文書作成演習					4	面接
	13. MS PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基礎（1）― プレゼン資料の基本構成					5	面接
	14. MS PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基礎（2）伝わる資料表現の工夫					5	面接
	15. プレゼンテーション― グループワークによる発表実践					5	面接
	◎定期試験（パソコン実技）						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20％） ②演習課題（30％） ③プレゼン（25％） ④定期試験（25％） 評価の基準：①態度、関心・意欲、知識の習得度、理解度を測定 ②知識の習得度、理解度を測定 ③知識の習得度、理解度を測定 ④知識の習得度、理解度を測定						
フィードバックの方法	レポートの返却時にコメントをフィードバックする。						
時間外の学習について	予習：テキストの該当箇所を読んでおく。（各回 90 分程度） 復習：授業内容に即した課題（宿習）を課す。（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：よくわかるマスター MOS Word 365 対策テキスト&問題集、FOM 出版 参 考 書：特になし 参考資料：適宜配布する						
実務経験を活かした授業について	高等学校教員経験：ビジネス情報分野での経験を活かして授業を展開します。						
担当者からのメッセージ等	情報通信技術の基礎を学び、パソコンスキルを身につけましょう。 Email： kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	情報リテラシーⅡ	教員	柳川 和也(実務経験) (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	26JA-SI68-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	データリテラシー、エクセル、データ分析、表、グラフ						
授業概要	Excel を用いたデータ処理・分析・可視化を通して、情報を正しく読み取り、条件に応じて処理し、分かりやすく伝える力を養う。関数やグラフの操作にとどまらず、「どの機能を使うべきか」を判断する実践的な情報活用能力の習得を目指す。						
到達目標	1. データリテラシーとして、データを読み解く力、データを説明する力、データを扱うための力を養う。						
	2. Excel を活用して、伝えたい情報が伝わる表やグラフを作成することができる。						
	3. Excel を活用して、効率的にデータ整理や分析ができる。						
	4. データや情報を目的や相手に応じて選択・表現し、その妥当性を説明することができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. Excel 基礎操作・参照の考え方					1	面接
	2. 基本関数（SUM・AVERAGE 等）					2	面接
	3. COUNT / COUNTA・データの扱い					2, 3	面接
	4. IF 関数①（基本）					3, 4	面接
	5. IF 関数②（入れ子・AND/OR）					3, 4	面接
	6. 検索関数（VLOOKUP・HLOOKUP）（完全一致）					3	面接
	7. 検索関数（VLOOKUP・HLOOKUP）（近似一致）					3	面接
	8. 条件付き集計①（SUMIFS・ AVERAGEIFS ・COUNTIFS）					3	面接
	9. 条件付き集計②（組み合わせ）					3, 4	面接
	10. データ整理とエラー対応					4	面接
	11. グラフの基礎					2	面接
	12. ニ軸グラフと見せ方					2	面接
	13. マクロの基本知識					2	面接
	14. 総合演習（MOS 形式）					2, 3	面接
	15. 進捗度確認テスト・振り返り					2, 3	面接
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①課題提出・演習（50％）②進捗度確認テスト（30％）③授業参加・取り組み姿勢（20％） 評価の基準：①課題提出・演習（50％） ＊思考・判断、知識・理解を測定 ・授業で扱った Excel の操作や関数を正しく使用し、課題を完成させることができる。 ②進捗度確認テスト（30％）＊思考・判断、知識・理解を測定 ・問題の内容を読み取り、目的に応じて適切な関数や処理方法を選択できる。 ③授業参加・取り組み姿勢（20％） ＊関心・意欲を測定 ・授業に主体的に参加し、演習や課題に継続して取り組んでいるか。 ・他者との協力やサポートを含め、学習に前向きな姿勢が見られるか。						
フィードバックの方法	レポートや小テストの返却時にコメントをフィードバックする。						
時間外の学習 について	予習：ニュースや新聞を読んで社会ニーズを把握し、データリテラシーの重要性を理解する。（各回 15 分程度） 復習：授業時に指示した課題に取り組む。（各回 30 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト： Microsoft Office Specialist Excel 365 Expert 対策テキスト & 問題集、FOM 出版 参 考 書：特になし 参考資料：適宜配布する。						
実務経験を活かした 授業について	教員を経験活かし演習中心の授業を展開します。						
担当者からの メッセージ等	データリテラシーを高め、データを理解し、分析し、活用できる力を身につけましょう。 連絡先：kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp （柳川）						

科目名	音楽基礎理論	教員	中川 聡（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	26JA-S15I-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	
年次	I 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	ミュージカルグラマー（楽典）、音楽基礎知識、コード奏法						
授業概要	音楽の理解に必要な基礎事項についてキーボード実習を中心に学ぶ。						
到達目標	1. ミュージカルグラマー（楽典）の基礎知識を理解し、その知識を応用してキーボードで基本的なコード奏法ができる。						
	2. 和声の構造を分析し、音楽の意図に応じて基礎知識を応用して適切なコード進行や伴奏パターンを選択・表現できる。						
	3. 主体的に音楽を表現し、演奏の工夫を行う姿勢を自ら育て、芸術文化を理解し生涯にわたり音楽を愛好する態度を身につける。						
履修条件、注意事項	特記事項なし						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 音楽理論の基礎（音の高さ・音名・階名・基礎リズム）の確認とキーボードの基本操作について				1	面接	
	2. 単純音程・複音程・完全／長短の区別理解・キーボードで音程を確認する演習（含音程聴音）				1	面接	
	3. 音階と調性（メジャー／マイナー）・調号・調の判定・主和音・下屬和音・属和音の位置と役割の確認				1	面接	
	4. 三和音（トライアド）の種類（Major／Minor／Diminished／Augmented）・転回形の理解				1	面接	
	5. ダイアトニックコードによるメジャースケール上の I～VII の和音・各和音の機能（T, S, D）				1, 2	面接	
	6. ダイアトニックコードによるマイナースケール（自然／和声／旋律短音階）・II° や V の役割				1, 2	面接	
	7. セブンスコードの種類（MM7、Mm7、m7、m7♭5、dim7）／機能・キーボードによる配置練習				1, 2	面接	
	8. 基本形による主要コード進行と代表的なカデンツ（Ⅱ-V-I、Ⅳ-V-I）・初級伴奏パターン				1, 2	面接	
	9. ノン・ダイアトニックコードの基礎（セカンダリードミナント・モーダルインターチェンジ）				1, 2	面接	
	10. ポピュラー音楽のコード進行分析・伴奏スタイル（バラード／アップテンポ）・リズムパターン研究				1, 2, 3	面接	
	11. 近接ボイスとドロップ2の導入・転回形の導入・右手コード／左手ベースの配置練習				1, 2, 3	面接	
	12. 伴奏づくり実践①メジャー調の簡易アレンジ・曲調に応じた伴奏の作り方・グループ演習				1, 2, 3	面接	
	13. 伴奏づくり実践②マイナー調の簡易アレンジ・曲調に応じた伴奏の作り方・自由課題の伴奏デザイン				1, 2, 3	面接	
	14. 各自の選曲による作品発表と相互フィードバック・楽曲分析の総合的実践と技術の応用				1, 2, 3	面接	
15. 各自の伴奏作品の最終発表と評価・ミュージカルグラマーに準拠した和声理解の深化と今後の学習総括				1, 2, 3	面接		
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションや相互評価によるグループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①授業参加態度（50％）②作品発表（50％） 評価の基準：①知識・技能：楽典およびコード理論の理解と、キーボードにおける基本的コード奏法の習熟度を実技演習から評価 ②思考・判断・表現：楽曲の和声構造を分析し、表現意図に応じたコード進行や伴奏パターンを構成できる力を評価 ③主体的に取り組む態度：授業内の積極的な取り組みや協働的な学習姿勢、創作・演奏への探究的な姿勢を評価						
フィードバックの方法	毎時間のキーボード演習時のアドバイスおよび学修時間における質問のフィードバック						
時間外の学習 について	予習：テキストの関係するページに目を通して疑問を整理する。（各回 30 分程度） 復習：単元ごとのキーボード実習を補強するための自主練習を行う。（各回 150 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：「究極の楽典」 青島広志著 全音楽譜出版社 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースにキーボード奏法について講義します。						
担当者からの メッセージ等	理論の理解が音楽の表現や演奏につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	鍵盤Ⅰ	教員	一瀬 理佳（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	26JA-S14I-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	実技	単位	Ⅰ		⑦	課題解決力	
年次	Ⅰ年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	簡単な音楽理論、楽器演奏、自己表現、簡易アンサンブル						
授業概要	鍵盤（ピアノ・電子オルガン）奏法の基礎的なテクニックの習得、身体的機能、運指の基本技術を確認し、一人一人のレベルに合わせて選曲した課題に取り組む。個人の技量に合わせてながら、様々な音楽的な魅力を楽曲の中で発見し、演奏することへの意欲を持てるよう指導する。授業形態は集合での個人指導とする。						
到達目標	1. 基本的な姿勢と身体的機能の修得						
	2. 基礎的な音楽知識の理解						
	3. 練習計画の実践と演奏技術の向上						
	4. 楽曲理解と音楽表現法						
	5. 演奏実技の発表						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ピアノ・電子オルガンそれぞれの楽器の特徴の説明、レベルに合わせて演奏課題曲の選曲、楽譜等の準備					2	面接
	2. 鍵盤演奏をする上で必要な音楽知識、鍵盤テクニックの習得					2	面接
	3. 読譜をする上で必要な知識、要領の良い読譜について研究					2	面接
	4. クラシック音楽についての知識、ポピュラー音楽についての知識を得る					2	面接
	5. 課題曲への取り組み①右手奏					1, 2, 3	面接
	6. 課題曲への取り組み②左手奏（電子オルガンはベース奏も追加）					1, 2, 3	面接
	7. 課題曲への取り組み③両手奏（電子オルガンは三段鍵盤奏）の取り組み方					1, 2, 3	面接
	8. 課題曲への取り組み④目標部分までの仕上げ					3, 4, 5	面接
	9. 中間発表と今後の課題の設定についてディスカッション、簡単なアンサンブルの経験					3, 4	面接
	10. 課題曲への取り組み⑤右手奏の演奏表現①					1, 3, 4	面接
	11. 課題曲への取り組み⑥右手奏の演奏表現②					1, 3, 4	面接
	12. 課題曲への取り組み⑦左手奏（電子オルガンはベース含む）の和音分析と表現①					1, 3, 4	面接
	13. 課題曲への取り組み⑧左手奏（電子オルガンはベース含む）の和音分析と表現②					1, 3, 4	面接
	14. 課題曲への取り組み⑨両手奏（電子オルガンは三段鍵盤奏）での演奏表現①					4, 5	面接
	15. 課題曲への取り組み⑩両手奏（電子オルガンは三段鍵盤奏）での演奏表現②					4, 5	面接
	基礎的な演奏技術の向上を目標に、個人の進捗や学びたい演奏分野の作品等、相談しながら授業を進める。						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50％）②授業態度・授業への参加度（25％）③宿題（25％） 評価の基準：①技能・表現：学んだ技術を再現できる。 ②関心・意欲、態度：積極的に質問する。 ③関心・意欲：課題に意欲的に取り組む。						
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。						
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（予復習合わせて各回 90 分以上）						
教材にかかわる情報	テキスト：適時指示する 参考書、参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について	指導者経験：初心者から指導者育成までの経験を生かし、一人一人の個性に合わせて楽しくレベルに合った指導をします。						
担当者からのメッセージ等	過去に鍵盤を習ったことがある方、これまで鍵盤演奏に興味はあったけど踏み入れてなかったという方、何か1曲仕上げてみたい方、とにかく音楽が好きな皆さん、鍵盤に触って弾く楽しさを経験してみてください。 担当者の連絡先・E-mail：t0011@yamaguchi-jca.ac.jp（一瀬）						

科目名	鍵盤Ⅱ	教員	一瀬 理佳（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	26JA-SI42-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	実技	単位	I		⑧	変化への適応力	
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	楽器演奏、楽器の知識、一般的な音楽理論、簡易アンサンブル						
授業概要	自分の選曲した楽曲の中で、鍵盤（ピアノ・電子オルガン）演奏上の様々なテクニックを習得する。あらゆるジャンルの音楽の表現を学ぶ。感覚的に楽譜を読む力、感覚的に鍵盤を把握する力を身に付ける。楽曲に意欲的に取り組み、仕上げ、演奏する事の喜びを経験していく。授業形態は集合での個人指導とする。						
到達目標	1. 基本的な姿勢と身体的機能の修得						
	2. 基礎的な音楽知識の理解						
	3. 練習計画の実践と演奏技術の向上						
	4. 楽曲理解と音楽表現法						
	5. 演奏実技の発表						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ピアノ・電子オルガンそれぞれの楽器の特徴説明、レベルに合わせた演奏課題曲の選曲、楽譜等の準備					2	面接
	2. 鍵盤演奏をする上で必要な音楽知識、鍵盤テクニックの習得					2	面接
	3. クラシック音楽の研究、オーケストラの楽器の音色					2	面接
	4. ポピュラー音楽の研究、ハーモニーの知識					2	面接
	5. 課題曲への取り組み①右手奏					1,2,3	面接
	6. 課題曲への取り組み②左手奏（電子オルガンはベース奏も追加）					1,2,3	面接
	7. 課題曲への取り組み③両手奏（電子オルガンは三段鍵盤奏）					1,2,3	面接
	8. 中間発表と今後の課題の設定についてディスカッション、簡単なアンサンブルの経験					3,4	面接
	9. 課題曲への取り組み④メロディーフレーズの演奏表現					3,4	面接
	10. 課題曲への取り組み⑤伴奏部の演奏表現					3,4	面接
	11. 課題曲への取り組み⑥ジャンルに応じた演奏表現					3,4	面接
	12. 課題曲への取り組み⑦両手奏（電子オルガンは三段鍵盤奏）での演奏表現①					3,4,5	面接
	13. 課題曲への取り組み⑧両手奏（電子オルガンは三段鍵盤奏）での演奏表現②					3,4,5	面接
	14. クラシック曲、ポピュラー曲の簡単なアンサンブル					4,5	面接
	15. 課題曲への取り組み⑨演奏課題曲の仕上げ					4,5	面接
	様々なジャンルの音楽への理解を深めながら、個人の演奏力の向上を目標に授業を進める。						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50％）②授業態度・授業への参加度（25％）③宿題（25％） 評価の基準：①技能・表現：学んだ技術を再現できる。 ②関心・意欲、態度：積極的に質問する。 ③関心・意欲：課題に意欲的に取り組む。						
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。						
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（予復習合わせて各回 90 分以上）						
教材にかかわる情報	テキスト：適時指示する 参考書、参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について	演奏家経験：幅広いジャンルと様々な形態での演奏経験を活かし、音楽の楽しさをお伝えします。						
担当者からのメッセージ等	鍵盤楽器は自分一人でメロディーと伴奏を完成させることができる楽器です。好きな曲を選び、自分の思いを込めて自由に演奏表現する喜びを味わってください。 担当者の連絡先・E-mail：t0011@yamaguchi-jca.ac.jp（一瀬）						

科目名	吹奏楽Ⅰ	教員	中川 聡（実務経験） 岩木 麗華（実務経験） （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	26JA-SI45-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	実技	単位	Ⅰ		⑧	変化への適応力	
年次	Ⅰ 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	吹奏楽、管楽器、演奏法、音色、ロングトーン、メンテナンス、チームワーク						
授業概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、チューニング、ロングトーン、音階練習などを行う。曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、曲の構成や楽器の編成などを理解できるように進めていく。						
到達目標	1. 吹奏楽の基礎的知識を理解し、初心者であっても基本的な奏法と演奏技能を身につけて合奏に参加できる。						
	2. 自分の楽器の音とアンサンブル全体の響きを比較・判断し、曲想に応じた音色・バランス・表現を工夫して演奏できる。						
	3. 授業に主体的に参加するに留まらず、学修時間を活用して技能の維持・向上に努めて協働的に演奏をつくり上げることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業の位置づけ・目標・評価説明・楽器の種類・合奏で大切なマナー・姿勢・チューニング・聴く姿勢					1,3	面接
	2. 楽器の扱い方・音の出し方・姿勢・呼吸法・タンギング・ロングトーン（打楽器は基本ストローク）					1,3	面接
	3. スケールと運指・発音・音階・アーティキュレーションの基礎・パート練習・グループ練習					1,3	面接
	4. リズム・アンサンブル基礎・単純拍子・複合拍子・簡単な合奏リズム練習・メトロノームについて					1,3	面接
	5. パートの音色作り・管楽器群（打楽器）ごとの音色作り・倍音について・ハーモニーについて					1,2,3	面接
	6. 初級合奏①：練習方法・合奏での役割（主旋律、副旋律、リズム）・耳を使った合奏の大切さ					1,2,3	面接
	7. 初級合奏②：強弱・フレーズの付け方・曲の背景・構造の学び・曲想理解・呼吸の共有と合奏の集中					1,2,3	面接
	8. パート練習＋合奏の統合・パート練習の成果を用いた全体合奏・サウンド（音量・バランス）の調整					1,2,3	面接
	9. 楽曲分析による表現の工夫・演奏曲の構造、メロディ、伴奏、リズムパターンの分析による表現の確認					1,2,3	面接
	10. 合奏の録音を聴くことによる問題点の共有・グループディスカッションによる改善点の抽出					1,2,3	面接
	11. 中級合奏①：丁寧な通し練習・各セクションの課題考察・アンサンブルにおける音楽表現と統一感の工夫					1,2,3	面接
	12. 中級合奏②：表現の仕上・フレーズの方向性確認・ダイナミクスや音色の統一・曲想に合わせた音色					1,2,3	面接
	13. 中級合奏③：本番に向けた通し練習・本番形式のリハーサル・入退場・演奏マナー・合奏の最終調整					1,2,3	面接
	14. ミニコンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					1,2,3	面接
15. ミニコンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					1,2,3	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：楽器の扱い・基礎奏法の習得・基礎合奏の実技・合奏での基本的演奏技術。 ②思考・判断・表現：各自のパートにおける表現の妥当性やアンサンブル全体を聴きながらバランスを調整する力。 ③個人練習・パート練習の参加態度や仲間とコミュニケーションをとりながら準備や合奏する姿勢、レポート内容。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習（各回 45 分程度） 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：JBC バンドスタディ他 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が楽器の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	吹奏楽Ⅱ	教員	松田 和寛（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-SI46-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	吹奏楽、管楽器、演奏法、音色、ロングトーン、メンテナンス、チームワーク						
授業概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、チューニング、ロングトーン、音階練習などを行う。曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、曲の構成や楽器の編成などを理解できるように進めていく。						
到達目標	1. 吹奏楽の基礎的知識を理解し、初心者であっても基本的な奏法と演奏技能を身につけて合奏に参加できる。						
	2. 自分の楽器の音とアンサンブル全体の響きを比較・判断し、曲想に応じた音色・バランス・表現を工夫して演奏できる。						
	3. 授業に主体的に参加するに留まらず、学修時間を活用して技能の維持・向上に努めて協働的に演奏をつくり上げることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業の位置づけ・目標・評価説明・楽器の種類・合奏で大切なマナー・姿勢・チューニング・聴く姿勢					I,3	面接
	2. 楽器の扱い方・音の出し方・姿勢・呼吸法・タンギング・ロングトーン（打楽器は基本ストローク）					I,3	面接
	3. スケールと運指・発音・音階・アーティキュレーションの基礎・パート練習・グループ練習					I,3	面接
	4. リズム・アンサンブル基礎・単純拍子・複合拍子・簡単な合奏リズム練習・メトロノームについて					I,3	面接
	5. パートの音色作り・管楽器群（打楽器）ごとの音色作り・倍音について・ハーモニーについて					I,2,3	面接
	6. 初級合奏①：練習方法・合奏での役割（主旋律、副旋律、リズム）・耳を使った合奏の大切さ					I,2,3	面接
	7. 初級合奏②：強弱・フレーズの付け方・曲の背景・構造の学び・曲想理解・呼吸の共有と合奏の集中					I,2,3	面接
	8. パート練習＋合奏の統合・パート練習の成果を用いた全体合奏・サウンド（音量・バランス）の調整					I,2,3	面接
	9. 楽曲分析による表現の工夫・演奏曲の構造、メロディ、伴奏、リズムパターンの分析による表現の確認					I,2,3	面接
	10. 合奏の録音を聴くことによる問題点の共有・グループディスカッションによる改善点の抽出					I,2,3	面接
	11. 中級合奏①：丁寧な通し練習・各セクションの課題考察・アンサンブルにおける音楽表現と統一感の工夫					I,2,3	面接
	12. 中級合奏②：表現の仕上・フレーズの方向性確認・ダイナミクスや音色の統一・曲想に合わせた音色					I,2,3	面接
	13. 中級合奏③：本番に向けた通し練習・本番形式のリハーサル・入退場・演奏マナー・合奏の最終調整					I,2,3	面接
	14. Xmas コンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					I,2,3	面接
	15. Xmas コンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					I,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：楽器の扱い・基礎奏法の習得・基礎合奏の実技・合奏での基本的演奏技術。 ②思考・判断・表現：各自のパートにおける表現の妥当性やアンサンブル全体を聴きながらバランスを調整する力。 ③個人練習・パート練習の参加態度や仲間とコミュニケーションをとりながら準備や合奏する姿勢、レポート内容。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習（各回 45 分程度） 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：JBC バンドスタディ他 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	合奏指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が楽器の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	合 唱 Ⅰ	教員	中川 聡（実務経験） 野上 佳子（実務経験） （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-SI47-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	Ⅰ				
年次	Ⅰ 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	合唱、基本姿勢、声の出し方、伝える力、呼吸法、アンサンブル、チームワーク						
授業概要	本授業では、合唱を通して音楽の基礎的技術と知識を身につけるとともに、音楽的な思考・表現を深め、協働的に作品を創り上げる経験を重視する。最終的には成果発表を行い、実践的な学びの集大成とする。						
到達目標	1.発声・呼吸・姿勢などの基本的な歌唱技能を習得し、倍音を感じながら安定して歌える。						
	2.楽曲の背景や曲の構造・歌詞の意味を踏まえて、強弱やフレージングを工夫しながら表現できる。						
	3.他のパートと聴き合いながら音楽を創造する喜びを全体で共有し、和声に基づく主体的な表現を創造できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1.合唱の歴史的背景を踏まえ、身体・声・空間を共有する音楽的コミュニケーション特性を理解する。					Ⅰ	面接
	2.歌唱身体の基礎：腹式呼吸、横隔膜の支持、共鳴空間の確保など歌唱生理学に基づく基礎を学ぶ。					Ⅰ	面接
	3.発声の基本Ⅰ：声区を理解し、母音形成や響きの統一を学ぶことにより母音の響きの純化を狙う。					Ⅰ	面接
	4.ユニゾンの精度向上とハーモニー形成の基礎確立のため、純正律・平均律および倍音について感得する。					Ⅰ,3	面接
	5.パート内の音程精度とアーティキュレーションの統一を図り、セクションごとの音楽的課題を克服する。					Ⅰ,3	面接
	6.各声部の機能（旋律・内声・ベースライン）を理解し、合唱全体のアンサンブルのバランスを探る。					Ⅰ,2,3	面接
	7.楽曲の形式・和声・歌詞の解釈に基づく曲全体の構造把握と音楽的意図の分析により表現を工夫する。					Ⅰ,2,3	面接
	8.言葉の句読点の処理、ブレス位置の共有、フレーズラインの方向性などを整え表現の統一を図る。					Ⅰ,2,3	面接
	9.全体の響きやテンポ、音楽の流れを整え、アンサンブルの統合と音楽的整合性を確認し、作品に迫る。					Ⅰ,2,3	面接
	10.強弱・音色・言葉の処理によりダイナミクスの連続性を保ち、音色がコントロールされた歌唱法を学ぶ。					Ⅰ,2,3	面接
	11.演奏会を想定したダイナミクス変化を伴う繊細な表現により作品全体を演奏会仕様の完成度高める。					Ⅰ,2,3	面接
	12.曲想に合わせた音色やダイナミクスの統一、フレーズの方向性の確認により音楽表現をさらに仕上げる。					Ⅰ,2,3	面接
	13.入退場や演奏マナーを含む本番形式のリハーサルにより演奏の最終合奏の最終調整					Ⅰ,2,3	面接
	14.ミニコンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					Ⅰ,2,3	面接
	15.ミニコンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					Ⅰ,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：基本的な発声・音程・リズムの習得状況に加え、曲の背景や内容に対する理解。 ②思考・判断・表現：曲の分析内容や表現の工夫、アンサンブル全体を聴いて判断に演奏する力。 ③主体的に取り組む態度：主体的・協働的に授業に参加し、和声を軸に合唱活動全般へ関わる。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当パートの練習（各回 45 分程度） 復習：授業で指摘を受けた箇所についての確認、および担当パートの練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が歌唱の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	合 唱 II	教員	中川 聡（実務経験） 野上 佳子(実務経験) （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	26JA-SI48-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	I 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	合唱、基本姿勢、声の出し方、伝える力、呼吸法、アンサンブル、チームワーク						
授業概要	本授業では、合唱を通して音楽の基礎的技術と知識を身につけるとともに、音楽的な思考・表現を深め、協働的に作品を創り上げる経験を重視する。最終的には成果発表を行い、実践的な学びの集大成とする。						
到達目標	1. 発声・呼吸・姿勢などの基本的な歌唱技能を習得し、倍音を感じながら安定して歌える。						
	2. 楽曲の背景や曲の構造・歌詞の意味を踏まえて、強弱やフレージングを工夫しながら表現できる。						
	3. 他のパートと聴き合いながら音楽を創造する喜びを全体で共有し、和声に基づく主体的な表現を創造できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 合唱の歴史的背景を踏まえ、身体・声・空間を共有する音楽的コミュニケーション特性を理解する。					I	面接
	2. 歌唱身体の基礎：腹式呼吸、横隔膜の支持、共鳴空間の確保など歌唱生理学に基づく基礎を学ぶ。					I	面接
	3. 発声の基本Ⅰ：声区を理解し、母音形成や響きの統一を学ぶことにより母音の響きの純化を狙う。					I	面接
	4. ユニゾンの精度向上とハーモニー形成の基礎確立のため、純正律・平均律および倍音について感得する。					I,3	面接
	5. パート内の音程精度とアーティキュレーションの統一を図り、セクションごとの音楽的課題を克服する。					I,3	面接
	6. 各声部の機能（旋律・内声・ベースライン）を理解し、合唱全体のアンサンブルのバランスを探る。					I,2,3	面接
	7. 楽曲の形式・和声・歌詞の解釈に基づく曲全体の構造把握と音楽的意図の分析により表現を工夫する。					I,2,3	面接
	8. 言葉の句読点の処理、ブレス位置の共有、フレーズラインの方向性などを整え表現の統一を図る。					I,2,3	面接
	9. 全体の響きやテンポ、音楽の流れを整え、アンサンブルの統合と音楽的整合性を確認し、作品に迫る。					I,2,3	面接
	10. 強弱・音色・言葉の処理によりダイナミクスの連続性を保ち、音色がコントロールされた歌唱法を学ぶ。					I,2,3	面接
	11. 演奏会を想定したダイナミクス変化を伴う繊細な表現により作品全体を演奏会仕様の完成度にも高める。					I,2,3	面接
	12. 曲想に合わせた音色やダイナミクスの統一、フレーズの方向性の確認により音楽表現をさらに仕上げる。					I,2,3	面接
	13. 入退場や演奏マナーを含む本番形式のリハーサルにより演奏の最終合奏の最終調整					I,2,3	面接
	14. Xmas コンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					I,2,3	面接
	15. Xmas コンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					I,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：基本的な発声・音程・リズムの習得状況に加え、曲の背景や内容に対する理解。 ②思考・判断・表現：曲の分析内容や表現の工夫、アンサンブル全体を聴いて判断に演奏する力。 ③主体的に取り組む態度：主体的・協働的に授業に参加し、和声を軸に合唱活動全般へ関わる。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当パートの練習（各回 45 分程度） 復習：授業で指摘を受けた箇所についての確認、および担当パートの練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が歌唱の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

2 年次開講科目

芸術表現学科

科目名	美術概論	教員	西村 優子 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	JA-L206-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	○
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	美術史、鑑賞、表現方法、作家論、美的感性						
授業概要	優れた芸術に触れることは人間の精神をより一層豊かにしてくれる。この授業では、現代社会・文化の源流でもある古代美術から現代に至る西洋美術の歴史的な流れを中心に、様式、運動、主義、芸術概念など「美術の見方」について概説する。「美術は時代を映す鏡である」とも言われ、各時代の出来事や社会背景を踏まえた上で、作家や作品、技法の知識を得ることも視野に入れ、パワーポイント等の視聴覚機器を使用した美術鑑賞を中心に授業を展開する。						
到達目標	1.美術に関連した言葉や美術の領域、美術の歴史の流れを理解できる。						
	2.芸術の様式・主義・運動とともに各時代の出来事や社会的背景を理解できる。						
	3.素晴らしい芸術作品に触れ、それらの作品や表現方法に関する知識を習得する。						
	4.学んだことをノート等に記録して、美術作品への思いや知識の定着を図ることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1．導入 授業概要の説明 美術とは何か（美術に関連する言葉、美術の領域）					1,2,4	面接
	2．エジプトの美術					1,2,3,4	面接
	3．ギリシャの芸術Ⅰ					1,2,3,4	面接
	4．ギリシャの芸術Ⅱ					1,2,3,4	面接
	5．ローマ・中世の美術					1,2,3,4	面接
	6．イタリア初期ルネッサンス					1,2,3,4	面接
	7．イタリア盛期ルネッサンスⅠ					1,2,3,4	面接
	8．イタリア盛期ルネッサンスⅡ					1,2,3,4	面接
	9．バロック・北方ルネッサンス					1,2,3,4	面接
	10．ロココ（18世紀フランス）					1,2,3,4	面接
	11．近代絵画（新古典・ロマン・写真）					1,2,3,4	面接
	12．近代絵画（印象派）					1,2,3,4	面接
	13．近代絵画（後期印象派）					1,2,3,4	面接
	14．現代の美術Ⅰ（セザンヌ以降）					1,2,3,4	面接
	15．現代の美術Ⅱ（20世紀以降）					1,2,3,4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①期末試験（80%）、②ノート提出（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：テキストおよび講義等での知識を扱った問題に解答できる。 ②関心・意欲、思考・判断：授業内容とその学びについてノートに整理できている。						
フィードバックの方法	試験終了後、答え合わせとともに、解説を行なう。						
時間外の学習について	予習：授業に関連するテキストの部分を読んでおく。 復習：学んだ作家や作品について更に調べ、配布のプリントにまとめる。各回 90 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：『鑑賞のための西洋美術史入門』 著者：早坂優子 出版社：株式会社視覚デザイン研究所 参考書：授業の中で適宜資料を配布する。 参考資料等：特になし						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	最終授業終了後、A4 ファイルにまとめたノートを提出。 担当者の連絡先・E-mail：授業内で周知します。						

科目名	現代社会考察	教員	河合 良房 (実務経験) (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	JA-L201-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	○
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	現代社会の課題、SDGs（持続可能な開発目標）、課題解決、考察、プレゼンテーション						
授業概要	SDGs を中心に現代社会の諸課題について考察を深め、グループで協働しながら解決策を探る。プレゼンテーションを通して皆で解決のアイデアを共有し、ディスカッションを重ねてブラッシュアップを図る。						
到達目標	1. 現代社会の特性について、理解した上で考察を深めることができる。						
	2. 課題解決に向け、多角的かつ客観的な視点で分析・考察することができる。						
	3. 課題解決のための方策について、主体的に意見を出し合いながら、最適解に近づくことができる。						
	4. グループで協働しながら解決のための方策についてまとめ、プレゼンテーションで効果的に伝えることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 「考察」することの意味					1	面接
	2. 人類の歴史					1	面接
	3. 地球の現状					1	面接
	4. 現代社会の特性					1	面接
	5. 多様な価値観の尊重					1	面接
	6. 持続可能な開発とは					1	面接
	7. SDGs について(個別課題の理解)					1, 2	面接
	8. SDGs について(課題解決についての考察)					1, 2, 3	面接
	9. SDGs について(解決方策についてグループワーク)					1, 2, 3, 4	面接
	10. SDGs について(解決方策についての発表および相互評価Ⅰ)					1, 2, 3, 4	面接
	11. SDGs について(解決方策についての発表および相互評価Ⅱ)					1, 2, 3, 4	面接
	12. SDGs について(ディスカッションによる解決方策のブラッシュアップⅠ)					1, 2, 3	面接
	13. SDGs について(ディスカッションによる解決方策のブラッシュアップⅡ)					1, 2, 3	面接
	14. 持続可能な世界のためにできること					1, 2, 3	面接
	15. まとめ					1, 2, 3	面接
定期試験							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50%）②グループ活動記録・授業レポート（20%）③プレゼンテーション（20%）④授業態度・授業への参加度（10%）により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解:授業で取り上げた内容に関する問題に解答できる。 ②知識・理解及び関心・意欲:授業内容や活動をフィードバックしながら、まとめることができる。 ③思考・判断及び表現:テーマについて、協働しながら調査研究し、効果的にプレゼンテーションできる。 ④関心・意欲及び態度:授業テーマに関心を持ち、自分事として捉えながら、積極的に活動できる。						
フィードバックの方法	授業ごとに提出するレポートや活動記録については、コメントを添えて返却します。質問には適宜答えていきます。						
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容・参考文献について情報収集(各回 90 分程度) 復習：グループ活動記録および授業レポートを作成し、提出(各回 90 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配付 参 考 書：テーマごとに関連書籍を紹介 参考資料：関連する資料を配付						
実務経験を活かした授業について	高校教員（地歴公民）経験：現代社会の課題や SDGs を通して課題解決に向けたアイデアを共有し、考察を深めましょう。						
担当者からのメッセージ等	現代社会への考察を深め、課題解決を図る意欲を育みながら、仲間と協働する姿勢を培いましょう。 担当者の連絡先・Email：授業の際に連絡します。						

科目名	文 学	教員	久保田 京子(実務経験) (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
ナンバリングコード	JA-L202-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	講義	単位	2		⑧	変化への適応力	○
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	日本文学史、概論、文学知識、山口県ゆかりの文学者、ふるさとの文学調査研究						
授業概要	「日本文学史」を概観（古典から近代）することでその流れを学び、教養を身につける。さらに授業で培った知識や思考力をもとに、山口県ゆかりの文学者について調査研究をし、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。						
到達目標	1. 人口に膾炙した作品を中心に日本文学史について学び、知識と教養を身につけることができる。						
	2. 山口県に関連のある文学作品及び文学者（古典～近代）について理解を深めることができる。						
	3. 文学館・図書館・ＩＴを活用した課題研究をし、その成果をプレゼンテーションすることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 日本文学史の概略・テキストの説明					1.2	面接
	2. 「古事記」の時代と「古事記」にみる山口県					1.2	面接
	3. 「万葉集」の歌人たちと「万葉集」に読まれた山口県					1.2	面接
	4. 古今和歌集」と日本の四季					1.2	面接
	5. 平安女流文学の隆盛					1.2	面接
	6. 軍記文学と中世説話集等					1.2	面接
	7. 近世俳諧の成立					1.2	面接
	8. 浄瑠璃と歌舞伎にみる伝統					1.2	面接
	9. 近世の散文（読みもの）					1.2	面接
	10. ふるさとの文学者① 小説					1.2.3	面接
	11. ふるさとの文学者② 詩					1.2.3	面接
	12. ふるさとの文学者③ 俳句					1.2.3	面接
	13. ふるさとの文学者④ 童謡					1.2.3	面接
	14. 日本文学の展望					1.2.3	面接
15. 文学レポートのプレゼンテーション					1.2.3	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法：①レポート(30%)②復習小テスト(30%)③授業態度・提出プリント（20%）④発表・参加度(20%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①・②知識・理解、思考・判断、表現を測定 ・基礎知識が身につく、調査研究等をもとに自説をまとめた文章で表現できる。 ③・④関心・意欲、態度を測定 ・課題に意欲的に取り組み、積極的かつ主体的に学習活動に取り組むことができる。						
フィードバックの方法	毎時間の提出授業プリントは添削指導し、各自の良さを伝える。小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。						
時間外の学習について	予習：「予習シート」によりテキストの読解・要約(各回90分程度) 復習：授業プリントをファイルに整理し（ポートフォリオ）、課題研究の準備(各回90分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：「日本文学史」小西甚一著 講談社学術文庫 参 考 書：特になし 参考資料：毎時、授業プリント配布						
実務経験を活かした授業について	教職経験（高校・国語）、行政職経験とくに文化振興に携わった経験等をもとに、ふるさと山口の文学者について興味関心が広がるよう話をします。						
担当者からのメッセージ等	日本文学史やふるさと山口の文学者について学び、理解することで、暮らしの中で芸術表現を感得できる感性を磨きましょう。授業プリントや作成した文学レポートはポートフォリオとして振り返りや課題発見の一助として活用しましょう。 担当者の連絡先・メールアドレス T0001@yamaguchi-jca.ac.jp（久保田）						

科目名	暮らしと法	教員	原田 剛 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	JA-L203-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	講義	単位	2				
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	社会人にふさわしい教養 主体的に社会の変化に適応						
授業概要	主に六法（憲法、刑法、民法、商法（会社法）、刑事訴訟法、民事訴訟法）の基本について学び、各法律に関わる時事問題を取り上げ考察する。						
到達目標	1. 法律の基礎知識を身に付ける。						
	2. 社会生活上の諸問題に対してリーガルマインドを持って対応できる。						
	3. 人権を尊重し社会人として責任ある行動がとれる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 社会生活と社会規範					1, 2, 3	面接
	2. 社会規範としての法					1	面接
	3. 憲法①（人権が制限される幸せな社会？）					1, 2, 3	面接
	4. 憲法②（人権は誰かにもらうもの？）					1, 2, 3	面接
	5. 憲法③（「私の自由」と「みんなの幸せ」）					1, 2, 3	面接
	6. 憲法④（三権分立の真の意味）					1, 2	面接
	7. 憲法⑤（お互い足を引っ張り合う制度）					1, 2	面接
	8. 民法・会社法と民事訴訟法①（「殺人契約」も有効？）					1, 2	面接
	9. 民法・会社法と民事訴訟法②（「勘違い」はどこまで許される？）					1, 2	面接
	10. 民法・会社法と民事訴訟法③（先に買ったのに損をする！）					1, 2	面接
	11. 民法・会社法と民事訴訟法④（会社は誰のもの？）					1, 2	面接
	12. 民法・会社法と民事訴訟法⑤（「真実の発見」よりも大切なこと）					1, 2	面接
	13. 刑法と刑事訴訟法①（罰するべきか、見逃すべきか）					1, 2	面接
	14. 刑法と刑事訴訟法②（悪いのは「殺そうとした」から？）					1, 2	面接
	15. 刑法と刑事訴訟法③（悩める窃盗罪、刑事訴訟法が主役になる）					1, 2, 3	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50%）、②宿題・授業外ワーク（30%）、③授業態度・授業への参加度（20%）で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解の測定：基礎的な知識と応用問題に解答できる。 ②関心・意欲、知識・理解の測定：ワークの課題を調べ提出する。 ③関心・意欲、態度の測定：論理的に自分の考えを主張できる。						
フィードバックの方法	宿題・授業外ワークについては、毎回授業の最初に解説します。						
時間外の学習 について	予習：事前にテキストを読んで要点をまとめ、疑問点を書き出しておく。（各回 90 分程度） 復習：授業内容について宿題・ワークを作成し、提出する。授業で取り上げた時事問題についてまとめる。（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：『日本一やさしい法律の教科書』品川皓亮【著】佐久間毅【監修】（日本実業出版社） 参 考 書：『もしも世界に法律がなかったら』本山泰嗣（日本実業出版社）など 参考資料：適宜新聞記事など配布						
実務経験を活かした 授業について							
担当者からの メッセージ等	現代社会の課題について法的な見方や考え方を身に付けよう。 担当者の連絡先・メールアドレス tharada@yamaguchi-jca.ac.jp（原田）						

科目名	暮らしのなかの科学	教員	山田 哲也（実務経験） 開地 元典（実務経験） （オムニバス）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	主体性		
					③	教養	○	
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能		
					⑥	創造力		
					⑦	課題解決力	○	
					⑧	変化への適応力		
ナンバリングコード	JA-L204-000	学科	芸術表現学科					
授業形態	講義	単位	2					
年次	2 年前期	卒業要件	選択					
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	自然現象の理解、科学的発想、人々の暮らしと自然科学との関わり							
授業概要	自然の理解並びに物理学、化学、生物学、地学等の自然科学の基本的な法則や現象の理解を図るとともに、身近な暮らしの中の事物や現象をもとに自然科学的な見方や考え方を養う。							
到達目標	1. 自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを理解する。							
	2. 身のまわりの自然現象に目を向け、科学的な視点及び自然科学に関する基本的な知識や概念を習得する。							
	3. 自然科学的な見方・考え方など、自然と共生することの大切さを理解し、正しい自然観を身に付ける。							
	4. 気象現象や気候変動の現況を理解し、自然災害への対応力を身に付ける。							
履修条件、注意事項								
授業計画						到達目標	授業方法	
	1. 自然科学へのまなざしー自然科学的な見方・考え方についてー					(担当：山田)	1	面接
	2. 錯覚の科学					(担当：開地)	2, 3	面接
	3. 手品の科学					(担当：開地)	2, 3	面接
	4. 葉の科学					(担当：開地)	2, 3	面接
	5. 種子の科学					(担当：開地)	2, 3	面接
	6. 遺伝子の科学					(担当：開地)	2, 3	面接
	7. バイオミクリー ①					(担当：開地)	2, 3	面接
	8. バイオミクリー ②					(担当：開地)	2, 3	面接
	9. 様々な天体とその特徴					(担当：山田)	2, 3	面接
	10. 岩石・鉱物の科学					(担当：山田)	2, 3	面接
	11. 身のまわりの地形や地質構造					(担当：山田)	2, 3	面接
	12. 力と光の科学					(担当：山田)	2, 3	面接
	13. 日常生活や自然界における電気と磁気					(担当：山田)	2, 3	面接
	14. 気象現象にみる水や大気のかかわり					(担当：山田)	2, 3	面接
	15. 気候変動の理解と自然災害（地震、津波、台風、火山、土砂災害等）への対応					(担当：山田)	4	面接
アクティブ・ラーニング	各領域の特定のテーマについてディスカッションやグループワークなどを取り入れる。また、各回の授業の中で課題について、インターネットや図書等を利用したレポートを作成し、次の講義において意見交換を行う。							
成績評価基準	評価の方法：①各回レポート及び最終課題（60％）、 ②授業時での内容理解や取組状況・ポートフォリオ等（40％）で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲：レポート・課題の量（字数）と質（解答の的確性）が適切である。 ②知識・理解、思考・判断、関心・意欲：授業及び授業内での活動において、積極的な参画により必要な知識を理解するとともに、適切な思考や判断が行われている。							
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートについては時間内あるいは次週に解説する。							
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト（北海道大学オープンコースウェア等）を閲覧する。（各回 90 分程度） 復習：授業において習得した内容についてまとめるとともに、更なる気づきや疑問点について調べる。（各回 90 分程度）							
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料等：https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy/（北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力） 配布プリント、紹介図書・記事等の参考資料							
実務経験を活かした授業について	高等学校教員の経験をもとに、暮らしのなかの事物・現象やその要因の理解について科学の視点から支援します。							
担当者からのメッセージ等	暮らしのなかの科学に目を向け、抱いた疑問や不思議をもとに、図書やインターネット情報を活用して主体的に課題に取り組み、レポート作成やディスカッション等を通して、自分なりの自然科学的な見方・考え方を養ってください。 担当教員の連絡先メールアドレス：tyamada@yamaguchi-jca.ac.jp（山田）、mkaichi@y-gakugei.ac.jp（開地）							

科目名	体 育	教員	原 井 進(実務経験) 石川 美佳(実務経験) (オムニバス)	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	○
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-L205-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	体を動かすことの楽しさ、生涯スポーツ、レクリエーション、ピラティス、ダンス、創造力、コミュニケーション能力						
授業概要	本講義は、ピラティス、ダンス、球技、レクリエーション・スポーツを中心に運動する。 ピラティスやバレエストレッチで柔軟性アップ、体幹作りや姿勢改善やメンタルヘルスの向上などをめざす。 ダンスでは表現力や創造力やグループで踊る楽しさを学ぶ。 球技及びレクリエーション・スポーツでは、基礎技能の習得と簡易的なゲームを円滑に進められるように学習する。 合わせて、コミュニケーション活動を重視するとともに、事故や熱中症の防止等の基礎についても学習する。						
到達目標	1. 基本的なスポーツマナーとコミュニケーションを理解する（挨拶や基本的な社会性）						
	2. ピラティスやダンスの基本的な姿勢・技術を学び、日常生活で応用をする態度を養う						
	3. 基礎体力の向上や音楽に合わせて創造的な活動できることを目指し、計画的な取組により最後まで努力する						
	4. 球技及びレクリエーションの特性の理解と技能の習得する						
	5. スポーツ大会等の企画と運営ノウハウの習得する						
履修条件、注意事項	激しい運動ができるＴシャツ、ハーフパンツ、ジャージ、スウェット等の服装と室内専用シューズで参加すること。（デニムは不可） タオル（汗拭きだけでなくピラティスでも使用する）、熱中症予防のための飲料水、着替え等を持参すること。						
授業計画						到達目標	授業方法
	１．スポーツをする上での身なりと基本的なスポーツマナー とコミュニケーション（担当：原井、石川）					1,2	面接
	２．ピラティスの基本(呼吸・基本姿勢と動作)と創作ダンスについての説明（担当：石川）					1,2	面接
	３．ピラティス & 創作ダンス 1（担当：石川）					2,3	面接
	４．ピラティス & 創作ダンス 2（担当：石川）					2,3	面接
	５．ピラティス & 創作ダンス 3 （担当：石川）					2,3	面接
	６．ピラティス & 創作ダンス 4 （担当：石川）					2,3	面接
	７．ピラティス & 創作ダンス 5 （担当：石川）					2,3	面接
	８．創作ダンス作品完成発表 （担当：石川）					1,2,3	面接
	９．球技の基礎技能（担当：原井）					1,3,4	面接
	10. 球技のゲーム 1（担当：原井）					3,4	面接
	11. 球技のゲーム 2（担当：原井）					3,4	面接
	12. レクリエーション・スポーツの基礎技能（担当：原井）					3,4	面接
	13. レクリエーション・スポーツのゲーム（担当：原井）					3,4	面接
	14. スポーツ大会の企画・運営 1（担当：原井）					1,3,4,5	面接
	15. スポーツ大会の企画・運営 2（担当：原井）					1,3,4,5	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度・授業への参加度（40％）②発表及び充実度（40％）③授業内レポート（20％）により、総合的に評価する。 評価の基準：○授業態度・授業への参加度：個人やグループの目標達成に向けて、周囲と協力しながら積極的に個々の役割を果たしている。 ○発表及び充実度：練習で取り組んだ内容を創作ダンスやゲーム等において十分に生かすことができている。また、今もっている力を最大限発揮することができている。 ○授業内レポート：毎時間学修した内容を踏まえたレポートの作成ができている。						
フィードバックの方法	前時の躰きや課題を次時の冒頭で取り上げ、解決方法等を解説する。						
時間外の学習について	予習：次の活動に対する準備（ルールの理解等）（各回 15 分程度） 復習：各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する。（各回 30 分程度）						
教材にかかわる情報	必要に応じて適宜資料を配布						
実務経験を活かした授業について	実務経験(コンテンポラリーダンス&ピラティスの講師)をもとにピラティス、創作ダンスについて授業をします。（石川） 高校保健体育科教員の経験を活かし、基礎体力の向上やスポーツ、レクリエーションの楽しさを伝えていきます。（原井）						
担当者からのメッセージ等	ピラティスやストレッチで心身のバランスを整えリフレッシュし、創作ダンスでは体全体を使って表現する楽しさや自己アピール力を養ってほしい。（石川） 体を動かすことの楽しさを味わうだけでなく、生涯にわたって運動に親しむための基礎を培うとともに、健康寿命の延伸に資する実践力を身につけてほしい。（原井） E-mail：T0004@yamaguchi-jca.ac.jp（石川）、sharai@yamaguchi-jca.ac.jp（原井）						

科目名	絵 画 II	教員	佐々木 範子（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S211-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	絵画、油彩画、アクリル画、作品制作、作品展示						
授業概要	絵画作品を制作する。（油彩画、アクリル画より選択）制作を通して自己分析を促し、各自の作品テーマに適した表現方法を探求、修練する。完成までの過程や技能と知識を学習する。						
到達目標	1. 油彩画、アクリル画について、画材の使い方と知識を習得し、表現に活かすことができる。						
	2. 絵画制作、展示の過程を体験理解する。						
	3. 自己の経験に基づいたテーマの設定、コンセプトの立案、モチーフの選択ができる。						
	4. 制作を通して考え、発想し、自己の表現を発展させることができる。						
	5. 自己の作品についての発表と、他者の作品を主体的に鑑賞することができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 授業の目標、計画、制作過程、画材の使用方法、テーマ、コンセプト、モチーフについての理解。				1, 2, 4	面接	
	2. 作品制作テーマとモチーフの選択、コンセプト立案、作品下地塗り				2, 3, 4	面接	
	3. 作品下絵（画面構成）、作品下地塗り				1, 2, 4	面接	
	4. 作品下絵（画面構成）作品制作のための彩色実習				1, 2, 4	面接	
	5. 作品下絵（画面構成）作品制作のための彩色実習 、下描きについて学習				1, 2, 4	面接	
	6. キャンバスに下描き（画面構成）				1, 2, 4	面接	
	7. キャンバスに下描き（画面構成）彩色について学習、理解				1, 2, 4	面接	
	8. 作品彩色、油絵具、アクリル絵の具の取り扱いについて学習、理解				1, 2, 4	面接	
	9. 作品彩色、筆、描画のための画材について学習、理解				1, 2, 4	面接	
	10. 作品彩色、テーマの表現方法について学習、理解				1, 2, 4	面接	
	11. 作品彩色、キャンバス側面の仕上げ方について学習、理解				1, 2, 4	面接	
	12. 作品彩色、鑑賞者について学習、理解				1, 2, 4	面接	
	13. 作品彩色、絵の具の盛り上げ方、サインについて学習、理解				1, 2, 4	面接	
	14. 作品彩色、仕上げ、作品発表準備				1, 2, 4	面接	
	15. 完成作品の発表				2	面接	
	◎定期試験（完成作品の展示, 作品についてのレポート提出）				5		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度、時間外学習（20%）②提出作品(50%) ③完成作品の発表(10%) ④定期試験（作品展示、作品についてのレポート提出）(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲、態度：授業へ意欲的に取り組むことができる。 作品や課題を期限内に提出できるように時間外学習に取り組むことができる。 ②技能・表現：各自で設定したテーマを適切な技能を用いて表現できる。 ③思考・判断・表現：制作した作品や、制作時に思考判断したことを適切な言語を用いて発表できる。						
フィードバックの方法	作品制作、時間外の学習課題に対するフィードバックの方法：目標を達成できるように補足説明や助言をする。						
時間外の学習について	予習：次回の準備（各回 5 分程度、授業内容により時間の増減あり） 復習：制作（各回の授業内容を振り返り、制作を進める。）（各回 40 分程度、授業内容により時間の増減あり）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：各回の学習内容についての資料（講師作成）						
実務経験を活かした授業について	画家、美術講師経験を活かして、絵画の知識や制作について分かりやすく指導します。						
担当者からのメッセージ等	絵画制作の体験を通して成長できるよう、主体的に取り組ましましょう。 Email: T0041@yamaguchi-jca.ac.jp（佐々木）						

科目名	染 織	教員	大道 竜士（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S212-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2 年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	染織、技法、工芸美術、教養、創造、主体性						
授業概要	天然染料を使用した染色の歴史や技法について学ぶ。染色作品を制作して基本的な染色技術を身につけ、天然染料の魅力を発見する。						
到達目標	1. 染色の知識を身につける						
	2. 基本的な染色技法を身につける						
	3. モノづくりの楽しさを知る						
	4. 染色作品を制作する						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 染色について（染色技法、歴史など）					I	面接
	2. 型染について（型紙の図案を考える）					1,2,3,4	面接
	3. 型紙作成（デザインを決める、下絵を写す）					1,2,3,4	面接
	4. 型紙作成（型紙を彫る）、糊づくり					1,2,3,4	面接
	5. 型染糊置き					1,2,3,4	面接
	6. 染色作業					1,2,3,4	面接
	7. 染色作業					1,2,3,4	面接
	8. 染色作業					1,2,3,4	面接
	9. 絞り染について（絞り染めの技法、歴史など）					1,2,3,4	面接
	10. 簡単な図案に沿って布を絞る					1,2,3,4	面接
	11. 染色作業					1,2,3,4	面接
	12. 天然染料の色見本づくり					1,2,3,4	面接
	13. 天然染料の色見本づくり					1,2,3,4	面接
	14. 天然染料の色見本づくり					1,2,3,4	面接
	15. 作品の仕上げ、講評					1,2,3,4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度・授業への参加度（50％）②提出作品（50％） 評価の基準：①関心・意欲、態度：作品制作に集中できている。積極的に作品案を考えている。 ②技能・表現：教えた技術の再現ができる。作品の完成度、創造性。						
フィードバックの方法	各回での技術の習得度合をコメントし、次回以降の作品制作に活かす。						
時間外の学習 について	予習：授業時の教材の準備（各回 45 分程度） 復習：制作の目標の確認（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：技法書など随時配布する。						
実務経験を活かした 授業について	染色作家としての経験をもとに天然染料について指導します。						
担当者からの メッセージ等	染色は日常生活とも関りが深いです。この授業を通して創作の視野を広げることができればよいと思います。 担当教員の連絡先・E-mail アドレスは、授業内で周知します。						

科目名	基礎デザインⅢ （平面構成）	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S22I-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	基礎デザイン、平面構成、モチーフ構成、配色、色彩						
授業概要	デザイン実習（モチーフを用いた平面構成）を通して、デザイナーに必要な美的感性（センス）と発想力を養う。						
到達目標	1. 平面における基本的な造形、構成を理解する。						
	2. テーマに応じたイメージを、平面構成（モチーフ構成）に表現化できる。						
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。						
	4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。						
履修条件、注意事項	「色彩論」、「基礎デザインⅠ（色彩構成）」「基礎デザインⅡ（平面構成）」を履修すること						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 平面構成を学ぶ意義					I	面接
	2. 平面構成＜課題 2＞ 課題説明、アイデアスケッチ、配色計画					2, 3, 4	面接
	3. // 配色・作業計画					2, 3, 4	面接
	4. // 彩色①					2, 3, 4	面接
	5. // 彩色②					2, 3, 4	面接
	6. // 振り返り					2, 3, 4	面接
	7. 平面構成＜課題 2＞ 課題説明、アイデアスケッチ、配色計画					2, 3, 4	面接
	8. // 彩色①					2, 3, 4	面接
	9. // 彩色②					2, 3, 4	面接
	10. // 振り返り					2, 3, 4	面接
	11. 平面構成＜課題 3＞ 課題説明、アイデアスケッチ、配色計画					2, 3, 4	面接
	12. // 彩色①					2, 3, 4	面接
	13. // 彩色②					2, 3, 4	面接
	14. // 彩色③					2, 3, 4	面接
15. // プレゼンテーション、振り返り					2, 3, 4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20％）②デザイン分析（10％）③色彩構成（70％） 評価の基準：①授業内レポートを通して、関心・意欲を測定 ②デザイン分析、アイデアスケッチを通して、知識・理解・判断・表現を測定 ③色彩構成を通して、技能・表現を測定						
フィードバックの方法	課題の評価を口頭でフィードバック。課題毎に振り返りを実施。						
時間外の学習について	予習：デザインのアイデアスケッチ。スケジュールを意識して計画的に制作を進める。 各回 30 分程度 復習：振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回 15 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：プリントを配布						
実務経験を活かした授業について	受験講師・デザイナー経験からの視点で、捉え方・技術をお伝えします						
担当者からのメッセージ等	経験と実践の積み重ねの中で、「デザイン力」と「客観的に見る力」を付けていきましょう。 担当者の連絡先・E-mail：mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp（中澤）						

科目名	基礎デザインⅣ （立体構成）	教員	渡山 賢二（実務経験） （単独）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S222-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	立体構成、空間構成、発想力、アイデア、スケッチ、デザイン基礎力						
授業概要	立体構成の概要、道具の扱い方を説明する。授業前半は基本的な形体の立体制作を行い、授業後半では自由課題の立体制作を行う。すべての課題でプレゼンテーションを行う。						
到達目標	1. 素材加工の道具の知識・基本的な技術の習得						
	2. 立体構成に関する基本的な理解						
	3. アイデアの立体表現力、計画力の習得						
履修条件、注意事項	持参：鉛筆、消しゴム、カッター、定規 30cm（貸出可）、スチールのり、コンパス、スケッチブック（必須）、メモ用紙 課題はすべて提出が必須です。提出期日を守ること。						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業説明、課題① 課題説明、アイデアスケッチ、課題制作					1,2,3	面接
	2. 課題① 課題制作					1,2	面接
	3. 課題① プレゼンテーション、講評					1,2	面接
	4. 課題② 課題説明、アイデアスケッチ、課題制作					1,2,3	面接
	5. 課題② 課題制作					1,2	面接
	6. 課題② プレゼンテーション、講評					1,2	面接
	7. 課題③ 課題説明、アイデアスケッチ、課題制作					1,2,3	面接
	8. 課題③ 課題制作					1,2	面接
	9. 課題③ プレゼンテーション、講評					1,2	面接
	10. 課題④ 課題説明、アイデアスケッチ、課題制作					1,2,3	面接
	11. 課題④ 課題制作					1,2	面接
	12. 課題④ プレゼンテーション、講評					1,2	面接
	13. 課題⑤ 課題説明、アイデアスケッチ、課題制作					1,2,3	面接
	14. 課題⑤ 課題制作					1,2	面接
	15. 課題⑤ プレゼンテーション・講評					1,2	面接
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①課題制作（70％）②授業への取り組みと理解（30％） 評価の基準：①理解度、作品完成度を評価 ②意欲、態度、関心を評価						
フィードバックの方法	作品の講評を Teams と対面にてフィードバックを行う。						
時間外の学習 について	予習：特になし 復習：講評や授業内での指摘事項などをノートにまとめる（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：適宜資料配布						
実務経験を活かした 授業について	デザイナー経験：立体デザインを多角的な視点での捉え、その魅力を説明します。						
担当者からの メッセージ等	紙素材を使用して立体造形物を制作することで立体構成の基本を学び、デザイン表現に活用してください。 課題についての質問や報告は Teams、メールでお願いします。（学籍番号・名前記載） E-Mail：ktoyama@yamaguchi-jca.ac.jp（渡山）						

科目名	DTP デザイン論	教員	前田 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	主体性		
					③	教養		
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能	○	
ナンバリングコード	JA-S223-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○	
授業形態	講義	単位	2		⑦	課題解決力		
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力		
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	DTP、デザイン、印刷技術、Illustrator、Photoshop、Indesign、DTP 検定							
授業概要	ポスターやパンフレット等の印刷物の制作は、現在ではデザインから印刷までをトータルにコンピューター技術を活用する DTP（Desktop Publishing）により制作されている。授業では DTP を支えている広範囲の技術について学ぶ。印刷物の企画、紙と色、画像入力と出力、インキ、製本、ページネーション、編集、DTP のハードウェアとソフトウェア、著作権、印刷データの入稿と管理などを学習する。							
到達目標	1. 印刷技術についての知識修得							
	2. コンピューター環境についての知識修得							
	3. DTP で必要な素材の制作技術の修得							
履修条件、注意事項								
授業計画							到達目標	授業方法
	1. DTP とは・身の回りの印刷物について						1, 2, 3	面接
	2. 印刷物作成のワークフロー						1, 2	面接
	3. DTP のシステム構成・制作環境について						2	面接
	4. 企画と編集作業						1, 2	面接
	5. 色と紙の基本知識						1, 2	面接
	6. スケジュール管理、進行						1, 2	面接
	7. 著作権など法律関係						1	面接
	8. 編集デザイン						1, 2	面接
	9. 画像と写真編集						1, 2, 3	面接
	10. 紙面レイアウト						2	面接
	11. レイアウトワーク課題（卒業制作概要集）						3	面接
	12. 校正						1, 3	面接
	13. 入稿と印刷						1, 2	面接
	14. クロスメディアへの展開						2	面接
	15. 模擬試験問題						1, 2	面接
	◎定期試験							
アクティブ・ラーニング								
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（60%）②授業中の課題（30%）③授業中の取組姿勢（10%） 評価の基準：①知識・理解：教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる ②授業時の演習課題：思考・判断・表現技術を測定 ③関心・意欲の測定							
フィードバックの方法	演習課題については、授業内でフィードバックをおこなう。試験については、希望するものについて回答用紙の返却や回答の配布を行う。							
時間外の学習について	予習：身の回りの印刷物に関心をもち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい（120 分程度） 復習：授業で進めたテキストの部分を再度読んでおく。演習課題については、提出期限までに完成させること（60 分程度）							
教材にかかわる情報	テキスト：印刷メディアディレクション [改訂版] ／（株）ポーンデジタル 参 考 書：特になし 参考資料： DTP 検定ディレクション問題集 2017 年改訂問題対応							
実務経験を活かした授業について	デザイナー経験：実務でおこなった事故のエピソードなど具体的な事例を交えてテキストを進めます。							
担当者からのメッセージ等	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail： t0014@yamaguchi-jca.ac.jp（前田）							

科目名	グラフィックⅢ	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	JA-S225-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	I		⑧	変化への適応力	
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	グラフィックデザイン 実践力 応用 スキルアップ						
授業概要	デザインスキルのアップ、オーダーへの提案（発想力・伝える力）をカタチにできる応用力を磨く。						
到達目標	1. グラフィックデザイン制作のプロセスを理解できる。						
	2. デザインコンセプトに沿った作品を制作できる。						
	3. ソフトウェアの操作技術をスキルアップできる。						
	4. デザイン制作でのコミュニケーションとプレゼンテーション技術を習得する。						
履修条件、注意事項	画像編集、グラフィックⅠ・Ⅱを単位修得していることが望ましい。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. グラフィックデザインの仕事				I	面接	
	2. デザイン思考について 観察 グループワーク				1, 2, 4	面接	
	3. サインデザイン（1）分析				1, 2, 4	面接	
	4. サインデザイン（2）発想				2, 3, 4	面接	
	5. サインデザイン（3）試作				2, 3, 4	面接	
	6. サインデザイン（4）テスト発表				2, 3, 4	面接	
	7. サインデザイン（5）テスト分析				1, 4	面接	
	8. パンフレット制作（1）アイデアチェック・制作				2, 3	面接	
	9. パンフレット制作（2）制作				2, 3	面接	
	10. パンフレット制作（3）制作・ブラッシュアップ				2, 3	面接	
	11. プレゼンテーション				2, 3, 4	面接	
	12. 課題④（1）ラフ案				2, 3	面接	
	13. ポスター制作（1）アイデアチャック・制作				2, 3	面接	
	14. ポスター制作（2）制作				2, 3	面接	
	15. プレゼンテーション				2, 3, 4	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、課題ごとに口頭でフィードバック。						
成績評価基準	評価の方法：①授業中への取組姿勢（30％）②課題作品（60％）③完成度（10％） 評価の基準：①関心・意欲の測定 ②思考・判断・表現技法を測定 ③意識の高さを測定						
フィードバックの方法	課題ごとの講評、プレゼンテーションでは受講者と作品共有しながらフィードバックする。						
時間外の学習について	予習：日々生活に溢れているデザインに常に注目し、気になったデザイン・情報についてファイリングすること。 （各回 15 分程度） 復習：制作課題は提出期限までに完成させること。（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配布 参 考 書：特になし 参考資料：授業中に配布						
実務経験を活かした授業について	地元印刷会社退職後、フリーデザイナーとして活動してきました。（山口県デザイン展受賞歴あり） これまでの経験を活かして実践的なデザイン、伝えるべきことがカタチにできる技術をお伝えします。						
担当者からのメッセージ等	経験と実践の積み重ねの中で、「デザイン力」と「客観的に見る力」を付けていきましょう。 担当者の連絡先・E-mail：mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp（中澤）						

科目名	イラストレーションⅡ	教員	種田 和宏（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
ナンバリングコード	JA-S230-000	学科	芸術表現学科		⑦	課題解決力	
授業形態	演習	単位	I		⑧	変化への適応力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	イラストレーション、デジタルイラスト、イラスト制作、Photoshop、キャラクター、背景イラスト、技能、意欲、表現、創造、制作、研究						
授業概要	様々な題材をモチーフにイラスト作成することでデジタルならではのテクニック、メリットを学びます。						
到達目標	1. パソコン、タブレット、ソフトウェアを使ったデジタルイラスト制作の基礎、応用知識を習得する。						
	2. アプリケーションの機能を活かしたデジタルイラスト制作基礎、応用技術を習得する。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. Photoshop を使用したデフォルメキャラクターイラストの制作 1-1					1, 2	面接
	2. Photoshop を使用したデフォルメキャラクターイラストの制作 1-2					1, 2	面接
	3. Photoshop を使用したデフォルメキャラクターイラストの制作 1-3					1, 2	面接
	4. Photoshop を使用したデフォルメキャラクターイラストの制作 1-4 提出					1, 2	面接
	5. Photoshop を使用した背景付きキャラクターイラストの制作 2-1					1, 2	面接
	6. Photoshop を使用した背景付きキャラクターイラストの制作 2-2					1, 2	面接
	7. Photoshop を使用した背景付きキャラクターイラストの制作 2-3					1, 2	面接
	8. Photoshop を使用した背景付きキャラクターイラストの制作 2-4					1, 2	面接
	9. Photoshop を使用した背景付きキャラクターイラストの制作 2-5 提出					1, 2	面接
	10. Photoshop を使用した好きな題材でイラストの制作 3-1					1, 2	面接
	11. Photoshop を使用した好きな題材でイラストの制作 3-2					1, 2	面接
	12. Photoshop を使用した好きな題材でイラストの制作 3-3					1, 2	面接
	13. Photoshop を使用した好きな題材でイラストの制作 3-4					1, 2	面接
	14. Photoshop を使用した好きな題材でイラストの制作 3-5					1, 2	面接
	15. Photoshop を使用した好きな題材でイラストの制作 3-6 提出					1, 2	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業中の取り組みの姿勢（30％）②提出作品（70％） 評価の基準：①意欲、関心を総合的に測定：興味・関心をもって、意欲的に授業に参加できる。 ②完成度の高さを測定：課題の目的、授業で学んだ技法を理解し、それを活用して再現できている。						
フィードバックの方法	課題提出後、授業内で受講生の作品を共有し講評する時間を設けます。 希望者には提出作品の返却時に評価、改善点等のコメントを添付します。						
時間外の学習について	予習：課題に必要な素材、資料集めを行う。（各回 45 分～） 復習：次回までに作品制作を進める。（各回 45 分～）						
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で PDF、プリント等配布します。 参考書・参考資料：講義内容に応じて必要な場合はその都度紹介します。						
実務経験を活かした授業について	漫画家アシスタント、ゲーム制作の経験をもとに実践的な技術について話をします。						
担当者からのメッセージ等	Photoshop を使用して実演を交えながら一緒にデジタルイラスト制作を学んでいきます。 分からないことがあったら気軽に質問して下さいね。 授業担当者の連絡先：T0042@yamaguchi-jca.ac.jp（種田）						

科目名	DTP デザイン演習	教員	前田 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S224-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	DTP, グラフィックデザイン, デザイン, 印刷技術, Illustrator, Photoshop, Indesign, ソフトウェア操作						
授業概要	DTP（DeskTopPublishing）技術は、印刷分野では必修の技術となっており、従ってグラフィックデザイン、エディトリアルデザインを学ぶ上でも重要な技能である。授業では実際にパソコンと DTP ソフトウェア（Adobe Illustrator、Photoshop、Indesign）を使用しながら DTP 技能を学ぶ。 DTP 各論で学習した印刷の基本ルール（段組みや版面、文字組、図版の扱い方）に従い、さらにデザイン要素を加え、見やすい、美しい印刷物を実現していくかを実践的に学習する。						
到達目標	1. 印刷物データ制作におけるルールの理解						
	2. 印刷物データ作成技術の修得						
	3. ソフトウェア操作技術の修得						
	4. グラフィックデザインの表現力、技術の修得						
履修条件、注意事項	DTP デザイン論履修が望ましい						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. DTP 各論の復習と実習に向けてのガイダンス				I	面接	
	2. 2 色印刷（1）解説～チュートリアル（Illustrator データ変換）				2,3	面接	
	3. 2 色印刷（2）チュートリアル（Photoshop データ変換）				2,3	面接	
	4. 2 色印刷（3）（フライヤーの制作）データ制作（レイアウト作成）				3,4	面接	
	5. 2 色印刷（4）（フライヤーの制作）データ制作（画像変換）～完成				3,4	面接	
	6. 2 色印刷（5）（フライヤーの制作）データ制作～入稿データ作成・出力				1,2,3,4	面接	
	7. Indesign について				1,3	面接	
	8. Indesign でページ物の制作（1）解説～チュートリアル（版面設計）				1,2,3	面接	
	9. Indesign でページ物の制作（2）チュートリアル（テキスト流し込み・ルビの設定）				2,3	面接	
	10. Indesign でページ物の制作（3）チュートリアル（画像の配置・ノンブル・柱の設定）				2,3	面接	
	11. Indesign でページ物の制作（1）（書籍の計画）解説～データ制作（版面設計・ノンブル・柱の設定）				1,2	面接	
	12. Indesign でページ物の制作（2）（書籍の計画）データ制作（テキスト流し込み・ルビの設定）				3,4	面接	
	13. Indesign でページ物の制作（3）（書籍の計画）データ制作（画像の配置）				3,4	面接	
	14. Indesign でページ物の制作（4）（書籍の計画）データ制作～完成（表 1～4・奥付の制作）				3,4	面接	
	15. Indesign でページ物の制作（5）（書籍の計画）出力～製本作業				2,4	面接	
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	評価の方法：①授業中の課題（80％）②授業中の取組姿勢（20％） 評価の基準：①授業時の演習課題：思考・判断・表現技術を測定 ②意欲の測定						
フィードバックの方法	課題が提出されたのち、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする						
時間外の学習 について	予習：身の回りの印刷物に関心を持ち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい（30 分程度） 復習：制作課題は提出期限までに完成させること（60 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：印刷メディアディレクション［改訂版］／ワークスコーポレーション 参 考 書：入稿データのつくりかた CMYK4 色印刷・特色 2 色印刷・名刺・ハガキ・同人誌・グッズ類 ／エムディエヌコーポレーション 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	デザイナー経験：実務でおこる事故のエピソードなど具体的な実例を交えテキストを進めます。						
担当者からの メッセージ等	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail： t0014@yamaguchi-jca.ac.jp （前田）						

科目名	パッケージデザイン	教員	平川 和明（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S230-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	デザイン、パッケージデザイン、コミュニケーションデザイン						
授業概要	パッケージデザインの役割と重要性を理解し、多面的視点から生活と環境を踏まえた新たなデザインを発想する力を養う。商品研究として任意のパッケージについて調査・分析することで、パッケージデザインに求められる諸要素を考察する。また課題制作を通してデザインのプロセスを理解しパッケージデザインを完成させ、その成果を発表する。						
到達目標	1. パッケージデザインの役割と重要性を理解する。						
	2. どのように思考、判断して個々の作品制作に至ったかを説明できる。						
	3. 日常生活でデザインに問題意識を持ち、作品制作に活かすことができる。						
	4. デザインのプロセスを理解し、主体的に制作活動に取り組むことができる。						
	5. 多面的な視点から発想ができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス					I	面接
	2. パッケージデザインとは					I	面接
	3. チームビルディング					2,5	面接
	4. アイデアの発想法①ブレインライティング法					2,5	面接
	5. アイデアの発想法②A+B=C 法					2,5	面接
	6. パッケージ研究①課題説明、調査・分析					I	面接
	7. パッケージ研究②調査・分析について発表					I	面接
	8. パッケージデザイン①課題説明プリスターパックについて					1,3,5	面接
	9. パッケージデザイン②発表、講評					1,2,3,5	面接
	10. 商品開発①課題説明、商品研究・分析					1,3,4,5	面接
	11. 商品開発②構想（商品アイデア）					1,3,4,5	面接
	12. 商品開発③実制作（プロダクト分野）					1,3,4,5	面接
	13. 商品開発④実制作（グラフィック分野）					1,3,4,5	面接
	14. 商品開発⑤プレゼン資料作成					1,2,3,4,5	面接
	15. 総括 発表、講評					1,2,3,5	面接
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク、実習・フィールドワーク						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度（30％）②課題作品（50％）③発表（20％） 評価の基準：①関心・意欲：授業に取り組む意欲を授業態度から測定 ②技能・表現：アイデア発想力や技能を作品の完成度により測定 ③知識・理解：プレゼンテーションの内容でパッケージデザインの理解度を測定。						
フィードバックの方法	作品の講評、プリント資料の配布						
時間外の学習について	予習：授業内容に沿ってその都度指示。各回 45 分程度 復習：授業内容に沿ってその都度指示。各回 45 分程度						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：「プロダクトデザインの基礎」日本インダストリアルデザイナー協会編 発行・発売：ワークスコーポレーション 「パッケージデザインの入り口」小玉文 発行 エムディエヌコーポレーション 参考資料：適宜配布						
実務経験を活かした授業について	家具デザイン・インテリア商品開発の経験：今日的なパッケージデザインの役割と重要性について講義をおこない、商品開発におけるアイデアの発想法や実践的なデザイン技術を伝えます。						
担当者からのメッセージ等	材料費等は実費となります。 担当教員の連絡先・メールアドレス hira@yamaguchi-u.ac.jp（平川）						

科目名	ポートフォリオ制作	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S227-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	グラフィックデザイン デザインコンセプトの理解 情報収集 分析 編集力 ポートフォリオ 卒展・卒演ポスター						
授業概要	広告デザインは、オーダーへの的確な対応ができる力が必要です。そのために課題の理解、コンセプトの明確化、表現したいものをカタチにできるプロセスを養えるよう広告制作に組む。更に作品をポートフォリオ用活用できるよう完成度を求める意識を上げる。						
到達目標	1. 広告制作のプロセスを理解できる。						
	2. 広告制作におけるデザインコンセプトの重要性を理解できる。						
	3. DTP における広告制作技術を習熟できる。						
	4. ポートフォリオの作品として意識し、プレゼンテーション技術を習得できる。						
履修条件、注意事項	画像編集、グラフィック I を単位修得していることが望ましい。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 広告デザインの紹介				1	面接	
	2. 広告デザインの収集・調査発表				1, 4	面接	
	3. デザインコンセプト（1）重要性・イメージの具現化・ラフ案				2, 4	面接	
	4. デザインコンセプト（2）表現の違い・ポートフォリオの意義				4	面接	
	5. 自己分析と企業分析				4	面接	
	6. 広告制作（1）				3	面接	
	7. 広告制作（2）講評				3	面接	
	8. 課題制作（1）グループワーク				2, 3, 4	面接	
	9. 課題制作（2）制作チェック				3, 4	面接	
	10. 課題制作（3）制作チェック・ブラッシュアップ				3, 4	面接	
	11. プレゼンテーション				4	面接	
	12. 卒展・卒演ポスター制作（1）アイデアチェック				2, 3	面接	
	13. 卒展・卒演ポスター制作（2）制作チェック				3	面接	
	14. 卒展・卒演ポスター制作（3）制作チャック・ブラッシュアップ				3	面接	
	15. プレゼンテーション				4	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業中への取組姿勢（30％）②課題作品（60％）③完成度（10％） 評価の基準：①関心・意欲の測定 ②思考・判断・表現技法を測定 ③意識の高さを測定						
フィードバックの方法	課題ごとの講評、プレゼンテーションでは受講者と作品共有しながらフィードバックする。						
時間外の学習について	予習：日々生活に溢れているデザインに常に注目し、気になったデザイン・情報についてファイリングするように。 （各回 15 分程度） 復習：制作課題は提出期限までに完成させること。（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：授業中に配布						
実務経験を活かした授業について	地元印刷会社退職後、フリーデザイナーとして活動してきました。（山口県デザイン展受賞歴あり） これまでの経験を活かして実践的なデザイン、伝えるべきことがカタチにできる技術をお伝えします。						
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail： mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp （中澤）						

科目名	Web デザインⅡ	教員	柳川 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S229-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	UI,UX,Web デザイン、サイト制作、HTML						
授業概要	Web デザイン入門および Web デザインⅠで学んだ基礎知識・技術をもとに、本授業では「誰に、何を、どのように伝えるか」というユーザー視点を重視した Web デザインの設計と制作を行う。 ポートフォリオサイトの制作を主軸とし、情報の整理・構造化、ユーザーインターフェース（UI）の考え方、閲覧者の行動を想定した導線設計について学ぶことで、単に“作る”だけでなく、“使われる・伝わる” Web デザインを目指す。						
到達目標	1.制作の目的や対象となるユーザーを意識し、Web サイトの構成を設計できる						
	2.情報の優先順位や導線を考慮したユーザーインターフェースを設計・制作できる						
	3.自身の制作物を整理し、意図をもってポートフォリオとして表現できる						
	4.制作過程やデザインの意図を言語化し、他者に説明できる						
履修条件、注意事項	履修条件；「Web デザインⅠ」、「グラフィックⅡ」、「画像編集」を履修していること。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. Web デザインⅠの振り返りと本授業の目的理解				1	面接	
	2. Web デザインにおける「ユーザー」とは何か				2	面接	
	3. ポートフォリオサイトの役割と事例研究				1,4	面接	
	4. 掲載する情報の整理と構成設計				3	面接	
	5. ワイヤフレーム作成				2	面接	
	6. UI（ボタン・ナビゲーション・導線）の考え方				2	面接	
	7. デザイン設計（配色・文字・レイアウトの再確認）				2	面接	
	8. 中間発表・フィードバック				4	面接	
	9. HTML・CSS による実装①（構造）				1,3	面接	
	10. HTML・CSS による実装②（デザイン）				1,3	面接	
	11. 表示・操作性の改善				3,4	面接	
	12. ユーザ視点でのチェックと修正				3,4	面接	
	13. ポートフォリオの最終調整				2,3	面接	
	14. 最終発表・相互講評				4	面接	
	15. 振り返りとまとめ				4	面接	
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	評価の方法：①授業中の課題（80％）②授業態度（20％） 評価の基準：①思考・判断、技能レベル、表現力を測定 ②関心、意欲の測定						
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：事前に配布資料がある場合は予習を行い、授業に備える。（各回 45 分） 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。（各回 45 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：特になし						
実務経験を活かした授業について	教育現場での経験をもとに、演習を中心に授業を進めます。						
担当者からのメッセージ等	「Web デザイン入門」「Web デザインⅠ」で学習したことより、高度な技術を学ぶため、難易度は高くなります。 復習は必ず行い、不明点は解決して、次の授業に臨んでください。 Email： kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp （柳川）						

科目名	メディア表現演習Ⅲ	教員	山下 明仁（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S226-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	メディア表現、広告、アイディア、映像、映像編集、演出、CM 制作、表現技術、情報媒体、心に届く表現						
授業概要	映像・グラフィック・ウェブ…情報媒体は時代とともに進化する。それぞれの媒体について知ることは大切だが、何より重要なのは「あらゆる情報媒体で通用する表現」を身につけること。情報媒体がどれほど変化しようと、情報の受け手は「人間」である。その「人」の心に届く表現の技術を習得する。						
到達目標	1. 表現とは何かを理解できる。						
	2. 表現の基本的な技術を知っている。						
	3. 基本技術を文章（コピー）で使える。						
	4. 基本技術を平面（グラフィック）で使える。						
	5. 基本技術を映像（動画）で使える。						
履修条件、注意事項	画像編集、グラフィックⅠ・Ⅱ、デッサンⅠ・Ⅱ、基礎デザインⅠ～Ⅲを履修すること。						
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. 「表現」とは。（あらゆる仕事に必要とされるもの）				1,2	面接	
	2. 「広告」における表現。（さまざまな媒体と表現。表現の未来について）				1,2	面接	
	3. 全ての表現に共通するテクニック「圧縮」と「変更」。				1,2	面接	
	4. アイデアの出し方（基本篇）。				1,2	面接	
	5. 広告は変化を描く。広告の未来。				1,2,3	面接	
	6. 課題（広告コピー）の講評。				1,2,3	面接	
	7. 技術から見る「二次元」の表現。				1,2,3,4	面接	
	8. 技術から見る「映像」の表現。				1,2,3,4,5	面接	
	9. 課題（グラフィック）の講評				1,2,3,4	面接	
	10. その広告を「自分ごと」にする方法。				1,2,3,4,5	面接	
	11. 映像と編集（情報と感情を操作する）				1,2,3,5	面接	
	12. 演出（伝わるように伝える）				1,2,3,5	面接	
	13. CM をつくる。				1,2,3,5	面接	
	14. 自作 CM をプレゼンテーションしよう。				1,2,3,5	面接	
	15. インターネットと、これからの表現について。				1,2,3,4,5	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①課題制作（70％）②理論の理解（30％） 評価の基準：①課題の完成度により技能・表現を測定：学んだ技能表現をもって完成度の高い作品に仕上がっている。 ②課題による表現の実習により、理論の理解度を測定：表現実習で学んだ理論が理解できている。						
フィードバックの方法	講義でそれぞれの制作課題の講評により行う。						
時間外の学習について	予習：好きなCM、映画、グラフィック広告、看板など、面白いと感じたものを自己分析してみる。（各回 90 分） 復習：制作した課題をブラッシュアップする。（各回 90 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配布 参 考 書：具体的事例、グラフィック・映像（動画や映画など）。 参考資料：プリント配布						
実務経験を活かした授業について	現役のCMプランナー・広告デザイナーです（ACC 賞、山口県広告大賞など受賞歴あり）。現在、仕事で使っている方法、「実戦」で使える技術を伝授します。コンテンツ制作会社を設立：広告はもちろんコンテンツの制作において重要となるアイデアの生み出し方。そのアイデアを効果的にアウトプットするまでの方法論を実務経験を交えながらお伝えします。						
担当者からのメッセージ等	授業担当者の連絡先：yamashita@studio-hen.com（山下 明仁）						

科目名	マーケティング	教員	山本 貴司 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S266-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	
授業形態	講義	単位	2		⑦	課題解決力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	○
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	小売業、マーケティング戦略、インバウンド、接客マナー、計数管理、ストアオペレーション、販売士検定3級						
授業概要	ビジネス活動における人間行動の特性・特徴及び職業適性について心理学的アプローチを試みる。 マーケティングの意義・役割及びプロセスについて具体的事例に基づきながら学ぶ。 企業損益の発生及び基礎的な計算手法について学ぶ。						
到達目標	1. 小売業の定義や流通段階における小売業の役割が理解できる。						
	2. マーケティングの意義・役割とそのプロセスが理解できる。						
	3. プロセスに基づいたマーケティング戦略が理解できる。						
	4. リテールマーケティング3級レベルの知識を習得する。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 小売業の種類と特徴、インターネット社会と小売業					1,4	面接
	2. 小売業の基本知識、商店街の現状と特徴					1,4	面接
	3. 商品計画の基本知識、在庫管理の基本知識					1,4	面接
	4. 小売業のマーケティングの基本知識、4P理論の小売業への適用					2,4	面接
	5. 顧客満足経営の基本知識、顧客維持政策の基本知識					2,4	面接
	6. FSPの基本知識、商圏の基本知識					2,4	面接
	7. 立地条件の基本知識、出店の基本知識					3,4	面接
	8. リージョナルプロモーションの体系と概要					3,4	面接
	9. インバウンド、売場づくりの基本知識					3,4	面接
	10. 店舗照明の基本知識、ディスプレイ効果を高める色彩の活用					3,4	面接
	11. 接客マナー、小売業に関する主な法規					3,4	面接
	12. 環境問題と消費生活、店舗管理の基本					3,4	面接
	13. 計数管理、利益の構造					3,4	面接
	14. スタアオペレーション①店舗運営の基礎と顧客視点の理解					3,4	面接
	15. スタアオペレーション②地域や来場者を想定した店舗改善の検討					3,4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（60％）②課題・演習（20％）③授業態度・授業への参加度（20％） 評価の基準：①知識・理解：資格試験レベルの基礎的な問題に解答できる。 ②関心・意欲及び知識・理解を測定、ディスカッションやグループワークへの参加度・意欲を測定。 ③関心・意欲：積極的な質疑、課題等への意欲的な取組姿勢を測定。						
フィードバックの方法	質疑や課題に対して適宜助言・コメントをする。						
時間外の学習 について	予習：授業計画を把握し、テキストや配布資料を読み込んでおく。（各回 90 分程度） 復習：授業内容の整理と振り返り、課題への取り組み。（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：ユーキャンの販売士検定3級 速習テキスト&問題集 第5版 参 考 書：特になし 参考資料：適宜配布する。						
実務経験を活かした 授業について							
担当者からの メッセージ等	流通業界で唯一の公的資格である「リテールマーケティング販売士」検定試験3級合格を視野に入れた学習が可能です。 E-mail： takashi55129@outlook.com(山本)						

科目名	フィナンシャル プランニング	教員	山本 貴司 (単独)	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S265-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	
授業形態	演習	単位	2		⑦	課題解決力	
年次	2 年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	○
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	ファイナンシャルプランナー、資産設計、社会保険、民間保険、公的年金、所得税、税金、金融資産運用、ファイナンシャルプランナー 3 級						
授業概要	ライフプランニングと資金計画、リスクマネジメント、金融資産運用、タックスプランニング、不動産、相続・事業継承についてファイナンシャル・プランナー 3 級レベルの知識を習得する。						
到達目標	1. ライフプランニングと資金計画に関する知識を習得する。						
	2. リスクマネジメント・金融資産運用に関する知識を習得する。						
	3. 所得税の基本と不動産に関する知識を習得する。						
	4. ファイナンシャル・プランナー 3 級レベルの知識を習得する。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. F P と論理及び手法について					1, 4	面接
	2. ライフプランニングについて					1, 4	面接
	3. 社会保険について①社会保険制度の全体像と役割の理解					1, 4	面接
	4. 社会保険について②働き方と社会保険の関係					1, 4	面接
	5. 公的年金について①公的年金制度の基本構造					2, 4	面接
	6. 公的年金について②将来設計と公的年金					2, 4	面接
	7. 保険の基本について①民間保険の基礎知識					3, 4	面接
	8. 保険の基本について②生活リスクと保険の選択					1, 4	面接
	9. 生命保険・損害保険について①生命保険・損害保険の仕組みと特徴					1, 4	面接
	10. 生命保険・損害保険について②生活場面に応じた保険の考え方					1, 4	面接
	11. 所得税の基本とその計算					2, 4	面接
	12. 税額の計算と税額の控除					2, 4	面接
	13. 所得税の申告と納付					3, 4	面接
	14. 不動産・相続の基本					3, 4	面接
	15. 資産設計					3, 4	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（60％）②課題・演習（20％）③授業態度・授業への参加度（20％） 評価の基準：①知識・理解：資格試験レベルの基礎的な問題に回答できる。 ②関心・意欲及び知識・理解を測定、ディスカッションやグループワークへの参加度・意欲を測定。 ③関心・意欲：積極的な質疑、課題等への意欲的な取組姿勢を測定。						
フィードバックの方法	課題内容について個別に評価を行い適宜助言することにより教員及び受講生で共有する。						
時間外の学習 について	予習：授業計画を把握し、テキストや配布資料に目を通す。（各回 90 分程度） 復習：授業内容の整理と振り返り、課題への取り組み。（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：みんなが欲しかった! F P の教科書 3 級/ T A C 出版 参 考 書：1 0 代から学ぶパーソナルファイナンス/日本 F P 協会 若手社会人のマネー&ライフプラン/日本 F P 協会 参考資料：適宜配布する。						
実務経験を活かした 授業について							
担当者からの メッセージ等	人生における「お金に関する総合知識」を楽しく学び、身につけてファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級にチャレンジしてみましよう。 E-mail： takashi55129@outlook.com(山本)						

科目名	ビジネス実践演習	教員	尾崎 敬子 河合 良房 （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	○
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S26I-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	ビジネススキル、変化への適応、職場での人間関係、課題解決力						
授業概要	ビジネスの世界に踏み出すために必要な心構えやスキルを様々な角度から学び、社会人のスタートを切る準備をする。変化し続ける社会を柔軟に生き抜き、人生100年時代を見通しながら働き続けられる姿勢を、演習を通して身につける。						
到達目標	1. 自分にとっての「働く」意味を見出し、学び続けながら変化に適応して生きる自身のキャリアを構想することができる。						
	2. 仕事で求められる人材像や、働きやすい職場環境を具体的にイメージし、そのために必要な準備を始めることができる。						
	3. 主体性を持って計画的かつ効率的に取り組み、他者と協力して課題解決を図る意欲とスキルを身につけることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 自分は、何のために「働く」のか					I	面接
	2. 変化に適応して生きるとは					I	面接
	3. 仕事への心構えを磨く					I,2	面接
	4. 仕事と学び ～リカレント教育					I,2	面接
	5. 働きやすい職場とは ～発信力と傾聴力					2,3	面接
	6. ジェネレーションギャップを埋める					2	面接
	7. ビジネスの世界を生きる ～コミュニケーション能力					2,3	面接
	8. 一緒に働きたい人、になる ～チームワーク					2,3	面接
	9. 健康で働き続けるために ～ヘルスマネジメント					I	面接
	10. 人生を豊かに生きるために ～タイムマネジメント					I,3	面接
	11. 効果的・効率的な仕事の進め方					3	面接
	12. 主体性をもって働くには ～計画力と実行力					2,3	面接
	13. ロールプレイⅠ ～トラブルが発生したら					2,3	面接
	14. ロールプレイⅡ ～困ったときの対処					2,3	面接
15. 人生100年時代を見通したキャリア形成					I	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①課題レポート（30%）②授業レポート（40%）③授業態度・演習（30%）により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解及び技能・表現:課題を的確に理解し、適切な表現で理路整然と文章化することができる。 ②関心・意欲及び知識・理解:授業内容について自身の考えや感想を述べ、ポイントをまとめることができる。 ③関心・意欲及び態度:授業テーマに関心を持ち、グループワーク等に積極的に取り組むことができる。						
フィードバックの方法	課題レポート、授業レポートは、コメントをつけて返却します。質問にはその都度対話を重ね、一緒に考えていきます。						
時間外の学習について	予習：授業内容について事前に予習し、演習に役立つ資料を収集しておく。（各回45分程度） 復習：課題レポート及び授業レポートを作成、提出し、返却されたコメントについて考察する。（各回45分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：『最新ビジネスマナーと今さら聞けない仕事の超基本』宮本ゆみ子著（朝日新聞出版）芸術表現入門で購入済 参 考 書：『入社1年目のビジネススキル大全』 木部智之（三笠書房） 参考資料：必要に応じて適宜配付						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	演習を通じ、変化に柔軟に適応して働き続けられるように、様々な知識やスキル、心構えを身につけます。働くことに対するモチベーションを高めて、自信を持って社会人としてのスタートを切りましょう。 Email:ozaki@yamaguchi-jca.ac.jp（尾崎）						

科目名	情報リテラシーⅢ	教員	柳川 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S262-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	
授業形態	演習	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	○
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	情報デザイン、プレゼンテーション、PowerPoint						
授業概要	社会人に必要なパソコンスキルや情報技術に関する知識や、情報を収集・分析して他者に分かりやすく伝える「情報デザイン」のスキルを修得する。						
到達目標	1. 情報を収集・分析して、分かりやすく伝えることができる。						
	2. PowerPoint を活用して、プレゼン資料やポスターを作成できる。						
	3. 効果的なプレゼンテーションができる。						
	4. PowerPoint を活用して、動画を作成できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス／情報リテラシーⅢの目的理解					I	面接
	2. 情報収集の方法と信頼性の判断					I	面接
	3. 情報の整理・分析の基礎					I	面接
	4. PowerPoint の基本操作の確認					2	面接
	5. 分かりやすいスライド構成					I,2	面接
	6. 視覚表現の基礎（文字・色・レイアウト）					2	面接
	7. 図解・グラフによる情報表現					I,2	面接
	8. 中間課題制作・フィードバック					I,2	面接
	9. プレゼンテーションの構成					3	面接
	10. 伝え方・話し方の工夫					3	面接
	11. ポスター・掲示物のデザイン					2	面接
	12. PowerPoint による動画制作①					4	面接
	13. PowerPoint による動画制作②					4	面接
	14. 最終発表（プレゼン／動画）					I,3,4	面接
	15. 振り返りとまとめ					I,2,3,4	面接
アクティブ・ラーニング	個別・ペアワーク、グループワークを通じて AI 利活用等に関する実践的な課題に取り組む。						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20％）②演習（30％）③課題（30％）④プレゼンテーション（20％） 評価の基準：①授業内レポート ＊態度・意欲を測定 ・授業で扱った内容について、自分の意見を述べることができる。 ②演習 ＊技能・表現を測定 ・PowerPoint の操作を修得している。 ③課題 ＊技能・表現、思考・判断を測定 ・PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料、ポスター、動画が制作できる。 ・収集した情報を分析し、他者に分かりやすく伝えることができる。 ④プレゼンテーションを通して、関心・意欲、思考・判断を測定 ・聞き手の印象に残る上手なプレゼンテーションができる。						
フィードバックの方法	小レポートや課題の返却時にコメントをフィードバックする。						
時間外の学習について	予習：テキストの該当箇所を読んでおく。（各回 45 分程度） 復習：授業内容に即した課題（宿題）を課す。（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：白木 久弥子「誰でも作れるセンスのいいパワポ PowerPoint デザインテクニック」、エムディエヌコーポレーション 参 考 書：特になし 参考資料：適宜配布する						
実務経験を活かした授業について	教育現場での経験を活かし、「わかる、できる、伝える」の 3 観点に重点を置きながら進めていきます。						
担当者からのメッセージ等	社会人に求められる「分かりやすい資料の作成」スキルを身につけましょう。 Email:kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	地域課題解決演習Ⅰ (PBL)	教員	柳川 和也 中川 聡（実務経験） 河合 良房 中澤 恵（実務経験） 大野 浩光 （複数）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	リーダーシップ	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
ナンバリングコード	JA-S362-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	
授業形態	演習	単位	2		⑦	課題解決力	○
開講期	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	○
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	PBL、課題発見力、課題解決力、チームワーク、コミュニケーション能力、リーダーシップ						
授業概要	地域企業や自治体が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。						
到達目標	1. 連携先（企業・地域）の意向や背景を理解し、目的意識をもってプロジェクトの目標を設定できる。						
	2. ヒアリングやフィールドワーク、調査を通して現状を的確に把握し、課題を整理・定義できる。						
	3. 課題解決に向けた企画アイデアを発想し、具体的な形に落とし込むことができる。						
	4. チーム内で役割分担を行い、互いに協力しながら計画的に作業を進め、状況に応じて柔軟に対応できる。						
	5. 企画内容や成果を分かりやすく他者に伝え、意見交換を通して合意形成を図ることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス・キックオフ講義（JR 西日本×大学）					1, 4	面接
	2. 教員によるデモンストレーション（企画の考え方）					2, 5	面接
	3. 企画準備①（事前理解・観察）					3	面接
	4. 企画実施①〈基礎〉（しんやまエキスポ参加）5月9日					3, 5	面接
	5. 企画実施①〈基礎〉（しんやまエキスポ参加）5月9日					3, 5	面接
	6. 企画振り返り①・フィードバック共有					2, 4	面接
	7. 企画考案①（基礎）					3, 4	面接
	8. 企画プレゼン①（教員フィードバック）					3, 5	面接
	9. 企画プレゼン①（JR フィードバック）					3, 5	面接
	10. 企画準備②（改善・再設計）					4	面接
	11. 企画実施②〈応用〉（しんやまエキスポ参加）6月13日					4	面接
	12. 企画実施②〈応用〉（しんやまエキスポ参加）6月13日					3, 5	面接
	13. 全体共有準備					3, 5	面接
	14. 企画振り返り②・報告会					5	面接
	15. 前期まとめ・後期への接続					5	面接
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	① 企画内容・取り組み姿勢（40％） ② 授業内課題・制作物（30％） ③ プレゼンテーション（30％） ① 企画内容・取り組み姿勢 ・授業・プロジェクトへの主体的な参加態度・調査・フィールドワーク内容の整理力 ② 授業内課題・制作物 ・企画立案・実施における表現力・技能・課題に対する思考力・判断力 ③ プレゼンテーション ・発表への主体性・意欲・内容理解の深さ						
フィードバックの方法	課題を返却						
時間外の学習 について	予習：次の授業に向けて、必要な調査や制作を行う（各回 90 分） 復習：授業後にチームと自分自身の活動を振り返り、次回に向けた改善策を検討する（各回 90 分）						
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	教職経験・企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						
担当者からの メッセージ等	自分たちの生活している山口県（山口市）の喫緊の課題に対して芸術表現学科らしい解決策を提案しましょう。 担当教員の連絡先メールアドレス：kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	地域課題解決演習Ⅱ (PBL)	教員	柳川 和也 中川 聡（実務経験） 河合 良房 中澤 恵（実務経験） 大野 浩光 （複数）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	リーダーシップ	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	○
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	JA-S362-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	2				
開講期	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	PBL、課題発見力、課題解決力、チームワーク、コミュニケーション能力、リーダーシップ						
授業概要	地域企業や自治体が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。						
到達目標	1. 連携先（企業・地域）の意向や背景を理解し、目的意識をもってプロジェクトの目標を設定できる。						
	2. ヒアリングやフィールドワーク、調査を通して現状を的確に把握し、課題を整理・定義できる。						
	3. 課題解決に向けた企画アイデアを発想し、具体的な形に落とし込むことができる。						
	4. チーム内で役割分担を行い、互いに協力しながら計画的に作業を進め、状況に応じて柔軟に対応できる。						
	5. 企画内容や成果を分かりやすく他者に伝え、意見交換を通して合意形成を図ることができる。						
履修条件、注意事項	地域課題解決演習Ⅰ（PBL）を履修すること						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 後期ガイダンス・企画準備					1	面接
	2. 企画準備					3,5	面接
	3 全体ミーティング（企画振り返り・共有）					3,5	面接
	4. 企画準備（改善・再設計）					3	面接
	5. 企画実施③（現地実践②） 10月10日					3,5	面接
	6. 全体ミーティング（企画振り返り・共有）					1,5	面接
	7. 中間報告・共有会					5	面接
	8. 企画立案④〈発展〉①企画意図の明確化と具体化					1,3,4	面接
	9. 企画立案④〈発展〉②企画の精緻化と最適化					1,3,4	面接
	10. 企画準備（統合企画）					4	面接
	11. 企画実施④（現地実践③） 11月14日					3,5	面接
	12. 全体ミーティング（企画振り返り・共有）					5	面接
	13. 企画実施⑤（最終実践） 12月12日					3,5	面接
	14. 最終振り返り・成果整理					4,5	面接
	15. 年度まとめ・成果発表					5	面接
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	① 企画内容・取り組み姿勢（40％） ② 授業内課題・制作物（30％） ③ プレゼンテーション（30％） ① 企画内容・取り組み姿勢 ・授業・プロジェクトへの主体的な参加態度・調査・フィールドワーク内容の整理力 ② 授業内課題・制作物 ・企画立案・実施における表現力・技能・課題に対する思考力・判断力 ③ プレゼンテーション ・発表への主体性・意欲・内容理解の深さ						
フィードバックの方法	課題を返却						
時間外の学習 について	予習：次の授業に向けて、必要な調査や制作を行う（各回 90 分） 復習：授業後にチームと自分自身の活動を振り返り、次回に向けた改善策を検討する（各回 90 分）						
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	教職経験・企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						
担当者からの メッセージ等	自分たちの生活している山口県（山口市）の喫緊の課題に対して芸術表現学科らしい解決策を提案しましょう。 担当教員の連絡先メールアドレス：kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	映像音楽論	教員	中川 聡（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S250-000	学科	芸術表現学科	⑥	創造力	○	
授業形態	講義	単位	2	⑦	課題解決力		
年次	2年後期	卒業要件	選択	⑧	変化への適応力		
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	映像音楽、音楽鑑賞、作品解釈、楽曲理解、ミュージカル、オペラ、アニメ						
授業概要	映像を伴う音楽作品を取り上げ、音楽の特徴や種類について理解を深めるとともに、映像と音楽の関連性と歴史について考察する。						
到達目標	1. 映像音楽の基本的機能や映画・ドラマ・ミュージカル・オペラの音楽様式の特徴を理解し時代やジャンルの違いを認識できる。						
	2. 映像における音楽の役割を分析し、ミュージカルからオペラに至る歴史的連続性を踏まえて、物語構造との関連を説明できる。						
	3. 視聴した作品を基に主体的に考察を深める姿勢からディスカッションや課題レポートにおいて自らの視点を明確に表現できる。						
履修条件、注意事項	特記事項なし						
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 映像と音楽の関係（時間操作／感情形成／空間提示）・映像音楽の語り方・映像資料の分析					1	面接
	2. 映画音楽の特徴（ミニマルミュージック、ハンス・ジマー、坂本龍一）・現代音楽と映像表現の関係					1	面接
	3. テレビドラマ・配信ドラマ・アニメの劇伴構造・主題歌と物語構造の関係・シーン別の音楽効果分析					1	面接
	4. 歌が“語り”になる構造・実写ミュージカルとアニメーションの違い・ミュージカル映画の進化					1	面接
	5. 『オペラ座の怪人』分析①（冒頭～主要場面）：舞台ミュージカルから映画化された時の音楽の変化					1,2	面接
	6. 『オペラ座の怪人』分析②（物語構造・音楽語法）：歌が劇を推進する構造／恋愛・恐怖・葛藤の音楽					1,2	面接
	7. 『美女と野獣』分析①：アニメーションミュージカルの特徴・主題歌の構造とキャラクターの語り					1,2	面接
	8. 『美女と野獣』分析②：実写ミュージカルの特徴・ブロードウェイ音楽とディズニー音楽のつながり					1,2	面接
	9. 『リトル・マーメイド』分析①：“ディズニー的音楽劇”の現代ミュージカルの基礎としての作品性					1,2	面接
	10. 『リトル・マーメイド』分析②：“歌うことで物語が進む”構造の復活とアラン・メンケンの音楽語法					1,2	面接
	11. 『ホワイト・クリスマス』分析①：“黄金期ミュージカル”の古典ミュージカル映画としてのスタイル					1,2	面接
	12. 『ホワイト・クリスマス』分析②：“黄金期ミュージカル”の歌とダンスの統合・アメリカの文化と音楽					1,2,3	面接
	13. オペラ『カルメン』視聴と総括①：『カルメン』の各キャラクターとライトモチーフとの関係					1,2,3	面接
	14. オペラ『カルメン』視聴と総括②：オペラの視覚性と音楽的構造・舞台装置・演出・照明					1,2,3	面接
	15. オペラ『カルメン』視聴と総括③：“歌が感情の絶頂で現れる”構造・映像作品との音楽上の共通点					1,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業態度・参加度（50％）②課題レポート（50％） 評価の基準：①知識・理解：映像音楽の基礎概念を理解しミュージカルとオペラの音楽の特徴について理解し説明できる。 ②思考・判断・表現：映像シーンにおける音楽の分析をもとにミュージカル作品の表現意図を考察し説明できる。 ③授業やディスカッションへの積極的な参加と作品に対する主体的なコメント・課題提出・学習態度の継続がある。						
フィードバックの方法	Teams による課題の提出や質問に対して、個別のフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：授業で扱われる題材に関連した資料を読んでおくこと。（各回 30 分程度） 復習：授業で行った内容について復習と補足をしておくこと。（各回 150 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：Teams により配付						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに映像音楽について講義します。						
担当者からのメッセージ等	映像作品における音楽の役割の理解伸張がより深い鑑賞につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	ピアノⅢ	教員	脇淵 陽子（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S24I-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	演奏、自己表現、基礎技術、想像力						
授業概要	さまざまな演奏法を引き続き学びながら「演奏法とその基礎的な表現力」を習得する。さらにロマン派時代のピアノ作品の美しいメロディを通して音楽的感性を磨きつつ、「自己表現力」を習得する。演奏能力の充実と向上のため授業形態は個人指導で進める。						
到達目標	1. 幅広い音楽分野の作品研究						
	2. 専門的な音楽知識の修得						
	3. 練習方法の分析と演奏技術の向上						
	4. 楽曲の様式と演奏解釈						
	5. 演奏実技の発表						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 1 年次のふり返りとピアノ作品について、及び演奏曲目の計画（ピアノの進化を知る）					1, 2	面接
	2. ロマン派のピアノ小品について①					2	面接
	3. ロマン派のピアノ小品について②					2	面接
	4. ロマン派のピアノ作品の分析と演奏法①（ロマン派の作曲家について知る）					2	面接
	5. ロマン派のピアノ作品の分析と演奏法②					2, 3	面接
	6. 課題曲の選曲、楽譜の選定					1	面接
	7. 課題曲の取り組み①基礎的な内容の習得					1, 3	面接
	8. 課題曲の取り組み②楽譜を正しく読む					2, 3, 4	面接
	9. 課題曲の取り組み③楽曲の分析と背景					2, 3, 4	面接
	10. 課題曲に対するイメージの共有					3, 4	面接
	11. 課題曲の演奏法① 豊かな音の研究					3, 4	面接
	12. 課題曲の演奏法② フレーズの歌い方					3, 4	面接
	13. 課題曲の演奏法③ 作品の全体構成について					3, 4	面接
	14. 課題曲の演奏法④ 表現方法について					4, 5	面接
	15. 課題曲の発表					5	面接
	以上のような視点を常にもちながら、個人指導と全体指導を行う。						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①課題となる曲を発表（50％）②授業態度・授業への参加度（25％）③宿題（25％） 評価の基準：①技能・表現：学んだ技術を再現できる。 ②関心・意欲、態度：積極的に質問する。 ③関心・意欲：課題に意欲的に取り組む。						
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。						
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（予復習合わせて各回 90 分以上）						
教材にかかわる情報	テキスト：ハノン教則本、各作曲家の練習曲、ロマン派の作品、他(個人の進度 取り組みたい内容に応じる) 参考書、参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について	ピアニスト、表現者としてステージに立ってきた経験をもとに、自分の考えを相手に伝えるようにするにはどのように考えたら良いか、また音楽のもたらす社会効果などを授業の目的の一つにし、考える力を身につけ目標達成する為の指導をします。						
担当者からのメッセージ等	音楽の及ぼす社会と自身の関係性について話をします。クラシックやポピュラー作品など、練習方法を考え技術の向上、表現方法を高める。多くのレパートリー曲に取り組む。 担当者の連絡先・E-mail：t0010@yamaguchi-jca.ac.jp（脇淵）						

科目名	ピアノⅣ	教員	脇淵 陽子（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S242-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	演奏、自己表現、基礎技術、想像力						
授業概要	さまざまな演奏法を引き続き学びながらピアノ演奏を通じて「豊かな表現力」を習得する。さらにピアノ作品を通して音楽的感性を磨きつつ、「自己表現力」を習得する。ピアノ奏法の集大成として選曲した作品を研究すると共に曲からイメージする映像や絵画などの具現化についてディスカッションする。授業形態は個人指導を主に行う。						
到達目標	1. 幅広い音楽分野の作品研究						
	2. 専門的な音楽知識の修得						
	3. 練習方法の分析と演奏技術の向上						
	4. 楽曲の様式と演奏解釈						
	5. 演奏実技の発表						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ロマン派以降のピアノ作品について知る①（音楽のもたらすさまざまな効果）					I	面接
	2. ロマン派以降のピアノ作品について知る②					I	面接
	3. 現代におけるピアノ曲について知る①（現代曲とは何か。クラシック以外の曲について）					I,2	面接
	4. 現代におけるピアノ曲について知る②					I,2	面接
	5. 課題曲の選曲					2,3	面接
	6. 課題曲について楽譜の分析と時代背景					3,4	面接
	7. 課題曲について演奏解釈①					3,4	面接
	8. 課題曲について演奏解釈②					3,4	面接
	9. 課題曲を中心に学ぶ① 楽譜を読み込む					3,4	面接
	10. 課題曲を中心に学ぶ② 豊かな音色を追求する					3,4	面接
	11. 課題曲を中心に学ぶ③ 表現方法について					3,4	面接
	12. 課題曲を中心に学ぶ④ 作品の全体構成					3,4	面接
	13. 課題曲の研究 作品へのイメージについてディスカッション①					4,5	面接
	14. 課題曲の研究 作品へのイメージについてディスカッション②					I,2,3,4,5	面接
	15. 課題曲の発表					5	面接
	ピアノ基礎技術や演奏法等、個人の能力に応じ最終的な仕上げを行う。ピアノ作品については、個人の能力や研究したい分野の作品を相談しながら進めていく。						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①課題となる曲を発表（50％）②授業態度・授業への参加度（25％）③宿題（25％） 評価の基準：①技能・表現：学んだ技術を再現できる。 ②関心・意欲、態度：積極的に質問する。 ③関心・意欲：課題に意欲的に取り組む。						
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。						
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（予復習合わせて各回 90 分以上）						
教材にかかわる情報	テキスト： 各自の進度 興味にあわせて選曲する 参考書、参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について	ピアニスト、表現者としてステージに立ってきた経験をもとに、自分の考えを相手に伝えるようにするにはどのように考えたら良いか、また音楽のもたらす社会効果などを授業の目的の一つにし、考える力を身につけ目標達成する為の指導をします。						
担当者からのメッセージ等	音楽の及ぼす社会と自身の関係性について話をします。クラシックやポピュラー作品など練習方法を考え技術の向上、表現方法を高める。ピアノ奏法の集大成として取り組む。 担当者の連絡先・E-mail：t0010@yamaquchi-jca.ac.jp（脇淵）						

科目名	電子オルガンⅢ	教員	一瀬 理佳（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S243-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	実技	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	音楽一般理論、演奏技術の習得、和音の魅力、リハーモナイズ、ドラム譜、リズム作成、アンサンブル						
授業概要	電子オルガンの演奏に欠かすことのできない音楽一般理論と、基礎的なテクニックの習得からレパートリーの確立。ポピュラー楽曲のアンサンブル実習により、ポピュラーの奏法と音楽表現を勉強する。様々なハーモニーの進行とその魅力を学ぶ。授業形態は集合個人指導とアンサンブル実習とし、学生一人ひとりの能力や個性にあわせて指導にあたる。						
到達目標	1. 幅広い音楽分野の作品研究						
	2. 専門的な音楽知識の修得						
	3. 練習方法の分析と演奏技術の向上						
	4. 幅広いジャンルの楽曲理解と演奏表現法						
	5. 演奏実技の発表						
履修条件、注意事項							
授業計画	進度によって次のことをそれぞれ段階的に指導する。					到達目標	授業方法
	1. 電子オルガンの基本操作と基本奏法の理解、3 段楽譜の読み方、音符の基礎知識 クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルからの選曲法					1,2	面接
	2. コードの理解とコード伴奏による楽曲演奏、アンサンブル選曲とパート分け					1,2	面接
	3. 楽曲の和音分析と演奏表現、アンサンブル楽曲構成検討					1,2,4	面接
	4. 課題曲への取り組み①右手奏					1,2,3	面接
	5. 課題曲への取り組み②左手奏					1,2,3	面接
	6. 課題曲への取り組み③ベース奏					1,2,3	面接
	7. ベーストレーニング、アンサンブルパート別練習①					2,3	面接
	8. リズムの打ち込み実習、アンサンブルパート別練習②					2,3	面接
	9. 課題曲への取り組み④ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	10. 課題曲への取り組み⑤ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	11. 課題曲への取り組み⑥ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	12. 課題曲への取り組み⑦ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	13. アンサンブル実習と課題曲の確立①					4,5	面接
	14. アンサンブル実習と課題曲の確立②					4,5	面接
	15. アンサンブル実習と課題曲の確立③					4,5	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50％）②授業態度・授業への参加度（25％）③宿題（25％） 評価の基準：①技能・表現：学んだ技術を再現できる。 ②関心・意欲、態度：積極的に質問する。 ③関心・意欲：課題に意欲的に取り組む。						
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。						
時間外の学習 について	予習：課題を各自練習して授業に備える。 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（予復習合わせて各回 90 分以上）						
教材にかかわる情報	テキスト：適時指示する 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	演奏家経験：コード奏から成る Jazz の Big Band での演奏経験を活かしてハーモニーの魅力を伝えます。						
担当者からの メッセージ等	身近なポピュラー音楽に対する知識を広げ、アンサンブル演奏やソロ演奏の楽しみを実感してみてください。 担当者の連絡・E-mail：t0011@yamaquchi-jca.ac.jp（一瀬）						

科目名	電子オルガンⅣ	教員	一瀬 理佳（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S244-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	2年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	音楽一般理論、演奏技術の習得、コード進行、楽曲分析、メロディー創作、オリジナル曲、アンサンブル						
授業概要	電子オルガンの演奏に欠かすことのできない音楽一般理論と、基礎的なテクニックの習得からレパートリーの確立。ポピュラー楽曲のアンサンブル実習により、ポピュラーのノリと奏法を勉強する。好きなジャンルでオリジナル曲の創作を経験する。授業形態は集合個人指導とアンサンブル実習とし、学生一人ひとりの能力や個性にあわせて指導にあたる。						
到達目標	1. 幅広い音楽分野の作品研究						
	2. 専門的な音楽知識の修得						
	3. 練習方法の分析と演奏技術の向上						
	4. 楽曲の様式と演奏解釈						
	5. 演奏実技の発表						
履修条件、注意事項							
授業計画	進度によって次のことをそれぞれ段階的に指導する。					到達目標	授業方法
	1. 電子オルガンの基本操作と基本奏法の理解、クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルからの選曲法 アンサンブル選曲とパート分け					1,2	面接
	2. コードとメロディーの関係を研究、好きな楽曲のコード進行を調べる					1,2,4	面接
	3. コードの上にメロディーを創作する、好きなリズムを選ぶ					1,2,4	面接
	4. 課題曲への取り組み①右手奏					1,2,3	面接
	5. 課題曲への取り組み②左手奏					1,2,3	面接
	6. 課題曲への取り組み③ベース奏					1,2,3	面接
	7. アンサンブルパート別練習①					2,3	面接
	8. アンサンブルパート別練習②					2,3	面接
	9. 課題曲への取り組み④ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	10. 課題曲への取り組み⑤ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	11. 課題曲への取り組み⑥ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	12. 課題曲への取り組み⑦ アンサンブル実習					2,3,4	面接
	13. アンサンブル実習とレパートリーの確立①					4,5	面接
	14. アンサンブル実習とレパートリーの確立②					4,5	面接
	15. アンサンブル実習とレパートリーの確立③					4,5	面接
	◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50％）②授業態度・授業への参加度（25％）③宿題（25％） 評価の基準：①技能・表現：学んだ技術を再現できる。 ②関心・意欲、態度：積極的に質問する。 ③関心・意欲：課題に意欲的に取り組む。						
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。						
時間外の学習 について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（予復習合わせて各回 90 分以上）						
教材にかかわる情報	テキスト：適時指示する 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした 授業について	指導者経験：創作も電子オルガンの楽しみの一つです。簡単なレベルからわかりやすく説明します。						
担当者からの メッセージ等	自分の好きなジャンルでオリジナルを創作したり、メロディー・ハーモニー・ベースの三段鍵盤で楽曲演奏を楽しみましょう。 担当者の連絡・E-mail：t0011@yamaguchi-jca.ac.jp（一瀬）						

科目名	吹奏楽Ⅲ	教員	中川 聡（実務経験） 中村 大也（実務経験） （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S245-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	吹奏楽、管楽器、演奏法、音色、ロングトーン、メンテナンス、チームワーク						
授業概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、チューニング、ロングトーン、音階練習などを行う。曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、曲の構成や楽器の編成などを理解できるように進めていく。						
到達目標	1. 吹奏楽の基礎的知識を理解し、初心者であっても基本的な奏法と演奏技能を身につけて合奏に参加できる。						
	2. 自分の楽器の音とアンサンブル全体の響きを比較・判断し、曲想に応じた音色・バランス・表現を工夫して演奏できる。						
	3. 授業に主体的に参加するに留まらず、学修時間を活用して技能の維持・向上に努めて協働的に演奏をつくり上げることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業の位置づけ・目標・評価説明・楽器の種類・合奏で大切なマナー・姿勢・チューニング・聴く姿勢					1,3	面接
	2. 楽器の扱い方・音の出し方・姿勢・呼吸法・タンギング・ロングトーン（打楽器は基本ストローク）					1,3	面接
	3. スケールと運指・発音・音階・アーティキュレーションの基礎・パート練習・グループ練習					1,3	面接
	4. リズム・アンサンブル基礎・単純拍子・複合拍子・簡単な合奏リズム練習・メトロノームについて					1,3	面接
	5. パートの音色作り・管楽器群（打楽器）ごとの音色作り・倍音について・ハーモニーについて					1,2,3	面接
	6. 中級合奏①：練習方法・合奏での役割（主旋律、副旋律、リズム）・耳を使った合奏の大切さ					1,2,3	面接
	7. 中級合奏②：強弱・フレーズの付け方・曲の背景・構造の学び・曲想理解・呼吸の共有と合奏の集中					1,2,3	面接
	8. パート練習＋合奏の統合・パート練習の成果を用いた全体合奏・サウンド（音量・バランス）の調整					1,2,3	面接
	9. 楽曲分析による表現の工夫・演奏曲の構造、メロディ、伴奏、リズムパターンの分析による表現の確認					1,2,3	面接
	10. 合奏の録音を聴くことによる問題点の共有・グループディスカッションによる改善点の抽出					1,2,3	面接
	11. 上級合奏①：丁寧な通し練習・各セクションの課題考察・アンサンブルにおける音楽表現と統一感の工夫					1,2,3	面接
	12. 上級合奏②：表現の仕上・フレーズの方向性確認・ダイナミクスや音色の統一・曲想に合わせた音色					1,2,3	面接
	13. 上級合奏③：本番に向けた通し練習・本番形式のリハーサル・入退場・演奏マナー・合奏の最終調整					1,2,3	面接
	14. ミニコンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					1,2,3	面接
	15. ミニコンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					1,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：楽器の扱い・基礎奏法の習得・基礎合奏の実技・合奏での基本的演奏技術。 ②思考・判断・表現：各自のパートにおける表現の妥当性やアンサンブル全体を聴きながらバランスを調整する力。 ③個人練習・パート練習の参加態度や仲間とコミュニケーションをとりながら準備や合奏する姿勢、レポート内容。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習（各回 45 分程度） 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：JBC バンドスタディ他 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が楽器の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	吹奏楽Ⅳ	教員	中川 聡（実務経験） 中村 大也（実務経験） （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S246-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	実技	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2年後期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	吹奏楽、管楽器、演奏法、音色、ロングトーン、メンテナンス、チームワーク						
授業概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、チューニング、ロングトーン、音階練習などを行う。曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、曲の構成や楽器の編成などを理解できるように進めていく。						
到達目標	1. 吹奏楽の基礎的知識を理解し、初心者であっても基本的な奏法と演奏技能を身につけて合奏に参加できる。						
	2. 自分の楽器の音とアンサンブル全体の響きを比較・判断し、曲想に応じた音色・バランス・表現を工夫して演奏できる。						
	3. 授業に主体的に参加するに留まらず、学修時間を活用して技能の維持・向上に努めて協働的に演奏をつくり上げることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 授業の位置づけ・目標・評価説明・楽器の種類・合奏で大切なマナー・姿勢・チューニング・聴く姿勢					1,3	面接
	2. 楽器の扱い方・音の出し方・姿勢・呼吸法・タンギング・ロングトーン（打楽器は基本ストローク）					1,3	面接
	3. スケールと運指・発音・音階・アーティキュレーションの基礎・パート練習・グループ練習					1,3	面接
	4. リズム・アンサンブル基礎・単純拍子・複合拍子・簡単な合奏リズム練習・メトロノームについて					1,3	面接
	5. パートの音色作り・管楽器群（打楽器）ごとの音色作り・倍音について・ハーモニーについて					1,2,3	面接
	6. 中級合奏①：練習方法・合奏での役割（主旋律、副旋律、リズム）・耳を使った合奏の大切さ					1,2,3	面接
	7. 中級合奏②：強弱・フレーズの付け方・曲の背景・構造の学び・曲想理解・呼吸の共有と合奏の集中					1,2,3	面接
	8. パート練習＋合奏の統合・パート練習の成果を用いた全体合奏・サウンド（音量・バランス）の調整					1,2,3	面接
	9. 楽曲分析による表現の工夫・演奏曲の構造、メロディ、伴奏、リズムパターンの分析による表現の確認					1,2,3	面接
	10. 合奏の録音を聴くことによる問題点の共有・グループディスカッションによる改善点の抽出					1,2,3	面接
	11. 上級合奏①：丁寧な通し練習・各セクションの課題考察・アンサンブルにおける音楽表現と統一感の工夫					1,2,3	面接
	12. 上級合奏②：表現の仕上・フレーズの方向性確認・ダイナミクスや音色の統一・曲想に合わせた音色					1,2,3	面接
	13. 上級合奏③：本番に向けた通し練習・本番形式のリハーサル・入退場・演奏マナー・合奏の最終調整					1,2,3	面接
	14. Xmas コンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					1,2,3	面接
15. Xmas コンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					1,2,3	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：楽器の扱い・基礎奏法の習得・基礎合奏の実技・合奏での基本的演奏技術。 ②思考・判断・表現：各自のパートにおける表現の妥当性やアンサンブル全体を聴きながらバランスを調整する力。 ③個人練習・パート練習の参加態度や仲間とコミュニケーションをとりながら準備や合奏する姿勢、レポート内容。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習（各回 45 分程度） 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：JBC バンドスタディ他 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が楽器の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	合 唱 Ⅲ	教員	中川 聡（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S247-000	学科	芸術表現学科		⑥	創造力	○
授業形態	実技	単位	I		⑦	課題解決力	
年次	2 年前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	合唱、基本姿勢、声の出し方、伝える力、呼吸法、アンサンブル、チームワーク						
授業概要	本授業では、合唱を通して音楽の基礎的技術と知識を身につけるとともに、音楽的な思考・表現を深め、協働的に作品を創り上げる経験を重視する。最終的には成果発表を行い、実践的な学びの集大成とする。						
到達目標	1.発声・呼吸・姿勢などの基本的な歌唱技能を習得し、倍音を感じながら安定して歌える。						
	2.楽曲の背景や曲の構造・歌詞の意味を踏まえて、強弱やフレージングを工夫しながら表現できる。						
	3.他のパートと聴き合いながら音楽を創造する喜びを全体で共有し、和声に基づく主体的な表現を創造できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 合唱の歴史的背景を踏まえ、身体・声・空間を共有する音楽的コミュニケーション特性を理解する。					I	面接
	2. 歌唱身体の基本：腹式呼吸、横隔膜の支持、共鳴空間の確保など歌唱生理学に基づく基礎を学ぶ。					I	面接
	3. 発声の基本Ⅰ：声区を理解し、母音形成や響きの統一を学ぶことにより母音の響きの純化を狙う。					I	面接
	4. ユニゾンの精度向上とハーモニー形成の基礎確立のため、純正律・平均律および倍音について感得する。					I,3	面接
	5. パート内の音程精度とアーティキュレーションの統一を図り、セクションごとの音楽的課題を克服する。					I,3	面接
	6. 各声部の機能（旋律・内声・ベースライン）を理解し、合唱全体のアンサンブルのバランスを探る。					I,2,3	面接
	7. 楽曲の形式・和声・歌詞の解釈に基づく曲全体の構造把握と音楽的意図の分析により表現を工夫する。					I,2,3	面接
	8. 言葉の句読点の処理、ブレス位置の共有、フレーズラインの方向性などを整え表現の統一を図る。					I,2,3	面接
	9. 全体の響きやテンポ、音楽の流れを整え、アンサンブルの統合と音楽的整合性を確認し、作品に迫る。					I,2,3	面接
	10. 強弱・音色・言葉の処理によりダイナミクスの連続性を保ち、音色がコントロールされた歌唱法を学ぶ。					I,2,3	面接
	11. 演奏会を想定したダイナミクス変化を伴う繊細な表現により作品全体を演奏会仕様の完成度にも高める。					I,2,3	面接
	12. 曲想に合わせた音色やダイナミクスの統一、フレーズの方向性の確認により音楽表現をさらに仕上げる。					I,2,3	面接
	13. 入退場や演奏マナーを含む本番形式のリハーサルにより演奏の最終合奏の最終調整					I,2,3	面接
	14. ミニコンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					I,2,3	面接
15. ミニコンサート本番：本番・片づけ・振り返り・レポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					I,2,3	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題レポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：基本的な発声・音程・リズムの習得状況に加え、曲の背景や内容に対する理解。 ②思考・判断・表現：曲の分析内容や表現の工夫、アンサンブル全体を聴いて判断に演奏する力。 ③主体的に取り組む態度：主体的・協働的に授業に参加し、和声を軸に合唱活動全般へ関わる。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当パートの練習（各回 45 分程度） 復習：授業で指摘を受けた箇所についての確認、および担当パートの練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が歌唱の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	合 唱 IV	教員	中川 聡（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S248-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	実技	単位	I				
年次	2 年後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	合唱、基本姿勢、声の出し方、伝える力、呼吸法、アンサンブル、チームワーク						
授業概要	本授業では、合唱を通して音楽の基礎的技術と知識を身につけるとともに、音楽的な思考・表現を深め、協働的に作品を創り上げる経験を重視する。最終的には成果発表を行い、実践的な学びの集大成とする。						
到達目標	1.発声・呼吸・姿勢などの基本的な歌唱技能を習得し、倍音を感じながら安定して歌える。						
	2.楽曲の背景や曲の構造・歌詞の意味を踏まえて、強弱やフレージングを工夫しながら表現できる。						
	3.他のパートと聴き合いながら音楽を創造する喜びを全体で共有し、和声に基づく主体的な表現を創造できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 合唱の歴史的背景を踏まえ、身体・声・空間を共有する音楽的コミュニケーション特性を理解する。					I	面接
	2. 歌唱身体の基礎：腹式呼吸、横隔膜の支持、共鳴空間の確保など歌唱生理学に基づく基礎を学ぶ。					I	面接
	3. 発声の基本Ⅰ：声区を理解し、母音形成や響きの統一を学ぶことにより母音の響きの純化を狙う。					I	面接
	4. ユニゾンの精度向上とハーモニー形成の基礎確立のため、純正律・平均律および倍音について感得する。					I,3	面接
	5. パート内の音程精度とアーティキュレーションの統一を図り、セクションごとの音楽的課題を克服する。					I,3	面接
	6. 各声部の機能（旋律・内声・ベースライン）を理解し、合唱全体のアンサンブルのバランスを探る。					I,2,3	面接
	7. 楽曲の形式・和声・歌詞の解釈に基づく曲全体の構造把握と音楽的意図の分析により表現を工夫する。					I,2,3	面接
	8. 言葉の句読点の処理、ブレス位置の共有、フレーズラインの方向性などを整え表現の統一を図る。					I,2,3	面接
	9. 全体の響きやテンポ、音楽の流れを整え、アンサンブルの統合と音楽的整合性を確認し、作品に迫る。					I,2,3	面接
	10. 強弱・音色・言葉の処理によりダイナミクスの連続性を保ち、音色がコントロールされた歌唱法を学ぶ。					I,2,3	面接
	11. 演奏会を想定したダイナミクス変化を伴う繊細な表現により作品全体を演奏会仕様の完成度にも高める。					I,2,3	面接
	12. 曲想に合わせた音色やダイナミクスの統一、フレーズの方向性の確認により音楽表現をさらに仕上げる。					I,2,3	面接
	13. 入退場や演奏マナーを含む本番形式のリハーサルにより演奏の最終合奏の最終調整					I,2,3	面接
	14. Xmas コンサート準備：会場準備・通しリハーサル・照明やアナウンス等の演出確認・録音準備					I,2,3	面接
	15. Xmas コンサート本番：本番・片づけ・振り返り・リポート課題（自己分析・アンサンブル分析）					I,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（70％） ②課題リポート（30％）により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・技能：基本的な発声・音程・リズムの習得状況に加え、曲の背景や内容に対する理解。 ②思考・判断・表現：曲の分析内容や表現の工夫、アンサンブル全体を聴いて判断に演奏する力。 ③主体的に取り組む態度：主体的・協働的に授業に参加し、和声を軸に合唱活動全般へ関わる。						
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと理由の解説を行う。						
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当パートの練習（各回 45 分程度） 復習：授業で指摘を受けた箇所についての確認、および担当パートの練習（各回 45 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：各授業で演奏する楽曲の楽譜を配布する。						
実務経験を活かした授業について	オーケストラ・合唱指導経験における理論と実践の融合をベースに音楽の演奏に対するアプローチについて講義します。						
担当者からのメッセージ等	理論の実践の融合が歌唱の上達と音楽表現の深化につながります。質問等は Teams を通じて随時受け付けます。						

科目名	サウンドデザイン	教員	矢野 節（実務経験） 柳川 和也 河合 良房 （複数）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S249-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	2 年前期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	映像サウンド、映像音楽、作曲、音楽制作、録音、編集、音声加工、創造的思考、専門技能						
授業概要	映像サウンドデザインを中心に学習。音声編集ソフト（Audacity）を利用した音声の編集や加工方法の習得。音楽制作ソフトを利用して作曲の基礎を習得し、映像制作に音楽と音を活かす。						
到達目標	1. サウンドデザインの種類と音響効果の基礎を理解し何ができるのかを理解する						
	2. 音声編集ソフトの基本的な使用法の習得						
	3. 音楽の制作過程で作編曲の基礎を学ぶ						
	4. 和音やコードの基本を理解し制作に活かす						
	5. 音の編集、加工や映像との組み合わせ方など活用法を学ぶ						
履修条件、注意事項							
授業計画					到達目標	授業方法	
	1. サウンドデザインの基本を学習し、何ができるのかを学ぶ				1, 2	面接	
	2. 録音、編集ソフトの基本を学ぶ				1, 2	面接	
	3. 課題用の映像①に合う音素材を検討、録音、編集ソフトを利用して基本を学ぶ				1, 2	面接	
	4. 課題用の映像②に合う音素材を検討、録音、編集ソフトを利用して基本を学ぶ				1, 2	面接	
	5. 音楽制作ソフトの基本を学ぶ				1, 2, 3, 4	面接	
	6. 音楽制作ソフトを利用してループ音源の作成の基本を学ぶ（和音）				1, 2, 3, 4	面接	
	7. 音楽制作ソフトを利用してループ音源の作成の基本を学ぶ（メロディー）				1, 2, 5	面接	
	8. 課題用の映像③に合ったループ音源を検討、音楽制作ソフトを利用して動画にあわせる				1, 2, 5	面接	
	9. 課題用の映像を制作又は過去作品修正（絵コンテ、撮影）				1, 2, 5	面接	
	10. 課題用の映像を制作又は過去作品修正（撮影）				1, 2, 5	面接	
	11. 課題用の映像を制作又は過去作品修正（映像編集）				3, 4, 5	面接	
	12. 音楽を制作、活かし方を学ぶ				1, 2, 3, 4, 5	面接	
	13. 課題の映像に音楽をつける				1, 2, 3, 4, 5	面接	
	14. 課題の映像に効果音をつける				1, 2, 3, 4, 5	面接	
	15. 課題の映像につけた音楽・効果音を最終調整し、発表する				1, 2, 3, 4, 5	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①制作作品（40%）②制作レポート(20%) ③授業での姿勢（40%） 評価の基準：①知識・理解：授業内で得た知識を制作に活かしているか。 ②思考・判断：映像に対してどう感じ、曲を作ったのか伝わるレポートを書けているか。 ③関心・意欲：真面目な態度で取り組んでいるか。制作に対して積極的に取り組んでいるか。						
フィードバックの方法	各回の成果物について、口頭によるフィードバックを行う。						
時間外の学習について	予習：課題について確認する。（各回 30 分） 復習：授業内で得た知識を復習して身につける。（各回 60 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料等：随時プリントを配布する。						
実務経験を活かした授業について	舞台や、コンサートなどの舞台監督や展示映像製作・設営などの経験を活かして、映像に利用する音響効果について話します。						
担当者からのメッセージ等	ここでは「映像サウンドデザイン」について学びます。映像に合った音素材の検討、録音、フリー素材などの編集や音楽制作ソフトや AI サイトを利用した曲づくりなどを通して映像にあった音楽や音響効果を加える技術の習得を目指します。得た知識と技術をぜひ今後の創作人生に活かしてください。 担当者の連絡先・Email:yanotakashi4@gmail.com （矢野）						

科目名	特別演習	教員	学科長 他 (複数)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	JA-S282-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	I				
年次	I・2年前後期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	デザイン、ビジネス、音楽、芸術文化、教養、ボランティア、研修旅行						
授業概要	デザイン、ビジネス、音楽、芸術文化、教養に関する活動等に主体的に取り組み、レポートを提出する。						
到達目標	1. デザイン・ビジネス・音楽などの学際的な知識を、諸課題の理解や様々な企画立案に結びつけることができる。						
	2. 活動において生じる多様な状況を的確に把握し、必要に応じて自身の考えを発信しながら、柔軟に対応できる。						
	3. 学内外の諸活動に積極的に参加し、必要に応じて自身の行動を調整しながら、諸問題を解決できる。						
履修条件、注意事項							
授業計画	以下の活動に参加し、所定のレポートを提出する（15 ポイント以上）						授業方法
	<学科行事>						
	・アートピアセミナー						面接
	・特別講義						面接
	・オープンキャンパス等の運営						面接
	・PBL 休日活動等、学科が定めるもの						面接
	<学外>						
	・コンクール等の出場、コンペ等への応募						面接
	・グループ展・個展への出展						面接
	・演奏会、講演会、研修、ワークショップ等の参加						面接
	・地域ボランティア活動（要ボランティア活動届）						面接
	<その他>						
	・学科が指定する検定を受験（リポート不要）						面接
	・学科が指定する図書（図書講読リスト）を読了						面接
※1. 活動毎のポイントは別に定める。 ※2. 同一の活動において単位の重複（単位が認められる他の履修科目授業の一環として行われる行事）は認めない。							
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク						
成績評価基準	評価の方法：①レポート（100％） 評価の基準：レポート「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」を評価。 ①知識・技能：デザイン・ビジネス・音楽などの学際的な知識を学内外の活動において実践的に活用できているか。 ②思考・判断・表現：状況を適切に把握し、周囲と協働しながら必要な情報を的確に伝達・表現できているか。 ③主体的に取り組む態度：学内外の活動に積極的に参加し、自ら課題を見出して継続的に取り組もうとしているか。						
フィードバックの方法	レポートについては、採点后返却する。						
時間外の学習について	予習：予想外の状況においても自ら考えて行動ができるように事前に十分な準備をする。（各回 30 分程度） 復習：活動を振り返り、レポートを作成する。（各回 60 分程度 図書を利用する活動の場合は事後の復習のみに 90 分）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：必要に応じて配布する						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	・山口県立美術館と山口県立萩美術館には、学生証を提示すれば無料で入場できるので活用を。 ・ボランティア活動は、入念な事前準備を行い、当日の緊急連絡体制を整えて行うこと。（要ボランティア活動届）						

科目名	卒業研究	教員	学科長 他 (複数)	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S283-000	学科	芸術表現学科				
授業形態	演習	単位	4				
年次	2年前後期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	デザイン、イラスト、動画、服飾、絵画、陶芸、音楽、PBL						
授業概要	各自が設定したテーマについて、制作、演奏、研究を行う。 授業はゼミ形式で、教員や他の学生とのディスカッションを通して自身の考えを深め、研究・制作・演奏の質を高める。						
到達目標	1. 自ら研究テーマを設定して、目的意識を持って主体的に研究や制作を進めることができる。						
	2. テーマに関連する資料収集や調査を行い、教員や学生とディスカッションができる。						
	3. 専門性を活かして、創造性の高い作品や表現ができる。						
	4. 来場者を魅了する展示ができる（卒業制作展）。						
履修条件、注意事項							
授業計画	前期)					到達目標	授業方法
	1. ガイダンス					1	面接
	2. 研究テーマに関連する資料収集(1)					1, 2	面接
	3. 研究テーマに関連する資料収集(2)					1, 2	面接
	4. 研究テーマに関連する資料収集(3)					1, 2	面接
	5. 研究テーマの検討					1, 2	面接
	6. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 (3)					1, 2	面接
	7. 課題やコンセプトの設定 (1)					1, 2	面接
	8. 課題やコンセプトの設定 (2)					1, 2	面接
	9. 課題やコンセプトの設定 (3)					1, 2	面接
	10. 調査方法や制作物の検討 (1)					1, 2, 3	面接
	11. 調査方法や制作物の検討 (2)					1, 2, 3	面接
	12. 調査方法や制作物の検討 (3)					1, 2, 3	面接
	13. 調査方法や制作物の検討 (4)					1, 2, 3	面接
	14. 中間報告 (1)					2	面接
	15. 中間報告 (2)					2	面接
	後期)						
	1. ガイダンス					1	面接
	2. 調査、制作 (1)					1, 2, 3	面接
	3. 調査、制作 (2)					1, 2, 3	面接
	4. 調査、制作 (3)					1, 2, 3	面接
	5. 調査、制作 (4)					1, 2, 3	面接
	6. 調査、制作 (5)					1, 2, 3	面接
	7. パンフレット原稿の作成 (1)					1, 2, 3	面接
	8. パンフレット原稿の作成 (2)					1, 2, 3	面接
	9. パンフレット原稿の作成 (3)					1, 2, 3	面接
	10. 展示計画の立案 (1)					3, 4	面接
	11. 展示計画の立案 (2)					3, 4	面接
	12. 展示準備 (1)					3, 4	面接
	13. 展示準備 (2)					3, 4	面接
	14. 展示準備 (3)					3, 4	面接
	15. 展示準備 (4)					3, 4	面接
	◎定期試験（卒業制作展）						

アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループディスカッション
成績評価基準	評価の方法：①授業態度（20％）②計画書・レポート等（30％）③作品・展示等の完成度（50％） 評価の基準：①授業態度 ＊関心・意欲を測定 ・ディスカッション等に積極的に参加し、自らの発言を述べることができる。 ・主体的に作品制作や研究に取り組み、計画的に行動できる。 ②計画書やレポート等 ＊関心・意欲、技能・表現を測定 ・研究テーマについて、他者に分かりやすく伝えることができる。 ③作品・展示等の完成度から技能・表現、思考・判断を測定 ・独自性、創造性、表現力が高い作品・展示ができる。 ・来場者を魅了する展示ができる。
フィードバックの方法	1 週間の取り組みに対して、授業内でフィードバックする。
時間外の学習について	予習：テーマに関する社会動向や作品に関心・意欲を持ち、調査・分析を行う。（各回 90 分） 復習：授業で得たアドバイスを基に研究や制作、演奏を行い、完成度を高める。（各回 90 分）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：随時、プリント等で配布、Teams での連絡
実務経験を活かした授業について	
担当者からのメッセージ等	<連絡先> デザイン（中澤） mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp ・（前田） T0014@yamaguchi-jca.ac.jp イラスト（種田） t0042@yamaguchi-jca.ac.jp 動画（矢野） t0009@yamaguchi-jca.ac.jp 絵画（佐々木） t0041@yamaguchi-jca.ac.jp 服飾（片山） a_piece_ryoko_katayama@yahoo.co.jp 陶芸：上田 音楽（中川） snakagawa@yamaguchi-jca.ac.jp PBL（城） jhou@yamaguchi-jca.ac.jp

保育学科 目 次

【1 年次開講科目】

学科目	ページ	学科目	ページ
情報処理	82	表現の指導法（音楽Ⅰ）	99
文書表現基礎	83	表現の指導法（造形Ⅰ）	100
体育（実技）	84	乳児保育Ⅰ	101
保育者入門セミナーⅠ	85	乳児保育Ⅱ	102
保育者入門セミナーⅡ	86	保育内容の理解と方法・健康	103
保育原理	87	保育内容の理解と方法・人間関係	104
教育原理Ⅰ	88	保育内容の理解と方法・環境	105
教育原理Ⅱ	89	保育内容の理解と方法・表現	106
社会福祉	90	保育内容の理解と方法・音楽	107
保育者論	91	保育内容の理解と方法・造形	108
保育・教育の心理学	92	保育内容の理解と方法・言葉	109
子ども家庭支援の心理学	93	音楽基礎	110
子どもの保健	94	保育ピアノⅠ	111
子ども家庭支援論	95	保育ピアノⅡ	112
教育課程論・保育の計画と評価	96	保育実習指導Ⅰ	113
人間関係の指導法	97	保育実習Ⅰ	115
言葉の指導法	98		

【2 年次開講科目】

学科目	ページ	学科目	ページ
日本国憲法	117	保育方法論	136
知的財産法入門	118	保育リトミックⅠ	137
文学	119	保育リトミックⅡ	138
暮らしのなかの科学	120	特別支援の保育・教育概論	139
進路研究	121	社会的養護Ⅱ	140
英語コミュニケーション	122	幼児理解と教育相談	141
体育（講義）	123	保育内容の理解と方法・表現Ⅱ	142
子ども家庭福祉	124	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ	143
子育て支援	125	保育ピアノⅢ	144
社会的養護Ⅰ	126	保育ピアノⅣ	145
子どもの理解と援助	127	子ども総合研究Ⅰ	146
子どもの健康と安全	128	子ども総合研究Ⅱ	147
子どもの食と栄養	129	保育実習指導Ⅱ	148
保育内容総論	130	保育実習Ⅱ	149
健康の指導法	131	保育実習指導Ⅲ	150
環境の指導法	132	保育実習Ⅲ	151
表現の指導法（音楽Ⅱ）	133	教育実習指導	152
表現の指導法（造形Ⅲ）	134	教育実習	153
表現の指導法（造形Ⅳ）	135	保育・教職実践演習（幼稚園）	154

1 年次開講科目

保育学科

科目名	情 報 処 理	教員	大野 浩光 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-L102-110	学科	保育学科	卒業要件	必修		⑤	保育の計画力		
授業形態	講義	年次	1 年前期				⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（幼稚園）										
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	保育業務の効率化、情報化社会、情報リテラシー、倫理、セキュリティ									
授業概要	基本的なアプリケーションソフトを使った文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、などの演習を行う									
到達目標	1. 文書作成、表計算、プレゼンテーションについて理解し、保育業務に活用できる									
	2. USB メモリの取り扱い及び電子メールでのやりとり、添付ファイルの送付、受信メールの添付ファイルの保存などができる									
	3. 情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 機器の取り扱い（USB メモリの取り扱い、Windows の基本操作・基礎知識・インターネット接続と電子メールの設定）								2	面接
	2. 情報セキュリティ、情報検索の活用、情報倫理								3	面接
	3. 文書作成（Word の基本操作）、簡単な描画作成								1	面接
	4. 文書作成（書式、図・表の挿入）								1	面接
	5. 複雑な文書作成その 1								1	面接
	6. 複雑な文書作成その 2（園だよりの作成等）								1	面接
	7. 表計算（作表と簡単な計算、Excel の基本操作）								1	面接
	8. 表計算（雛型シートの作成及びその利用）								1	面接
	9. 表計算（データベースの作成、関数の利用、データ抽出）								1	面接
	10. 表計算（グラフの作成 複雑な関数の利用） Excel 課題								1	面接
	11. プレゼンテーション（PowerPoint の基本操作）								1	面接
	12. プレゼンテーション（スライド作成、アニメーションの設定、動画・音楽の挿入）								1	面接
	13. プレゼンテーション PowerPoint 課題								1	面接
	14. プレゼンテーション（発表・質疑応答）								1	面接
	15. プレゼンテーション（発表・質疑応答） まとめ								1	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションと質疑応答（学生主体）を行う									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50%） ②毎回の課題（印刷物と添付ファイル等の提出）（35%） ③プレゼンテーション（15%） 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解・技能の定着度を測定 ②毎回の課題 ＊知識・理解を測定 ・授業内容を理解し、アプリケーションを使用できる ③プレゼンテーション ＊知識・理解、関心・意欲を測定 ・アプリケーションソフトを活用し、積極的なプレゼンテーションができる									
フィードバックの方法	提出課題については、添削して返却する。プレゼンテーションは全員が行い、各発表者に対しコメントを加える。									
時間外の学習 について	予習：次の授業範囲を確認し、テキスト及び授業資料を一読しておく。（90 分） 復習：演習課題結果の評価を通して授業内容の復習を行う。（90 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：「保育者のためのパソコン講座 windows11 対応版」 阿部正平・阿部和子・二宮祐子（萌文書林） 参 考 書：適宜授業内で紹介する。 参考資料：その他添付ファイルで個別に送信及び授業内で資料を配布									
実務経験を活かした 授業について	教育現場(高校・行政)での実務経験を生かし、文書の作成や表計算ソフトの活用など、職場での実践につながる授業を展開します。									
担当者からの メッセージ等	4 GB 以上の USB メモリを用意し、テキスト・筆記用具・スマートフォンと一緒に授業に毎回持参すること 担当者の連絡先・E-mail：hoono@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	文書表現基礎	教員	久保田 京子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-L103-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	講義	年次	1 年前期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	文書作成基礎、文章表現力、文書作成演習、敬語、保育現場の文書									
授業概要	社会人として必要な文章表現力や保育現場で必要となる文書作成の知識やルールなどについて、演習やディスカッションを通じて実践的に学び、基礎力を身につける。									
到達目標	1.文章表現の基礎知識と表現力及び教養を身につけることができる。									
	2.レポート等の作成など、大学生活に必要な文章作成力が向上する。									
	3.職業生活に必要な各種文書の基礎が実践的に身につく。									
履修条件、注意事項	状況により遠隔授業を併用することもある									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 文書表現概論（学ぶことの意義、必要性）								1.2.3	面接
	2. 文章表現の基礎①（話し言葉と文章語）								1.2	面接
	3. 文章表現の基礎②（構成、文体、慣用句等）								1.2	面接
	4. わかりやすい文について（事実と意見・考察の区別、要約、5W3H）								1.2	面接
	5. 敬語の基本と実践								1.3	面接
	6. 挨拶文・礼状等の書き方と社交文書の基本								1.3	面接
	7. 電子メールのルールとマナー								1.3	面接
	8. レポートや論文の書き方の基本								1.2	面接
	9. 実践的な文書の書き方（1）文書の種類と基本書式								1.3	面接
	10. 実践的な文書の書き方（2）依頼文、照会文等								1.3	面接
	11. 実践的な文書の書き方（3）電話メモ、会議録等								1.3	面接
	12. 保育実習や業務に係る文書の書き方（1）								1.2.3	面接
	13. 保育実習や業務に係る文書の書き方（2）								1.2.3	面接
	14. 保育実習や業務に係る文書の書き方（3）								1.2.3	面接
	15. 「保育現場で必要な文章力」（冊子）、「紹介したい絵本」（冊子）の作成								1.2.3	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（40%）②提出プリント・レポート（20%）③復習小テスト（20%）④授業態度・参加度（20%）により、総合的に評価する。 評価の基準：①・③知識・理解・技能・表現を測定 ・文書作成の基礎が身につく、習得した知識の活用ができる。 ②・④関心・意欲・態度を測定 ・ディスカッション・発表等において、積極的に発問や発言ができています。									
フィードバックの方法	毎時間の授業プリントは添削指導し各自の良さを伝える。小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。									
時間外の学習 について	予習：テキスト練習問題や配布プリントの事前学習（各回 90 分程度） 復習：授業プリントをファイルに整理し（ポートフォリオ）、課題を実施（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「ビジネス文書実務 改訂版」石井典子・三村善美著 早稲田教育出版 参 考 書：特になし 参考資料等：毎時、授業プリント配布。									
実務経験を活かした 授業について	教職経験（高校・国語）、行政職経験をもとに、文書作成や文章表現について、職場や社会で活用できるよう実践的に指導を行います。									
担当者からの メッセージ等	保育に携わる職業人として、文章表現によるコミュニケーション力を磨き、様々な文書作成の基礎を身につけましょう。授業プリントや授業で作成する冊子はポートフォリオとして振り返りに使い、学びの成果として卒業後も活用しましょう。 担当者の連絡先・メールアドレス T0001@yamaquchi-ica.ac.jp									

科目名	体育（実技）	教員	吉野 信朗 （単独）	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-L12I-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力			
授業形態	実技	年次	I 年後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（幼稚園）										
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	スポーツ、表現活動、協調性、コミュニケーション能力									
授業概要	球技では、基礎技能とコミュニケーション活動を中心にゲームを円滑に進められるように学習する。表現運動では、身体を通じた自己表現することや空間を活かした表現をする。また互いに鑑賞し、他者評価し相互理解を行う。総じて様々なスポーツの経験を得ることを目標とする。									
到達目標	1. 基礎的なスポーツマナーを理解できる。									
	2. バレーボールの理解と技術が習得できる。									
	3. 卓球の理解と技術が習得できる。									
	4. バドミントンの理解と技術が習得できる。									
	5. ダンス・体操の理解と技術が習得できる。									
履修条件、注意事項	運動のできる服装で参加すること。									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. スポーツをする上での身なりと基礎的なスポーツマナー								1	面接
	2. バレーボールの基礎技能（パス・サーブ）								2	面接
	3. バレーボールの応用技能（フォーメーション）								2	面接
	4. バレーボールのゲームⅠ 基礎								2	面接
	5. バレーボールのゲームⅡ 試合								2	面接
	6. 卓球の基礎技能（サーブ・ラリー）								3	面接
	7. 卓球のゲームⅠ 基礎								3	面接
	8. 卓球のゲームⅡ 試合								3	面接
	9. バドミントンの基礎技能（サーブ・ラリー）								4	面接
	10. バドミントンのゲームⅠ 基礎								4	面接
	11. バドミントンのゲームⅡ 試合								4	面接
	12. 体操・身体表現者としてのダンス								5	面接
	13. 創作ダンス（ダンス作成）								5	面接
	14. 創作ダンス（ダンス練習）								5	面接
	15. 創作ダンス（発表）								5	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①授業への参加（20％）②授業中の課題（60％）③レポート（20％） 評価の基準：①関心・意欲：スポーツへの取り組みを重視する。 ②関心・意欲、思考・判断：グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ③知識・理解、思考・判断：テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する。									
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。									
時間外の学習 について	予習：ルール学習（各回 45 分程度） 復習：観る・する・調べるスポーツを楽しむ（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：必要に応じて適宜配布する。 参 考 書： 参考資料：									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	人数や気候によっては、一部内容を変更することがあります。 担当教員の連絡先・メールアドレス n-yoshi@c-able.ne.jp（吉野）									

科目名	保育者入門セミナー Ⅰ	教員	山本 山田、森下、永田 難波、杉山、上村 （オムニバス）	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	○
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S101-010	学科	保育学科	卒業要件	必修		⑤	保育の計画力		
授業形態	講義	年次	Ⅰ 年前期				⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	自己の成長を確認する視点の獲得、保育現場体験等による専門職理解、グループワークによる協調性の育成、社会人としてのマナーの確認、山口芸術短期大学保育学科の理解									
授業概要	ディプロマポリシーに示す、本学の目指す人材養成の基盤となる基本的な姿勢と基礎的な知識、技能を身につけ、本学での学びにスムーズに適応することを目指す。建学の精神「至誠」と教育の理念を軸とする本学の概要と目指すべき人物像を理解し、そこに向けての成長を確認する視点として、ポートフォリオおよび履修カルテの利用方法について理解する。また、今後の学びをより主体的に意欲をもって取り組むために、早い段階で保育現場や子どもの遊びを体験し、専門職の魅力や実際を実感するとともに、様々なグループワークを通して人間関係を構築し、協調性とコミュニケーション能力を養う。さらに、ICT 機器の操作やマナー講座を受講し、社会人としての必要なスキルと規範意識を高める。									
到達目標	1. 保育職理解のための専門的知識・技能の基礎を習得することで、他の授業科目の理解を増進させることができる。									
	2. 保育職に関する知識を学ぶことで、自己の保育職を目指す気持ちを明確化することができる。									
	3. 他者と協調して課題に取り組むことで、協調性の重要性を理解し、周囲へ貢献する意欲を高めることができる。									
	4. 実習を経験し、子どもたちと触れ合うことで、学生生活や学びへのモチベーションを高めることができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 「建学の精神」と「教育の理念」、ポリシーと「学修成果」、ポートフォリオ・履修カルテの理解（担当：山田、森下、山本）							4	面接	
	2. 2年間の養成課程（履修・実習・就職・学生生活について）（担当：山本、永田、杉山）							2,4	面接	
	3. 幼稚園免許、保育士資格の理解、初年次保育現場体験（Ⅰ）-①（幼稚園Ⅰ日見学実習の心得）（担当：山田、上村、山本）							1,2,4	面接	
	4. 初年次保育現場体験（Ⅰ）-②（幼稚園Ⅰ日見学実習の事前指導・名札制作）（担当：山田、上村、山本）							1,2,4	面接	
	5. 初年次保育現場体験（Ⅰ）-③（幼稚園Ⅰ日見学実習の振り返り、協議）（担当：山田、上村、山本）							1,2,3,4	面接	
	6. 保育者に関する基礎的事項の確認、入学前課題の確認（担当：山本）							1,4	面接	
	7. 図書館の使用法・遠隔授業についてのオリエンテーション（担当：上村、山本）							2,4	面接	
	8. スタディスキル(Ⅰ)(2)受講態度・課題管理・相談マナー・批判的思考・調査について（担当：森下、山本）							1,4	オンデマンド	
	9. スタディスキル(3)(4)(5)調査・ディスカッション・プレゼンテーション・レポートの書き方について（担当：山本、上村）							1,4	面接	
	10. 日本語（敬語）の使い方・マナー講座（担当：山本）							2,4	面接	
	11. 保護者対応・言葉遣い・立ち居振る舞いについて（担当：難波、山本）							1,2,4	面接	
	12. 保育職研究（専門的コミュニケーション・保護者対応について）（担当：難波、山本）							1,2,4	面接	
	13. 初年次保育現場体験（2）-①（夏休み課題実習の事前指導・電話かけについて）（担当：上村、杉山、山本）							1,2,4	面接	
	14. 初年次保育現場体験（2）-②（夏休み課題実習の事前指導・依頼状の書き方）（担当：上村、杉山、山本）							1,2,4	面接	
	15. 初年次保育現場体験（2）-③（夏休み課題実習の事前指導・諸注意）（担当：上村、杉山、山本）							1,2,4	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①レポート・小テスト 30% ②授業課題への取り組み 20% ③保育現場体験への取り組み 35%、④ボランティア活動等の参加ポイント 15% 評価の基準：①レポート・小テスト ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・保育職・保育活動に関する必要な理解と知識を身につけている。 ・授業や現場体験を踏まえ、保育における活動の在り方を考察することができる。 ・自らを省察し自己評価することができる。 ・適切な文章表現で、レポートを書くことができる。 ②授業課題への取り組み ＊思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度を測定 ・グループでの課題に積極的に関わることができる。 ・協調的にグループワークに取り組むことができる。 ・責任感を持って役割を果たすことができる。 ③保育現場体験への取り組み ＊関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で意欲を持って現場体験に臨むことができる。 ④ボランティア活動等の参加ポイント ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・場や相手に応じた適切な会話を身につけるために努力できる。 ・ボランティア活動等に積極的に参加したり、自分の能力を高めるための活動を行ったりすることができる。									
フィードバックの方法	レポートについては、優れた内容のものを全体に紹介し、共有する。									
時間外の学習について	予習：手引き等の資料に事前に目を通しておく。（各回 45 分程度） 復習：授業内容や各種体験を振り返ってまとめ、考察を深める。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『実習の手引き』『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育者になるための初年次教育・キャリア教育』 参 考 書：『学生ハンドブック』 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	連絡先メールアドレスは、授業内で周知する。									

科目名	保育者入門セミナーⅡ	教員	山本 山田、森下、香川 永田、難波 杉山、上村 (オムニバス)	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	○
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S102-010	学科	保育学科	卒業要件	必修		⑤	保育の計画力		
授業形態	講義	年次	I 年後期				⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	自己評価による課題の明確化、保育職の理解、グループワークによる協調性の育成									
授業概要	ディプロマポリシーに示す、本学の目指す人材養成の基盤となる基本的な姿勢と基礎的な知識、技能を身につけ、本学での学びにスムーズに適応することを目指す。 ルーブリックとポートフォリオおよび履修カルテを用いて前期履修状況を振り返り、現状の自己の課題を明確化する。また、植物栽培を体験することで、専門職への意欲を高めながら、豊かな感性を育む。研修旅行の準備を通じて、協調性を育みコミュニケーション力を高めるとともに、グループワークにおける役割に対する責任感を身につける。3 日間の保育現場体験を通して、より具体的に保育現場へのイメージを獲得し、意欲を高める。									
到達目標	1. 保育職理解のための専門的知識・技能の基礎を習得することで、他の授業科目の理解を増進させることができる。									
	2. 保育職に関する知識を学ぶことで、自己の保育職を目指す気持ちを明確化し、自己の課題を発見できる。									
	3. 保育という仕事に対する理解が深まることで、主体的な学習態度が身につく。									
	4. 他者と協調して課題に取り組むことで、協調性の重要性を理解し、周囲へ貢献する意欲を高めることができる。									
	5. 実習を経験し、子どもたちと触れ合うことで、学生生活や学びへのモチベーションを高めることができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画							到達目標	授業方法		
	1. ルーブリックとポートフォリオ、履修カルテの記入、授業内での PC 活用について(担当：山田、森下、山本)						2,3,5	面接		
	2. 初年次保育現場体験(2)-④（夏休み課題実習の振り返り）(担当：上村、杉山、山本)						1,2,3,5	面接		
	3. 保育職研究①（就職について）(担当：永田、山本)						2,3,5	面接		
	4. 保育職研究②（就職に関する 2 年生からのアドバイス）(担当：永田、山本)						2,5	面接		
	5. 初年次保育現場体験(2)-⑤（実習先内諾訪問指導）(担当：上村、杉山、山本)						1,2,3,5	面接		
	6. 子どもあそび体験（舞台発表観覧）(担当：山本、永田、森下)						1,2,3,5	面接		
	7. 子どもあそび体験（展示・口頭発表観覧）(担当：山本、永田、森下)						1,2,3,5	面接		
	8. 植物栽培（チューリップの植え付け）(担当：山本)						3,5	面接		
	9. 研修旅行①（研修旅行の目的理解とグループ分け等）(担当：山本、永田、難波、杉山)						2,3,4,5	面接		
	10. 研修旅行②（各役割の内容理解）(担当：山本、永田、難波、杉山)						2,3,4,5	面接		
	11. 研修旅行③（グループでの計画立案）(担当：山本、永田、難波、杉山)						2,3,4,5	面接		
	12. 研修旅行④（グループでの準備）(担当：山本、永田、難波、杉山)						2,3,4,5	面接		
	13. 初年次保育現場体験（3）-①（幼稚園 3 日間見学実習：実習園の理解）(担当：山田、香川、上村、山本)						1,2,3,4,5	面接		
	14. 初年次保育現場体験（3）-②（幼稚園 3 日間見学実習：課題理解と実習に関わる留意点）(担当：山田、香川、上村、山本)						1,2,3,4,5	面接		
	15. 初年次保育現場体験（3）-③（幼稚園 3 日間見学実習：振り返り、協議）(担当：山田、香川、上村、山本)						1,2,3,4,5	面接		
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①提出物・レポート 30%、②保育現場体験への取り組み 35%、③授業への取り組み 25%、④ボランティア活動等の参加ポイント 10% 評価の基準：①提出物・レポート ＊知識・理解及び思考・判断を測定 ・保育職に関する必要理解と知識を身につけている。 ・保育現場体験をもとに自己を省察し、自己の課題を明らかにすることができる。 ②保育現場体験への取り組み ＊関心・意欲・態度を測定 ・意欲的な態度で、現場体験の準備や学習に取り組むことができる。 ・保育者を目指す学生としてふさわしい言動を身につけている。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲・態度を測定 ・積極的にグループ活動に参加できる。 ・他者と協調しながら授業の課題に挑むことができる。 ④ボランティア活動等の参加ポイント ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・場や相手に応じた適切な会話を身につけるために努力できる。 ・ボランティア活動等に積極的に参加したり、自分の能力を高めるための活動を行ったりすることができる。									
フィードバックの方法	提出物やレポートについて、優れた内容の物については他の学生に紹介し、共有する。									
時間外の学習について	予習：グループワークにおける役割分担に関わる事前準備、現場体験に関する資料の確認（各回 45 分程度） 復習：授業や現場体験の振り返りをまとめ、考察を深める（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『実習の手引き』『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育者になるための初年次教育・キャリア教育』 参 考 書：『学生ハンドブック』 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	連絡先メールアドレスは、授業内で周知する。									

科目名	保 育 原 理	教員	野村 不二子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S103-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	講義	年次	1 年後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	保育に関する基本、専門知識、専門技術									
授業概要	保育と法令、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の目的・目標・内容・方法、保育の計画、保育の歴史、保育者の専門性、現代の保育の課題									
到達目標	1. 保育の制度、保育の基本原則をとおして保育の本質を理解できる。 2. 乳幼児期の発達と保育、保育所保育の特性について理解できる。 3. 保育の目的・目標・内容・方法などについて理解できる。 4. 保育の計画及び評価について理解できる。 5. 保育の思想・歴史の変遷から子ども観、保育の基本、保育の現状と課題について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 保育の基礎的概念 保育原理の概要 保育について								1	面接
	2. 保育の制度 子どもと保育に関する法令と制度								1	面接
	3. 保育の基本理論 保育所について学ぶ（1） 保育所保育指針概要								1, 2	面接
	4. 保育の基本理論 保育所について学ぶ（2） 保育の内容								1, 2	面接
	5. 乳幼児の理解 乳児保育、3 歳未満児、3 歳以上児の保育								2	面接
	6. 保育の基本理論 幼稚園について学ぶ								1	面接
	7. 保育の基本理論 幼保連携型認定こども園について学ぶ								1	面接
	8. 保育の基本理論 保育所保育の方法								1, 3	面接
	9. 保育の基本理論 保育の計画と評価								2, 3, 4	面接
	10. 保育の実践 子ども理解に基づく保育（1）								2, 4	面接
	11. 保育の実践 子ども理解に基づく保育（2）								2, 4	面接
	12. 保育の実践 地域社会で行う子育ての支援								1, 3	面接
	13. 保育の実践 障害児を受け入れる保育								2, 3	面接
	14. 保育の歴史 日本と西欧の歴史・思想の変遷								2, 5	面接
	15. まとめ 日本および諸外国の保育の現状と課題								1, 3, 5	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション									
成績評価基準	評価の方法：①授業内小テスト（60％）②課題・指導案作成（25％）③授業への参加度、予習、復習の自主学習（15％） 評価の基準：①授業内小テスト：知識、理解の定着度を測定 ・各回の知識を扱った問題に回答できる ・応用レベルの問題に回答できる ②指導案作成・準備物製作：思考・判断・技能を測定 ・知識や理解したことを保育実践に応用できる ・必要な準備物を製作し、技法を身に付ける ③復習、予習の自主的学修を含む授業への参加度：関心・意欲・態度を測定 ・教科書を読む、積極的に発言、質問する									
フィードバックの方法	・小テスト返却時に解説を行い、理解につなげる ・指導案、課題はコメントを入れ、改善点を示し、理解につなげる									
時間外の学習 について	予習：教科書を読み、理解する（各回 90 分程度） 復習：授業の振り返りとノートの整理（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：保育原理 子どもの保育の基本理論の理解 岡田耕一編者 萌文書林 参 考 書：「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」 チャイルド本社 参考資料等：保育所保育指針解説 厚生労働省編（フレーベル館）									
実務経験を活かした 授業について	保育士経験：実務経験をもとに、乳幼児に関する保育の基本理論、実践のあり方について話をします。									
担当者からの メッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：fnomura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	教育原理Ⅰ	教員	山本 朗登 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S104-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	Ⅰ年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	教育の本質に関する幅広い理解、教育に関わる時事的な知識、教師としての倫理観									
授業概要	教育の基礎的概念を学び、 教育とは何か、どのような目的で行われ、どのような意義を有するのか、講義を通じて考察を行う。また教育の歴史や思想を学び、その中で形成された教育理念のいくつかを学習・分析するとともに、これまで教育や学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解し、今後の教育・保育のあり方や現代社会における課題について考察する素地を作る。									
到達目標	1.教育の基礎的概念・子ども家庭福祉との関連を理解し、教育成立への諸要因と相互関係を把握することで、教育の在り方を考察することができる。									
	2.教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、教育の変遷について理解し、今後の教育への展望を考察することができる。									
	3.教育思想の基礎的概念を習得し、実際の教育や学校との関わりを理解することで、理論と実践の関係性を考察することができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 教育の基礎的概念① これまで受けてきた教育を基に、学校・家庭・地域や子ども・教員・保護者の相互関係を考える								Ⅰ	面接
	2. 教育の基礎的概念② 教育の意義・目的（教育理論と教育の目的の理解）								Ⅰ	面接
	3. 教育の基礎的概念③ 教育の本質と目標（教育とは何かを考える）								Ⅰ	面接
	4. 教育の思想① 児童観・家庭観と教育観の変遷（乳幼児期の教育の特性・子ども家庭福祉との関連）								Ⅰ, 2, 3	面接
	5. 教育の思想② 主要な教育思想家と教育論（ペスタロッチ・フレーベル・倉橋惣三等）								2, 3	面接
	6. 教育の思想③ 主要な教育思想家と教育論（教育論を基に、学習と学校の関係および授業指導案を理解する）								Ⅰ, 2, 3	面接
	7. 教育の歴史① 学校を取り巻く環境・教育課題の歴史的経緯（近代教育制度の成立と教育課程を題材に）								Ⅰ, 2	面接
	8. 教育の歴史② 学校を取り巻く環境・教育課題の歴史的経緯（虐待・学校へのクレーム等、今日的教育課題を基に、教育と家族・社会の関係を考察する）								Ⅰ, 2	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 70%、②授業内レポート 20%、③授業ファイル 10% 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定 ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 ②授業内レポート ＊思考力・判断力、関心・意欲を測定 ・題材に関心を持ち、明確な根拠に基づいて自分の考えを述べることができる。 ③授業ファイル ＊知識・理解の定着度と関心・意欲を測定 ・正確な知識を、丁寧に整理しまとめることができる。									
フィードバックの方法	授業内レポートを回収した次の授業で、コメント内容を紹介し、それをもとに考察を深める。									
時間外の学習 について	予習： 教育・保育関連のニュース等に関心を払い、次回授業のテーマに沿って情報収集を行う（各回 90 分程度） 復習： 授業内容を復習するとともに、関連ニュースについて考察を行う（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：授業用資料を適宜配布する。 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：授業中に適宜配布する。									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	ayamoto@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	教育原理Ⅱ	教員	山本 朗登 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S105-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	I 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	教育の本質に関する幅広い理解、教育に関わる時事的な知識、教師としての倫理観									
授業概要	現代の学校教育に関する社会的・制度的な事項について、近年の社会状況を踏まえて学校教育のあり方・教育政策を理解するとともに、公教育制度や教育行政の理解など基礎的知識を身につける。 また、学校と地域の連携や学校安全などの現代社会における教育の課題についても基礎的知識を身につける。									
到達目標	1.教育と社会の関係性や教育政策、公教育制度について理解し、生涯学習を含めた教育の課題について考察することができる。									
	2.学校と地域との連携や地域との協働の仕方および教育実践の基礎理論・多様な実践事例を理解することで、学校の在り方を考察することができる。									
	3.学校内外での危機管理・事故対応・学校安全の必要性について理解し、必要な対策を考察、実施することができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 教育と社会① 子どもの生活の変化や学校をめぐる社会状況の変遷								I	面接
	2. 教育と社会② 社会状況の変化に対応する昨今の教育政策、生涯学習社会と教育の課題								I	面接
	3. 教育の制度・行政① 公教育制度の基礎と教育法規								I	面接
	4. 教育の制度・行政② 国内外の教育制度とそれを支持する教育行政システム								I	面接
	5. 教育実践・学校と地域の連携① 学校の閉鎖性批判と学校教育活動のあり方と意義・方法								I,2	面接
	6. 教育実践・学校と地域の連携② 事例から見る地域との連携、開かれた学校とは何か								I,2	面接
	7. 教育と学校安全① 教育現場の災害対応とその課題、阪神淡路大震災・東日本大震災を事例に								3	オンデマンド
	8. 教育と学校安全② 学校内外の事件事故と危機管理、開かれた学校のあり方								I,3	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 70%、②授業内レポート 20%、③授業ファイル 10% 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定 ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 ②授業内レポート ＊思考力・判断力、関心・意欲を測定 ・題材に関心を持ち、明確な根拠に基づいて自分の考えを述べることができる。 ③授業ファイル ＊知識・理解の定着度と関心・意欲を測定 ・正確な知識を、丁寧に整理しまとめることができる。									
フィードバックの方法	授業内レポートを回収した次の授業で、コメント内容を紹介し、それをもとに考察を深める。									
時間外の学習 について	予習： 教育・保育関連のニュース等に関心を払い、次回授業のテーマに沿って情報収集を行う（各回 90 分程度） 復習： 授業内容を復習するとともに、関連ニュースについて考察を行う（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：授業用資料を適宜配布する。 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：授業中に適宜配布する。									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	ayamoto@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	社 会 福 祉	教員	佐藤 真澄 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	○
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S107-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	1 年前期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	社会福祉、社会保障、子ども家庭支援、相談援助									
授業概要	社会福祉の理念、社会保障の仕組み、社会福祉における子ども家庭支援の考え方や方法、そのために必要な相談援助の技術について学ぶ。授業は講義が中心だが、相談援助を扱う回などでは、授業の一部にロールプレイやグループワークなどの演習を取り入れる。									
到達目標	1. 社会福祉における子ども家庭支援の視点について説明できる。									
	2. 社会福祉の理念、意義、制度や実施体系等について説明できる。									
	3. 社会福祉の専門職として求められる相談援助、コミュニケーションの技法を用いることができる。									
	4. 社会福祉における利用者（子ども）の人権とその保護に関わる仕組みについて説明できる。									
	5. 社会福祉の動向と課題について理解し、地域社会の一員としての役割を挙げることができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 社会福祉の理念と概念、歴史的変遷								1, 2	面接
	2. 子ども家庭支援と社会福祉								1, 4	面接
	3. 社会福祉の制度と法体系								2	面接
	4. 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設								2	面接
	5. 社会福祉の専門職								2	面接
	6. 社会保障および関連制度の概要								2	面接
	7. 【小テスト】／相談援助の理論								3	面接
	8. 相談援助の意義と機能								3	面接
	9. 相談援助の対象と過程								3	面接
	10. 相談援助の方法と技術								3	面接
	11. 【小テスト】／社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み								4	面接
	12. 少子高齢化社会における子育て支援								1, 2, 5	面接
	13. 共生社会の実現と障害者施策								2, 5	面接
	14. 在宅福祉, 地域福祉の推進および諸外国の社会福祉の動向								2, 5	面接
	15. 【小テスト】／グループワーク：少子高齢化社会における子育て支援の方策								1, 2, 4, 5	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 3 回（80%）、②演習の課題（10%）、③授業への参加度（10%） 評価の基準：①小テスト ＊知識・理解を測定 ・教科書および配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。 ②演習の課題 ＊知識・理解および思考・判断を測定 ・演習課題の記述内容およびプレゼンテーションの内容が適切である。 ③授業への参加度 ＊関心・意欲および態度を測定 ・ディスカッションやグループワークで積極的に発言できている。 ・レスポンスシートに自分の考えが記述できている。									
フィードバックの方法	講義の回では、授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。 演習の回では、演習課題を提出してもらい、次回の授業時にコメントする。									
時間外の学習 について	予習：テキストの当該ページを一読し、わからない用語等をピックアップしておく。（各回 90 分程度） 復習：ノートを作成し、授業内容を整理しておく。テキストの該当ページを読み、重要事項をノートにまとめる。 作成したノートは小テストの際に持ち込み可。（各回 90 分程度） 日頃から社会福祉の制度や社会問題に関するニュース（テレビ・新聞等）に関心をもち、情報収集しておく。									
教材にかかわる情報	テキスト：『新・基本保育シリーズ第 4 巻 社会福祉 第 2 版』中央法規出版 参 考 書：特になし 参考資料：必要に応じて都度配布する									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	E-mail：satoh@gakugei.ac.jp									

科目名	保 育 者 論	教員	弘中 順一 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関 係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S109-110	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	1 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	保育者としての専門知識・役割・倫理観・地域との連携（協働）									
授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 保育現場の実情、実践、事例などを踏まえ、保育者の役割、倫理、資格、専門性について理解を深める。また、保護者、地域の専門機関との連携など保育者の協働について学び、実践力や応用力を持った保育者としての専門的知識・技術を身につける。									
到達目標	1. 幼児教育や保育の社会的意義や制度的な位置づけ、今日の幼児教育や保育に関する社会的動向を理解できる。									
	2. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の専門性や職務内容について理解できる。									
	3. 保育者に求められる役割や資質能力、保育者に課せられる服務上・身分上の義務・倫理について理解できる。									
	4. 保育現場が担う役割が拡大・多様化する中で、保育者間や内外の専門家等と協働(連携・分担)の必要性について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 保育者の役割と存在意義・倫理の重要性								1, 2	面接
	2. 幼稚園教諭免許・保育士資格・保育教諭資格について								2	面接
	3. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の位置づけ								1	面接
	4. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の責務に関する事例 小テスト①								1, 2	面接
	5. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領を踏まえた養護と教育								2, 3	面接
	6. 保育者の専門性・資質・能力に関わる知識・技術（職務の全体像、教員研修、服務上身分上の義務）								2, 3	面接
	7. 子ども理解（発達・行動・遊び）と保育者の専門性								2	面接
	8. 保育指導案の立案、模擬保育を通して学ぶ保育の基本的な内容								2	面接
	9. 保育の省察・評価（実践・実習を通して）								3	面接
	10. 子育て支援に関する事例								3, 4	面接
	11. 幼稚園・保育所（園）及び専門機関との連携								4	面接
	12. 保育者及び地域社会との協働								4	面接
	13. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭と家庭的保育者等との連携についての必要性 チーム学校運営への対応								2, 3, 4	面接
	14. 保育者の専門性・職業的特徴 小テスト②								2	面接
	15. 保育者としての成長								2, 3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①まとめレポート 20% ②小テスト 30% ③授業内レポート 20% ④提出課題 20% ⑤授業への取り組み 10%（保育者についての知識・理解度・思考・判断・表現力 及び授業に対しての意欲・関心・態度などを総合的に評価する） 評価の基準：①まとめレポート ＊知識・理解、思考・判断、表現力の測定 ・授業を通して学んだ事項を基に、保育者として自説を述べるができる ②小テスト ＊知識・理解の測定 ・授業内容にかかわる問題に回答できる ③授業内レポート ＊知識・理解、思考・判断、表現力の測定 ・各回の授業内容を理解し、課題や質問を見つけることができる ④提出課題 ＊思考・判断の測定 ・課題に対して自分なりに理解し、調べてまとめることができる ・保育者としての観察力、考察力をもって取り組むことができる ⑤授業への取り組み ＊関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で、保育者に関する学びを積極的に行うことができる									
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。レポート課題を回収し、次の授業で説明する。									
時間外の学習 について	予習：各回の授業計画を把握しておく。各回 90 分程度 復習：プリント、資料等をファイルに綴じて、授業で習ったことをまとめておく。各回 90 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」文部科学省 チャイルド本社、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参 考 書：「日本版保育ドキュメンテーションのすすめ」大豆生田啓友、おおえだけいこ著 教育技術新幼児と保育MOOK 参考資料：毎回資料及びレジュメを配布 情報機器教材 保育実践事例									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園園長経験、保育現場での造形表現の実務経験をもとに、幼児の保育、子育て支援及び実習について話をします。									
担当者からの メッセージ等	テキスト・ノートを毎回、持参すること 担当者の連絡先・E-mail：hironaka@yamaguchi-jca.ac.jp（弘中）									

科目名	保育・教育の心理学	教員	上村 有平 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S12I-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	1年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の対象の理解に関する科目									
授業テーマ	発達と学習の過程の理解、子ども理解に基づく援助									
授業概要	子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、養護と教育の一体性や発達に応じた援助の基礎となる考え方を理解する。また、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。									
到達目標	1.子どもの心身の発達の過程・特徴を理解できる。									
	2.子どもの学習に関する基礎的な知識を身につけ、養護と教育の一体性や発達に応じた援助について基礎的な考え方を理解できる。									
	3.保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 子どもの発達を理解することの意義、子どもの学びの過程と特性								1, 2, 3	面接
	2. 子どもの学びを支える保育・教育								2	面接
	3. 子どもの学びに関わる理論								2	面接
	4. 身体的機能と運動機能の発達								1	面接
	5. 言語の発達								1	面接
	6. クラス集団の心理								1, 3	面接
	7. 社会性の発達								1, 3	面接
	8. 発達をふまえた評価								2	面接
	9. 社会情動的発達								1, 3	面接
	10. パーソナリティの発達								1	面接
	11. 認知の発達								1, 2	面接
	12. 子どもの発達と環境								1, 3	面接
	13. 記憶・感情のメカニズム								1, 2	面接
	14. 発達理論と子ども観・保育観								1, 2	面接
	15. まとめ								1, 2, 3	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（40%）、②課題・レポート（40%）、③授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②課題・レポート ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で学習に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加して自分の意見を表明することができる。									
フィードバックの方法	レポート課題は優れている事例を挙げて、その理由を説明する。									
時間外の学習 について	予習：次回の授業テーマについて情報を収集する。（各回 90 分程度） 復習：授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参 考 書：「実践に活かす保育の心理学」原口喜充（編）ミネルヴァ書房 「問いからはじめる発達心理学：生涯にわたる育ちの科学 改訂版」坂上裕子ほか 有斐閣 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。 E-mail： yuemura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	子ども家庭支援の心理学	教員	上村 有平 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S123-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	1 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の対象の理解に関する科目									
授業テーマ	生涯発達 子育て家庭 子どもの精神保健									
授業概要	生涯発達のプロセスおよび生涯発達における初期経験の重要性を理解する。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題をふまえながら、家族や家庭の意義や機能について理解を深める。子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。									
到達目標	1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。									
	2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できる。									
	3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。									
	4.子どもの精神保健とその課題について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 生涯発達とは何か							1	面接	
	2. 乳児期の発達							1, 2	面接	
	3. 幼児期から学童期前期の発達							1	面接	
	4. 学童期後期から青年期の発達							1	面接	
	5. エリクソンの生涯発達理論							1	面接	
	6. ライフコースと仕事・子育て							3	面接	
	7. 成人期・ 老年期における発達							1	面接	
	8. 親子関係・家族関係の理解							2	面接	
	9. 家族・家庭の意義と機能、子育てを取り巻く社会的状況							2, 3	面接	
	10. 子育ての経験と親としての育ち							2, 3	面接	
	11. 多様な家庭とその理解							3	面接	
	12. 子どもの心の健康に関わる問題							4	面接	
	13. 特別な配慮を要する家庭							3	面接	
	14. 子どもの生活・生育環境とその影響							4	面接	
	15. まとめ							1, 2, 3, 4	面接	
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（40%）、②課題・レポート（40%）、③授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②課題・レポート ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で学習に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加して自分の意見を表明することができる。									
フィードバックの方法	レポート課題は優れている事例を挙げて、その理由を説明する。									
時間外の学習 について	予習：次の授業テーマについて情報を収集する。（各回 90 分程度） 復習：授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。プリントを配布 参 考 書：「子ども家庭支援の心理学 演習ブック」 松本峰雄（監修） ミネルヴァ書房 「ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026」 中央法規出版 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。 E-mail： yuemura@yamaquchi-ica.ac.jp									

科目名	子どもの保健	教員	松尾 清巧 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S124-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	講義	年次	1 年後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の対象の理解に関する科目									
授業テーマ	健康保健、子どもの成長発達、子どもの病気や予防についての知識									
授業概要	保育者として健康増進・疾病や事故予防・安全教育の理解を深め、保育現場で実践指導できるようにする。									
到達目標	1.子どもの健康増進を図る母子保健行政の現状と意義を理解できる。									
	2.生命の成り立ち、子どもの身体発育や生理運動・精神機能の発達を理解できる。									
	3.子どもを取り巻く環境を理解し、子どもの健康増進と疾病対策を理解できる。									
	4.保育や家庭での子どもの事故について理解し、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、事故防止や安全管理を理解できる。									
	5.子どもの病気の成り立ちを理解し、その予防対策と多職種間の連携・協働下での対応を理解できる。									
	6.受動喫煙の害を学び、子どもへの防煙対策を理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1.子どもの健康に関する現状と課題、保育母子保健、地域における保健活動と虐待防止								1	面接
	2.生物としてのヒトの成り立ちと機能								2	面接
	3.子どもの身体発育と保健								2	面接
	4.子どもの生理機能の発達と保健								2	面接
	5.子どもの運動精神機能と保健								2	面接
	6.子どもを取り巻く自然と生活環境								3	面接
	7.健康と病気、異常について、子どもの特性								3,5	面接
	8.子どもの行動特性と事故の特徴								4	面接
	9.事故防止と安全対策・安全教育、救急時の対応と災害時への備え危機管理								4	面接
	10.子どもの病気の成り立ちとその特徴、子どもの体調の変化、保護者との情報共有								5	面接
	11.学校感染症と出席（登園）停止基準、集団生活の場での感染拡大防止								5	面接
	12.予防接種や伝染性疾患の感染拡大防止、感染対策の実践								5	面接
	13.アレルギー疾患とアレルギーを持つ児への対応、あわせてアナフィラキシー発生時の緊急対応とエピペン使用の適応								5	面接
	14.発達障害児の早期見つけ方や対応、早期発見早期支援								2,5	面接
	15.受動喫煙の子どもへの影響と防煙対策、家庭での子どもの受動喫煙防止教育								6	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	少人数グループでディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 80％ ②授業参加度・学修態度 20％ 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の測定 ・授業内容を理解し、基礎的・応用的な問題に回答できる ②授業参加度・学修態度 ＊関心・意欲・態度の測定 ・真摯な態度で授業に臨む									
フィードバックの方法	小テストを授業終了後に毎回行い学習効果を高める（解答例を示す）									
時間外の学習 について	予習：各回の授業計画を把握する（各回 90 分程度） 復習：授業を振り返り内容理解を確実にする（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「子どもの保健テキスト」、編集：小林美由紀、診断と治療社 参考資料：教科書に記載がない重要な事項について資料を作成し配布する、またスライド供覧し目で見て理解を深める									
実務経験を活かした 授業について	大学教員と小児科専門医の経験をもとに子どもの発達・生理機能・病気や事故の予防などに時に実例を含め講義する									
担当者からの メッセージ等	保育の現場で役に立つ子どもの特性を学び、感染予防対策法・事故防止の対処法・指導法などの知識と実践の習得をめざす。 担当者の連絡先は授業内で周知します。									

科目名	子ども家庭支援論	教員	今川 晋平 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S111-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	講義	年次	1年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力	○	
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	子育て家庭に対する支援の意義・目的、多様な子育て家庭のニーズに応じた支援の現状と課題									
授業概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的、および支援の体制について理解する。また、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 少子化に伴う子育て家庭の多様なニーズを理解し、それぞれに応じた支援の展開について、また、子ども家庭支援の現状と課題について事例を基に考える。									
到達目標	1.家庭・家族の機能について理解できる。									
	2.子育て家庭を取り巻く社会的状況、子育て支援の意義・目的について理解できる。									
	3.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。									
	4.子育て支援における保育者の役割、専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 子ども家庭支援の意義と役割（1）子ども家庭支援の意義と必要性								1,2	面接
	2. 子ども家庭支援の意義と役割（2）子ども家庭支援の目的と機能								1,2	面接
	3. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本（1）保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義								2,3,4	面接
	4. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本（2）子どもの育ちの喜びの共有								2,3,4	面接
	5. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本（3）保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援								2,3,4	面接
	6. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本（4）保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）								2,3,4	面接
	7. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本（5）家庭の状況に応じた支援								2,3,4	面接
	8. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本（6）地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力								2,3,4	面接
	9. 子育て家庭に対する支援の体制（1）子育て家庭の福祉を図るための社会資源								1,2	面接
	10. 子育て家庭に対する支援の体制（2）子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進								1,2	面接
	11. 多様な支援の展開と関係機関との連携（1）子ども家庭支援の内容と対象								3	面接
	12. 多様な支援の展開と関係機関との連携（2）保育所等を利用する子どもの家庭への支援								3	面接
	13. 多様な支援の展開と関係機関との連携（3）地域の子育て家庭への支援								3	面接
	14. 多様な支援の展開と関係機関との連携（4）要保護児童等及びその家庭に対する支援								3	面接
	15. 多様な支援の展開と関係機関との連携（5）子ども家庭支援に関する現状と課題								3	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50％）、②授業への取り組み（20％）、③授業内レポート・課題（30％） 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着度を測定 ・教科書や講義で学んだ問題に回答できる。 ・家庭の問題や等に回答できる。 ・相談や支援の方法について回答できる。 ②授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 思考・判断の測定 ・積極的に発言する。 ・グループでの活動に積極的である。 ③授業内レポート・課題 ＊知識・思考・判断、意欲・表現の測定 ・学んだことに対して自説を述べるができる。 ・記述内容が適切である。 ・学んだことを根拠に発達の表の作成ができる。									
フィードバックの方法	授業時間内に課題（DVD視聴含む）について考え、発表して振り返りを行う。									
時間外の学習について	予習：授業テーマに沿った子育てに関する情報（記事）を、新聞やインターネットから収集し、ノートに整理する。（各回 90 分程度） 復習：講義を通して学んだことをノートに整理し、知識の定着を図る。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『第2版 子ども家庭支援論』 原信夫・松倉桂子・佐藤ひろ 編著 北樹出版 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした授業について	保育園園長の経験から相談対応や保育の家庭支援、子育て支援から支援について話をします									
担当者からのメッセージ等	基本的な知識を身につけ、保育現場で実践できる講義をします。 担当者の連絡先・E-mail アドレス midorihoikuen.hofu@outlook.com									

科目名	教育課程論・ 保育の計画と評価	教員	山本 朗登 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S134-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤		保育の計画力	○	
授業形態	講義	年次	1年後期			⑥		保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦		専門的な コミュニケーション能力		
						⑧		課題解決能力		
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	教育の本質に関する幅広い理解、教師としての倫理観、計画の作成・協働									
授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を基準として編成される教育課程および全体的な計画において、計画（および評価）の役割やその意義、必要性、責任について議論・理解するとともに、各年齢のそれぞれの事例を分析し、課程や指導計画の編成方法についてグループワークを通じて学ぶ。あわせて評価から改善につながる一連のサイクルについて触れ、総合的にカリキュラム・マネジメントについて理解する。									
到達目標	1.教育課程・全体的な計画と指導計画及び評価の役割・機能・意義を理解することで、計画の全体像を把握できる。									
	2.教育課程の基本原則および幼稚園・保育所等におけるカリキュラム編成の方法を理解することで、基礎的な計画を作成できる。									
	3.カリキュラム全体をマネジメントすることの意義とあり方を把握し、計画の改善活動を行うことができる。									
	4.子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、全体構造を捉え、理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1.カリキュラムの基礎理論①カリキュラム・教育課程・全体的な計画とはなにか								1,2	面接
	2.カリキュラムの基礎理論②幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の性格・位置づけ・社会的背景								1	面接
	3.カリキュラムの基礎理論③教育課程・全体的な計画編成の目的と意義								1,2,4	面接
	4.教育課程・全体的な計画①幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂と社会的背景								1	面接
	5.教育課程・全体的な計画②教育課程・全体的な計画の作成と社会的役割・意義								1	面接
	6.教育課程・全体的な計画③課程編成の方法（実践例からみる選択・配列）と柔軟な運用								2,4	面接
	7.教育課程・全体的な計画④指導計画（長期・短期）の作成方法と作成上の留意事項、及び教育課程・全体的な計画との関連性								2,4	面接
	8.教育課程・全体的な計画⑤領域横断的な教育内容の選択・配列								2	面接
	9.評価とマネジメント①カリキュラム・マネジメントの必要性と方法、子どもの理解に基づく評価と記録・省察、改善の取組								1,3,4	面接
	10.評価とマネジメント②地域・学校との連携、長期的視野に基づく課程編成、発達の連続性と生活をふまえた指導要録・保育要録								2,3,4	面接
	11.評価とマネジメント③幼児の実態や家庭・地域・園の状況を踏まえた課程編成、小テスト								2,3	面接
	12.課程編成と展開①保育の計画の編成・評価・改善の意義と取組、PDCAサイクルと保育の質の向上（記録と省察を含む）								1,2,3,4	面接
	13.課程編成と展開②教育課程・全体的な計画の検討・作成								1,2,3	面接
	14.課程編成と展開③年間指導計画・月案の検討・作成								1,2,3	面接
	15.課程編成と展開④日案の検討・作成、発表								1,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 50%、②課題提出物 40%、③授業ファイル 10% 評価の基準：保育の計画全般に関する知識・理解、課程作成の課題への積極的参加とその内容、計画作成・改善に関する意義の理解を評価する。 ①小テスト ＊知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定 ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自分の考えを述べることができる。 ②課題提出物 ＊知識・理解の定着度と思考力を測定 ・計画に関する正確な知識をもとに計画案を作成することができる。 ・様々な要因を想定し、計画に含めることができる。 ③授業ファイル ＊知識・理解の定着度と関心・意欲を測定 ・正確な知識を、丁寧に整理しまとめることができる。									
フィードバックの方法	課題について、グループワークの作業内容をもとに授業者と逐次議論することで考察を深め、計画に関する様々な知識・技術の習得を目指す。									
時間外の学習 について	予習：出身園や実習園などの計画を収集、計画を公開している園の情報を集めるなどして調査する。各回 90 分程度。 復習：収集した園の計画を参照し、授業の内容の確認を行う。各回 90 分程度。									
教材にかかわる情報	テキスト：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考書：特になし 参考資料：必要な資料を授業中に適宜配布する									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	ayamamoto@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	人間関係の指導法	教員	富田 まり子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S136-I10	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	I 年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	領域『人間関係』のねらい及び内容、乳幼児期の人間関係の発達の特性、保育者の役割									
授業概要	幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『人間関係』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の人間関係の発達に即して、他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な保育実践力や指導方法を習得する。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『人間関係』のねらい及び内容等を理解できる。									
	2. 乳幼児の人間関係の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し身に付けていくべき内容と、小学校の教科等とのつながりや保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解できる。									
	3. 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解できる。									
	4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、保育実践・評価・改善する視点を身に付け、実践できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 領域『人間関係』の「ねらい」「内容」および「内容の取り扱い」とその構造								1,2	面接
	2. 乳幼児期における人とかかわりの発達－けんかで学ぶ自己主張と自己抑制－								1,2,3	面接
	3. 乳幼児期における人とかかわりの発達－道徳性・規範意識の芽生え－								1,2,3	面接
	4. 乳幼児期における人とかかわりの発達－道徳的態度の育ち－								1,2,3	面接
	5. 遊びの中で育つ人とかかわりと保育実践－スキルあそび－								2,3,4	面接
	6. 遊びの中で育つ人とかかわりと保育実践－わらべうたあそび－								2,3,4	面接
	7. 遊びの中で育つ人とかかわりと保育実践－ルールのあるあそび－								2,3,4	面接
	8. 集団遊びにおける保育者の援助について								1,2,4	面接
	9. 自立心を育て、人と関わる力を養うための保育実践－指導案の作成－								1,2,3,4	面接
	10. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有（スキルあそび）								1,2,3,4	面接
	11. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有（わらべうたあそび）								1,2,3,4	面接
	12. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有（ルールのあるあそび）								1,2,3,4	面接
	13. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有（まとめ）								1,2,3,4	面接
	14. 保護者とかかわり・保育者同士のかわり								1,2	面接
	15. 人間関係をつくり、学び合い、育ちゆく保育者								1,2,4	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：①試験（小テスト）40％ ②授業内レポート40％ ③発表20％ 評価の基準：目標への理解、思考、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。 ①試験（小テスト） ＊知識・理解の測定 ・授業で扱った内容について、基礎的・応用的問題に回答できる。 ②授業内レポート ＊知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて自説を述べるができる。 ③発表 ＊知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・主体的、協調的にグループワークに取り組むことができる。									
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。									
時間外の学習 について	予習：テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと（各回45分程度） 復習：配布資料整理・授業の振り返り 適宜レポートを課題とする（各回45分程度）									
教材にかかわる情報	参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭・保育士・園長経験をもとにして、子どもの発達、人とかかわる力を育む保育内容、援助についてお話をします。									
担当者からの メッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：mtomita@yamaguchi-jca.ac.jp（富田）									

科目名	言葉の指導法	教員	野村 不二子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S138-I10	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	I 年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	領域『言葉』のねらい及び内容、乳幼児期の言葉の特性、保育者の言葉についての専門知識や技術									
授業概要	幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『言葉』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の言葉の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育実践力や指導方法を習得する。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『言葉』のねらい及び内容を理解できる。									
	2. 乳幼児の言葉の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、小学校とのつながりや、保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解できる。									
	3. 領域の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解できる。									
	4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点が身につく、実践できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『言葉』の理解及び位置づけ								I	面接
	2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『言葉』のねらいと内容の理解								I	面接
	3. 乳幼児の言葉の発達についての知識・理解								2	面接
	4. 言葉の発達過程と保育者の援助方法～0・1・2歳児								2	面接
	5. 言葉の発達過程と保育者の援助方法～3・4・5歳児								2	面接
	6. 保育者の話し方・聞き方・応答的関わり～児童文化財を通して								3	面接
	7. 保育者の話し方・聞き方・応答的関わり（情報機器及び教材の活用）								3	面接
	8. 言葉指導に関する保育実践の知識・技術の習得								4	面接
	9. 言葉遊びの実践～言葉遊びを考える								4	面接
	10. 言葉遊びの実践～模擬保育（グループ発表）保育指導案を立案する								4	面接
	11. 言葉遊びの実践～模擬保育（グループ発表）模擬保育をする								4	面接
	12. 言葉遊びの実践～模擬保育（グループ発表）反省及び考察をする								4	面接
	13. 絵本について～分類と役割、読み聞かせ技術の向上								3	面接
	14. 表現媒体の活かし方（情報機器及び教材の活用）								3	面接
	15. 素話についての知識・技術の向上								3	面接
アクティブ・ラーニング	模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 50％・②授業内レポート 20％・③実践への取り組み 20％・④授業への取り組み 10％ 乳幼児の言葉の理解、保育技術の習得、学びに対する関心・意欲などを総合的に評価する。 評価の基準：①小テスト ＊知識・理解の定着度を測定 ・教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる。 ・応用レベルの問題に回答できる。 ②授業内レポート ＊知識・理解・思考力を測定 ・根拠を明確にして自説を述べることができる。 ③実践への取り組み ＊関心・意欲の測定 ＊思考・判断の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・意欲的に実践に取り組み、発表することができる。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で乳幼児の言葉に関する学習を積極的に行うことができる。									
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。レポート課題を回収し、次の授業で説明する。授業アンケート結果やコメントを参考にして授業改善に取り組む。									
時間外の学習 について	予習：シラバスを確認し、各界の授業内容を把握しておく。各回 45 分 復習：レジュメ及びプリントや資料をまとめておき、目を通しておく。（ファイルに綴じる） 各回 45 分									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 適宜紹介・配布する 参 考 書：「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」 チャイルド本社 参考資料：DVD・ビデオ等									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭経験：実務経験をもとに、幼児の保育、子育て支援及び実習について話をします。									
担当者からの メッセージ等	『言葉』の内容（子どもの発達・保育者の関わり方など）を具体的にお話します。 担当者の連絡先・E-mail：fnomura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	表現の指導法 (音楽Ⅰ)	教員	永田 実穂 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S139-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	音楽遊び・表現遊び、領域『表現』のねらい及び内容、好奇心や探究心を育む指導の方法、模擬保育、音楽表現における保育者の役割や援助									
授業概要	幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『表現』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、音楽遊び・表現遊びを実践しながら、領域「表現」に関する理解を深め、保育者として必要な音楽的感性を養う。乳幼児の生活や遊びの中にある音に関する表現について学び、音楽が果たす役割を理解し、それらを基に指導案作成や、模擬保育に生かす。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容等を理解し、乳幼児の音楽との関わり方について自分なりの考えをまとめることができる。									
	2. 乳幼児の心身の発達、および音楽的発達について学び、音楽が果たす役割を考えた模擬保育を行うことができる。									
	3. 乳幼児の生活や遊びの中にある音楽的表現について知り、他の領域や表現活動との関わりについて学び、指導案の作成や模擬保育等の実践を通して活用方法を考えることができる。									
	4. 保育者として必要な音楽的感性を養い、音遊びや即興アンサンブルを通して、楽器、身体活動の展開法や指導法を身につけることができる。									
	5. 領域の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を考えることができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『表現』のねらいと内容の理解								Ⅰ	面接
	2. 乳幼児の生活や遊びの中に見られる音楽的な表現事例を学び、乳幼児の表現と保育者の役割を理解する								2,3	面接
	3. 乳幼児の生活と音楽表現 言葉と音楽表現								1,2,3	面接
	4. 音楽あそび・表現あそび(1) 身体で遊ぶ活動、リトミックの活用								2,3,4,5	面接
	5. 音楽あそび・表現あそび(2) 声・歌・言葉で遊ぶ活動								2,3,4	面接
	6. 音楽あそび・表現あそび(3) 音遊びにおける情報機器及び教材の活用								3,4	面接
	7. 音楽あそび・表現あそび(4) 楽器、身体使った音遊びドラムサークル								2,3,4	面接
	8. 乳幼児の音楽的発達についての理解と指導案のねらい～わらべうた・あそびうた)								3,4,5	面接
	9. 指導案作成と模擬保育の留意点(ねらい、乳幼児の姿、環境構成、保育者の援助など)								1,2,3,5	面接
	10. グループでの模擬保育(1) 乳幼児の音楽活動～うたう活動								1,2,3,5	面接
	11. グループでの模擬保育(2) 乳幼児の音楽活動～ひく活動								1,2,3,5	面接
	12. グループでの模擬保育(3) 乳幼児の音楽活動～うごく活動								1,2,3,5	面接
	13. グループでの模擬保育(4) 乳幼児の音楽活動～きく、つくる活動								1,2,3,5	面接
	14. 模擬保育の振り返り～ねらい・題材・教材・環境構成・展開・評価								1,2,3,4,5	面接
	15. 年齢別音楽表現活動解説 ～保育者としての資質・能力 まとめ								1,2,3,4,5	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	模擬保育、グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 30%、②レポート 20%、③指導案・模擬保育 30%、④授業への取り組み 20% 評価の基準：音楽活動に必要な技術や指導法の習得状況と、領域「表現」への理解、関心、意欲、態度などを総合的に評価する。 ①定期試験 ＊知識・理解、思考の定着度の測定 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある、領域「表現」のねらいや内容を理解し対応した問題や、乳幼児の音楽との関わり方に関する問題に回答することができる。 ②レポート ＊知識・理解、思考・判断、関心の定着度の測定 ・さまざまな音遊びや身体表現を通して学んだ、音に関する表現活動をまとめ考察することができる。 ・各グループの模擬保育についての振り返りや考察をし、自分なりの考えをまとめることができる。 ③指導案・模擬保育 ＊知識・理解、関心・意欲、思考・判断、技能・表現の定着度の測定 ・乳幼児の遊びや姿を通して、音に関する内容の指導案の作成や模擬保育ができる。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲、態度、技能・表現の定着度の測定 ・グループ活動をはじめ、さまざまな活動に対して、主体的、積極的に取り組むことができる。									
フィードバックの方法	レポートや振り返りシートから助言や補足を行う									
時間外の学習 について	予習：音楽表現の模擬保育及び指導案について調べたり考えたりして準備する。(各回 45 分程度) 復習：授業内容のポイントをノートにまとめ、整理する。(各回 45 分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト：『わくわく音遊びでかんたん発表-手拍子ゲームから器楽合奏まで』細田淳子著 すずき出版 ：『アクティベート保育学Ⅱ 保育内容「表現」岡本弘子・花原幹夫・汐見稔幸編著 ミネルヴァ書房 参 考 書：『はじめてのドラムサークル』飯田和子、石川武、菊本るり子、メアリー・クロー・ニッシュ共著 音楽之友社 『子どもの音感受の世界 心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求』萌文書林 参考資料：幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領 < 原本 > チャイルド本社									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	動きやすい服装で受講すること 担当者の連絡先・E-mail：nagata@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	表現の指導法 (造形Ⅰ)	教員	森下 嘉昭 難波 章人 (オムニバス)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
								⑤	保育の計画力	○
ナンバリングコード	26JC-S142-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑥	保育の指導力	○		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年後期			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	造形的な遊びの内容・方法に関する知識、乳幼児の造形表現活動の必要性の理解、材料・用具の知識の習得、指導の留意点の理解									
授業概要	この授業では、幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、造形表現活動がどのように関係しているか、乳幼児の造形的な表現にかかわる様々な素材や用具、遊びの体験を通して学ぶ。 遊びの場面において乳幼児は主体的に素材や用具とかかわりながらどのように表現するか、体験を通して素材・用具の特性を理解するとともに、発達を踏まえた表現の事例をもとに理解を深めていく。また、具体的な準備物や対話の在り方など、保育の初歩的な留意点を学ぶ。									
到達目標	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域「表現」を踏まえ、基礎的な造形表現活動を実践につなぐことができる。									
	2.指導上の留意点や評価の考え方を理解することで、表現を通して乳幼児が経験する内容の関連性や、乳幼児の造形的な表現に含まれる気づきや学びを捉えることができる。									
	3.乳幼児の視点から造形的な表現を捉え、基本的な保育の構想をすることができる。									
	4.乳幼児の体験をもとにした、情報機器や教材の保育への活用がイメージできる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 教育要領、保育指針、教育・保育要領を踏まえた保育における造形表現のねらい及び内容（担当：森下）								Ⅰ	面接
	2. パスを用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について（担当：森下）								2,3	面接
	3. パスの特性を踏まえた題材の活用と保育の構想・環境の作り方について（担当：森下）								3,4	面接
	4. クレヨンを用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について（担当：森下）								2,3	面接
	5. クレヨンの特性を踏まえた題材の活用と保育の構想・環境の作り方について（担当：森下）								3,4	面接
	6. 水彩絵の具を用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について（担当：森下）								2,3	面接
	7. 水彩絵の具の特性を踏まえた題材の活用と保育の構想・環境の作り方について（担当：森下）								3,4	面接
	8. 技法遊び（Ⅰ）－マープリング・スパッタリング・マスキングの活用と評価について（担当：難波）								2,3,4	面接
	9. 紙の種類と活用方法について（担当：難波）								2,3,4	面接
	10. コンテパステルの特性を生かした遊びの留意点と評価について（担当：森下）								2,3,4	面接
	11. マーカー（水性・油性）の特性を生かした遊びの留意点と評価について（担当：森下）								2,3,4	面接
	12. 版遊び（Ⅰ）－スチレン・紙を活用した版作りと指導の留意点について（担当：森下）								2,4	面接
	13. 版遊び（Ⅱ）－写して遊ぶ際の留意点について（担当：森下）								2,3,4	面接
	14. 造形遊びにおける情報機器及び教材の活用（担当：森下）								2,3,4	面接
	15. 技法遊び（Ⅱ）－ステンシルの活用について（担当：森下）								2,3,4	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①授業内容の記録物（50%）、②作品・成果物（30%）、③授業への取り組み（20%） 評価の基準：①授業内容の記録物 ＊知識・理解の定着度の測定 ＊思考・判断、関心・意欲の測定 ・伝えられた内容を正確に記録している。 ・領域「表現」を踏まえた視点から、活動での気づきや学びを振り返り記録している。 ・活動内容を実習や保育現場での計画・実践に生かす視点で、主体的に考えたり調査したりして記録している。 ②作品・成果物 ＊思考・判断、技能・表現、関心・意欲の測定 ・授業で扱った素材や技能を、幼児の視点から適切に扱い、工夫して表現活動ができる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲・態度、思考・判断、表現の測定 ・主体的かつ丁寧な態度で取り組むことができる。 ・自分なりの疑問を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。									
フィードバックの方法	授業内容や課題（作品含む）の記録物を回収し、コメントを入れて返却する。									
時間外の学習 について	予習：参考書の関係箇所を目を通す。各回45分程度 復習：授業内容や課題（作品含む）をスケッチブックにまとめる。各回45分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」 チャイルド本社 参考資料：岡本紘子・花原幹夫・汐見稔幸「保育内容『表現』」 ミネルヴァ書房									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：morishita@yamaguchi-jca.ac.jp（森下） ananba@yamaguchi-jca.ac.jp（難波）									

科目名	乳児保育Ⅰ	教員	今川 久美子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S147-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	講義	年次	1 年前期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2				⑦	専門的な コミュニケーション能力	○	
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	乳児保育の意義と基本、乳児の発達と保育内容、保育者の援助の専門知識									
授業概要	乳児保育の意義と基本について学ぶ。また、3歳未満児の発達と保育内容、保育者の援助や関わりについて理解を深める。 ＊本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す。									
到達目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できる。									
	2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。									
	3. 3歳未満児の発育、発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の保育の内容について理解できる。									
	4. 職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 乳児保育の意義、役割と機能、歴史的変遷								1	面接
	2. 乳児保育の制度と課題 ー子ども・子育てをめぐる社会的状況と課題ー 保育所、保育所以外、家庭的保育等における乳児保育								1, 2, 4	面接
	3. 3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 職員間、保護者、自治体、関係機関との連携、協働								2, 3, 4	面接
	4. 乳児保育における養護及び教育								1, 3, 4	面接
	5. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義								1, 3,	面接
	6. 3歳未満児の心身の発達 ー映像資料を通じて0歳から2歳までの発達の全体像を捉えるー								3, 4	面接
	7. 3歳未満児の心身の発達 ー身体および運動の発達ー								3	面接
	8. 3歳未満児の心身の発達 ー認知の発達ー								3	面接
	9. 3歳未満児の心身の発達 ー人間関係の発達ー								3	面接
	10. 3歳未満児の心身の発達 ー言葉とコミュニケーションの発達ー								3	面接
	11. 3歳未満児の心身の発達 ー自己意識の発達ー								3	面接
	12. 乳児保育の基本								3	面接
	13. 3歳未満児の生活と環境								3	面接
	14. 3歳未満児の遊びと環境								3	面接
	15. 【総復習】3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助やかかわり、職員間の連携								3, 4	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク等									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 60％ ②授業態度 10％ ③授業内レポート 30％ により総合的に評価する。 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解／思考・判断／表現の測定 ・授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に答えることができる。 ・与えられたテーマについて論理的に考察し記述することができる。 ②授業態度 ＊関心・意欲／態度の測定 ・授業内容に関心を持ち意欲的に学ぶことができる。 ・他者と協調し、ディスカッションやグループワーク等に積極的に取り組むことができる。 ③授業内レポート・課題・発表（プレゼンテーション） ＊知識・理解／思考・判断／表現の測定 ・理論や知識について整理し、それに基づいて自身の考えや意見を述べることができる。									
フィードバックの方法	授業内レポートの内容や質問に対して、次の授業時にコメントする。									
時間外の学習 について	予習：テキストの該当箇所について一読する。疑問点や深く学びたいことについて事前に整理し授業に臨む。（90分） 復習：ノートや配布資料を整理する。重要箇所や関心を持った項目については文献等を読むなどして理解を深める。（90分）									
教材にかかわる情報	テキスト：「見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ」ChaCha Children & Co. 萌文書林、2019 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社 参考資料： 適宜紹介する。（文献、映像、資料など）									
実務経験を活かした 授業について	乳児期の保育や子どもの発達についての知識と理解を確かなものとし、理論を実践に結びつける力を養えるよう保育現場でのエピソードを交えながらお話ししていきたいです。									
担当者からの メッセージ等	「理論」と「実践」。この2つは保育の専門職にとってどちらも大切なものです。まずは実践の土台となる理論をしっかりと学んでください。理論を学び、そして理解することは自らの実践を言語化し、他者に伝える力にも繋がります。保育者として、さらなる資質向上を目指して共に学び合いましょう。 Email:nicovoppi@gmail.com									

科目名	乳児保育Ⅱ	教員	今川 久美子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-SI48-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ				⑦	専門的な コミュニケーション能力	○	
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	乳児一人一人の発達を促す環境、生活と遊び、保育の計画、記録、評価、乳児の指導案の立案、地域社会との連携、保健衛生及び安全									
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだことを基に、実践事例を通して個々の発達を促す生活と遊びについて理解を深める。また、保育の計画、記録、評価について学び、乳児の保育指導案作成に取り組む。また、乳児の健康・安全、家庭や地域との連携について理解を深める。＊本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す									
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解できる。									
	2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解できる。									
	3. 乳児保育における配慮の実践について理解できる。									
	4. 乳児保育における計画の作成について理解できる。									
	5. 保育者の資質と専門性について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画							到達目標	授業方法		
	1. 乳児保育の基本、情緒の安定、環境の変化や移行に対する配慮　－子どもの主体性を尊重する保育とは－						1, 2, 5	面接		
	2. 子どもの生活や遊びを支える環境の構成　－子どもの主体性を引き出す環境構成－						1, 2	面接		
	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践　－食事①（調乳と授乳）－						1, 2	面接		
	4. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践　－食事②（離乳食）－						1, 2, 3	面接		
	5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践　－排泄－						1, 2, 3	面接		
	6. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践　－睡眠－						1, 2, 3	面接		
	7. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践　－着脱・清潔－						1, 2, 3	面接		
	8. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践　－手あそび・手作りおもちゃ・絵本－						1, 2, 3	面接		
	9. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践　【発表】手遊び						1, 2, 3,	面接		
	10. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践　【発表】絵本						1, 2, 3	面接		
	11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践　【発表】手作りおもちゃ						1, 2, 3	面接		
	12. 乳児保育における計画の実践　－長期的・短期的な指導計画、個別的な指導計画と集団の指導計画						1, 3, 4	面接		
	13. 乳児保育における配慮の実践　－集団での生活における配慮（子どもの安全を守る）－						1, 3	面接		
	14. 乳児保育における配慮の実践　－子どもの心身の健康（子どもの病気と対応）－						1, 3	面接		
	15. 【総復習】－保育者の資質と専門性について－						5	面接		
アクティブ・ラーニング	演習、実技（発表）、グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①レポート・提出課題・発表 70%　②授業への取り組み 30%　により総合的に評価する。 評価の基準：①レポート・提出課題・発表 ＊知識・理解／思考・判断／技能・表現の測定 ・理論や知識について整理し、それに基づいて自身の考えや意見を述べることができる。 ・実技や発表について省察し、その内容を適切に述べることができる。 ②授業への取り組み ＊関心・意欲／技能・表現／その他（協調性）の測定 ・授業内容に関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。 ・グループ活動（演習や実技）に意欲的を持って取り組むことができる。 ・仲間と協調して活動に取り組み、グループの活動に貢献することができる。									
フィードバックの方法	演習や実技を通して学んだことや考えたことを振り返り、レポートに記述して提出する。レポートの内容については、講師がコメントし授業内で共有する。									
時間外の学習 について	予習：事前にテキスト等を読むなど、演習や実技について具体的なイメージを持って授業に臨めるよう準備する。（45分） 復習：ノートや配布資料を再読して学んだことを整理する。演習や実技（発表）について省察し自身の考えをまとめる。（45分）									
教材にかかわる情報	テキスト：「見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ」ChaCha Children & Co. 萌文書林、2019 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社 参考資料：適宜紹介する。（文献、映像、資料など）									
実務経験を活かした 授業について	乳児期の保育や子どもの発達についての知識と理解を確かなものとし、理論を実践に結びつける力を養えるよう保育現場でのエピソードを交えながら、お話ししていきたいと思います。									
担当者からの メッセージ等	心身ともに大きく成長する0.1,2歳児。その後の発達においても、この時期の保育者の働きかけやかかわりは非常に重要です。質の高い保育が実践できるように、乳児期の発達過程を踏まえながら技能の面を充実させていきましょう。 Email:nicoyoppi@gmail.com									

科目名	保育内容の理解と方法・健康	教員	原 井 進 船 場 大 資 (オムニバス)	免許・資格との関係	保育士	選択必修	関係性が最も強い学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
								②	協調的な生活態度	
					幼稚園教諭	選択必修		③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S151-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修			⑤	保育の計画力	○
授業形態	演習	年次	I 年前期					⑥	保育の指導力	○
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I					⑦	専門的なコミュニケーション能力	
								⑧	課題解決能力	
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	乳幼児期の「健康」に関わる専門的な知識、子どもの心身の発育、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達、子どもの健康管理の基礎理解と地域での取り組み									
授業概要	乳幼児期の生活や遊びの中から、子どもの身体の発育や運動機能や生理的機能の発達、及び、情緒の安定など、子どもの心身の発育発達を学ぶとともに、子どもの体力や健康を評価する方法を学ぶ。 また、領域「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成や安全教育や危機管理など、保育に必要な専門的知識などについて考えていく。また、現場や自治体で行われている取り組みについても学び、子どもの健康的な生活習慣を考察する。									
到達目標	1. 保育の基本を踏まえた領域「健康」のねらい及び内容を理解できる。									
	2. 乳幼児期の身体の発育の機序を理解し、保育の環境を構成することができる。									
	3. 子どもの安全を確保するための指導上の留意点を理解できる。									
	4. 乳幼児期の生活習慣とその援助と改善する視点を身につけ、実践できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. オリエンテーション・子どもの心身の発達の特徴（担当：原井・船場）								1, 2	面接
	2. 子どもの健康管理や病気に関する基本的な理解—リスク・ハザードの理解—（担当：原井）								3	面接
	3. 子どものケガの特徴や熱中症の理解と対策—避難訓練や園庭環境を含む—（担当：原井）								3	面接
	4. 子どもの外遊びと運動発達の特徴の考察（担当：原井）								4	面接
	5. 子どもの室内遊びと運動発達の特徴の考察（担当：原井）								4	面接
	6. 伝承遊びの特徴と教育的価値（担当：原井）								4	面接
	7. 現代における乳幼児の健康課題—体力調査・生活調査から—（担当：船場）								1, 2	面接
	8. 子どもの生活習慣の形成について（担当：船場）								1, 2	面接
	9. 子どもの健康的な生活習慣の改善事例—教育機関や各地域の取り組みから—（担当：船場）								1, 2	面接
	10. 現代社会における子どもの体力課題—課題克服のための運動遊び考察—（担当：船場）								2	面接
	11. 月齢毎における子どもの多様な所作の習得について（担当：船場）								2	面接
	12. 子どもの生活にみられる動作と発育理解—粗大運動と微細運動を通じて—（担当：船場）								2	面接
	13. 神経系に関わる運動と巧緻性の獲得の重要性について（担当：船場）								2	面接
	14. 水遊び時の指導と禁忌的行動（担当：船場）								2, 4	面接
	15. 乳幼児期における健康的な生活について—まとめ—（担当：船場）								2, 4	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 60％ ②レポート 40％ 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着を測定 ・授業で得た知見を基に、正確な回答ができる。 ・保育者として、正確な健康に関する理論を基に考察することができる。 ②レポート ＊思考と理解を測定 ・授業を通して学んだ事項を基に、保育者として子どもの健康に関する理論を述べることができる。									
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の復習を行う。個別の質疑に対しては、常に対応する。作成した資料にコメントや助言を行う。									
時間外の学習について	予習：教科書での予習（30 分） 復習：授業内容を振り返る。定期試験に向けた準備（30 分）・レポート課題の作成（30 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：『コンパス 保育内容健康』前橋明編著 建帛社出版 参 考 書：『幼児のからだを測る・知る—測定の留意点と正しい評価法』出村慎一監修 杏林書院出版 『幼児のからだところを育てる運動遊び—元気に育てちびっ子たち！』出村慎一監修 杏林書院出版 『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド本社 参考資料等：									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	見本が示せる指導者になってほしい。 担当者の連絡先・E-mail アドレス shara1@yamaguchi-jca.ac.jp（原井） dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp（船場）									

科目名	保育内容の理解と方法・人間関係	教員	富田 まり子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S152-110	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	領域『人間関係』のねらい及び内容、乳幼児期の人間関係の発達の特徴、保育者の役割									
授業概要	学生が、自分の乳幼児期の家族や地域の人との関係や関わりについて振り返り、領域「人間関係」への関心や学習意欲が持てるようにする。そして、家庭・地域・生活環境がどのように変わっていったか事例と合わせながら説明し、子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴や課題について理解できるようにする。子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項については、子どもの発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、園生活のエピソードを通して、発達の時期と関連づけて学べるようにする。併せて、具体的な場面を通して保育者の関わり方や役割・資質についての理解を深め、専門的知識を身に付ける。また、学生自身が自分の人間関係や関わりを意識しながら、学生生活の中で人とかかわる力を磨いていけるようにする。									
到達目標	1. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題を理解できる。（子どもを取り巻く人間関係の特徴・現代的課題・社会的背景を理解する／人とかかわる力の育ちが生きる力の原点となることを理解する） 2. 乳幼児期の人と関わる力の発達が、園生活における保育者・友達等、人とかかわりによって育つことを理解できる。（乳児期の人とかかわる力の育ちと身近な大人との関係について理解する／幼児期の園生活の中で育つ人とかかわる力の発達と、保育者・友達・集団との関係について理解する／自立心・協同性の育ちについて発達の姿と合わせて理解する／道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて理解する／家族や地域との関わりと育ちについて発達の姿と合わせて理解する）									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 「生きる力」の原点としての人間関係・保育の基本と領域「人間関係」について								Ⅰ	面接
	2. 自己理解と自己概念について・大学生生活で求められる人とかかわる力について								Ⅰ	面接
	3. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題について								Ⅰ	面接
	4. 領域「人間関係」がめざすもの－ねらいと内容の考え方について－								Ⅰ, 2	面接
	5. 子ども理解について－子どもの思いを理解するとは－								Ⅰ	面接
	6. 集団保育の中で人とかかわりの発達①実習を通して								2	面接
	7. 集団保育の中で人とかかわりの発達②事例を通して								2	面接
	8. 子どもと保育者の相互理解について								2	面接
	9. 人間関係を育む保育者のかかわりについて①個の育ちと集団の関係								2	面接
	10. 人間関係を育む保育者のかかわりについて②豊かな集団とは								2	面接
	11. 乳幼児の発達課題について①保育所保育指針のねらい及び内容								Ⅰ, 2	面接
	12. 乳幼児の発達課題について②愛着の形成								Ⅰ, 2	面接
	13. 乳幼児の発達課題について③人とかかわりの中で育つ自我								Ⅰ, 2	面接
	14. 乳幼児の発達課題について④社会性の発達と遊び								Ⅰ, 2	面接
15. 人とかかわりを育てる保育者としての資質・学生生活で身に付けたい力について								Ⅰ, 2	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 40％ ②授業内レポート 40％ ③課題 20％ 評価の基準：目標への理解、思考、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。 ①小テスト ＊知識・理解の測定 ・授業で扱った内容について、基礎的・応用的問題に回答できる。 ②授業内レポート ＊知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて自説を述べるができる。 ③発表 ＊知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・主体的、協調的にグループワークに取り組むことができる。									
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。									
時間外の学習 について	予習：テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと（各回 45 分程度） 復習：配布資料整理・授業の振り返り 適宜レポートを課題とする（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	参考書、参考資料等：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭・保育士・園長経験：実務経験をもとにして、子どもの発達、人とかかわる力を育む保育内容、援助についてお話をします。									
担当者からの メッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：mtomita@yamaguchi-jca.ac.jp（富田）									

科目名	保育内容の理解と 方法・環境	教員	富田 まり子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S153-110	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	領域『環境』のねらい及び内容、好奇心や探究心を育む指導の方法、保育者の役割									
授業概要	領域「環境」の指導において、ねらい及び内容については、背景となる専門領域と関連させながら、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明し、理解を深める。乳幼児と環境との関わりや発達における重要性については、実際に学生が身近な自然や生物に触れたり、調べたり、観察したりする中で、学生自身の気付きや感動を伝え合いながら学ぶ。また、数量・図形、標識・文字等を遊びに取り入れたり、身近な施設や情報について調べたりする等、体験を通して理解を深めることを重視する。その中で保育者としての感性を養い、領域「環境」における主体的・対話的な学びについて理解し、保育者のかかわり方や役割について専門的知識が身に付くようにする。									
到達目標	1.乳幼児の身近な環境と、乳幼児の発達における意義を理解できる。（身近な環境の諸側面・現代的課題について知り、乳幼児の発達における重要性や関わり方について理解する） 2.身近な環境との関わりにおける乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解できる。（乳幼児の認知的発達の特徴や筋道を理解する／乳幼児の物理的、数量・図形との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する／乳幼児の生物・自然との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する） 3.身近な標識・文字等、情報・施設との関わりと乳幼児の発達について理解できる。（身近な標識・文字等への興味・関心、関わり方について理解する／乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方について理解する）									
履修条件、注意事項										
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 保育の基本と保育内容のとらえ方・領域「環境」に示されている保育内容							Ⅰ	面接	
	2. 人間の生活と環境－子どもを取り巻く環境の現状と課題							Ⅰ	面接	
	3. 子どもの発達と環境－誕生から満3歳まで－							Ⅰ,2	面接	
	4. 領域「環境」のねらい及び内容・自然と触れ合い感動する							Ⅰ,2	面接	
	5. 自然と触れ合い感動する－自然観察の仕方－							2	面接	
	6. 自然を取り入れて遊ぶ保育の実践							2,3	面接	
	7. 自然散策が目指すもの・自然を見る視点							2,3	面接	
	8. 生命の営みに触れる保育の実践①秋の虫							2,3	面接	
	9. 生命の営みに触れる保育の実践②飼育について							2,3	面接	
	10. 身近な物を利用した遊び・風を利用した遊びの実践①風車							2,3	面接	
	11. 身近な物を利用した遊び・風を利用した遊びの実践②たこ							2,3	面接	
	12. 物事の法則性に気付く保育の実践①紙飛行機							2,3	面接	
	13. 物事の法則性に気付く保育の実践②飛び出すカード							2,3	面接	
	14. 物の性質や仕組みに興味を持つ保育の実践①空気を集めて遊ぼう							2,3	面接	
	15. 物の性質や仕組みに興味を持つ保育の実践②まとめ							2,3	面接	
アクティブ・ラーニング	模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト・レポート（40％）②復習・調べるなどの自主的な学習（20％）③課題（20％）④授業への参加度（20％） 評価の基準：授業内容への理解、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。 ①小テスト・レポート ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・幼児教育の基本と領域「環境」とのかかわりについて理解している。 ・領域「環境」のねらい、内容などについて回答できる。 ・授業を踏まえて自説を述べるができる。 ②授業への取り組み ＊思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・事前調査や復習など、自主的な学習ができる。 ・活動に積極的ににかかわることができる。 ③課題 ＊知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定 ・授業で取り上げた知識・技能が身についている。 ・他領域と関連させ、保育に結びつけることができる。 ・子どもに育つ力について、理解している。 ④授業への参加度 ＊関心・意欲・態度を測定 ・グループでの活動に積極的ににかかわる。 ・授業を通して探究心を持ち、自発的に取り組む。									
フィードバックの方法	・小テストや課題回収後に解説を行う。 ・課題、レポート、指導案にコメントを入れ、よい点、改善点などを示す。									
時間外の学習 について	予習： 授業内容に合わせ、調べ、理解を深めておく。各回 45 分程度。事前の準備がいることもあります。 復習： 授業内容をまとめ、考察を深める。各回 45 分程度。									
教材にかかわる情報	テキスト：体験する・調べる・考える 領域「環境」＜第2版＞（田宮緑著、萌文書林出版） 参考書・参考資料等：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社 植物図鑑 動物図鑑									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭・保育士・園長の経験：実務経験をもとにして、子どもの発達、環境とかかわる力を育む保育内容、援助についてお話をします。									
担当者からの メッセージ等	準備物は早めに知らせますので用意をしてください。担当者の連絡先・E-mail：mtomita@yamaguchi-jca.ac.jp（富田）									

科目名	保育内容の理解と 方法・表現	教員	永田 実穂 森下 嘉昭 杉山 綾子 (オムニバス)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S155-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	I 年前期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	3 法令における領域「表現」の理解、乳幼児の遊びや生活の中の素朴な表現を捉える視点の獲得、乳幼児の発達に応じた表現、乳幼児の表現を支える基礎知識・技能・環境構成の方法の理解、表現することの楽しさ									
授業概要	3 法令での領域「表現」の位置づけやねらい及び内容を知り、画像等で乳幼児の具体的な姿も参考にしながら、生活や遊びの中での、発達に応じた素朴な表現を受け止める視点の獲得を目指す。また、五感を通じて周囲の環境とかかわる中で表現が生まれ、遊びにつながっていく面白さを学生自身が感じながら、表現を促す環境構成などの専門的な知識・技能、表現力の基礎を身につける。さらに、様々な感覚を働かせ感じたことや思考したことを協働して表現する中で、他者の視点や表現に触れながら、より豊かな表現に展開させ創作活動を行うことで、感性や創造性に対する理解を深める。									
到達目標	1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の位置づけを理解し、子どもの表現について自分なりに考えをまとめることができる。									
	2. 乳幼児の遊びや生活の中から生まれる素朴な表現を捉える視点を獲得し、発達や経験に応じた表現を共感的に受け止めることができる。									
	3. 体験を通して、表現することの楽しさを知り、乳幼児の豊かな表現を支える基礎的知識・技能、環境構成、様々な表現活動への展開方法や考え方を身につけ、活用できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 3 法令を踏まえた保育における領域「表現」の位置づけ（担当：永田、森下、杉山）								I	面接
	2. 領域「表現」に関わるねらい及び内容①表現・表出（担当：永田、森下）								I, 2	面接
	3. 領域「表現」に関わるねらい及び内容②生活の中での事例検討（担当：永田、森下）								I, 2	面接
	4. 表現における発達段階（担当：永田、森下）								I, 2	面接
	5. 素材とのかかわりによる表現遊び①（素材体験）（担当：森下）								I, 2, 3	面接
	6. 素材とのかかわりによる表現遊び②（保育への展開）（担当：永田、森下）								I, 2, 3	面接
	7. 他者とのかかわりによる表現遊び①（声・音の表現）（担当：永田）								I, 2, 3	面接
	8. 他者とのかかわりによる表現遊び②（身体表現）（担当：永田、森下）								I, 2, 3	面接
	9. 音からの表現（担当：永田）								I, 2, 3	面接
	10. 形からの表現（担当：森下）								I, 2, 3	面接
	11. 総合的な表現活動の探求①（テーマ設定）（担当：永田、森下）								I, 3	面接
	12. 総合的な表現活動の探求②（準備）（担当：森下、杉山）								I, 3	面接
	13. 総合的な表現活動の探求③（練習）（担当：永田、杉山）								I, 3	面接
	14. 総合的な表現発表（担当：永田、森下、杉山）								I, 3	面接
	15. まとめ 子どもの表現とかかわる保育者の視点（担当：永田、森下、杉山）								I, 2, 3	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①レポート（30%）、②毎回の振り返りシート（30%）、③総合的な表現発表（20%）、④授業への積極的な取り組み（20%） 評価の基準：①レポート ＊知識・理解/思考・判断を測定 ・ 3 法令の領域「表現」の位置づけを理解している。 ・ 授業内容を踏まえて、保育現場での自分の考えをまとめることができる。 ・ 子どもの素朴な表現を捉える視点を身につけている。 ②毎回の振り返りシート ＊知識・理解/関心・意欲を測定 ・ 3 法令の領域「表現」の内容を理解し、自分の理解したこと、疑問点などを整理し、解決することができる。 ③総合的な表現発表 ＊思考・判断/関心・意欲/態度/技能・表現を測定 ・ 学んだ知識や技能をもとに、様々な感覚を働かせて表現を模索できる。 ・ 子どもの表現を支える視点を身につけている。 ④授業への積極的な取り組み ＊関心・意欲・態度を測定 ・ 主体的かつ協調的な態度で、意欲的に取り組むことができる。 ・ 自分なりの意見を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。									
フィードバックの方法	毎回の振り返りシートの内容を次回授業時に採り上げ、解説を加えながらディスカッションの題材とする。									
時間外の学習 について	予習：テキストや参考書の関係箇所を目を通す。（各回 45 分） 復習：授業内容の疑問点について整理する。（各回 45 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：アクティベート保育学Ⅱ 保育内容「表現」 岡本拓子・花原幹夫・汐見稔幸編著 ミネルヴァ書房 参 考 書：幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領 < 原本 > チャイルド本社									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	動きやすい服装で参加すること。 nagata@yamaguchi-jca.ac.jp（永田） morishita@yamaguchi-jca.ac.jp（森下） asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp（杉山）									

科目名	保育内容の理解と 方法・音楽	教員	杉山 綾子 井上 史恵 (複数)(実務経験)	免許・資格 との 関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲		
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度		
								③	教養		
								④	豊かな感性と表現力	○	
ナンバリングコード	26JC-S156-010	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力				
授業形態	演習	年次	I 年前期			⑥	保育の指導力	○			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的な コミュニケーション能力				
							⑧	課題解決能力			
教科目	選択必修科目（保育士）										
系列	保育の内容・方法に関する科目										
授業テーマ	音楽表現活動に必要な知識・内容を理解しながら実践を通して技能を習得し、子どもの発達に応じた音楽指導力を身につける。										
授業概要	本授業は子どもの歌唱教材に数多く接しながら、保育者に必要な音楽的な知識や技能を音楽表現活動の実践を通して学ぶことを目的とする。教材の特徴を理解し、発達段階に応じたうたあそび・楽器あそび・表現あそび等にも対応・展開できる計画・実践力の育成を目指す。子どもの豊かな感性と表現する喜びを育む保育力を身につけるべく、総合的な音楽表現活動としてミニドラムジカに取り組み纏めとする。										
到達目標	1. 保育者として明るく正しい発音・発声法を身に付け、表現豊かに歌うことができる。										
	2. 楽譜を正確に読み取り、拍子・調性を理解して歌唱・演奏することができる。										
	3. 保育指針の内容を踏まえ、子どもの発達や季節・行事・生活に応じた音楽教材の選択や遊びを実践できる。										
	4. 簡易打楽器や音階楽器の正しい使い方を知り、歌唱教材への適切な活用法を身につけ実践できる。また手作り楽器の製作・演奏では愛着心の育みについて理解することができる。										
	5. ドラムジカの実践を通して、仲間と表現する喜びを共感しながら音楽表現活動に必要な歌唱法・編曲及び演奏法・指導法を理解することができる。										
履修条件、注意事項											
授業計画	1. 子どもの発達と音楽表現について・幼児歌曲の楽譜の読み方と表現ノートの作り方								到達目標	1, 2	面接
	2. 幼児歌曲（春）・音あそび（オノマトペ・ボディーパーカッション）・あそびうた（見せる）									1, 2, 3	面接
	3. 幼児歌曲（夏）・器楽あそび（カスタネット・鈴・タンブリン）・あそびうた（真似る）									1, 2, 3	面接
	4. 幼児歌曲（生活・行事）・器楽あそび（トライアングル・大太鼓・小太鼓）・あそびうた（揺れる）									1, 2, 3	面接
	5. 幼児歌曲（生活・行事）・合奏（簡易打楽器・細田式編曲法）・手作り楽器の制作と活用について									2, 3, 4	面接
	6. 手作り楽器と歌による発表・保育における音楽教育法について									2, 3, 4	面接
	7. 幼児歌曲（秋）・器楽あそび（木琴・鉄琴）・あそびうた（手をとる）									3, 4	面接
	8. 幼児歌曲（冬）・器楽あそび（鍵盤ハーモニカ）・あそびうた（身体を動かす）									3, 4	面接
	9. あそびうたによる発表・合奏（音階楽器）									3, 4	面接
	10. 幼児歌曲・合奏（合奏編曲の基本・指揮法）									3, 4	面接
	11. ドラムジカの作り方（総合的な音楽表現あそび）・グループ作り									3, 5	面接
	12. 選曲と台本作									3, 5	面接
	13. 役割分担（配役・ナレーション・器楽の活用と編曲・様々な表現）の確認・練習									2, 4, 5	面接
	14. 小道具等の制作・練習・リハーサル									4, 5	面接
	15. グループ発表会と振り返り									4, 5	面接
アクティブ・ラーニング	模擬保育 グループワーク ロールプレイ										
成績評価基準	評価の方法：①歌唱とグループ発表（40％） ②提出物・レポート（40％） ③授業への取り組み（20％） 評価の基準：①歌唱とグループ発表 ＊知識・理解・思考・技能・表現の測定 ・楽曲を正しく読譜・理解し、表情豊かに歌える。 ・あそびうた（伝承わらべうた含む）を覚えて、発達段階に適した表現で行うことができる。 ・幼児歌曲に合わせた器楽の活用ができる。 ・グループ活動において、音楽的な知識やアイデアを用いて総合的な表現活動を楽しむことができる。 ②提出物・レポート ＊知識・理解・判断・関心・意欲の測定 ・手作り楽器を製作・活用することができる。 ・学習曲のポイント等がノートに整理できる。 ・ドラムジカの台本や幼児歌曲の編曲をすることができる。 ・自己の学修・課題を考察することができる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲・態度・知識・技能・表現の測定 ・予習（教材研究）・実践・復習（考察）のサイクルを身につけて授業に参加し、グループ活動において主体性・協同性をもって役割を見つけ取り組むことができる。										
フィードバックの方法	豊かな音楽表現活動をするためのポイントや活用法等を実践時にアドバイスする。ノートの添削指導。										
時間外の学習 について	予習：次の授業で学習する幼児歌曲の調性、拍子、詩をノートに書き出して音楽的な表現方法を考える。（各回 45 分程度） 復習：概習曲のポイント等をノートに整理して、実習時の教材として取り出して活用できるようにする。（各回 45 分程度）										
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育所・家庭で楽しもうたあそび123』河北邦子・坂本久美子編著 ミネルヴァ書房 参 考 書：『幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集』本廣明美・加藤照恵共編 ドレミ楽譜出版社、『保育者のためのリズム遊び』木 許隆 高倉秋子 高橋一行 三縄公一編著 音楽之友社 参考資料：『幼児期までのこどもの育ちに係わる基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教 育・保育要領<原本>』 チャイルド本社										
実務経験を活かした 授業について	杉山…短期大学児童教育学科や専門学校での音楽科・ピアノ・声楽の指導経験をもとに、子どもの表現活動における歌唱や器楽の内 容・実践方法について指導を行います。 井上…公立保育園に保育士として勤務。実務経験をもとに保育現場における音楽活動についての内容と方法について話をします。										
担当者からの メッセージ等	子どもたちと共感できるよう、遊びを通して歌・リズム・音色を楽しみながら実践的な技能を磨いていきましょう。授業内で連絡先 を周知する。										

科目名	保育内容の理解と方法・造形	教員	難波 章人 (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択必修	関係性が最も強い学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-S158-010	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力			
授業形態	演習	年次	I 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	I			⑦	専門的なコミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	造形表現活動に必要な知識・技能を実践的に習得し、発達理解に基づいた指導力を身につける。									
授業概要	本授業は、保育現場における造形表現活動の意義と方法について、実践を通して学ぶことを目的とする。紙や新聞紙等の身近な素材や用具の特性を理解し、安全に活用する力を養うとともに、子どもの発達段階に応じた表現活動の計画・実践力の育成を目指す。さらに、教材制作や指導案の理解、環境構成の工夫および地域連携活動を通して、保育者として必要な専門性の向上を図る。									
到達目標	1. 保育指針の内容を踏まえて、子どもの発達段階に応じた造形表現活動の意義と特徴を説明できる。									
	2. 紙素材および関連用具の特性を理解し、安全に活用できる。									
	3. 色や形を生かした表現媒体を制作し、保育実践に活用できる。									
	4. 造形活動のねらいや配慮事項を踏まえた指導案作成の方法を理解できる。									
	5. 学修内容を記録・振り返り、自己の学びを整理・改善できる。									
履修条件、注意事項	道具類は各自で用意していただきます。									
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 保育における造形の意義、紙を使った造形表現活動①【折り紙の基本、切り紙の技法】							1, 2	面接	
	2. 紙を使った造形表現活動②【画用紙：お話しがり絵、パンフレット：紙帯を使った制作】							1, 2	面接	
	3. 新聞紙を使った造形活動①【新聞紙の特性】							1, 2	面接	
	4. 新聞紙を使った造形活動②【可塑性を活かした制作・身に付ける衣服を作る】							1, 2	面接	
	5. パネルシアターとペープサートの制作①【基本的な作り方・自己紹介】							2	面接	
	6. パネルシアターとペープサートの制作②【色】							1, 2	面接	
	7. パネルシアターとペープサートの制作③【形】							2, 3	面接	
	8. パネルシアターとペープサートの制作④【仕掛け、ミニ舞台の制作】							2, 3	面接	
	9. パネルシアターとペープサートの制作⑤【絵人形の縁取り・切断、着色、ハンドパネルの制作】							2, 3	面接	
	10. 指導案の理解①活動のねらい、安全配慮、援助方法、声かけ、環境構成について							3, 4	面接	
	11. 指導案の理解②子どもの発達段階、子どもの主体性について							3, 4	面接	
	12. 地域との連携に向けた取り組み①【コーナー遊びのアイデア・廃材の特性理解】							1, 2	面接	
	13. 地域との連携に向けた取り組み②【コーナー遊びの制作】							2	面接	
	14. 地域との連携に向けた取り組み③【店舗・コーナー遊びの飾り付け】							2, 3	面接	
	15. 地域との連携に向けた取り組み④【子どもとのかかわり】							1, 4, 5	面接	
アクティブ・ラーニング	フィールドワーク									
成績評価基準	評価の方法：①制作作品（50％）、②授業記録・振り返り（50％） 評価の基準：①授業作品　＊技能・表現、関心・意欲の測定 ・用具を正しく使用できているか ・子どもを意識した表現ができていないか ・材料の特性を生かし、意欲的に取り組んでいるか ②授業記録・振り返り　＊知識・理解、関心・意欲の測定 ・造形表現活動に関する知識や技術を理解しているか ・課題意識を持ち、改善への視点を含めて記録しているか									
フィードバックの方法	期末に提出するスケッチブック（授業のまとめや制作や体験の振り返り）については、チェック表（授業開始時に配布）に基づき評価して返却する。									
時間外の学習について	予習：授業予定表を事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。（各回 45 分） 復習：授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。（各回 45 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	指定した材料や用具は、各自が準備して授業に臨んでください。 E-mail：ananba@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	保育内容の理解と 方法・言葉	教員	野村 不二子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S154-110	学科	保育学科	卒業要件	必修		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	演習	年次	1 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	幼児の言語について専門的知識の理解、言語指導の技術									
授業概要	乳幼児の言葉の表現を豊かに広げるための専門知識を理解し、保育者としての言語表現技術の基礎的知識、及び必要な技術を、演習を通して身に付ける。 また、言語表現活動に係る児童文化財等の指導理論や技術を習得する。									
到達目標	1. 乳幼児の言葉の発達過程を理解し、言葉の意義や機能等の専門的知識を習得し、実践できる。									
	2. 乳幼児の言葉の表現能力の実態に基づき、言葉に対する感覚をより豊かにする遊び等の適切な指導について、実践的に身に付け、実践できる。									
	3. 乳幼児にとっての児童文化財（絵本、お話、紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付け、意義を理解できる。									
	4. 保育者としての言語表現技術を習得し、実践できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について①【音声からコミュニケーションへ】								1, 2	面接
	2. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について②【一語文、二語文から多語文へ】								1, 2	面接
	3. 発達に応じた言葉による伝え合い①【発声と発音、挨拶や返事等の基本的事項について】								1, 2	面接
	4. 発達に応じた言葉による伝え合い②【聞き方・尋ね方・聞き返し方の基本的事項について】								1, 2	面接
	5. 言葉への興味を豊かにする遊び【しりとり、なぞなぞなど】								2, 3	面接
	6. 文字への興味を豊かにする遊び【読み聞かせ、かるたなど】								2, 3	面接
	7. 3 法令における領域「言葉」のねらい及び内容について								4	面接
	8. 言葉の楽しさの体験的理解①【乳児～2・3 歳児の実態を踏まえた紙芝居の意義と演じ方】								3, 4	面接
	9. 言葉の楽しさの体験的理解②【4・5 歳児の実態を踏まえた紙芝居の意義と演じ方】								3, 4	面接
	10. 言葉の感覚を豊かにする児童文化財①【人形劇（ペープサート）の特性と演じ方】								3, 4	面接
	11. 言葉の感覚を豊かにする児童文化財②【パネルシアター】								3, 4	面接
	12. 読み聞かせの基礎理論【幼児に対する読み聞かせ】								4	面接
	13. 言葉から想像する楽しさについて①【素話の基礎的知識・お話作り】								4	面接
	14. 言葉から想像する楽しさについて②【素話の話し方、演じ方。ストーリーテリング】								4	面接
	15. 幼児の演劇指導の基礎的知識【事例を通して言葉の表現の意義や機能について学ぶ】								2, 4	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 50％ ②授業内レポート 20％ ③指定教材の実演評価 20％ ④授業への取り組み 10％ 評価の基準：①②小テスト及び授業内レポート ＊知識・理解・思考・表現力の測定 ・授業を通して学んだことを基に、保育内容（言葉）の知識・理解・思考・表現力が身についている。 ③指定教材の実演評価 ＊関心・意欲・思考・表現力の測定 ・意欲的に実演に取り組み、表現技術を習得し、発表することができる。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で、保育内容（言葉）に関する学びに積極的に取り組むことができる。									
フィードバックの方法	課題回収後、返却時に解説を行う。また、レポートにコメントを返し、良かったところや今後の課題等を示す。 個別の質問に対して、オフィスアワー等で対応する。									
時間外の学習 について	予習：各回の授業内容を把握しておく。絵本や表現媒体の研究をする。（45 分） 復習：配布された資料をまとめて復習をする。（ファイルに綴じる）、授業の振り返りをしておく。（45 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 適宜紹介・配布する 参 考 書：「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」 チャイルド本社 参考資料：絵本・紙芝居・DVD 等。『保育者のための言語表現の技術』（古橋）和夫編著、萌文書林出版（2019）									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭経験をもとに、保育者としての言語表現技術について話をします。									
担当者からの メッセージ等	絵本・パネルシアター・紙芝居等の実演について、積極的に取り組み、保育技術を習得しましょう。 担当者の連絡先・E-mail：fnomura@yamaquchi-ica.ac.jp									

科目名	音 楽 基 礎	教員	永田 実穂 他 (複数)	免許・資格 との 関 係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-S161-000	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	1 年前後期			⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力		
授業テーマ	音楽に関する専門的知識の基礎、鍵盤楽器による伴奏づけの基礎技術								
授業概要	読譜に必要な楽典の基礎知識、およびハ長調、ト長調、ヘ長調（ニ長調）のメロディの初見演奏とコードネーム等による伴奏づけを学ぶ。また、鍵盤経験により4グレードに分け授業を行う。保育ピアノの授業や実習などの現場で活用できるように応用力を身につける。								
到達目標	1. 音符や、記号、コードネーム、音楽用語など基礎的な楽典の知識を習得することができる。								
	2. リズム感や読譜力を身につけることができる。								
	3. 鍵盤楽器による簡易伴奏の方法を理解し、活用することができる。								
	4. 鍵盤楽器の保育現場での活用法を知り実践力や応用力を身につけることができる。								
	5. コードや和音記号による演奏や初見奏に慣れ実践力をつけることができる。								
履修条件、注意事項	・通年授業　・年回 30 回行う								
授業計画								到達目標	授業方法
	1・2. 音楽の基礎知識（1）1. 音部記号、2. 階名　3. 五線譜と鍵盤の関係　4. 臨時記号　5. 音名 ハ長調の音階と和音（Ⅰ・Ⅴ・Ⅴ7）コードネームと音名							1,2,3,4,5	面接
	3・4. 音楽の基礎知識（2）6. 小節　7. 音符　8. 休符　ハ長調の伴奏づけ演習（1）（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7）コ ードネーム（英米音名とルートの音）　リズムについて①							1,2,3,4	面接
	5・6. 音楽の基礎知識（3）9. 拍子　ハ長調の伴奏づけ演習（2）（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7） 和音記号とコードの関係　リズムについて②							1,2,3,4	面接
	7・8. 音楽の基礎知識（4）10. 演奏の順序　メロディの初見奏①　ハ長調の伴奏づけ演習（3）コードによるベース音 ①							1,2,3,4,5	面接
	9・10. 音楽の基礎知識（5）11. いろいろな記号 12. 音階 13. 調号の理解　メロディの初見奏②ハ長調の伴奏 づけ演習（4）コードによるベース音②							1,2,3,4,5	面接
	11・12. 小テストⅠ（ハ長調の伴奏づけ：和音記号、コードベース音）音楽の基礎知識（6）14. 調号読み①							1,2,3,4,5	面接
	13・14. 音楽の基礎知識（7）コードの仕組み①　14. 調号読み②15. 長音階①　リズムについて③ 確認問題①							1,2,3,4,5	面接
	15・16. コードの仕組み②メジャーコード 16. 長音階と調号、和音の関係　確認問題②							1,2,3,4,5	面接
	17・18. 小テスト2（音楽の基礎知識筆記）　コードの仕組み③メジャーコード、マイナーコード							1,2,3,4,5	面接
	19・20. ハ長調のコード伴奏付け演習①　コードの仕組み③メジャーコード、マイナーコードと和音記号							1,2,3,4,5	面接
	21・22. ト長調のコード伴奏付け演習　リズムについて④							1,2,3,4,5	面接
	23・24. ヘ長調（ニ長調）のコード伴奏付け演習							1,2,3,4,5	面接
	25・26. 小テスト3（コード筆記・弾く）コードによる伴奏付け　いろいろな伴奏形							1,2,3,4,5	面接
	27・28. コードによる伴奏づけ　いろいろな伴奏形（リズム伴奏）　リズムについて⑤							1,2,3,4,5	面接
	29・30. コードによる伴奏づけ　いろいろな伴奏形（両手伴奏）							1,2,3,4,5	面接
◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	グループワーク								
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 65％、②定期試験 25％、③授業への取り組み 10％ 評価の基準：①小テスト　＊知識・理解の定着度を測定 ・課題を演奏することができる。 ・和音記号、コード（ベース音、和音）の理解ができる。また、初見、演奏することができる。 ・基礎的な楽典を理解し解答できる。 ②定期試験　＊知識・理解／技能表現の測定 ・メジャーコード、マイナーコードを理解し、グレードに合わせた課題を両手伴奏することができる。 ・コードネーム付きメロディを初見演奏し、伴奏をつけることができる。 ③授業への取り組み　＊関心・意欲の測定 ・意欲を持って積極的に参加する。								
フィードバックの方法	小テストごとに解答を示し、理解不足については個人指導を行う。								
時間外の学習 について	予習：学習計画表を参考に、伴奏付けの練習や副教材・補足教材を行い、音楽の基礎知識を身につける。（45 分程度） 復習：音楽の基礎知識の学習と、授業で行った伴奏づけを反復練習する。（45 分程度）								
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育園のうた　ピアノ伴奏曲集』本廣明美・加藤照恵編　ドレミ楽譜出版社 『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』加藤照恵・本廣明美編　ドレミ楽譜出版社、　音楽基礎副教材 参 考 書： 参考資料：								
実務経験を活かした 授業について									
担当者からの メッセージ等	音楽の基礎をしっかりと学び、応用できるように頑張りましょう。 担当者の連絡先・E-mail：nagata@yamaguchi-jca.ac.jp（永田）								

科目名	保育ピアノⅠ	教員	杉山 綾子 他 (複数)	免許・資格 との関係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-S191-001	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年前期			⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力		
授業テーマ	ピアノの基礎知識・技術、弾き歌い、豊かな表現力								
授業概要	各自の音楽経験や技術力に合わせたグレード別カリキュラムにより、小グループでの個人レッスンで学習を進める。ピアノ曲と季節の弾き歌い曲を学習しながら、音楽の基礎的知識や演奏技術の修得を目指す。また、見学実習・夏休み課題実習で活用できるレパートリーの修得を目指す。								
到達目標	1. グレード別カリキュラムのピアノ曲の技術を習得し、テーマにふさわしい表現で演奏できる。								
	2. 子どもの歌が弾き歌いできる技術・方法を身につけ、発揮できる。								
	3. 音楽の基礎的な知識を理解できる。								
	4. 曲へのイメージを持ち、お話を作って表現や演奏を楽しむことができる。								
履修条件、注意事項									
授業計画							到達目標	授業方法	
	1. オリエンテーション・入学前課題弾き歌い曲の確認						2	面接	
	2. ピアノ曲：基礎的な動き（歩く奏法） 弾き歌い①（春の歌・伴奏）						1,2,3,4	面接	
	3. ピアノ曲：基礎的な動き（歩く表現） 弾き歌い①（春の歌・歌唱）						1,2,3,4	面接	
	4. ピアノ曲：基礎的な動き（走る奏法） 弾き歌い①（生活の歌・伴奏）						1,2,3,4	面接	
	5. ピアノ曲：基礎的な動き（走る表現） 弾き歌い①（生活の歌・歌唱） イメージペイント						1,2,3,4	面接	
	6. ピアノ曲：基礎的な動き（とぶ奏法） 弾き歌い①仕上げ イメージペイント						1,2,3,4	面接	
	7. ピアノ曲：基礎的な動き（とぶ表現） 弾き歌い試験Ⅰ（弾き歌い①より2曲を選択しⅠ曲指定）						1,2,3,4	面接	
	8. ピアノ曲：基礎的な動き（ゆれる奏法） イメージペイント仕上げ						1,2,3,4	面接	
	9. ピアノ曲：基礎的な動き（ゆれる表現） ピアノ課題曲決め イメージペイント発表						1,2,3,4	面接	
	10. ピアノ曲：課題曲 読譜 弾き歌い②（夏の歌・伴奏）						1,2,3,4	面接	
	11. ピアノ曲：課題曲 奏法 弾き歌い②（夏の歌・歌唱）						1,2,3,4	面接	
	12. ピアノ曲：課題曲 奏法 弾き歌い②（いろいろな歌・伴奏）						1,2,3,4	面接	
	13. ピアノ曲：課題曲 表現 弾き歌い②（いろいろな歌・歌唱）						1,2,3,4	面接	
	14. ピアノ曲：課題曲 仕上げ 弾き歌い②仕上げ						1,2,3,4	面接	
	15. ピアノ曲：ピアノ曲試験 弾き歌い試験Ⅱ（弾き歌い②より2曲を選択しⅠ曲指定） 授業のまとめ						1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ								
成績評価基準	評価の方法：①ピアノ曲試験（50％） ②弾き歌い試験（20％） ③イメージペイント発表（10％） ④レポート（10％） ⑤授業への取り組み（10％）								
	評価の基準：①ピアノ曲試験 ＊知識・理解/技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気を楽しむことができる。								
	②弾き歌い試験 ＊技能表現の測定 ・ピアノ伴奏しながら歌うことができる。								
	③イメージペイント発表 ＊関心・意欲/知識・理解の測定 ・曲に対するイメージを持ちストーリーを作ることができる。								
	④レポート ＊関心・意欲/知識・理解の測定 ・基本的な演奏・伴奏技術について、今後の課題と効果的な学習法を考察することができる。								
	⑤授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 ・目標・意欲を持って十分な練習をしている。								
フィードバックの方法	豊かな表現をするためのポイントや個別の練習方法についてアドバイスする。								
時間外の学習 について	予習：有意義なレッスンが受けられるように十分な準備・練習をする。（45分） 復習：既習曲（ピアノ曲・弾き歌い曲）は、保育現場で実践できるよう常に弾いておく。（45分）								
教材にかかわる情報	テキスト：『ピアノ名曲でこどもとあそぼう』『基礎から学べるピアノⅠ, 2, 3』『幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集』 本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社） 参 考 書：『標準バイエルピアノ教則本』『ブルグミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバムⅠ・2』『ソナタアルバムⅠ・2』（全音楽譜出版社） 参考資料：『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社）『楽しくうたあそび123』河北邦子・坂本久美子（ミネルヴァ書房）								
実務経験を活かした 授業について									
担当者からの メッセージ等	ピアノの上達には残念ながら近道はありません。目標を設定し、毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。 E-mail：asugiyama@yamaquchi-ica.ac.jp								

科目名	保育ピアノⅡ	教員	杉山 綾子 他 (複数)	免許・資格 との 関係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	26JC-S192-001	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	Ⅰ年後期			⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力		
授業テーマ	ピアノの基礎知識・技術、弾き歌い、豊かな表現力								
授業概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより、小グループでの個人レッスン学習を進める。ピアノ曲と季節の弾き歌い曲を学習しながら、音楽の基礎的知識や演奏技術を修得し、表現力豊かな演奏を目指す。また、1・2月の実習で活用できるレパートリーを修得する。								
到達目標	1. グレード別カリキュラムによるピアノ曲・弾き歌い曲の技術・方法を修得し、表現力豊かに演奏できる。								
	2. 音楽の基礎的な知識を理解できる。								
	3. 学んだピアノ曲や弾き歌いを、保育現場で実践できる。								
履修条件、注意事項									
授業計画							到達目標	授業方法	
	1. オリエンテーション・夏休み弾き歌い課題の確認（生活の歌）						1, 3	面接	
	2. ピアノ曲：自由表現（動物）奏法 弾き歌い試験Ⅰ（夏休み課題曲）						1, 2, 3	面接	
	3. ピアノ曲：自由表現（動物）表現 弾き歌い①（秋の歌・伴奏）						1, 2, 3	面接	
	4. ピアノ曲：自由表現（乗り物）奏法 弾き歌い①（秋の歌・歌唱）						1, 2, 3	面接	
	5. ピアノ曲：自由表現（乗り物）表現 弾き歌い①（いろいろな歌・伴奏）						1, 2, 3	面接	
	6. ピアノ曲：自由表現（感情）奏法 弾き歌い①（いろいろな歌・歌唱）						1, 2, 3	面接	
	7. ピアノ曲：自由表現（感情）表現 弾き歌い①仕上げ						1, 2, 3	面接	
	8. ピアノ曲：自由表現（物語）奏法 弾き歌い試験Ⅱ（弾き歌い①より2曲を選択しⅠ曲指定）						1, 2, 3	面接	
	9. ピアノ曲：自由表現（物語）表現 弾き歌い②（冬の歌・伴奏） ピアノ課題曲決め						1, 2, 3	面接	
	10. ピアノ曲：課題曲 読譜 弾き歌い②（冬の歌・歌唱）						1, 2, 3	面接	
	11. ピアノ曲：課題曲 奏法 弾き歌い②（冬の歌・表現）						1, 2, 3	面接	
	12. ピアノ曲：課題曲 奏法と表現 弾き歌い②（行事の歌・伴奏）						1, 2, 3	面接	
	13. ピアノ曲：課題曲 表現と速度 弾き歌い②（行事の歌・歌唱表現）						1, 2, 3	面接	
	14. ピアノ曲：課題曲 仕上げ 弾き歌い②仕上げ						1, 2, 3	面接	
	15. ピアノ曲：ピアノ曲試験 弾き歌い試験Ⅲ（弾き歌い②より2曲を選択しⅠ曲指定） 授業のまとめ						1, 2, 3	面接	
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ								
成績評価基準	評価の方法：①ピアノ曲試験（50%） ②弾き歌い試験（30%） ③レポート（10%） ④授業への取り組み（10%） 評価の基準：①ピアノ曲試験 ＊知識・理解/技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ豊かに表現できる。 ②弾き歌い試験 ＊技能表現の測定 ・大きい声を出して歌える。 ・ピアノ伴奏しながら歌うことができる。 ・コードネームを理解する。 ・歌詞の理解をして表情豊かに演奏できる。 ③レポート ＊関心・意欲/知識・理解の測定 ・実習に向けての準備曲や伴奏技術について、目標を設定して効果的な学習法を考察することができる。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 ・目標・意欲を持って十分な練習をしている。								
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや個別の練習方法についてアドバイスする。								
時間外の学習 について	予習：有意義なレッスンが受けられるように十分な準備・練習をする。（45分） 復習：既習曲（ピアノ曲・弾き歌い曲）は、保育現場で実践できるよう常に弾いておく。（45分）								
教材にかかわる情報	テキスト：『ピアノ名曲でこどもとあそぼう』『基礎から学べるピアノⅠ, 2, 3』『幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集』 本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社） 参 考 書：『標準バイエルピアノ教則本』『ブルグミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバムⅠ・2』『ソナタアルバムⅠ・2』（全音楽譜出版社） 参考資料：『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社）『楽しくうたあそび123』河北邦子・坂本久美子（ミネルヴァ書房）								
実務経験を活かした 授業について									
担当者からの メッセージ等	ピアノの上達には残念ながら近道はありません。目標を設定し、毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。 E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp								

科目名	保育実習指導Ⅰ	教員	杉山 綾子 難波 章人 （複数）	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S17I-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	1 年前後期 2 年前後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力	○	
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育実習									
授業テーマ	主体性、実習準備（保育指導案作成など）、自己反省・自己改善									
授業概要	保育実習Ⅰを円滑で実り多いものにするための事前・事後指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行う。事前指導では実習生としての心得に始まり、実習に関わる観察と記録の取り方など、実習に求められる基本的な知識と技能を学ぶ。実習終了後の事後指導では、実習の振り返りや自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。									
到達目標	1. 保育実習の目的・意義を理解できる。									
	2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。									
	3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、守秘義務等について理解できる。									
	4. 実習の計画、実践、観察、記録、 評価の方法や内容について具体的に理解できる。									
	5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にできる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 保育実習の意義・目的							1	面接	
	2. 保育所見学実習準備①（実習の説明）							1, 2	面接	
	3. 保育所見学実習準備②（保育内容の理解）							1, 2, 3	面接	
	4. 保育所見学実習準備③（保育所での実習）							1, 3, 4	面接	
	5. 保育所見学実習準備事後指導（実習反省）							1, 4, 5	面接	
	6. 保育所実習準備①（紹介票・誓約書）							1, 3	面接	
	7. 保育所実習準備②（テーマ設定）							1, 2, 4	面接	
	8. 保育所実習準備③（日誌、検便指導）							2, 4	面接	
	9. 保育所実習準備④（指導案）							2, 4	面接	
	10. 保育所実習準備⑤（実習の流れ）							1, 4	面接	
	11. 保育所実習準備⑥（実習訪問）							1	面接	
	12. 保育所実習準備⑦（エピソード）							2	面接	
	13. 保育所実習準備⑧（実習留意点）							2, 3	面接	
	14. 保育所実習事後指導①（自己評価）							5	面接	
	15. 保育所実習事後指導②（個別指導）							5	面接	
	16. 施設見学実習準備①（施設概説）							1, 2, 3	面接	
	17. 施設見学実習準備②（障害の理解）							1, 2, 3	面接	
	18. 施設見学実習事後指導①（反省と考察）							5	面接	
	19. 施設実習準備①（実習目的・紹介票作成）							1	面接	
	20. 施設実習準備②（ボランティア）							2, 3	面接	
	21. 施設実習準備③（ボランティアまとめ）							2, 3	面接	
	22. 施設実習準備④（テーマ・留意点）							2	面接	
	23. 外部講師①（障害者施設について）							3	面接	
	24. 外部講師②（児童養護施設について）							3	面接	
	25. 施設実習準備⑧（実習の心得）							1, 2, 3, 4	面接	
	26. 施設実習準備⑨（書類配布）							1	面接	
	27. 施設実習事後指導①（自己評価）							5	面接	
	28. 施設実習事後指導②（個別指導）							5	面接	
	29. 外部講師③（子育て支援について）							3	面接	
	30. 実習のまとめ・小テスト							1, 2, 3, 4, 5	面接	

アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：①小テスト 40%、②レポート・自己評価票・実習関連書類の提出・内容 40%、③授業への取り組み 20% 評価の基準：①小テスト ＊知識・理解および技能の定着度を測定 ・保育所保育指針に基づき、保育所や保育活動に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・施設に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・保育者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。 ②レポート・自己評価票・実習関連書類の提出・内容 ＊知識・理解の定着度および思考力を測定 ・保育所や施設に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに、実習における活動のあり方を考察することができる。 ・実習に関わる書類を正確に提出し、その書類を作成する意義を理解している。 ・自らの実習における活動を省察し、適切に自己評価できる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で保育所・施設に関する学習を積極的に行うことができる。
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。提出物については優れた内容のものについて他の学生に紹介する。
時間外の学習について	予習：授業計画を把握し、事前準備に真摯に取り組む。（各回 45 分程度） 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。（各回 45 分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：『実習の手引き』、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：適宜配布する。
実務経験を活かした授業について	
担当者からのメッセージ等	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配る。E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp（杉山） E-mail：ananbo@yamaguchi-jca.ac.jp（難波）

科目名	保育実習Ⅰ	教員	杉山 綾子 難波 章人 （複数）	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	26JC-S172-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	実習	年次	1 年後期 2 年前後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	4			⑦	専門的な コミュニケーション能力	○		
						⑧	課題解決能力			
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育実習									
授業テーマ	保育実習（保育所・施設）、保育者としての高度な技術と実践力									
授業概要	保育実習Ⅰは保育所での10日間実習と、保育所以外の児童福祉施設（知的障害児（者）施設、児童養護施設など）での10日間実習の両方からなる。この実習は見学・観察・参加実習を中心に行い、対象児及び保育者の仕事内容、また施設の役割を体験的かつ具体的に学ぶ。									
到達目標	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育実践力を発揮できる。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、理解できる。 4. 保育の計画、観察、記録、記録及び自己評価等について具体的に理解できる。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、理解できる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画	実習内容								到達目標	授業方法
	<保育所>									
	1. 保育の1日の流れを把握し、保育指針に基づくその方法や手順、保育者の役割や働きがい等について具体的に観察する。								1, 2	面接
	2. 乳幼児の表現、あるいは乳幼児同士や乳幼児と保育者の関わりを観察する。								2	面接
	3. 保育士の指導の下、補助的に乳幼児を援助する。								3, 4, 5	面接
	4. 保育の環境構成を学び、環境構成に参加する。								3, 4, 5	面接
	5. 手遊びや絵本の読み聞かせなどを実践する。								3, 5	面接
	<施設>									
	1. 実習施設の設立理念と養護の目標を理解する。								1	面接
	2. 施設の1日の流れや生活状況を把握する。								1, 2	面接
	3. 子ども（利用者）と生活を共にし、積極的に関わることによって子ども（利用者）の理解に努める。								2	面接
	4. 保育士や指導員の指導の下、保育士の仕事に補助的立場で参加する。								3, 4, 5	面接
5. レクリエーションや生活のなかで既習の教科で学んだことを実践する。								3, 5	面接	
アクティブ・ラーニング	実習									
成績評価基準	評価の方法：①実習先の評価 60%、②実習手帳の内容 40% 評価の基準：①実習先の評価 ＊知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・正確な知識を持ち、実践に活用することができる。 ・乳幼児に対して適切な行動、判断ができ、自己の実践を省察することができる。 ・適切な保育に関心を持ち、積極的に活動することができる。 ・適切な保育活動の計画を立て、実践に移すことができる。 ・守秘義務などの職業倫理を理解し、遵守している。 ②実習手帳の内容 ＊思考力、態度を測定 ・自己の実践について省察を行って改善に繋げることができる。 ・乳幼児の思いの理解に努め、考察することができる。									
フィードバックの方法	実習園及び実習施設からの評価票を個別にて指導する。また、手帳について各担当者が評価し、評価についての指導を行う。									
時間外の学習 について	予習：事前準備に真摯に取り組む。実習指導を真摯に受け、配布資料等を理解する。（毎回 90 分程度） 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。（毎回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：『実習の手引き』、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配ること。E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp（杉山） E-mail：ananba@yamaguchi-jca.ac.jp（難波）									

2 年次開講科目

保育学科

科目名	日本国憲法	教員	香川 智弘 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-L208-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	講義	年次	2 年後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（幼稚園）										
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	広い見識 主体性 問題解決能力 社会人としての教養									
授業概要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。									
到達目標	1. 市民としての法感覚が養われる。									
	2. 憲法の基本理念を知り、理解できる。									
	3. 人権感覚が養われる。									
	4. 憲法的視点から今日の社会を理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 日本国民の要件 国籍法								1, 3, 4	面接
	2. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原理①国民主権								1, 2	面接
	3. 日本国憲法の基本原理②平和主義、基本的人権の尊重								1, 2, 3	面接
	4. 日本国憲法の人権規定①法の下の平等 平等とは、少年法、男女雇用機会均等法								1, 3, 4	面接
	5. 日本国憲法の人権規定①法の下の平等 尊属殺重罰事件								1, 3, 4	面接
	6. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 内心の自由、信教の自由、学問の自由								1, 3, 4	面接
	7. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 表現の自由								1, 3, 4	面接
	8. 日本国憲法の人権規定③身体的自由権、小テスト								1, 3, 4	面接
	9. 日本国憲法の人権規定④経済的自由権								1, 3, 4	面接
	10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権								1, 3, 4	面接
	11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権								1, 3, 4	面接
	12. 日本国憲法の人権規定⑦家族制度における個人の尊厳と男女平等 憲法と家族法								1, 3, 4	面接
	13. 日本国憲法の人権規定⑦家族制度における個人の尊厳と男女平等 親族編								1, 3, 4	面接
	14. 日本国憲法の人権規定⑦家族制度における個人の尊厳と男女平等 相続編								1, 2, 4	面接
	15. 日本国憲法の人権規定⑦家族制度における個人の尊厳と男女平等 まとめ								1, 2, 4	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング										
成績評価基準	評価の方法：①試験・小テスト（80％） ②授業への取り組み（20％） 評価の基準：①試験・小テスト ＊知識・理解を測定 ・教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる ・応用レベルの問題に回答できる ②授業への取り組み ＊関心・意欲を測定 ・積極的に授業に参加し、発言する									
フィードバックの方法	理解度を確保するため小テストを行い、採点して返却する。									
時間外の学習 について	予習：テキストを読んで理解する。90 分程度 復習：学習内容をノートにまとめる。90 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：香川智弘「憲法講義」 参 考 書： 参考資料：プリントを配布する。									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	平素からニュースを確認し、社会の動きに興味・関心をもって下さい。 kagawa@y-gakugei.ac.jp									

科目名	知的財産法入門	教員	大野 浩光 柳川 和也	免許・資格 との関係	保育士	幼稚園教諭	関係性が最も強い学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
								②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-L205-000	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	講義	年次	2年後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
授業テーマ	知的財産、著作権、特許、意匠、商標									
授業概要	知的財産法は、アイデアや発明、ブランド、デザイン、作品などの知的財産を、創作した人の財産として保護するための制度です。本科目では、社会人に求められる知的財産（著作権・特許・意匠・商標）の基本を学び、日常生活や創作活動、ビジネスの場面で、知的財産に関わる問題に気づき、適切に対処する力を身につけます。									
到達目標	1. 知的財産権法の役割や、社会における位置付けを理解する。									
	2. 著作権、特許、商標、意匠に関する基礎知識や、基本的な考え方を身につける。									
	3. 日常生活や創作活動、ビジネスの場面で、知的財産に関わる問題に気づくことができる。									
	4. 日常生活や創作活動、ビジネスの場面で、ルールを厳守して正しく行動ができる。									
	5. J-platpat を活用して、知的財産に関する情報検索ができる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. ガイダンス：社会と知的財産権								1	面接
	2. 著作権（1）著作物								1, 2, 3, 4	面接
	3. 著作権（2）著作者人格権								1, 2, 3, 4	面接
	4. 著作権（3）複製権、公衆送信権								1, 2, 3, 4	面接
	5. 著作権（4）教育における利用								1, 2, 3, 4	面接
	6. 著作権（5）演奏権など								1, 2, 3, 4	面接
	7. 著作権（6）二次的著作物								1, 2, 3, 4	面接
	8. 著作権（7）著作隣接権								1, 2, 3, 4	面接
	9. 著作権（8）フリー素材・楽曲の利用								1, 2, 3, 4	面接
	10. 特許（1）特許法								1, 2, 3, 4	面接
	11. 特許（2）特許情報検索（J-platpat）								5	面接
	12. 商標（1）商標法								1, 2, 3, 4	面接
	13. 商標（2）商標情報検索（J-platpat）								5	面接
	14. 意匠（1）意匠法								1, 2, 3, 4	面接
	15. 意匠（2）意匠情報検索（J-platpat）								5	面接
	◎定期試験（筆記、パソコン実技）									
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①小レポート・ワークシート・宿題レポート（50％） ②定期試験（50％） 評価の基準：①小レポート・ワークシート・宿題レポート ＊思考・判断、関心・意欲を測定 ・授業内容を理解し、正しく説明ができる。 ・知的財産に関心を持ち、身近なトピックとの関連を述べることができる。 ・創作者と利用者の立場を理解し、適切な行動ができる。 ・知的財産に関する問題に対して、自分の意見を述べることができる。 ②定期試験 ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・知的財産に関する正しい知識を身につけている。 ・J-platpat を活用して、知的財産に関する情報検索ができる。									
フィードバックの方法	次回講義で宿題レポートの解答例を示し、解説する。次回講義あるいは Teams で、質問に回答する。									
時間外の学習について	予習： 知的財産に関するニュースに目を通し、知的財産と社会の関係を考察する。（各回 60 分程度） 復習： 授業を振り返り、小レポート、宿題レポート、ワークシートに取り組む。教科書を読む。（各回 120 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「これからの知財入門 第4版」（ISBN978-4-296-20195-2）、日経 BP 社 参 考 書：なし 参考資料等：なし									
実務経験を活かした授業について	企業で特許出願等に携わった経験を生かして授業をします。情報社会に必要な知的財産の基礎を学び、将来に役立てましょう。									
担当者からのメッセージ等	連絡先：kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）、hoono@yamaguchi-jca.ac.jp（大野）									

科目名	文 学	教員	久保田 京子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関 係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	○
							④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	JC-L206-000	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	講義	年次	2 年後期			⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力		
授業テーマ	日本文学史、概論、文学知識、山口県ゆかりの文学者、ふるさとの文学調査研究								
授業概要	「日本文学史」を概観（古典から近代）することでその流れを学び、教養を身につける。さらに授業で培った知識や思考力をもとに、山口県ゆかりの文学者について調査研究をし、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。								
到達目標	1. 人口に膾炙した作品を中心に日本文学史について学び、知識と教養を身につけることができる。								
	2. 山口県に関連のある文学作品及び文学者（古典～近代）について理解を深めることができる。								
	3. 文学館・図書館・ＩＴを活用した課題研究をし、その成果をプレゼンテーションすることができる。								
履修条件、注意事項									
授業計画								到達目標	授業方法
	１．日本文学史の概略・テキストの説明							1.2	面接
	２．「古事記」の時代と「古事記」にみる山口県							1.2	面接
	３．「万葉集」の歌人たちと「万葉集」に読まれた山口県							1.2	面接
	４．古今和歌集」と日本の四季							1.2	面接
	５．平安女流文学の隆盛							1.2	面接
	６．軍記文学と中世説話集等							1.2	面接
	７．近世俳諧の成立							1.2	面接
	８．浄瑠璃と歌舞伎にみる伝統							1.2	面接
	９．近世の散文（読みもの）							1.2	面接
	10. ふるさとの文学者① 小説							1.2.3	面接
	11. ふるさとの文学者② 詩							1.2.3	面接
	12. ふるさとの文学者③ 俳句							1.2.3	面接
	13. ふるさとの文学者④ 童謡							1.2.3	面接
	14. 日本文学の展望							1.2.3	面接
	15. 文学レポートのプレゼンテーション							1.2.3	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、ロールプレイ								
成績評価基準	評価の方法：①レポート(30%)②復習小テスト(30%)③授業態度・提出プリント(20%) ④発表・参加度(20%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①・②知識・理解、思考・判断、表現を測定 ・基礎知識が身につき、調査研究等をもとに自説をまとめた文章で表現できる。 ③・④関心・意欲、態度を測定 ・課題に意欲的に取り組み、積極的かつ主体的に学習活動に取り組むことができる。								
フィードバックの方法	毎時間の提出授業プリントは添削指導し、各自の良さを伝える。小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。								
時間外の学習 について	予習：「予習シート」によりテキストの読解・要約(各回90分程度) 復習：授業プリントをファイルに整理し（ポートフォリオ）、課題研究の準備(各回90分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト：「日本文学史」小西甚一著 講談社学術文庫 参 考 書： 参考資料：毎時、授業プリント配布								
実務経験を活かした 授業について	教職経験（高校・国語）、行政職経験とくに文化振興に携わった経験等をもとに、ふるさと山口の文学者について興味関心が広がるよう話をします。								
担当者からの メッセージ等	日本文学史やふるさと山口の文学者について学び理解することで、暮らしの中で芸術表現を感得できる感性を磨きましょう。授業プリントや作成した文学レポートはポートフォリオとして振り返りや課題発見の一助として活用しましょう。 担当者の連絡先・メールアドレス T0001@yamaquchi-jca.ac.jp（久保田）								

科目名	暮らしのなかの科学	教員	山田 哲也 (実務経験) 開地 元典 (実務経験) (オムニバス)	免許・資格 との 関 係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	○
							④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-L204-000	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	講義	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力	○	
授業テーマ	自然現象の理解、科学的発想、人々の暮らしと自然科学との関わり								
授業概要	自然の理解並びに物理学、化学、生物学、地学等の自然科学の基本的な法則や現象の理解を図るとともに、身近な暮らしの中の事物や現象をもとに自然科学的な見方や考え方を養う。								
到達目標	1.自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを理解する。								
	2.身のまわりの自然現象に目を向け、科学的な視点及び自然科学に関する基本的な知識や概念を習得する。								
	3.自然科学的な見方・考え方など、自然と共生することの大切さを理解し、正しい自然観を身に付ける。								
	4.気象現象や気候変動の現況を理解し、自然災害への対応力を身に付ける。								
履修条件、注意事項									
授業計画							到達目標	授業方法	
	1. 自然科学へのまなざしー自然科学的な見方・考え方についてー						(担当：山田)	1	面接
	2. 錯覚の科学						(担当：開地)	2,3	面接
	3. 手品の科学						(担当：開地)	2,3	面接
	4. 薬の科学						(担当：開地)	2,3	面接
	5. 種子の科学						(担当：開地)	2,3	面接
	6. 遺伝子の科学						(担当：開地)	2,3	面接
	7. バイオミミクリー ①						(担当：開地)	2,3	面接
	8. バイオミミクリー ②						(担当：開地)	2,3	面接
	9. 様々な天体とその特徴						(担当：山田)	2,3	面接
	10. 岩石・鉱物の科学						(担当：山田)	2,3	面接
	11. 身のまわりの地形や地質構造						(担当：山田)	2,3	面接
	12. カと光の科学						(担当：山田)	2,3	面接
	13. 日常生活や自然界における電気と磁気						(担当：山田)	2,3	面接
	14. 気象現象にみる水や大気のかかわり						(担当：山田)	2,3	面接
	15. 気候変動の理解と自然災害（地震、津波、台風、火山、土砂災害等）への対応						(担当：山田)	4	面接
アクティブ・ラーニング	各領域の特定のテーマについてディスカッションやグループワークなどを取り入れる。また、各回の授業の中で課題について、インターネットや図書等を利用したレポートを作成し、次回の講義において意見交換を行う。								
成績評価基準	評価の方法：①各回レポート及び最終課題（60％）、 ②授業時での内容理解や取組状況・ポートフォリオ等（40％）で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲：レポート・課題の量（字数）と質（解答の的確性）が適切である。 ②知識・理解、思考・判断、関心・意欲：授業及び授業内での活動において、積極的な参画により必要な知識を理解するとともに、適切な思考や判断が行われている。								
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートについては時間内あるいは次週に解説する。								
時間外の学習 について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト(北海道大学オープンコースウェア等)を閲覧する。(各回 90 分程度) 復習：授業において習得した内容についてまとめるとともに、更なる気づきや疑問点について調べる。(各回 90 分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考資料等：https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy/（北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力） 配布プリント、紹介図書・記事等の参考資料								
実務経験を活かした 授業について	高等学校教員の経験をもとに、暮らしのなかの事物・現象やその要因の理解について科学の視点から支援します。								
担当者からの メッセージ等	暮らしのなかの科学に目を向け、抱いた疑問や不思議をもとに、図書やインターネット情報を活用して主体的に課題に取り組み、レポート作成やディスカッション等を通して、自分なりの自然科学的な見方・考え方を養ってください。 担当教員の連絡先メールアドレス：tyamada@yamaguchi-jca.ac.jp（山田）、 mkaichi@y-gakugei.ac.jp（開地）								

科目名	進路研究	教員	永田 実穂 他 (複数)	免許・資格 との関係	保育士	選択	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-L207-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	講義	年次	2年前後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
				⑧		課題解決能力				
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	進路、自己実現、キャリア教育、キャリア支援、主体性									
授業概要	進路決定に至るまでに、自らが求める職業について考え主体的に研究する。社会人基礎力について学ぶとともに、社会人として必要なマナーや事柄について理解する。また就職のために必要な事柄について段階を踏みながら演習を繰り返し、実践力をつけていく。									
到達目標	1. 自己を見つめ正しく認識できる。									
	2. 自分自身の生き方を考え、進路について主体的に考える力を身につけ、発揮できる。									
	3. 専門職（保育）の職務内容について理解し、就職活動に活かすことができる。									
	4. 履歴書作成、就職支援講座を通して実践的な進路開拓の力を身につけ、発揮できる。									
	5. 社会人として必要な教養やマナー、コミュニケーション力を身につけ、発揮できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 働くということを考える（ライフプランニング）								1,2	面接
	2. 社会が求める資質・能力、本学の建学の精神やディプロマ・ポリシーについて考える（社会人基礎力について）								1,2,3,5	面接
	3. 進路希望種別の情報を収集する（公立・幼稚園・保育所・認定子ども園・施設・一般）								2,3,4	面接
	4. 就職支援講座①（就職活動のマナーについて）								2,4,5	面接
	5. 求人票の見方、および自己分析、自己理解の上での自己PR、履歴書の作成								1,2,3,4	面接
	6 就職試験に必要な一般教養、時事問題、論作文の書き方								1,2,3,4	面接
	7. 就職活動に必要な手紙、添え状やメールの書き方								4,5	面接
	8. 話し方講座（面接や人前での言葉遣い、話し方についての講義、模擬面接）								4,5	面接
	9. 特別講義①（社会が求める人材について）								1,2	面接
	10. 自己評価、自己分析を行い進路希望の明確化を図る。夏休み中の就職活動について								1,2,3,4	面接
	11. 社会人として必要な一般教養や手紙、電話の応対について								4,5	面接
	12. 世代に応じたコミュニケーション力を身につける								2,5	面接
	13. 特別講義②（保育職に関する講義）								1,2,3,4,5	面接
	14. 救命救急講習								1,2,3,5	面接
	15. まとめ（社会人に必要な倫理観とマナー、自己理解と社会人としての心構えについて）								1,2,3,5	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み(20%) ②就職支援講座・特別講義等のレポート(30%) ③小テスト(漢字、用語、時事問題、一般教養等)(50%) 評価の基準：①関心・意欲、態度、思考・判断：積極的にグループワークを行うことができる。 ロールプレイで適切な対応ができる。 ②思考・判断、技能・表現：特別講義等を聴いて、自分の将来について真摯に向き合い主体的に考え書くことができる。 ③知識・理解：社会人として必要な一般常識や教養などの問題に回答できる。論作文を書くことができる。 履歴書の書き方や社会人として必要なメールや手紙を書くことができる。									
フィードバックの方法	論作文の添削や小テスト後の振り返りを行う。									
時間外の学習について	予習：一般教養、漢字、時事に関するドリルブックを行う（各回 90 分程度） 復習：小テストの復習および、講義内容を整理し実践できるようにする。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：就職ガイドブック 一般常識問題ドリルブック 参考書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領 < 原本>』 チャイルド本社									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	自分の将来について真剣に考え主体的に取り組ましましょう。連絡先メールアドレスは、授業内で周知する。									

科目名	英語 コミュニケーション	教員	ダグラス・パーキン (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	JC-L111-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力			
授業形態	演習	年次	2 年後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（幼稚園）										
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	英語 コミュニケーション 保育士に必要な英語に重点を置いて学ぶ									
授業概要	将来英語を教えるのに必要な技術を学ぶと共に個々の英語能力も高める									
到達目標	1. 個々の英語力を高め、自信をもって英語を使うことができる。									
	2. 異なる西洋の歌を用いて、外国の文化をよりよく理解し、テーマに沿って英語で表現できる。									
	3. 英語を使用して他者の前で話すスキルが向上する。									
	4. 外国音楽の鑑賞を通して、自らが感じたことを英語で表現できる。									
履修条件、注意事項	気持ちを楽に持って、英語を学ぶことを楽しんでほしい。ノートと辞書は必ず授業に持参すること。									
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. Course Introduction + Student/Teacher Introductions + Example Introduction Lesson							1, 2, 3	面接	
	2. Microsoft Office Teams + Review Introduction Lesson + Student Introduction Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	3. Classroom English + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	4. ABCs + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	5. Body Parts + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	6. Animals + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	7. Emotions + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	8. Numbers + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	9. Colors + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	10. Fruits + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	11. Body Parts + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	12. Holidays /Special Days + Student Lessons							1, 2, 3, 4	面接	
	13. Pair (Team) Student Teaching Tests Week							4	面接	
	14. Pair (Team) Student Teaching Tests Week + Reflections							4	面接	
	15. Final Class - Review Course							1	面接	
アクティブ・ラーニング	Students are active throughout the course by using Question Crazy Cards to talk to faculty members in English, using Microsoft Office Teams to access all course information 24 hours a day, participating in and teaching mini-lessons, teaching a final team teaching 25-minute lesson to the class, and also writing reflections during the middle and at the end of the course in English. グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（10%）、②Pair Teacher Introductions（10%）、③Pair Introductions Reflections（10%）、④Question Crazy Cards（10%）、⑤各授業終わりの模擬授業（In Class Teaching）（10 %）、⑥学期末に配られる Reflections（10%）、⑦Student Teaching Test（40%） 評価の基準：①関心・意欲：積極的に発言する、グループ・ペアワーク等に積極的に取り組む。 ②知識・理解・技能・表現：PC ソフトの学習・理解、表現を理解し、運用できる。 ③関心・意欲・技能・表現：教職員に英語で質問し、会話することができる。 ④関心・意欲、思考・判断：英語で計画を立て、英語でプレゼンテーションを行う。 ⑤関心・意欲：自分自身の取り組みを内省し、課題を見つける。 ⑥知識・理解：英語表現を理解し、運用できる。 ⑦関心・意欲・技能・表現：ペアワークに積極的に取り組む、英語で表現し、コミュニケーションをとることができる。									
フィードバックの方法	発表に対して、学生相互に気づきを共有し、さらに教員から学生個々に対する指導・助言を行う。 Microsoft Teams に対する指導・評価は、学生個々の進度に応じて適宜行う。									
時間外の学習 について	予習：前回の授業の復習を確認するとともに、授業で出された課題を実施する。（90 分） 復習：配られたレッスン計画を利用して授業を復習。その日習った単語を全て調べ覚える。（90 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：None needed - Materials Provided by instructor 参 考 書：None needed. 参考資料：Questions Crazy Cards									
実務経験を活かした 授業について	英語を母国語とする教師として、日本の保育園、小・中・高・大学での 20 年以上の指導経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業などを通して、英語教師としての専門的な教育を指導します。									
担当者からの メッセージ等	It is recommended that all students regardless of their English backgrounds should come with an open mind and learn to enjoy English so they may pass the same enjoyment to their students in the future. E-mail：parkin@v-gakugei.ac.jp									

科目名	体育（講義）	教員	原井 進 （実務経験） （単独）	免許・資格 との 関 係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	○
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-L221-I10	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力			
授業形態	講義	年次	2 年後期			⑥	保育の指導力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（幼稚園）										
教科目	教養科目（保育士）									
系列	教養科目									
授業テーマ	発育発達の特性、運動の特性、運動好き、子どもの体力、安心・安全、事故防止、救急法、熱中症の予防									
授業概要	幼児期の子どもたちにはなぜ運動が必要なのか、また、発育発達の特性に応じた運動とはどんな運動なのか等について、「幼児期運動指針ガイドブック」を用いて理解を深めるとともに、実践力の裏付けとなる基本的な知識を修得する。									
到達目標	1. 体育・スポーツの変遷について、その概要を説明できる。									
	2. 発育発達の特性と運動との関係を理解し、乳幼児期の子どもたちの体育的活動を充実させることができる。									
	3. 運動の特性を踏まえた運動の楽しさを理解し、各運動の特性に触れる活動を行うことができる。									
	4. 熱中症の予防など体育的活動中の事故防止への配慮事項等を実践できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 体育・スポーツの変遷、発育発達の特性								1	面接
	2. 子どもの体力の現状と課題								1 2	面接
	3. 運動の特性								2 3	面接
	4. 幼児期における運動の重要性								2 3	面接
	5. 発達の段階に応じた運動								2 3 4	面接
	6. 体育活動中の事故の現状と事故防止								2 3 4	面接
	7. 学校管理下における重大事故の発生状況及び防止対策								2 3 4	面接
	8. 体育活動中の事故を実例から学ぶ								2 3 4	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（80％）、②授業内レポート（10％）、③授業への参加度（10％）、により、総合的に評価する。 評価の基準：①定期試験：授業で扱った内容について知識の定着度棟を測定する。 ②授業内レポート：学修した内容を踏まえた課題について根拠に基づいた説明（思考・判断）や、今後の活動への取組方法（関心・意欲）等を述べている。 ③授業への参加度：グループワーク等に協力的、協働的に取り組み（関心・意欲）、また、他人の意見を尊重する姿勢（態度）が見られる。									
フィードバックの方法	レポートの内容等を踏まえ、次時の冒頭で疑問点等を解説する。									
時間外の学習 について	予習：テキスト「幼児期運動指針ガイドブック」等の次回の内容を読み込んでおくこと。（90 分程度） 復習：毎時レポート作成により、学んだことの理解を深める。（90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：幼児期運動指針ガイドブック、文部科学省、株式会社サンライフ企画 参 考 書： 参考資料：「JASP-ACP アクティブ チャイルド プログラム」、公益財団法人日本スポーツ協会 等									
実務経験を活かした 授業について	高校保健体育課教員及び県教育委員会事務局において「子どもの体力向上」施策等を担当した職員としての経験を活かして、体力向上及び事故防止の視点について話をします。									
担当者からの メッセージ等	安心・安全への配慮を忘れずに、心身の発育発達及び運動の特性等を理解し、運動好きな子どもたちの育成に資するとともに、自らの健康寿命の延伸に取り組んでほしい。 E-mail：sharai@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	子ども家庭福祉	教員	上村 有平 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S106-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	講義	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	児童福祉　子どもの人権　法律と制度　現代的課題									
授業概要	子ども家庭福祉の理念や歴史的変遷を学び、現代社会における保育者のあり方を考える。また、子どもと家庭、地域をめぐる現状と子ども家庭福祉制度・実践体系について理解し、子どもとその家庭への社会的支援に関する知識を深める。									
到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。									
	2. 子どもの人権擁護について理解できる。									
	3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。									
	4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解できる。									
	5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 子ども家庭福祉の理念と概念								1	面接
	2. 子どもと家庭を取り巻く社会、子どもの権利								1, 2, 4	面接
	3. 子ども家庭福祉の歴史								1	面接
	4. 子ども家庭福祉の制度と法律								3, 5	面接
	5. 子ども家庭福祉にかかわる機関と施設								3, 5	面接
	6. 子ども虐待・DVとその防止								4	面接
	7. 社会的養護								4	面接
	8. 少子化と地域子育て支援								4	面接
	9. 母子保健と子どもの健全育成								4	面接
	10. 多様な保育ニーズへの対応								4	面接
	11. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応								4	面接
	12. 少年非行等への対応								4	面接
	13. 障害のある子どもへの対応								4	面接
	14. 子ども家庭福祉の動向と展望								4, 5	面接
	15. まとめ								1～5	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（40%）、②課題・レポート（40%）、③授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①定期試験　＊知識・理解、思考・判断を測定 ・子ども家庭福祉に関する専門的知識を扱った問題に解答できる。 ②課題・レポート　＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ③授業への取り組み　＊関心・意欲、態度 ・真摯な態度で学習に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加して自分の意見を表明することができる。									
フィードバックの方法	レポート課題は優れている事例を挙げて、その理由を説明する。									
時間外の学習 について	予習：テキストやニュースに目を通し、子ども家庭福祉の現状を把握する。（各回 90 分程度） 復習：テキスト、配布資料の内容を整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉〔第2版〕」直島正樹・河野清志（編著）　萌文書林 参 考 書：「ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026」　中央法規出版 「新・子ども家庭福祉〔第2版〕－私たちは子どもに何ができるか－」浦田雅夫（編著）　教育情報出版 参考資料：適宜紹介する									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。 E-mail： yuemura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	子育て支援	教員	今川 晋平 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S231-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	演習	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力	○	
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	子育て支援の内容と方法及び技術、保育相談支援									
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。									
到達目標	1. 子育て支援の必要性について理解できる。									
	2. 保育士の行う子育て支援の特性について理解できる。									
	3. 保育士の行う子育て支援の展開について理解できる。									
	4. 保育士の行う子育て支援の実際（内容・方法）について理解し、技術を身につけ、実践できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援								1, 2	面接
	2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成								1, 2	面接
	3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解								2, 3	面接
	4. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供								2, 3, 4	面接
	5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握								2, 3	面接
	6. 支援の計画と環境の構成（グループ討議による、模擬支援計画の作成）								3, 4	面接
	7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス								3, 4	面接
	8. 職員間の連携・協働（保育ドキュメントの活用方法）								3, 4	面接
	9. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働								1, 2, 3	面接
	10. 保育所等における支援の実際								2, 3, 4	面接
	11. 地域の子育て家庭に対する支援の実際								2, 3, 4	面接
	12. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援の実際								3, 4	面接
	13. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援の実際								3, 4	面接
	14. 子ども虐待の予防と対応								3, 4	面接
	15. 要保護児童等の家庭に対する支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解								1, 2, 3	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（50％）、②授業への取り組み（20％）、③授業内レポート・課題（30％） 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着度を測定 ・教科書や講義で学んだ問題に回答できる。 ・子育て支援における対応について回答できる。 ②授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 思考・判断の測定 ・記述内容が適切である。 ・積極的に発言する。 ・グループでの活動に積極的である。 ③授業内レポート・課題 ＊知識・思考・判断、意欲・表現の測定 ・学んだことに対して自説を述べるができる。 ・学んだことを根拠に発達の表の作成ができる。									
フィードバックの方法	グループワーク、実践発表をもとに意見を交わしながら、振り返りを行う。									
時間外の学習 について	予習：授業テーマに沿った子育てに関する情報（記事）を、新聞やインターネットから収集し、ノートに整理する。 （各回 45 分程度） 復習：講義を通して学んだことをノートに整理し、知識の定着を図る。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『子育て支援』 小林明子・木脇奈智子 編著 中山書店 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について	保育園園長の経験から相談対応や、現在課題としている保育の家庭支援、子育て支援から支援について話をします									
担当者からの メッセージ等	子ども・子育て相談対応、利用者支援をもとに、グループワーク等を行いながら進めていきます。 担当者の連絡先・E-mail アドレス midorihoikuen.hofu@outlook.com									

科目名	社会的養護Ⅰ	教員	安村 裕美 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	○
								④	豊かな感性と表現力	
								⑤	保育の計画力	○
								⑥	保育の指導力	
								⑦	専門的な コミュニケーション能力	
								⑧	課題解決能力	
ナンバリングコード	JC-S208-010	学科	保育学科	卒業要件	選択					
授業形態	講義	年次	2 年前期							
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2							
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の本質・目的に関する科目									
授業テーマ	社会的養護の理念と概念、子どもの人権擁護、保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度・法体系・仕組み・支援のあり方、被措置児童等の虐待防止の現状と課題									
授業概要	子どもを取り巻く社会的状況を理解し、子どもの育ちと家庭を支援する専門職として、子どもの権利を保障する支援のあり方を理解する。社会的養護の理念、制度、方法（実践）など基本的な内容について理解する。また現在の社会的養護の課題と今後のあり方について考察する。									
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の必要性和家庭養育推進について理解できる。									
	2. 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できる。									
	3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解できる。									
	4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解できる。									
	5. 社会的養護の現状と課題について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 現代社会と社会的養護のあり方、社会的養護の果たす役割							1, 2, 3	面接	
	2. 子どもの権利と社会的養護についての基本原則							2, 3, 5	面接	
	3. 施設養護・家庭養護、家庭的養護							2, 3	面接	
	4. 社会的養護にかかわる機関、関連する法律							2, 3, 4	面接	
	5. 措置を基本とする施設							2, 3, 4	面接	
	6. 利用・契約を基本とする施設							2, 3, 4	面接	
	7. 日本・欧米における社会的養護の歴史的変遷と子ども観の変遷							1, 2	面接	
	8. 社会的養護に関わる専門職とその業務内容、求められている専門性							2, 4	面接	
	9. 児童養護施設での実際の支援、施設養護のプロセスごとに行われる支援の要点							2, 3, 4	面接	
	10. ソーシャルワークの基本、施設養護でのソーシャルワークの展開							2, 4	面接	
	11. 里親制度、里親に対する支援制度							2, 3, 4, 5	面接	
	12. 施設の運営管理・費用の仕組み等							2, 3, 4	面接	
	13. 保育士としての資質と倫理							2, 4	面接	
	14. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組、発生要因と課題							2, 3, 4, 5	面接	
	15. 社会的養護と地域福祉							2, 3	面接	
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（60％）、②小テスト・授業内レポート（20％）、③授業への取り組み（20％） 評価の基準：①定期テスト②小テスト・授業内レポート ＊知識・理解の定着度を測定 ＊思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・社会的養護の理念・概要・制度について理解している。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 ＊態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。									
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。									
時間外の学習 について	予習：次回の授業のテーマについて予め学習しておく。各回 90 分程度 復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回 90 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ」原田旬哉（著）、杉山宗尚(著) 参 考 書：特になし 参考資料等：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について	児童養護施設実務経験をもとに社会的養護の理念、制度、実践内容について、子どもや家庭への支援を通してお話しします。									
担当者からの メッセージ等	社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。 担当者の連絡先・E-mail：hyasumura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	子どもの理解と援助	教員	上村 有平 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S222-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	演習	年次	2 年後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の対象の理解に関する科目									
授業テーマ	子どもの発達や学び、子ども理解の方法、子ども理解に基づく援助や態度									
授業概要	子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義、及び子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 また、子どもを理解するための具体的な方法、及び子どもの理解に基づく援助や態度の基本について理解する。									
到達目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。									
	2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。									
	3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。									
	4. 子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 保育における子どもの理解の意義								1	面接
	2. 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開								1	面接
	3. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達								2	面接
	4. 子どもの生活や遊び								2	面接
	5. 発達の連続性と就学への支援								4	面接
	6. 保育の環境の理解と構成								2	面接
	7. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助								4	面接
	8. 発達の課題に応じた援助と関わり								4	面接
	9. 子ども相互の関わりと集団における育ち								2	面接
	10. 葛藤やつまずき								2	面接
	11. 職員間の対話と保護者との情報共有								3	面接
	12. 環境の変化や移行								3	面接
	13. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり								1	面接
	14. 子ども理解のための観察・記録と省察・評価								3	面接
	15. まとめ								1,4	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト（40%）、②課題・レポート（40%）、③授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①小テスト ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②課題・レポート ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で学習に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加して自分の意見を表明することができる。									
フィードバックの方法	レポート課題は優れている事例を挙げて、その理由を説明する。									
時間外の学習 について	予習：次回の授業テーマについて情報を収集する。（各回 45 分程度） 復習：授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。プリントを配布 参 考 書：「子どもの理解と援助 演習ブック」 松本峰雄（監修） ミネルヴァ書房 「なぜ？から探る 子どもの理解と援助」 青木紀久代（編） みらい 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。 E-mail： yuemura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	子どもの健康と安全	教員	船場 大資 石井恵美子(実務経験) 小迫 幸恵(実務経験) 空田 朋子(実務経験) 原井 進 (オムニバス)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	②		協調的な生活態度		
						③		教養		
						④		豊かな感性と表現力		
						⑤		保育の計画力	○	
ナンバリングコード	JC-S232-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑥	保育の指導力	○		
授業形態	演習	年次	2 年後期			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑧	課題解決能力			
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	子どもの保健についての専門知識、保健活動の技術									
授業概要	子どもの健康と安全を守るための保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策、子どもの発達や状態等に即した体調不良等に対する適切な対応・感染症対策など、保育における保健活動についての基本的な知識を学び、必要とされる技術や態度、実践力を身につける。									
到達目標	1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。									
	2.保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解できる。									
	3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解できる。									
	4.保育における感染症対策について、具体的に理解できる。									
	5.保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解できる。									
	6.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 子どもの健康と安全の環境							(担当：船場)	1, 6	面接
	2. 子どもの健康と発育（形態的・運動的・精神的・生理的）							(担当：船場)	1	面接
	3. 発育評価（身体計測・パーセンタイル値・カウプ指数）							(担当：船場)	1	面接
	4. 子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ（居住・施設環境、子どもの特性と基本的生活習慣・しつけ）							(担当：石井)	5	面接
	5. 基本的生活習慣の確立（食事・排泄・着衣・脱衣・清潔・睡眠）							(担当：石井)	5	面接
	6. 日常の具体的な養護（食事介助・授乳・離乳食・口腔の清潔・衣服の着脱・おむつ交換・沐浴・外出）							(担当：石井)	5	面接
	7. 子どもの事故とその予防（子どもの事故の特徴・応急処置・救急処置及び救急蘇生法・事故発生時の流れ）							(担当：小迫・空田)	2	面接
	8. 子どもに多い病状・病気とその対処および予防Ⅰ（子どもが病気にかかりやすい理由・感染予防と消毒）							(担当：小迫・空田)	3, 4	面接
	9. 子どもに多い病状・病気とその対処および予防Ⅱ（標準予防策・感染経路別対策・感染予防教育）							(担当：小迫・空田)	3, 4	面接
	10. 子どもに多い病状・病気とその対処および予防Ⅲ（子どもに多い感染症と感染発生時の対処・予防接種）							(担当：小迫・空田)	3, 4	面接
	11. 子どもに多い病状・病気とその対処および予防Ⅳ（急性・慢性疾患・アレルギー疾患・小児がん他）							(担当：小迫・空田)	3, 4	面接
	12. 障害をもつ子どもと家族へのかかわり方（障害の概念・ICF・障害を伴う病気・症状とそのケア）							(担当：小迫・空田)	5	面接
	13. 児童虐待の予防（定義・予防・対処・事例紹介）							(担当：石井)	5	面接
	14. 災害の影響から子どもをできるだけ守る（災害の種類と影響・災害に備えて）							(担当：原井)	2	面接
	15. 地域・多職種との連携・協働（地域ネットワーク・システム・子育て支援・専門職との連携）							(担当：石井)	6	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①授業外レポート・最終課題（50%）、②授業内レポート（20%）、③授業・演習への取り組み・態度（30%） 評価の基準：①授業外レポート・最終課題 ＊知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・保育保健の基礎的な事柄について解答・表現できる ・学んだ技法を再現できる ・根拠を明確にして実践につなげることができる ②授業内レポート ＊知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて考察できる ③授業・演習への取り組み・態度 ＊思考・判断、関心・意欲、態度の測定 ・積極的な発言や質問ができる ・授業に対して主体的、積極的に取り組む									
フィードバックの方法	レポート等については、評価後に返却し解答解説を実施する。疑問点があれば拾い上げ解決に導く。									
時間外の学習 について	予習：テキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。（各回 45 分程度） 復習：小テストを行うので、授業や演習のプリントを使用して知識や技術のポイントを整理しておくこと。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：大西文子編著『子どもの健康と安全』改訂第2 版（中山書店） 参 考 書：なし 参考資料：佐藤益子編著『子どもの保健Ⅱ』（ななみ書房）、厚生労働統計協会「国民衛生の動向」他									
実務経験を活かした 授業について	子どもが健康・安全に育つための基本的な知識・技術を身につけ、保育現場で実践できるようにわかりやすく講義をします。									
担当者からの メッセージ等	実習の回数が多いため、動きやすい服装で受講すること。 担当教員の連絡先・E-mail アドレスは、授業内で周知します。									

科目名	子どもの食と栄養	教員	松村 史樹 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S225-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	2 年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の対象の理解に関する科目									
授業テーマ	食生活の意義、栄養の基礎知識、食育、家族・保護者支援、衛生管理、特別な配慮を要する子どもの食									
授業概要	子どもの食生活の現状と課題を理解し、子どもの栄養の重要性、成長発達過程に応じた栄養などの基本的事項を学ぶ。さらに、食品衛生、食物アレルギーや疾病・障害のある子どもへの対応、家庭や各職員間の連携、食育の基本について、実践的な内容を学ぶ。									
到達目標	1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できる。									
	2.子どもの発育、発達と食生活の関連について理解できる。									
	3.養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義、目的、基本的な考え方、その内容等について理解できる。									
	4.家庭や児童福祉施設における子どもの食生活の現状と課題を理解できる。									
	5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 子どもの食生活の現状を知る								1, 2, 4	面接
	2. 子どもの食生活の問題と対策を学ぶ								1, 3, 4	面接
	3. 消化吸収に関わる体の機能を学ぶ								1, 2	面接
	4. 栄養の基礎知識を学ぶ								1	面接
	5. 各栄養素と食事摂取基準を学ぶ								1	面接
	6. 子どもの咀嚼および味覚の発達と、消化吸収機能について学ぶ <体験実習>								2	面接
	7. 乳児期の身体的な発達と乳汁栄養について学ぶ								2	面接
	8. 離乳食期の食行動に変化と離乳食について学ぶ <体験実習>								2	面接
	9. 幼児期・学童期の身体的、精神的な成長と食行動の発達について学ぶ								2	面接
	10. 食育に関わる法律および計画を学ぶ								3	面接
	11. 保育所における食育の計画、実施、評価を学ぶ <体験実習・食育計画の作成>								3	面接
	12. 保育所における食に関する保護者の支援について学ぶ								4	面接
	13. 食中毒の発症状況と予防策を学ぶ								1	面接
	14. 食に関わる衛生管理について学ぶ <体験実習>								1	面接
	15. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養を学ぶ								5	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・実習									
成績評価基準	評価の方法：①試験（75%）、②授業への参加度（25%） 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着度及び考察力・判断力を測定 ・授業で学んだ知識を扱った問題に解答できる。 ・学んだ知識を食への取り組みに応用することができる。 ②授業態度 ＊関心意欲の測定 ・ディスカッションにおいて、積極的に自分の意見を述べることができる。 ・体験実習に興味をもって取り組むことができる ・課題や提出物の作成に取り組み、提出することができる									
フィードバックの方法	・講義の中で、個人または集団で考えさせる時間を作る ・体験実習や作成した食育計画についての感想をディスカッションする									
時間外の学習 について	予習：次回の授業に関連する資料や情報を集め、読んでおくこと。（各回 90 分程度） 復習：教科書に基づき授業内容を配布資料に整理し直す。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「子どもの食と栄養」中山書店 参考資料：必要に応じて配布する。									
実務経験を活かした 授業について	管理栄養士として医療および介護現場で培った経験や、保育所および学校で行ってきた食育講義をもとに、食の重要性や問題について理解を深められる話をします。									
担当者からの メッセージ等	教育実習・保育実習の際には、子どもの食事の様子や食育の取り組みだけでなく、送迎を行う保護者についてもよく観察しておくこと。 担当者の連絡先・Email：fumiki@mx5.tiki.ne.jp（松村）									

科目名	保育内容総論	教員	山下 温子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S233-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	演習	年次	2年後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力		
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	保育の基本、保育内容の専門知識、子ども理解・保育内容の展開、主体性									
授業概要	保育内容の基本的な考え方を理解し、具体的な実践事例を通して子どもの発達のとらえ方や保育内容を学ぶ。各自で課題を持ちグループ討議・まとめ・発表を通して保育内容・保育者の援助について考える。									
到達目標	1. 「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解するとともに保育の全体的な構造を理解できる。									
	2. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史的変遷を踏まえて、保育内容の基本的な考え方を理解できる。									
	3. 保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）につなげて理解できる。									
	4. 保育の多様な展開について具体的に学習し、理解できる。									
履修条件、注意事項	オンデマンドによる遠隔授業もあり									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解及び歴史的変遷								1,2	面接
	2. 保育所保育指針に基づく保育の基本および保育内容の理解・展開								1,2	面接
	3. 領域のとらえ方と保育内容								1,3	オンデマンド
	4. 保育所保育の基本原則－養護と教育－								1,3	面接
	5. 子どもの発達と保育内容　－3歳未満児－								1,3	面接
	6. 子どもの発達と保育内容　－3歳以上児－								1,3	オンデマンド
	7. 環境を通して行う保育について　－事例を通しての演習－　小テスト								1,3	面接
	8. 生活や遊びによる総合的な保育について　－3歳未満児の事例を通して－								1,3	面接
	9. 生活や遊びによる総合的な保育について　－3歳以上児の事例を通して－								1,3	面接
	10. 養護と教育が一体的に展開される保育について								1,2,3	面接
	11. 小学校との連携・接続を踏まえた保育について								1,2,4	オンデマンド
	12. 保育の多様な展開について								1,2,4	面接
	13. 保育現場における課題①　課題の調査・検討								1,3,4	面接
	14. 保育現場における課題②　調査研究の発表・討論								1,3,4	面接
	15. 保育現場における課題③　調査研究の発表・討論・まとめ								1,3,4	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク　プレゼンテーション									
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート・小テスト（30％）　②レポート課題（30％）③プレゼンテーション（40％） 評価の基準：①②授業内レポート・レポート課題　＊知識・理解・思考の測定 ・根拠を明確にして自説を述べるができる。 ①小テスト　＊知識、理解の定着度を測定 ・保育の専門的知識について回答できる。 ③プレゼンテーション　＊知識・理解・思考の測定、関心・意欲・態度・技能・表現の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・専門知識を明確にして発表できる。									
フィードバックの方法	課題を回収し、コメントを入れて返却する。発表に対して学生と一緒に意見交換して振り返りを行う。									
時間外の学習 について	予習：授業内容の理解のために保育指針や乳幼児の発達等について把握する。調査研究の授業の前には、テーマについて調査し、考察する。（各回 45 分程度） 復習：授業の振り返り、整理する。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「保育所保育指針解説書」 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：ビデオ、保育実践事例など、その都度適宜紹介する。									
実務経験を活かした 授業について	保育現場経験をもとに、子ども理解や保育内容の展開について解説します。									
担当者からの メッセージ等	T0038@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	健康の指導法	教員	吉野 信朗 船場 大資 (オムニバス)	免許・資格 との 関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S235-110	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	乳幼児期の「健康」に関わる専門的な知識、子どもの心身の発育、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達、指導方法									
授業概要	領域「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成や安全教育や危機管理など、園で子どもの心身の発育を目標とする指導方法について考える。また現代の子どもの生活を学び、現場でどのように改善を促すか、その指導方法を考察する。最後に、乳幼児期の生活や遊びの中から、発育実態や運動機能や生理的機能の発達、及びこころの発育など子どもの体力や健康を評価する方法を学ぶ。									
到達目標	1.領域「健康」のねらい及び内容を理解できる。									
	2.乳幼児期の心身の発育について理解するとともにそれを育む指導方法について理解できる。									
	3.健康的な発育を促すための運動遊びの意義と指導方法・実践的なスキルを身につけ、実践できる。									
	4.乳幼児期の生活のサイクルと現代的課題を理解したうえで、それを解決するための指導方法について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. オリエンテーションー授業概要と子どもの健康課題ー（担当：船場）								1, 2	面接
	2. 子どもの運動遊びの指導方法1ー外遊びー（担当：吉野）								3	面接
	3. 子どもの運動遊びの指導方法2ー体操や体づくり運動ー（担当：吉野）								3	面接
	4. 子どもの運動遊びの指導方法3ーボール遊びー（担当：吉野）								3	面接
	5. 子どもの運動遊びの指導方法4ー伝承遊びやいろいろな遊びー（担当：吉野）								3	面接
	6. 子どものケガとその防止方法（担当：吉野）								4	面接
	7. 子どもらしい理想の生活習慣と実際の生活習慣（担当：船場）								1	面接
	8. 領域「健康」の位置づけと意味（担当：船場）								1	面接
	9. ICTを活用した健康的な生活のための保育者の関わりと指導方法（担当：船場）								2	面接
	10. 睡眠のサイクルと改善の指導方法（担当：船場）								2	面接
	11. 生活習慣と子どもの発育の関連性と運動遊びの指導方法（担当：船場）								2, 4	面接
	12. 健康の指導のための長期的見通しとその年間計画の立案・評価（担当：船場）								1, 2, 4	面接
	13. 遊戯論の基礎知識（担当：船場）								4	面接
	14. 身体発育と動作の発達（担当：船場）								4	面接
	15. 現代における子どもの健康と運動の関連と小学校の教科等とのつながりについて（担当：船場）								1, 4	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク ディスカッション ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 40％ ②実技 30％ ③レポート・指導案 30％ 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着を測定 ・授業で得た知見を基に、正確な解答ができる。 ・保育者として、データを理解し健康に関する指導方法を論述することができる。 ②実技 ＊運動の指導方法の理解を測定 ・正しい子どもの運動指導の技能を習得し、実践することができる。 ③レポート・指導案 ＊思考と理解を測定 ・授業を通して学んだ事項を基に、保育者として子どもの健康を増進するための指導方法を考察することができる。									
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の復習を行う。個別の質疑に対しては、常に対応する。作成した資料にコメントや助言を行う。									
時間外の学習 について	予習：教科書での予習（30 分） 復習：授業内容を振り返る。定期試験に向けた準備（30 分）・レポート課題や指導案の作成（30 分）									
教材にかかわる情報	テキスト：池田裕恵編著『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』杏林書院 参 考 書： 参考資料等：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	実技があるため、体操服等の準備を忘れないようにして下さい。天候によっては順序が変わる可能性があります、その都度連絡します。 担当者の連絡先・E-mail アドレス n-yoshi@c-able.ne.jp（吉野） dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp（船場）									

科目名	環境の指導法	教員	富田 まり子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S237-110	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	領域『環境』のねらい及び内容、好奇心や探究心を育む指導の方法、保育者の役割									
授業概要	領域「環境」のねらい及び内容をふまえた上で、指導計画の意味・指導計画の構成・作成の手順について具体的な事例を用いながら説明し、指導計画の作成方法が理解できるようにする。グループで課題を決め、教材研究をしながら具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行うことで、保育実践力や指導方法を習得できるようにする。また、模擬保育を通してディスカッションを行い、気づきや感想を伝え合うことで、評価の視点について理解を深め、実践を振り返りながら保育の質を高めていくことが理解できるようにする。									
到達目標	1. 指導計画の作成について理解できる。（指導計画の意味について理解する／指導計画の種類について理解する／指導計画を作成する手順について理解する）									
	2. 領域「環境」のねらい及び内容に基づいた指導計画の作成方法について理解できる。（子どもの実態を把握し、具体的なねらいや内容を設定することについて理解する／教材研究や環境構成について理解する／保育者の援助について理解する）									
	3. 具体的な保育を想定した指導案を作成し、教材の活用方法や指導方法について理解できる。（教材を研究し指導計画を作成することを理解する／保育実践するための環境構成や保育者の援助について理解する）									
	4. 保育実践の改善を図る方法について理解できる。（保育実践の反省・評価の視点について理解する／反省・評価を生かした指導計画の作成について理解する）									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 地球環境と教育－幼児期の環境教育の進め方－								1,2	面接
	2. 幼児教育におけるSDGsの実践								1,2	面接
	3. 自然とかかわり自然を取り入れて遊ぶ保育の実践								1,2	面接
	4. 生命の営みにふれる保育の実践								1,2,3	面接
	5. 物とかかわり物質の変化を楽しむ保育の実践								1,2,3	面接
	6. 数量、図形、標識、文字とかかわる保育の実践（数や形を使った遊び）								1,2,3	面接
	7. 情報機器を活用した保育の実践								1,2,3	面接
	8. 数量、図形、標識、文字とかかわる保育の実践（標識や文字を使った遊び）								1,2,3	面接
	9. 保育の実際－指導案の作成、模擬保育の計画								1,2,3	面接
	10. 保育の実際－指導案の作成、模擬保育の準備								1,2,3	面接
	11. 保育の実際－模擬保育、課題の共有（小麦粉粘土）								1,2,3,4	面接
	12. 保育の実際－模擬保育、課題の共有（シャボン玉）								1,2,3,4	面接
	13. 保育の実際－模擬保育、課題の共有（スライム）								1,2,3,4	面接
	14. 保育の実際－模擬保育、課題の共有（泡遊び）								1,2,3,4	面接
	15. まとめ～就学までに身に付けるべき資質・能力を踏まえた指導計画の作成、及び評価・改善について								1,2,3,4	面接
アクティブ・ラーニング	模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：①小テスト・レポート（配点：40％） ②授業への参加度、復習・調べるなどの自主的な学習（配点：20％） ③課題（配点：30％） ④発表・作品制作（配点：10％） 評価の基準：授業内容への理解、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。									
	①小テスト・レポート ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・領域「環境」のねらい、内容などについて回答できる。 ・授業を踏まえて自説を述べることができる。 ②授業への参加度、復習・調べるなどの自主的な学習 ＊思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・事前調査や復習など、自主的な学習ができる。 ・活動に積極的にかかわることができる。 ③課題 ＊知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定 ・他領域と関連させ、保育に結びつけることができる。 ・子どもに育つ力について、理解している。 ④発表・作品制作 ＊関心・意欲・態度を測定 ・グループでの活動に積極的にかかわる。 ・授業を通して探究心を持ち、自発的に取り組む。									
フィードバックの方法	・小テストや課題回収後に解説を行う。 ・課題、レポート、指導案にコメントを入れ、よい点、改善点などを示す。									
時間外の学習 について	予習：授業内容に合わせ、調べ、理解を深めておく。各回 45 分程度。事前の準備がいることもあります。 復習：授業内容をまとめ、考察を深める。各回 45 分程度。									
教材にかかわる情報	テキスト：『保育内容 体験する・調べる・考える 領域「環境」』田宮緑（萌文書林） 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社、植物図鑑、動物図鑑									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭・保育士・園長経験：実務経験をもとにして、子どもの発達、環境とかかわる力を育む保育の内容、援助についてお話をします。									
担当者からの メッセージ等	準備物は早めに知らせますので用意をしてください。担当者の連絡先・E-mail：mtomita@yamaguchi-jca.ac.jp（富田）									

科目名	表現の指導法 （音楽Ⅱ）	教員	永田 実穂 （単独）	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
ナンバリングコード	JC-S24I-I10	学科	保育学科	卒業要件	選択		③	教養		
授業形態	演習	年次	2 年前期				④	豊かな感性と表現力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑤	保育の計画力	○	
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	音楽遊び・表現遊び、領域『表現』のねらい及び内容、好奇心や探究心を育む指導の方法、模擬保育、音楽表現における保育者の役割や援助									
授業概要	幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『表現』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の発達段階に応じた音楽表現を指導する上で必要な環境構成及び具体的に展開するための表現や指導法を学ぶ。情報機器および教材の活用法について実践を踏まえ理解し、乳幼児の生活や遊びを通した音楽表現活動の展開や援助ができるような指導や実践力を身につけ、改善する力を養う。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容等を理解し、乳幼児の音楽との関わり方について考え、援助することができる。									
	2. 乳幼児の生活や遊びから考える音楽表現の役割や内容についての援助方法を学び、他の領域との関連性及び小学校の教科等の繋がりを考え模擬保育等で実践することができる。									
	3. 即興的なアンサンブルや音活動を通してファシリテーション技術を学ぶとともに、コミュニケーション力や指導の展開力を身につけ実践することができる。									
	4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成、保育実践・評価・改善する視点を身に付け、指導上の留意点や評価の考え方を自分なりにまとめ、展開することができる。									
	5. 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用について実施できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 領域「表現」における音楽の役割							1, 2	面接	
	2. 身体、声を使っの音楽表現活動～声を使った音遊び、わらべうた、リトミックの活用							1, 2, 4	面接	
	3. きく、耳を澄ます音楽表現活動							1, 2, 4	面接	
	4. モノを使った音楽表現活動・即興アンサンブルの指導法①（ドラムサークル・ファシリテーション）							1, 2, 3, 4	面接	
	5. 乳幼児の音楽的発達についての指導案のねらい（情報機器及び教材の活用）							1, 2, 4, 5	面接	
	6. 模擬保育（1） 乳幼児の遊びから考える音楽表現活動 歌う活動							1, 2, 3, 4, 5	面接	
	7. 模擬保育（2） 乳幼児の遊びから考える音楽表現活動 動く活動							1, 2, 3, 4, 5	面接	
	8. 模擬保育（3） 乳幼児の遊びから考える音楽表現活動 奏でる活動							1, 2, 3, 4, 5	面接	
	9. モノを使った即興アンサンブルの指導法②（ドラムサークル・ファシリテーション）							1, 2, 3, 4	面接	
	10. 実習の振り返り ファシリテーションを用いた歌唱、合奏の指導法							1, 2, 3, 4	面接	
	11. 模擬保育（4） 乳幼児の遊びから考える音楽表現活動～聴く活動							1, 2, 3, 4, 5	面接	
	12. 模擬保育（5） 乳幼児の遊びから考える音楽表現活動～つくる活動							1, 2, 3, 4, 5	面接	
	13. 模擬保育（6） 乳幼児の遊びから考える音楽表現活動～集団あそび、ふれあいあそび							1, 2, 3, 4, 5	面接	
	14. 模擬保育の振り返り、まとめ							1, 2, 3, 4	面接	
15. 年齢別音楽表現活動解説～就学までに身に付けるべき資質・能力と保育者の役割について							1, 2, 3, 4	面接		
アクティブ・ラーニング	模擬授業、グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①レポート 30%、②保育指導案と模擬保育の内容 30%、③実技 20%、④授業への取り組み 20% 評価の基準：乳幼児の音楽活動の知識、指導案作成の基礎知識の理解、保育の展開技術の基礎的な力、ファシリテーション及びグループ活動状況を評価する。 ①レポート ＊知識・理解、思考、関心・意欲の定着度の測定 ・乳幼児の音楽活動に関する知識、また保育指導案を書く上で重要な知識や理解、及び自分の考えを文章で述べることができる。 ・各グループの模擬保育についての振り返りや考察をし、自分なりの考えをまとめることができる。 ②保育指導案と模擬保育の内容 ＊知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現 ・乳幼児の音楽活動の指導案を、子どもの姿やねらいに沿って書くことができ、ねらいに沿った模擬保育や展開をすることができる。 ③実技 ＊知識・理解、関心・意欲、思考・判断、技能・表現の定着度の測定 ・ドラムサークル・ファシリテーションを用いたアイコンタクト、表情、言葉かけ、合図出しなどを音楽活動の中で表現豊かに行うことができる。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲、態度、技能・表現の定着度の測定 ・グループ活動の取り組みや、模擬保育後の振り返りで積極的に発言を行うことができる。									
フィードバックの方法	振り返りシートや、指導案や模擬保育の内容についてグループディスカッションで共有する									
時間外の学習 について	予習：音楽表現の指導方法・指導案について考えておく。（各回 45 分程度） 復習：授業中に大切に指摘されたことができるようにしておく。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『わくわく音遊びでかんたん発表-手拍子ゲームから器楽合奏まで』細田淳子著 すずき出版 ：『アクティベート保育学Ⅱ 保育内容「表現」岡本弘子・花原幹夫・汐見稔幸編著 ミネルヴァ書房 参 考 書：『はじめてのドラムサークル』飯田和子、石川武、菊本るり子、メアリーク・ニッシュ共著 音楽之友社 『子どもの音感受の世界 心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求』萌文書林 参考資料：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	動きやすい服装で受講すること。担当者の連絡先・E-mail：nagata@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	表現の指導法 (造形Ⅲ)	教員	弘中 順一	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S242-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2 年前期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
								⑧	課題解決能力	○
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	模擬保育、環境構成、乳幼児の援助の専門的知識・技術、造形表現活動の実践力									
授業概要	保育現場で実際に行われる造形表現活動について幅広く取り上げ、模擬保育指導案を作成、実施する。実施した模擬保育について検討会を通してふり返り、造形表現の保育のあり方について再構築する。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらいや内容を理解し、乳幼児が造形表現活動を通して身につけていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解できる。									
	2. 表現を通して乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解できる。									
	3. 乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え、保育を構想する重要性を理解できる。									
	4. 具体的な造形表現の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身につけ、実践できる。									
	5. 乳幼児の体験に適した造形素材を加工し、保育に活用できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 「保育実習での学びと模擬保育」造形表現設定保育の指導のあり方と指導案の書き方。模擬保育の計画。								1,3	面接
	2. 「つくって楽しい、遊んで楽しい製作あそび」保育後の検討会の持ち方。模擬保育題材の決定と指導案作成。								1,3,4	面接
	3. 「絵本から発展していく絵あそび」保育指導案の作成と模擬保育の準備。								1,3,4	面接
	4. 模擬保育①「造形あそび」（空間あそび）								1,2,3,4,5	面接
	5. 模擬保育②「造形あそび」（材料・構成あそび）								1,2,3,4,5	面接
	6. 模擬保育③「造形あそび」（操作・模倣あそび）								1,2,3,4,5	面接
	7. 模擬保育④「描く活動」（絵あそび）								1,2,3,4,5	面接
	8. 模擬保育⑤「描く活動」（想像、お話しの絵）								1,2,3,4,5	面接
	9. 模擬保育⑥「描く活動」（表現技法からの絵あそび）								1,2,3,4,5	面接
	10. 模擬保育⑦「描く活動」（絵本からの絵あそび）								1,2,3,4,5	面接
	11. 模擬保育⑧「製作あそび」（動く仕組みを生かして）								1,2,3,4,5	面接
	12. 模擬保育⑨「製作あそび」（輪ゴムを使って）								1,2,3,4,5	面接
	13. 模擬保育⑩「製作あそび」（飾るものをつくる）								1,2,3,4,5	面接
	14. 模擬保育の反省①（保育者の関わり方と子どもの見とり方、保育指導案の修正）								1,3,4	面接
	15. 模擬保育の反省②（環境構成のあり方をもとに）								1,2,3,4	面接
アクティブ・ラーニング	模擬保育・ディスカッション・グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①模擬保育指導案（20％）、②模擬保育の準備・環境構成と実践（30％）、 ③模擬保育検討会への取り組みとまとめ（30％）④保育ドキュメンテーションの作成（20％） 評価の基準：①模擬保育指導案 ＊知識・理解の定着度、思考・判断の測定 ・子どもの発達を理解し、関心意欲を促すために導入の組み立てや関わり方を配慮して立案できる。 ②模擬保育の環境構成と実践 ＊知識・理解の定着度、思考・判断の測定 ・導入において子どもの関心・意欲を起こさせる見せ方、関わり方を工夫できる。 ・子どもの良さを認めるまとめができる。 ③模擬保育検討会への取り組みとまとめ ＊関心・意欲・態度、表現力の測定 ・真剣な態度で臨み、自分なりの意見や疑問を持って質問や意見を表現できる。まとめのファイル作成ができる。 ④保育ドキュメンテーションの作成 ・子どもの見取りについて10の姿をもとに振り返ることができる。									
フィードバックの方法	各回の模擬保育を、教材、環境構成、保育者の関わり方について検討会で協議し、模擬保育の再構成のコメントを記入する。自分で行った模擬保育について、保育ドキュメンテーションを作成し、保育について振り返る。									
時間外の学習 について	予習：模擬保育のための教材研究、模擬保育指導案の作成、模擬保育実施のための準備をする。（各回 45 分程度） 復習：模擬保育実施後の反省、修正案の作成、他学生の模擬保育について再構成をまとめる。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：画集「明日をひらく子」：山口県子どもの造形を考える会（弘中順一編）									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	保育現場で実際に保育した事例をもとに環境構成、教材化、保育の流れ等のあり方について検討しましょう。 実習で実施する設定保育のあり方について、子どもの興味・関心のみとりから子ども主体の保育展開について検討します。 担当者の連絡先・E-mail：									

科目名	表現の指導法 (造形Ⅳ)	教員	弘中 順一	免許・資格 との 関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S243-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2 年後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
									⑧	課題解決能力
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	模擬保育、環境構成、乳幼児の援助の専門的知識・技術、造形表現活動の実践力									
授業概要	造形遊び、描く活動、製作あそびなど保育における造形表現活動を幅広く取り上げ、保育指導案を作成する。 模擬保育とその振り返りをもとに造形表現の保育のあり方について検討する。									
到達目標	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定子ども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらいや内容を理解し、乳幼児が造形表現活動を通して身につけていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解できる。									
	2.表現を通して乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解できる。									
	3.乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え、保育を構想する重要性を理解できる。									
	4.具体的な造形表現の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身につけ、実践できる。									
	5.乳幼児の体験に適した造形素材を加工し、保育に活用できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 絵あそびの保育のポイント、保育ドキュメンテーション・付箋による検討会について、模擬保育の計画、指導案作成								1,2	面接
	2. 触感覚を育てる造形あそびのポイント、模擬保育・検討会①、模擬保育・検討会②								1,2,3,4,5	面接
	3. 造形における幼保小の連携・接続のポイント、模擬保育・検討会③、模擬保育・検討会④								1,2,3,4,5	面接
	4. 描く活動の保育のポイント、模擬保育・検討会⑤、模擬保育・検討会⑥								1,2,3,4,5	面接
	5. 製作あそびの保育のポイント、模擬保育・検討会⑦、模擬保育・検討会⑧								1,2,3,4,5	面接
	6. 子どもの思いと表現、模擬保育・検討会⑨、模擬保育・検討会⑩								1,2,3,4,5	面接
	7. 作品の見方・とらえ方、模擬保育・検討会⑪、模擬保育・検討会⑫								1,2,3,4,5	面接
	8. 保育の中の造形表現、模擬保育・検討会⑬、模擬保育・検討会⑭								1,2,3,4,5	面接
	9. 子どもの思いと援助のあり方、模擬保育・検討会⑮、模擬保育・検討会⑯								1,2,3,4,5	面接
	10. 環境を通した保育のポイント・壁面構成のあり方、壁面構成模擬保育指導案作成								1,2,3,4,5	面接
	11. 子どもの絵の見方と保育のあり方、壁面構成の模擬保育準備								1,2	面接
	12. 作品展と子どもの表現のあり方、壁面構成の模擬保育①（物語をテーマにした壁面構成）								1,4,5	面接
	13. 壁面構成の模擬保育②（季節をテーマにした壁面構成）								1,4,5	面接
	14. 壁面構成の模擬保育③（行事をテーマにした壁面構成）								1,4,5	面接
	15. 壁面構成（完成）、表現の指導法のまとめ								1,2,5	面接
アクティブ・ラーニング	模擬保育・ディスカッション・グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①指導案作成（20%）、②模擬保育の準備と実践（30%）、③検討会への取り組みとまとめファイルの作成（30%） ④自分で行った模擬保育の保育ドキュメンテーションの作成（20%） 評価の基準：①指導案作成 ＊知識理解の定着度 ＊思考判断の測定 ・子どもの発達を理解し、意欲関心を促すために導入の組み立てや関わり方を配慮して立案できる。 ②模擬保育の準備と実践 ＊知識理解の定着度 ＊思考判断の測定 ・導入において子どもの関心意欲を起こさせる見せ方、関わり方を工夫できる。 ・子どもの良さを認めるまとめができる。 ③検討会への取り組みとまとめファイルの作成 ＊関心・意欲・態度、表現の測定 ・真剣な態度で臨み、自分なりの意見や疑問を持って質問や意見を表現できる。 ④自分で行った模擬保育の保育ドキュメンテーションの作成 ・子どもの見取りについて10の姿をもとに振り返ることができる。									
フィードバックの方法	毎回の模擬保育を振り返り、指導案を修正する。協議したことをもとに、ポイントにコメントを入れながら自分の意見をファイルにまとめる。自分で行った模擬保育について保育ドキュメンテーションを作成し保育を振り返る。									
時間外の学習 について	予習：造形表現活動の題材の選択、模擬保育案の作成（各回 45 分程度） 復習：模擬保育をもとに指導案を再構成し、検討会での反省をまとめる（各回 45 分程度）保育ドキュメンテーションの作成									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：「日本版保育ドキュメンテーションのすすめ」大豆生田啓友、おおえだけいこ著 参考資料：画集「明日をひらく子」 山口県子どもの造形を考える会 弘中順一編									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	保育現場で実際に保育した例を紹介します。子ども主体の保育のあり方について、子どもの関心意欲を引き出す題材のあり方、保育者の関わり方について検討します。 担当者の連絡先・E-mail：									

科目名	保育方法論	教員	中原 久子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S244-I10	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	講義	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）									
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	乳幼児期に経験させたい保育内容や保育実施のための保育形態・保育方法									
授業概要	幼稚園教諭としての基本的な資質を養うとともに、幼児の幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる５つの領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定しながら保育を構想する方法を学ぶ。									
到達目標	1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解できる。									
	2.幼稚園教育に示された５領域のねらい・内容及び指導上の留意点を学び、小学校の教科等とのつながりを理解できる。									
	3.幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成や、保育を構想する方法を理解できる。									
	4.各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことの重要性を理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	１．幼稚園教育の目的と目標及び今日の幼児教育の在り方について								1	面接
	２．幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”について								1,2	面接
	３．幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取り扱いについて								1,2	面接
	４．幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について								1,2,3	面接
	５．幼稚園教育要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について								1,2,3,4	面接
	６．幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて								1,2,3,4	面接
	７．幼稚園教育における評価のとらえ方について								1,2,3	面接
	８．保育の計画と実践（１）－日案作成と保育実践の評価・反省：３歳児について								1,2,3,4	面接
	９．保育の計画と実践（２）－日案作成と保育実践の計画・反省：４歳児について								1,2,3,4	面接
	10. 保育の計画と実践（３）－日案作成と保育実践の計画・反省：５歳児について								1,2,3,4	面接
	11. こどもの「なぜ」「どうやって」が入ってくるような深い学びの活動や遊びの展開についての指導案の立案・模擬保育について								1,2,3,4	面接
	12. 模擬保育とその振り返り・保育の改善について								1,2,3	面接
	13. 幼稚園教育における教材の捉え方・情報機器活用について								1,2,3,4	面接
	14. 幼児が５領域で経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教育との接続について								1,2,3,4	面接
	15. 教師の役割とその専門性について								1,2	面接
	◎定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：①毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成（30％）、②試験（70％） 評価の基準：①毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成 ＊思考・判断、関心・意欲の測定 ・教職に対する受講生の適性や意欲を表明できる。 ②試験 ＊知識・理解、技能・表現の測定 ・幼稚園教育に関する基礎的な事項を理解している。 ・保育を構想する方法を修得している。									
フィードバックの方法	コメントをつけて返却する。									
時間外の学習 について	予習：次の授業で扱う内容を事前に読んでおくこと。製作課題がある場合は事前に下準備をすること。（各回 90 分程度） 復習：授業で扱った内容を見返し、整理すること。（各回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：大豆生田啓友・渡邊英則編著『保育方法・指導法』ミネルヴァ書房 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料：									
実務経験を活かした 授業について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとにこれからの保育を創造するための保育の方法について話をします。									
担当者からの メッセージ等	幼稚園教諭、保育士が熟知しなければならない保育の基本を学ぶとともに実践事例に接する。 担当者の連絡先は授業内で周知します。									

科目名	保育リトミックⅠ	教員	植山 典子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関 係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	JC-S245-011	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2 年前期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
									⑧	課題解決能力
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	3 歳児対象のリトミックの指導法									
授業概要	様々な角度からリズムという素材にアプローチする。保育現場での実践に役立つリトミック指導法を学ぶ。									
到達目標	1. リトミックの理論を理解できる。									
	2. 3 歳児対象のリトミックの指導ができる。									
	3. リズムを表現する基礎的な動きができる									
	4. リトミック指導における基礎的なピアノ演奏ができる。									
履修条件、注意事項	動きやすい服装（スカートのみは不可）と、素足、又はバレエシューズで受講すること。									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. リトミックについて・楽しいリトミックの経験①								1, 3	面接
	2. 楽しいリトミックの経験（2）、強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎的な動き（1）、基礎リズム（1）〈2 拍子〉								3	面接
	3. 3 歳児指導法：共通項目・春								2	面接
	4. リズムの演奏法：3 歳児指導法－共通項目・春								4	面接
	5. 楽しいリトミックの経験③（数の把握）、基礎リズム②、基礎リズム②、拍子①								3	面接
	6. 3 歳児指導法：夏・秋（No.1～6）								2	面接
	7. リズムの演奏法：3 歳児指導法－夏・秋（No.1～6）								4	面接
	8. 楽しいリトミックの経験（4）、基礎リズム（3）〈2 拍子〉、拍子（2）								3	面接
	9. 3 歳児指導法：秋（No.7～11）・冬								2	面接
	10. リズムの演奏法：3 歳児指導法－秋（No.7～11）・冬								4	面接
	11. 楽しいリトミックの経験（5）、基礎リズム（4）〈3・4 拍子〉、拍子（3）								3	面接
	12. 楽しいリトミックの経験（6）、リズムカノン（1）〈導入〉、リズムフレーズ（1）								3	面接
	13. リズムの演奏法（3 歳児指導法－春・夏・秋・冬）								4	面接
	14. 試験課題指導								2, 3, 4	面接
	15. リトミックの理論とダルクローズについて①、まとめ 「資格認定試験」（14 回と 15 回の間に行う）								1, 2, 3, 4	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①試験 60%、②課題に対する取り組み 20%、③授業への参加度 20% 評価の基準：①試験 ＊知識・理解、技能・表現を測定 ・「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 2 級」の認定条件（70 点以上）をクリアしている ②課題に対する取り組み ＊思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ③授業への参加度 ＊関心・意欲・積極性を測定 ・活動に意欲的である									
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入する。									
時間外の学習 について	予習：毎回の授業計画を確認し、「3 歳児指導法、リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。 各回 45 分程度 復習：実技小テストを行うので練習しておくこと。各回 45 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：「園児のためのリトミック 3 歳～幼稚園、保育園、子ども園で活かす」（リトミック研究センター） 参 考 書：									
実務経験を活かした 授業について	リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会・講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとに、リトミック指導について話し、実践をします。									
担当者からの メッセージ等	実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 2 級」取得のための授業である。 担当者の連絡先・E-mail：nonnonnon20001008@gmail.com（植山）									

科目名	保育リトミックⅡ	教員	植山 典子 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	②		協調的な生活態度		
						③		教養		
						④		豊かな感性と表現力	○	
						⑤		保育の計画力		
						⑥		保育の指導力	○	
						⑦		専門的な コミュニケーション能力		
						⑧		課題解決能力		
ナンバリングコード	JC-S246-011	学科	保育学科	卒業要件	選択					
授業形態	演習	年次	2年後期							
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1							
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	4歳児・5歳児対象のリトミックの指導法									
授業概要	様々な角度からリズムという素材により深くアプローチする。保育現場での実践に更に役立つリトミック指導法を学ぶ。									
到達目標	1. 4歳児対象のリトミックの指導ができる。									
	2. 5歳児対象のリトミックの指導ができる。									
	3. リズムを表現する実践的な動きができる。									
	4. リトミックの理論を理解できる。									
	5. リトミック指導における基礎的なピアノ演奏ができる。									
履修条件、注意事項	「保育リトミックⅠ」の単位を取得済みの者 動きやすい服装（スカートのみは不可）と、素足、又はバレエシューズで受講すること。									
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 4歳児指導法－共通項目、4歳児指導法－春							1	面接	
	2. 4歳児指導法－夏・秋							1	面接	
	3. 楽しいリトミックの経験(7)、リズムカノン(2)〈3拍子〉、リズムフレーズ(2)〈2・3拍子〉							3	面接	
	4. リズムの演奏法(4歳児指導法－共通項目・春・夏・秋)							5	面接	
	5. 4歳児指導法－冬、5歳児指導法－春							1	面接	
	6. 5歳児指導法－夏・秋(No.1～6)							2	面接	
	7. 楽しいリトミックの経験(8)、リズムカノン(3)〈3拍子〉、複リズム(1)Ostinato(J)							3	面接	
	8. リズムの演奏法(4歳児指導法－冬、5歳児指導法－春・夏・秋(No.1～6))							5	面接	
	9. 5歳児指導法－秋(No.7～11、冬)							2	面接	
	10. 4歳児指導法総括－春・夏・秋・冬							1	面接	
	11. 楽しいリトミックの経験(9)、リズムカノン(4)〈3拍子〉、複リズム(2)Ostinato(J)							3	面接	
	12. 楽しいリトミックの経験(10)、基礎リズム(5)〈3・4拍子〉、拍子(4)							5	面接	
	13. リズムの演奏法(5歳児総括－春・夏・秋・冬)							3	面接	
	14. 試験課題指導							3,5	面接	
	15. リトミックの理論とダルクローズについて②(復習)、まとめ							1,2,3,4,5	面接	
「資格認定試験」(14回と15回の間に行う)										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①試験60%、②課題に対する取り組み20%、③授業への参加度20% 評価の基準：①試験 ＊知識・理解、技能・表現を測定 ・「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格Ⅰ級」の認定条件(70点以上)をクリアしている ②課題に対する取り組み ＊思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ③授業への参加度 ＊関心・意欲・積極性を測定 ・活動に意欲的である									
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入する。									
時間外の学習 について	予習：毎回の授業計画を確認し、「4歳児・5歳児指導法、リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。 各回45分程度 復習：実技小テストを行うので練習しておくこと。各回45分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：「園児のためのリトミック4・5歳～幼稚園、保育園、子ども園で活かす」(リトミック研究センター) 参 考 書：									
実務経験を活かした 授業について	リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会・講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとに、リトミック指導について話し、実践をします。									
担当者からの メッセージ等	実習先でリトミックをしたら、その報告をしてください。毎日ピアノに向かう習慣をつけましょう。 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格Ⅰ級」取得のための授業である。 担当者の連絡先・E-mail：nonnonnon20001008@gmail.com(植山)									

科目名	特別支援の保育・ 教育概論	教員	岡本 実 (実務経験) (単独)	免許・資格 との 関 係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S226-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	演習	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力	○		
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解									
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	発達障害、軽度知的障害、支援方法と知識、幼児・児童の学習上又は生活上の困難の理解、個別のニーズ、組織的対応									
授業概要	・幼稚園や保育所等における障害児保育の意義を知り、現状を把握する。 ・特別な支援を必要とする幼児、児童の援助法について、具体的かつ実践的に学習する。									
到達目標	1. 特別な支援を必要とする幼児・児童の障害特性や発達、発達支援について理解できる。									
	2. 特別な支援を必要とする幼児・児童の保護者との連携や両者にかかわる保健・医療・福祉・教育等の関係機関との連携や協働について理解できる。									
	3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解できる。									
	4. 障害児保育の理念や歴史的変遷および現状と課題について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. オリエンテーション（授業の概要、発達障害とは、障害の社会モデル）								1, 2, 4	面接
	2. 特別な支援を必要とする幼児・児童の概要（子育て環境の変容、発達障害、児童虐待、貧困等）								1, 2	面接
	3. 障害児教育・保育の歴史と現状、課題（障害児教育・保育を支える理念、現状と課題）								1, 2, 4	面接
	4. 関係機関との連携と保護者支援								1, 2	面接
	5. 特別支援教育の実践（特別支援を必要とする児童の教育の制度、教育課程）								1, 2	面接
	6. 障害児保育の実践（保育所等における障害児保育）								1, 2	面接
	7. 知的障害のある幼児・児童の理解と援助								1, 3	面接
	8. ADHD・自閉症スペクトラム障害のある幼児・児童の理解と援助								1, 3	面接
	9. 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助								1, 2, 3	面接
	10. 運動障害のある幼児・児童の理解と援助								1, 3	面接
	11. コミュニケーション障害のある幼児・児童の理解と援助								1, 3	面接
	12. てんかんや病弱児の理解と援助								1, 3	面接
	13. 障害のある幼児・児童を理解するためのアセスメント								1, 3	面接
	14. 個別支援計画作成演習								1, 3	面接
	15. まとめ								1, 2, 3, 4	面接
◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション，グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 50%、②小テスト・授業内レポート・授業への参加度 50% 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解の定着度の測定 ・障害児保育に関する応用的な課題に回答できる ②小テスト・授業内レポート・授業への参加度 ＊関心・意欲，思考・判断の測定 ・授業に積極的に参加している ・授業で扱った内容を理解し，記述できる									
フィードバックの方法	ワークシートやレポートについてコメントや助言を行う。									
時間外の学習 について	予習：次回の学習内容について、テキストの関連箇所を目を通し、ポイントを整理する。毎回 90 分程度 復習：授業内容の整理、復習を行う。毎回 90 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：『障害のある子どもの保育・教育の実践』中山智哉編著 学文社 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料等：									
実務経験を活かした 授業について	近年、障害児支援の分野では、障害者権利条約の批准、特別支援教育や障害児通所支援の創設など、大きな変化の中にあります。障害児支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。									
担当者からの メッセージ等	連絡先メールアドレス：T0004@y-gakugei.ac.jp									

科目名	社会的養護Ⅱ	教員	安村 裕美 (実務経験) (単独)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S249-010	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力	○		
授業形態	演習	年次	2年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力			
教科目	必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	社会的養護の方向性、家族・子どもへの支援のあり方、子どもの最善の利益									
授業概要	子どもの権利や保育士等の倫理や責務について理解を深め、施設養護と家庭養護の実践を学ぶ。事例を通して、日常生活支援・治療的支援・自立支援の支援内容を具体的に検討し考察を行う。相談援助の知識・技術・方法を理解し、具体的な実践の場を想定し、ソーシャルワークの知識や視点を持った対応の方法を学ぶ。家庭支援・児童家庭福祉・地域福祉について理解や認識を深め、社会的養護の課題と展望について検証、考察を行う。									
到達目標	1.子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。									
	2.施設養護及び家庭養護の実践について理解できる。									
	3.社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解できる。									
	4.社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解できる。									
	5.社会的養護の課題とこれからの展望について、児童家庭福祉、地域福祉について理解できる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1.子どもの権利擁護とその取り組みや支援の質の向上を図るための方法								1,3,4	面接
	2.社会的養護における子どもの理解								1,2	面接
	3.日常生活支援に関する事例分析（グループ討議等）								1,3,4	面接
	4.治療的支援に関する事例分析（グループ討議等）								1,3,4	面接
	5.自立支援に関する事例分析（グループ討議等）								1,3,4	面接
	6.施設養護の生活特性及び実際（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）								2,3	面接
	7.施設養護の生活特性及び実際（児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設）								2,3	面接
	8.家庭養護の生活特性及び実際（里親・ファミリーホーム事業・養子縁組制度）								2,3	面接
	9.自立支援計画策定、アセスメントを行う上での視点								1,2,3,4	面接
	10.事例をもとにした自立支援計画の策定、子どもの自立への理解								1,2,3,4	面接
	11.記録の意義と役割・自己評価								1,2,3	面接
	12.児童福祉施設における保育士の位置づけ、社会的養護における保育士の専門性								1,3,4	面接
	13.ソーシャルワークの意味、必要性、知識、実践におけるソーシャルワークについて								1,3,4	面接
	14.社会的養護における家庭支援								1,3,4,5	面接
	15.社会的養護の課題と展望								2,4,5	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ									
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（40%）、②レポート（20%）、③課題（40%） 評価の基準：①授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 ＊態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ②③レポート・課題 ＊知識・理解の定着度を測定 ＊思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べるができる。									
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。									
時間外の学習 について	予習：次回の授業のキーワードを提示し、それについて調べておく。（各回 45 分程度） 復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ」原田旬哉（著）、杉山宗尚(著) 参考書：特になし。 参考資料等：適宜配布。									
実務経験を活かした 授業について	児童養護施設実務経験をもとに、子どもとのかかわりを通して、子どもがどのように感じていたか等のエピソードを話します。									
担当者からの メッセージ等	社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。 担当者の連絡先・E-mail：hyasumura@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	幼児理解と教育相談	教員	上村 有平 (単独)	免許・資格 との関係	保育士		関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲		
					幼稚園教諭			必修	②	協調的な生活態度	
									③	教養	
									④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S227-I00	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力				
授業形態	講義	年次	2年後期			⑥	保育の指導力	○			
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力	○			
						⑧	課題解決能力				
教科及び教職に 関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園）										
各科目に含める ことが必要な事項	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法										
授業テーマ	幼児理解 教育相談 カウンセリング										
授業概要	幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を理解する。また、幼児の発達に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な教育相談・カウンセリングの理論や技法に関する基礎的な知識を身につける。										
到達目標	1.幼児理解についての原理や対応の方法を理解できる。										
	2.教育相談の意義と理論、カウンセリングの基礎的な知識などを理解できる。										
	3.教育相談の進め方や組織的な取り組み・連携の必要性を理解できる。										
履修条件、注意事項											
授業計画									到達目標	授業方法	
	1. 発達理解と教育相談の意義と課題								1,2	面接	
	2. 子ども理解における発達の観点								1	面接	
	3. カウンセリングの技法								2	面接	
	4. カウンセリングの基礎理論								2	面接	
	5. 不登校（園）の理解と対応								1,3	面接	
	6. いじめの理解と対応								1,3	面接	
	7. 保護者の理解と対応								1,3	面接	
	8. 障害のある子どもの理解と対応								1,3	面接	
	9. 虐待の理解と対応								1,3	面接	
	10. 発達理論と発達理解								1	面接	
	11. 特別な配慮が必要な子どもの理解と対応								1,3	面接	
	12. 教育相談に関わる心理学の基礎理論								2	面接	
	13. 保育者のメンタルヘルス								1,3	面接	
	14. 園・地域における専門家との連携・協働								3	面接	
	15. まとめ								1,2,3	面接	
	◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション										
成績評価基準	評価の方法：①定期試験（40%）、②課題・レポート（40%）、③授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①定期試験 ＊知識・理解、思考・判断を測定 ・授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②課題・レポート ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲、態度 ・真摯な態度で学習に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加して自分の意見を表明することができる。										
フィードバックの方法	レポート課題は優れている事例を挙げて、その理由を説明する。										
時間外の学習 について	予習：次の授業テーマについて情報を収集する。（各回 90 分程度） 復習：授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。（各回 90 分程度）										
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。プリントを配布 参 考 書：『教育相談〔第2版〕（よくわかる！ 教職エクササイズ）』森田健宏・吉田佐治子（編）ミネルヴァ書房 『グローバル時代の教育相談：多様性の中で生きる子どもと教師』大家まゆみ・稲垣 勉（編）ナカニシヤ出版 『図解でわかる心理療法』植田俊幸・竹田伸也 中央法規出版 参考資料：適宜配布										
実務経験を活かした 授業について											
担当者からの メッセージ等	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。 E-mail： yuemura@yamaquchi-ica.ac.jp										

科目名	保育内容の理解と方法・表現Ⅱ	教員	永田 実穂 森下 嘉昭 杉山 綾子 (オムニバス)	免許・資格との関係	保育士	選択必修	関係性が最も強い学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	選択必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	○
								⑤	保育の計画力	
								⑥	保育の指導力	○
								⑦	専門的なコミュニケーション能力	
								⑧	課題解決能力	
ナンバリングコード	JC-S255-110	学科	保育学科	卒業要件	選択					
授業形態	演習	年次	2年後期							
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1							
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）									
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項									
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	3法令における領域「表現」の理解、乳幼児の生活や遊びの中から子どもの表現を捉える視点、保育者の援助・環境構成の工夫、子どもの表現を支える保育者の役割、ディスカッションや発表									
授業概要	乳幼児の生活や遊びの姿から、感性や創造性の働きに着目し、子どもの発達に応じた表現を支える環境構成等の保育者の役割について様々な角度から理解し、領域「表現」の指導に関する知識・技能、表現力を身につける。また、季節や行事などの日常生活や伝統文化と表現のかかわりを体験的に学ぶことで感性を豊かにし、表現力を身につけつつ、子どもの表現遊びへの展開を具体的実践的に学び、成果を他者と共有することで表現にかかわる専門的知識・技能を深める。									
到達目標	1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の理解を深め、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を見出すことができる。									
	2. 発達や経験に応じた乳幼児の表現を共感的に受け止め、発展させることができる。									
	3. 乳幼児が身の回りの生活環境と関わりながら、様々な表現を生み出すことを支える基礎的知識・技能を身につけ、感性を豊かにし、保育への活用がイメージできる。									
履修条件、注意事項										
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 3法令における領域「表現」と「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（森下・杉永田・杉山）								1	面接
	2. 表現の発生と展開①（身体表現）（森下・永田）								1, 2, 3	面接
	3. 表現の発生と展開②（音楽表現）（永田）								1, 2, 3	面接
	4. 表現の発生と展開③（造形表現）（森下）								1, 2, 3	面接
	5. 季節と表現①（春・夏）（森下・永田）								1, 3	面接
	6. 季節と表現②（秋・冬）（森下・永田）								1, 3	面接
	7. 伝統文化に親しむ（生け花等）（永田・杉山）								3	面接
	8. 児童文化と表現（森下）								1, 2, 3	面接
	9. 行事と表現（永田）								1, 2, 3	面接
	10. 表現を誘う遊びの環境構成①（物的環境の工夫）（森下・永田）								1, 2, 3	面接
	11. 表現を誘う遊びの環境構成②（環境構成の実践及び人的環境としての保育者（森下・永田）								1, 2, 3	面接
	12. 子どもの表現を支える保育者の役割（森下）								1, 2, 3	面接
	13. 保育における表現①（生活や遊びから考える）（森下・永田）								1, 2, 3	面接
	14. 保育における表現②（アイデアの発表・共有）（森下・永田）								1, 2, 3	面接
	15. 保育における表現③（アイデアの発表・共有及びフィードバック）（森下・永田・杉山）								1, 2, 3	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	評価の方法：①レポート（30%）、②毎回の振り返りシート（30%）③授業内課題（20%）④授業への取り組み（20%） 評価の基準：①レポート ＊知識・理解/思考・判断、関心・意欲を測定 ・3法令の領域「表現」の位置づけを理解している。 ・授業内容を踏まえて、保育現場での子どもの発達に応じた表現を支える保育者の役割や展開方法を理解している。 ②毎回の振り返りシート ＊知識・理解/関心・意欲を測定 ・3法令の内容を理解し、自分の理解したこと、疑問点などを整理し、解決することができる。 ③授業内課題 ＊思考・判断/関心・意欲/態度/技能・表現を測定 ・子どもの表現を支える保育者の役割を理解し、生活や遊びの中から環境構成を工夫することができる。 ・季節や行事などの日常生活や伝統文化と表現のかかわりを体験的に学ぶことで表現力を身につけ、子どもの表現遊びを具体的に展開することができる。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲/態度 ・主体的かつ協調的な態度で、意欲的に取り組むことができる。 ・自分なりの意見を持ち、アイデアを共有したり意見交換したりすることができる。									
フィードバックの方法	振り返りシートの内容を次回授業時に採り上げ、ディスカッションの題材とし、補足や解説を行う									
時間外の学習について	予習：テキストや参考書の関係箇所を目を通す。（各回45分程度） 復習：授業内容の疑問点について整理する。（各回45分）									
教材にかかわる情報	テキスト：『アクティベート保育学Ⅱ 保育内容「表現」』岡本拓子・花原幹夫・汐見稔幸編著 ミネルヴァ書房 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	動きやすい服装で参加すること。 nagata@yamaguchi-jca.ac.jp（永田） morishita@yamaguchi-jca.ac.jp（森下） asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp（杉山）									

科目名	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ	教員	難波 章人 (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択必修	関係性が最も強い学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	JC-S259-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的なコミュニケーション能力			
							⑧	課題解決能力		
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業テーマ	様々な造形素材・表現媒体についての知識と技術、コミュニケーション能力									
授業概要	子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びを題材として取り上げる。地域との連携「あそびのひろば」を通して、様々な造形素材の特徴や活用方法、そして子どもの発達（興味や関心）について学ぶと共に、コミュニケーション能力を養う。実習で使用することを目的とした表現媒体の制作を通して、子どもの表現活動を引き出す教材の活用方法について学ぶ。									
到達目標	1. 子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得し、実践できる。									
	2. 様々な造形素材の特性や扱い方（関連する材料・用具を含む）を習得し、実践できる。									
	3. 協働意識やごっこ遊びを展開する力（対象の子どもを理解する力やコミュニケーション力を含む）を習得し、実践できる。									
	4. 表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得し、実践できる。									
	5. 学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる方法を習得し、実践できる。									
履修条件、注意事項	保育内容の理解と方法・造形Ⅰの単位を修得していること。									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 地域との連携「あそびのひろば」に向けた取り組み①【コーナー遊びのアイデア・廃材の特性理解】								1, 2	面接
	2. 地域との連携「あそびのひろば」に向けた取り組み②【コーナー遊びの制作】								1, 2, 4	面接
	3. 地域との連携「あそびのひろば」に向けた取り組み③【チラシ・商品説明の制作】								2	面接
	4. 地域との連携「あそびのひろば」に向けた取り組み④【看板や店舗の制作】								1, 2	面接
	5. 地域との連携「あそびのひろば」に向けた取り組み⑤【店舗・コーナー遊びの飾り付け】								1, 2, 3	面接
	6. 地域との連携「あそびのひろば」に向けた取り組み⑥【子どもとのかかわり】								1, 2, 3	面接
	7. スケッチブックシアター①【ストーリー・構成】								2, 4	面接
	8. スケッチブックシアター②【仕掛け、着色】								2, 4	面接
	9. スケッチブックシアター③【演技、発表】								2, 4	面接
	10. 教材開発①【光・影絵あそびについて】								1, 2, 5	面接
	11. 教材開発②【紙コップ、紙皿を使った製作活動について】								1, 2, 5	面接
	12. 教材開発③【飛ぶ玩具作りと造形活動について】								1, 2, 5	面接
	13. 教材開発④【ステンシルの技法と絵具あそびについて】								1, 2, 5	面接
	14. 教材開発⑤【木の実・木の葉を使った製作活動について】								1, 2, 5	面接
	15. 教材開発⑥まとめ【手を使う意味・造形素材や用具の特性・実践を通して】								1, 2, 5	面接
アクティブ・ラーニング	グループワーク、フィールドワーク									
成績評価基準	評価の方法：①授業内での制作作品（50％）、②授業記録（50％） 評価の基準：①授業内での制作作品 ＊技能・表現、関心・意欲の測定 ・材料や用具の特性を生かし、対象である子どもをイメージした表現や制作ができているか ・子どもの笑顔をイメージして、向上心や協調性を持って取り組むことができているか ②授業記録 ＊知識・理解、関心・意欲の測定 ・材料や用具の特性や活用方法を記録に留めておくことができているか ・自ら学んだことや他の学生やグループなどから学んだことを記録に留めておくことができているか									
フィードバックの方法	期末に提出するスケッチブック（授業のまとめや制作や体験の振り返り）については、チェック表（授業開始時の配布）に基づき評価して返却する。									
時間外の学習について	予習：配布資料を事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。（45 分） 復習：授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。（45 分）									
教材にかかわる情報	参考書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした授業について										
担当者からのメッセージ等	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください。 E-mail：ananba@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	保育ピアノⅢ	教員	杉山 綾子 他 (複数)	免許・資格 との 関 係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	JC-S291-000	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2 年前期			⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力		
授業テーマ	弾き歌い、保育現場での実践、ピアノ演奏技術、豊かな表現力								
授業概要	1 年次に引き続き、各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより、小グループでの個別レッスン学習を進める。各自の最適なピアノ演奏技術・表現力を習得し、弾き歌いの力を更に高めレパートリーを増やししながら、保育現場で必要な実践力を身につける。								
到達目標	1. 保育現場での必要なピアノ演奏力及び、弾き歌いにおいての様々な伴奏技術の修得し、実践できる。								
	2. 様々な子どものうたのレパートリーを修得し、歌詞・メロディ・リズムなどの特徴やおもしろさなどを理解し表現できる。								
	3. 子どもに指導することを念頭にいた表現豊かな演奏ができる。								
	4. 弾き歌い曲は実習で実践し、課題と解決法を探ることができる。								
履修条件、注意事項									
授業計画								到達目標	授業方法
	1. オリエンテーション・春休み課題の確認							1,2,3	面接
	2. 弾き歌い試験 1 (春休み課題) 弾き歌い① (春の歌・伴奏)							1,2,3	面接
	3. 弾き歌い① (春の歌・歌唱) ピアノ曲の相談							1,2,3	面接
	4. 弾き歌い① (いろいろな歌・伴奏)							1,2,3	面接
	5. 弾き歌い① (いろいろな歌・歌唱) ピアノ曲 読譜							1,2,3	面接
	6. 弾き歌い① (夏の歌・伴奏)							1,2,3	面接
	7. 弾き歌い① (夏の歌・歌唱) 弾き歌い①仕上げ ピアノ曲 奏法							1,2,3	面接
	8. 弾き歌い試験 2 (弾き歌い①より 2 曲)							1,2,3,4	面接
	9. 弾き歌い② (夏の歌・伴奏表現) ピアノ曲 奏法と表現							1,2,3	面接
	10. 弾き歌い② (夏の歌・歌唱表現)							1,2,3	面接
	11. 弾き歌い② (いろいろな歌・伴奏) ピアノ曲 表現と速度							1,2,3	面接
	12. 弾き歌い② (いろいろな歌・歌唱)							1,2,3	面接
	13. 弾き歌い曲レパートリーの確認・相談 ピアノ曲 仕上げ							1,2,3	面接
	14. 弾き歌い②仕上げ							1,2,3	面接
	15. 弾き歌い試験 3 (弾き歌い②より 2 曲) ピアノ曲試験 授業のまとめ							1,2,3,4	面接
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ								
成績評価基準	評価の方法：①弾き歌い試験（音楽基礎の確認含む）（60％） ②ピアノ曲試験（20％） ③レポート（10％） ④授業への取り組み（10％） 評価の基準：①弾き歌い試験（音楽基礎の確認含む） ＊知識・理解／技能表現の測定 ・課題曲に限らず、様々な子どものうたの学習しレパートリーを増やす。 ・コードネーム・リズム伴奏・両手伴奏等、得意な方法で伴奏できる。 ・曲の特徴や面白さを理解し弾き歌いできる。 ②ピアノ曲試験 ＊知識・理解／技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ豊かに表現できる。 ③レポート ＊関心・意欲／知識・理解の測定 ・得意な伴奏方法を獲得できたか。 ・表現豊かに実践ができたか。 ④授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 ・目標・意欲を持って十分な練習をしている。								
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや個別の練習方法についてアドバイスする。								
時間外の学習 について	予習：有意義なレッスンが受けられるように十分な準備・練習をする。（45 分） 復習：学習した曲（ピアノ曲・弾き歌い曲）は、就職試験や保育現場で実践できるよう常に弾いておく。（45 分）								
教材にかかわる情報	テキスト：『ピアノ名曲でこどもとあそぼう』『幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集』本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社） 参 考 書：『標準バイエルピアノ教則本』『ブルグミュラー 25 の練習曲』『ソナチネアルバム 1・2』『ソナタアルバム 1・2』（全音楽譜出版社） 参考資料：『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社）『楽しくうたあそび 123』河北邦子・坂本久美子（ミネルヴァ書房）								
実務経験を活かした 授業について									
担当者からの メッセージ等	ピアノの上達には残念ながら近道はありません。目標を設定し、毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。 E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp								

科目名	保育ピアノⅣ	教員	杉山 綾子 他 （複数）	免許・資格 との 関係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	○
ナンバリングコード	JC-S292-000	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2 年後期			⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	Ⅰ			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力		
授業テーマ	弾き歌い、保育現場での実践、ピアノ演奏技術、豊かな表現力								
授業概要	各自の技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより、小グループでの個別レッスン・自己研鑽学習を進める。保育現場で確実に実践できる弾き歌いのレパートリーを増やしながら、演奏力・表現力を高める。実習での実践から子ども達に歌の楽しさや面白さを伝える力を身につける。								
到達目標	1. 保育現場での必要なピアノ演奏力及び、弾き歌いについての様々な伴奏技術を修得し、実践できる。 2. 様々な子どものうたのレパートリーを修得し、保育現場で指導力を発揮できる。 3. 前期実習での実践と比較考察し、課題解決を探り自己研鑽することができる。								
履修条件、注意事項									
授業計画								到達目標	授業方法
	1. オリエンテーション・夏休み課題の確認							1, 2, 3	面接
	2. 弾き歌い試験Ⅰ（夏休み課題2曲） 弾き歌い①（秋の歌・伴奏）							1, 2, 3	面接
	3. 弾き歌い①（秋の歌・歌唱）							1, 2, 3	面接
	4. 弾き歌い①（いろいろな歌Ⅰ・伴奏）							1, 2, 3	面接
	5. 弾き歌い①（いろいろな歌Ⅰ・歌唱）							1, 2, 3	面接
	6. 弾き歌い①仕上げ							1, 2, 3	面接
	7. 弾き歌い試験2（弾き歌い①より2曲） 弾き歌い②（冬の歌・伴奏）							1, 2, 3	面接
	8. 弾き歌い②（冬の歌・歌唱）							1, 2, 3	面接
	9. 弾き歌い②（冬の歌・表現）							1, 2, 3	面接
	10. 弾き歌い②仕上げ							1, 2, 3	面接
	11. 弾き歌い試験3（弾き歌い②より2曲） 弾き歌い③（いろいろな歌2・曲決めと読譜）							1, 2, 3	面接
	12. 弾き歌い③（いろいろな歌2・伴奏表現）							1, 2, 3	面接
	13. 弾き歌い③（いろいろな歌2・歌唱表現）							1, 2, 3	面接
	14. 弾き歌い③仕上げ							1, 2, 3	面接
	15. 弾き歌い試験4（弾き歌い③よりⅠ曲全番） 後期のまとめ							1, 2, 3	面接
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ								
成績評価基準	評価の方法：①弾き歌い試験（音楽基礎の確認含む）（80％） ②レポート（10％） ③授業への取り組み（10％） 評価の基準：①弾き歌い試験（音楽基礎の確認含む） ＊知識・理解/技能・表現の測定 ・課題曲に限らず、様々な子どものうたのレパートリーを習得する。 ・曲のイメージや歌詞を正しく理解して、豊かな表現ができる。 ・コードネーム・リズム伴奏・両手伴奏等、得意な方法で自信を持って弾き歌いができる。 ②レポート ＊関心・意欲／知識・理解の測定 ・得意な伴奏方法で多くのレパートリーを獲得できたか。 ・表現豊かに実践ができたか。 ③授業への取り組み ＊関心・意欲の測定 ・授業を受けるための十分な準備ができている。 ・実習での実践に意欲的に取り組んだ。								
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや個別の練習方法についてアドバイスする。								
時間外の学習 について	予習：有意義なレッスンが受けられるように十分な準備・練習をする。（45分） 復習：学習した曲を自信を持って保育現場で活用できるよう自己研鑽に励むこと。（45分）								
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集』本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社） 参 考 書： 参考資料：『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』本廣明美・加藤照恵（ドレミ楽譜出版社）『楽しくうたあそびⅠ23』河北邦子・坂本久美子（ミネルヴァ書房）								
実務経験を活かした 授業について									
担当者からの メッセージ等	ピアノの上達には残念ながら近道はありません。目標を設定し、毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。 E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp								

科目名	子ども総合研究Ⅰ	教員	山田・森下 山本朗・永田・難波 香川・杉山・上村 (オムニバス)	免許・資格 との関係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	○
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S281-000	学科	保育学科	卒業要件	必修	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2年前期			⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力	○	
授業テーマ	グループでの研究活動、主体的に学び続ける力、子どもの視点に立って考え研究・実践する力、子どもや保育に関わる社会的な課題を解決する力								
授業概要	Ⅰ年次の授業で学んだ知識や技能、実習体験をふまえ、より深く研究したいテーマを選択し、卒業研究の位置づけとしてグループ研究をおこなう。児童文化財としての舞台表現や絵本、あるいは、地域や保育現場での課題を見つけ、実践・調査研究を通して、子どもや保育における諸問題の理解を深めるとともに、保育者としての力量を向上させる。中間報告会では、それまでの研究経過や今後の課題などをまとめ、プレゼンテーションを行う。								
到達目標	1.主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につけることができる。								
	2.Ⅰ年次の学びを生かし、子どもの視点に立って考え研究を進めることができる。								
	3.グループワークを通して、協調性や協働意識をもって活動することができる。								
	4.学びをまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につけ、準備や発表を行うことができる。								
履修条件、注意事項	研修旅行に参加していること								
授業計画								到達目標	授業方法
	Ⅰ. 授業目標・授業の流れの説明、研修旅行グループ活動の報告会 (山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村)							Ⅰ,3	面接
	2. 研究テーマの決定(山田・森下・山本朗・永田・難波・香川・杉山・上村)							Ⅰ,2,3	面接
	3. 研究計画の検討・立案(山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村)							Ⅰ,2,3	面接
	4. テーマに沿った研究①(先行研究・資料の収集)(森下、永田、杉山、)							Ⅰ,2,3	面接
	5. テーマに沿った研究②(先行研究・資料の分析)(森下、永田、杉山、)							Ⅰ,2,3	面接
	6. テーマに沿った研究③(協力園等候補の決定)(森下、永田、杉山、)							Ⅰ,2,3	面接
	7. テーマに沿った研究④(題材決定・調査・実践準備等)(山田、山本、難波、上村)							Ⅰ,2,3	面接
	8. テーマに沿った研究⑤(脚本たたき台作成・データ集計等)(山田、山本、難波、上村)							Ⅰ,2,3	面接
	9. テーマに沿った研究⑥(脚本たたき台について協議・データ分析等)(山田、山本、難波、上村)							Ⅰ,2,3	面接
	10. テーマに沿った研究⑦(脚本修正・問題点の確認等)(森下、永田、杉山、)							Ⅰ,2,3	面接
	11. テーマに沿った研究⑧(読み合わせ・再調査・実践等)(山田、山本、難波、上村)							Ⅰ,2,3	面接
	12. テーマに沿った研究⑨(脚本完成・効果音等・データ整理、問題点の確認)(山田、山本、難波、上村)							Ⅰ,2,3	面接
	13. 中間報告会準備(進捗状況についてプレゼンテーションソフトなどを使ってまとめる)(森下、永田、杉山、)							Ⅰ,3,4	面接
	14. 中間報告会(発表)(山田・森下・山本朗・永田・難波・香川・杉山・上村)							Ⅰ,3,4	面接
	15. 夏季休業中(実習を含む)の研究活動・後期の活動計画確認、レポート課題(山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村)							Ⅰ,3	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク								
成績評価基準	評価の方法：①活動内容(30%)、②記録・レポート(30%)、③報告会(20%)、④態度(10%) ⑤ボランティア活動等の参加ポイント(10%)								
	評価の基準：①活動内容 ＊知識・理解の定着度、思考・判断、技能・表現の測定 ・Ⅰ年次から現在までの学びを生かして研究を推進できる。 ・子どもの視点を想定して研究・協議ができる。 ②記録・レポート ＊思考力・判断力の測定、知識・理解の定着度の測定 ・研究の経緯や成果を正確に記録できる。 ・研究内容をもとに、自己の考えをまとめることができる。 ・自己の研究イメージをより具体化することができる。 ③報告会 ＊思考・判断、表現の測定 ・研究の経緯や成果を、他者に分かりやすくまとめプレゼンできる。 ④態度 ＊関心・意欲・態度の測定 ・積極的な態度で主体的に研究に取り組むことができる。 ・協調的にグループワークに取り組むことができる。 ⑤ボランティア活動などの参加ポイント ＊思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・場や相手に応じた適切な会話を身につけるために努力できる。 ・ボランティア活動等に積極的に参加したり、自分の能力を高めるための活動を行ったりすることができる。								
フィードバックの方法	記録ファイル・レポートを回収し、チェックを入れる、コメントをつけるなどして返却する。グループでの研究活動に生かすため、場合によっては学生間で内容を共有できるようにする。								
時間外の学習について	予習：各グループ、研究活動に必要な準備(資料準備や制作物など)をして臨む。各回 90 分程度 復習：記録ファイルへの記録(振り返り)。各回 90 分程度								
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド本社 参考資料：各グループで収集								
実務経験を活かした授業について									
担当者からのメッセージ等	授業内で各担当の連絡先を周知する。								

科目名	子ども総合研究Ⅱ	教員	山田・森下 山本朗・永田・難波 ・香川・杉山・上村 （オムニバス）	免許・資格 との関係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭		②	協調的な生活態度	○
							③	教養	
							④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S282-000	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力		
授業形態	演習	年次	2年後期			⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力		
						⑧	課題解決能力	○	
授業テーマ	グループでの研究活動、主体的に学び続ける力、子どもの視点に立って考え研究・実践する力、子どもや保育に関わる社会的な課題を解決する力								
授業概要	2年前期の子ども総合研究Ⅰの成果や、授業で学んだ知識・技能、教育実習や保育実習体験を踏まえ、グループ内で進捗状況や課題を共有しながら研究を推進し、成果を具体化していく。 舞台表現系のグループは、「子ども総合研究発表会」において、舞台発表の形式で研究成果を一般に向け公開発表し、地域貢献を行う。最終的に、発表会の成果も含め調査・実践系を含むすべてのグループにおいて研究成果をまとめ、学内で研究成果報告会を行う。								
到達目標	1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につけることができる。								
	2. 子どもや保育を取り巻く諸問題を捉え、解決しようとすることができる。								
	3. 子どもの視点に立って考え、研究する力を高めることができる。								
	4. グループワークを通して、協調性や協働意識をもって活動することができる。								
	5. 学びを整理してまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につけ、準備や発表を行うことができる。								
履修条件、注意事項									
授業計画								到達目標	授業方法
	1. 後期の授業目標・授業の流れの確認（山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村）							1,4	面接
	2. 後期のグループ研究計画の確認（山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村）							1,2,4	面接
	3. テーマに沿った研究①（舞台装置・道具類制作計画等立案、調査・実践準備等）（山田、山本、難波）							1,2,3,4	面接
	4. テーマに沿った研究②（背景画制作、フィールドワーク等）（山田、山本、難波、上村）							1,2,3,4	面接
	5. テーマに沿った研究③（大道具制作、データ集計等）（山田、山本、難波、上村）							1,2,3,4	面接
	6. テーマに沿った研究④（小道具制作、データ分析等）（山田、山本、難波、上村）							1,2,3,4	面接
	7. テーマに沿った研究⑤（各教室で動きの段取り確認、問題点の確認等）（森下、永田、杉山、）							1,2,3,4	面接
	8. テーマに沿った研究⑥（通し練習、フィールドワーク等）（森下、永田、杉山、）							1,2,3,4	面接
	9. テーマに沿った研究⑦（フィールドワーク、データ集計等）（森下、永田、杉山、）							1,2,3,4	面接
	10. テーマに沿った研究⑧（現場実践をもとに修正・練習、データ分析等）（森下、永田、杉山、）							1,2,3,4	面接
	11. テーマに沿った研究⑨（学内発表会）（山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村）							1,2,3,4,5	面接
	12. テーマに沿った研究⑩（発表会：公開発表他）（山田・森下・山本朗・永田・難波・杉山・上村）							1,2,3,4,5	面接
	13. 研究成果のまとめ（発表会や実践・調査データをもとに原稿まとめ）（森下、永田、杉山、）							1,2,3,4,5	面接
	14. 研究成果のまとめ（プレゼンテーションソフトなどを使い、報告会準備・練習）（山田、山本、難波、上村）							1,4,5	面接
	15. 研究成果報告会、総括（山田・森下・山本朗・永田・難波・香川・杉山・上村）							1,4,5	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク								
成績評価基準	評価の方法：①活動内容（10%）、②記録・レポート（30%）、③発表会（20%）、④報告会（20%）、⑤態度（10%）⑥ボランティア活動等の参加ポイント（10%） 評価の基準：①活動内容 ＊知識・理解の定着度、思考・判断、技能・表現の測定 ・実習や授業での学びや、前期の研究内容を生かして研究を推進できる。 ・子どもの視点を前提として子どもや保育を取り巻く諸問題を捉え、研究・協議ができる ②記録・レポート ＊思考力・判断力の測定、知識・理解の定着度の測定 ・研究の経緯や成果を正確に記録できる。 ・研究内容をもとに、自己の考えをまとめることができる。 ・自己の研究イメージをより具体化することができる。 ③発表会 ＊思考・判断、技能・表現、関心・意欲・態度の測定 ・舞台上での発表や発表会の運営に対して、保育者としてふさわしい立ち振る舞いができる。 ・研究内容を生かして発表することができる。 ④報告会 ＊思考・判断、表現の測定 ・研究の経緯や成果を、他者に分かりやすくまとめプレゼンできる。 ⑤態度 ＊関心・意欲・態度の測定 ・積極的な態度で主体的に研究に取り組むことができる。 ・協調的にグループワークに取り組むことができる。 ⑥ボランティア活動などの参加ポイント ＊思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・場や相手に応じた適切な会話を身につけるために努力できる ・ボランティア活動等に積極的に参加したり、自分の能力を高めるための活動を行ったりすることができる								
フィードバックの方法	記録ファイル・レポートを回収し、チェックを入れる、コメントをつけるなどして返却する。グループでの研究活動に生かすため、場合によっては学生間で内容を共有できるようにする。								
時間外の学習について	予習：各グループ、研究活動に必要な準備（資料準備や制作物など）をして臨む。各回 90 分程度 復習：記録ファイルへの記録（振り返り）。各回 90 分程度								
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：幼児期までのこどもの育ちに係る基本的な美女運、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領 <原本> チャイルド本社 参考資料：各グループで収集								
実務経験を活かした授業について									
担当者からのメッセージ等	授業内で各担当の連絡先を周知する。								

科目名	保育実習指導Ⅱ	教員	杉山 綾子 （単独）	免許・資格 との関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S273-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	演習	年次	2年前期 2年後期				⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
							⑧	課題解決能力	○	
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育実習									
授業テーマ	主体性、実習準備（保育指導案など）、自己反省・自己改善									
授業概要	保育実習Ⅱを円滑で実り多いものにするための事前事後の指導を行う。指導実習のための指導案作成や実践後の反省や事例研究を通して、子ども理解や保育士の役割についての理解を深める。また、保育に対する課題を明確にする。									
到達目標	1. 保育実習の目的と意義を理解し、保育について総合的に学び理解できる。									
	2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を発揮できる。									
	3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえて自己の保育を改善できる。									
	4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる。									
	5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 保育実習Ⅱの目的・意義							1	面接	
	2. 保育指導案①（作成）							2	面接	
	3. 保育指導案②（個別指導）							2	面接	
	4. 保育指導案③（代表者による模擬保育）							2	面接	
	5. 実習の準備①（実習生紹介票作成・検便）							1	面接	
	6. 実習の準備②（実習の留意点）							1	面接	
	7. 実習事後指導①（自己評価と実習の振り返り共有）							5	面接	
	8. 実習事後指導②（評価票による個別指導）							5	面接	
	9. 実習エピソード①（エピソードの記述）							3	面接	
	10. 特別講義①（児童福祉施設の保育士の役割について）							4	面接	
	11. 子どもを取り巻く問題に関する理解							4	面接	
	12. 実習エピソード②（個別指導）							3	面接	
	13. 実習エピソード③（エピソード共有）							3	面接	
	14. 特別講義②（児童福祉施設における保護者支援について）							4	面接	
	15. 実習の総括と今後の課題の設定							5	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①レポート（50％） ②授業内提出物（30％） ③授業への取り組み（20％） 評価の基準：①レポート ※知識・理解の定着度及び思考力を測定 ・保育に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに実習における活動のあり方や保育士の専門性をより深く理解している。 ②授業内提出物 ※知識、思考力を測定 ・保育に関する正確な知識に基づき、適切な保育指導案を作成することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 ③授業への取り組み ※関心・意欲、態度を測定 ・保育および保育士に関する学習を積極的に行うことができる。									
フィードバックの方法	指導案・エピソードについては優れた内容のものについて他の学生に紹介する。									
時間外の学習 について	予習：授業計画を把握し、実習の準備に真摯に取り組む。（各回 45 分程度） 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『実習の手引き』、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参 考 書：なし 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、保育指導案の作成に早めに取り組むことと、守秘義務を遵守することが求められる。E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	保育実習Ⅱ	教員	杉山 綾子 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S274-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	実習	年次	2 年前後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2				⑦	専門的な コミュニケーション能力	○	
							⑧	課題解決能力		
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育実習									
授業テーマ	主体的な実習、保育者としてのより高度な技術と実践力									
授業概要	保育実習Ⅰで学んだことを基礎として保育に参加し、子どもの個性や発達段階についてのより深い理解に努め、適切な援助とは何かを考え実践する。教材研究を十分に行ったうえで保育指導案を立案し、部分及び全日の保育を実践し、反省と考察を行う。									
到達目標	1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通してより深く理解できる。									
	2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもについてより深く理解できる。									
	3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、理解できる。									
	4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できる。									
	5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、理解できる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 実習園についての概要を把握し、理解する。								1	面接
	2. 保育の流れを理解し、適切な援助・指導を行う。								2	面接
	3. 保育環境に関心を持ち、その意図を理解し環境整備に心がける。								3	面接
	4. 既習の教科で習得した知識・技術を実践し、子どもの状況に応じて援助を発展させる。								3	面接
	5. 十分な教材研究を行い、保育指導案を立案し、保育者の指導の下保育を行う。								2, 4	面接
	6. 保育内容や実習内容を整理・記録し、自己の課題を明確にする。								3, 4, 5	面接
アクティブ・ラーニング	実習									
成績評価基準	評価の方法：①実習先の評価（60％） ②実習手帳の提出と内容（40％） 評価の基準：①実習先の評価 ※ 知識・理解の定着度及び思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・保育に関する知識を持ち、実践に活用できる。 ・子どもや保護者に対して適切な援助ができる。 ・自己の実践を省察することができる。 ②実習手帳の内容 ※思考力、態度を測定 ・保育の 1 日の流れや活動のねらいを記録し、深く考察できる。 ・自己の実践について十分な省察を行い、改善できる。									
フィードバックの方法	実習園及び実習施設からの評価票を個別にて指導する。また、手帳について各担当者が評価し、評価についての指導を行う。									
時間外の学習 について	予習：保育指導案の作成や教材研究等、事前準備に真摯に取り組む。（毎回 90 分程度） 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。（毎回 90 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：『実習の手引き』、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、保育指導案の作成に早めに取り組むことと、守秘義務を遵守することが求められる。E-mail：asugiyama@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	保育実習指導Ⅲ	教員	難波 章人 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S275-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力	○	
授業形態	演習	年次	2 年前後期				⑥	保育の指導力		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1				⑦	専門的な コミュニケーション能力		
								⑧	課題解決能力	○
教科目	選択必修科目（保育士）									
系列	保育実習									
授業テーマ	施設実習、専門的知識と技術・倫理観、指導（レクリエーション）案の作成、自己評価									
授業概要	保育実習Ⅲを、円滑で実り多いものにするための事前事後の指導を行う。実習施設や利用者理解のための事前学習、実習後の反省や事例を通して学ぶことで施設および施設保育士の役割についての理解を深める。									
到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、理解できる。									
	2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を発揮できる。									
	3. 保育の観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学び、理解できる。									
	4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる。									
	5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画									到達目標	授業方法
	1. 保育実習Ⅲの目的・意義								1	面接
	2. レクリエーション案①（作成）								2	面接
	3. レクリエーション案②（個別指導）								2	面接
	4. レクリエーション案③（代表者による模擬保育）								2	面接
	5. 実習の準備①（実習生紹介票作成・検便）								1	面接
	6. 実習の準備②（実習の留意点）								1	面接
	7. 実習事後指導①（自己評価と実習の振り返り共有）								5	面接
	8. 実習事後指導②（評価票による個別指導）								5	面接
	9. 実習エピソード①（エピソードの記述）								3	面接
	10. 特別講義①（児童福祉施設の保育士の役割について）								4	面接
	11. 子どもを取り巻く問題に関する理解								4	面接
	12. 実習エピソード②（個別指導）								3	面接
	13. 実習エピソード③（エピソード共有）								3	面接
	14. 特別講義②（児童福祉施設における保護者支援について）								4	面接
	15. 実習の総括と今後の課題の設定								5	面接
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①レポート（50％） ②授業内提出物（30％） ③授業への取り組み（20％） 評価の基準：①レポート ※知識・理解の定着度及び思考力を測定 ・保育に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに実習における活動のあり方や保育士の専門性をより深く理解している。 ②授業内提出物 ※知識、思考力を測定 ・保育に関する正確な知識に基づき、適切なレクリエーション案を作成することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 ③授業への取り組み ※関心・意欲、態度を測定 ・保育および保育士に関する学習を積極的に行うことができる。									
フィードバックの方法	レクリエーション案・エピソードについては優れた内容のものについて他の学生に紹介する。									
時間外の学習 について	予習：授業計画を把握し、実習の準備に真摯に取り組む。（各回 45 分程度） 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。（各回 45 分程度）									
教材にかかわる情報	テキスト：『実習の手引き』、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型 認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参 考 書：なし 参考資料：適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。 E-mail：ananba@yamaguchi-jca.ac.jp									

科目名	保育実習Ⅲ	教員	難波 章人 (単独)	免許・資格 との 関係	保育士	選択 必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭			②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S276-010	学科	保育学科	卒業要件	選択		⑤	保育の計画力		
授業形態	実習	年次	2 年前後期				⑥	保育の指導力	○	
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2				⑦	専門的な コミュニケーション能力	○	
							⑧	課題解決能力		
教科目		選択必修科目（保育士）								
系列		保育実習								
授業テーマ		施設実習、保育に関する専門的知識・高度な技術、倫理観、コミュニケーション能力								
授業概要		保育実習Ⅰ（保育所以外の児童福祉施設）で学んだことを基礎として、さらに学びを深める。保育士や指導員の指導の下、生活を中心とした活動に参加し実践する中で、保育士の職務内容を理解し必要な力量を高める。								
到達目標		1. 児童福祉施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深め、必要な技術を習得し、実践できる。								
		2. 利用児・者の観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育についてより深く理解できる。								
		3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、利用児・者支援について総合的に学び、理解できる。								
		4. 保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み、より深く理解できる。								
		5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できる。								
		6. 保育士としての自己の課題を明確化できる。								
履修条件、注意事項		原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。								
授業計画		実習内容							到達目標	授業方法
		1. 施設保育士や指導員の指導に従い、養護・療育全般に参加し技術を習得する。							1, 5	面接
		2. 対象児・者の個性や発達段階、障がいについて理解し、適切な援助について学ぶ。							1, 2	面接
		3. 環境構成に関心を持ち、その意図を理解し対象児・者に合わせた環境整備を心掛ける。							1, 2, 3	面接
		4. 行った養護・療育の反省をし、学習課題を見出す。							4, 6	面接
		5. 学内で学習したものをレクリエーションなどで実践する。							1, 3, 5	面接
アクティブ・ラーニング		実習								
成績評価基準		評価の方法：①実習先の評価 60%、②実習手帳の内容 40% 評価の基準：①実習先の評価 ＊知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・正確な知識を持ち、実践に活用することができる。 ・児童や利用者に対して適切な行動、判断ができ、自己の実践を省察することができる。 ・適切な保育・養護に関心を持ち、積極的に活動することができる。 ・真摯な態度で、児童や利用者とその思いに向き合うことができる。 ②実習手帳の内容 ＊思考力、態度を測定 ・自己の実践について十分な省察を行って改善に繋げることができ、真摯な態度で記録に残すことができる。 ・児童や利用者の思いを理解して深く考察することができる。								
フィードバックの方法		実習先での反省会および学内での反省会を通して、実践内容について振り返りを行う。 実習手帳については、提出後記述内容をもとに教員が個別に面談を行う。								
時間外の学習 について		予習：実習指導で受けた内容と、事前オリエンテーションで教示された内容の理解を深める。（各回 90 分程度） 復習：自己の実践と指導者の指導を振り返り、日誌にて考察を深める。日誌以外にも実習で得た経験を余すことなく記録にとることが望ましい。（各回 90 分程度）								
教材にかかわる情報		テキスト：特になし 参 考 書：『実習の手引き』、『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：適宜配布								
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等		保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ（施設）よりも高い専門性と理解、覚悟が求められる。十分に準備を行って取り組むこと。 E-mail：ananbo@yamaguchi-jca.ac.jp								

科目名	教育実習指導	教員	山田 哲也 上村 有平 (複数)	免許・資格 との関係	保育士		関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
								⑤	保育の計画力	○
								⑥	保育の指導力	
								⑦	専門的な コミュニケーション能力	
								⑧	課題解決能力	○
ナンバリングコード	JC-S277-100	学科	保育学科	卒業要件	選択					
授業形態	講義	年次	2年前後期							
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	1							
教科及び教職に 関する科目	教育実践に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習									
授業テーマ	教育実習の目的・意義・内容の理解、主体性									
授業概要	幼稚園実習を円滑に実り多いものにするための事前・事後指導を行い、教育実習の意義を理解する。 事前指導では、幼稚園実習の意義・目的・内容、幼稚園の果たす役割、実習の心構え、実習日誌の書き方、実習テーマの設定、指導案の立て方・書き方を学ぶことを通して、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高める。 事後指導では、実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等の今後の課題について理解する。									
到達目標	1.事前指導においては、実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 2.事後指導においては、教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、子ども、幼稚園の役割、教諭の仕事などの理解を深め、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解・把握できる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが 1.10 以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画									到達目標	授業方法
	教育実習・前期									
	1. 教育実習の意義及び目的								1	面接
	2. 実習テーマの設定、必要書類の準備（実習生紹介票）								1	面接
	3. 実習園オリエンテーションにおける留意事項、教育実習園の概要（教育目標・地域の特色・幼児の実態等）把握								1	面接
	4. 実習手帳の書き方、保育指導案の立て方								1	面接
	5. 保育者としてのマナー、保育参観の視点と方法								1	面接
	6. 教育実習のための直前指導説明（留意事項と心構え）、教材研究の基本								1	面接
	7. 実習体験の振り返りと今後の課題（1）：自己評価								2	面接
	8. 実習体験の振り返りと今後の課題（2）：評価票を用いた個別指導								2	面接
	教育実習・後期									
	9. 教育実習のための直前指導説明（留意事項と心構え）								1	面接
	10. 実習体験の振り返りと今後の課題（1）：自己評価								2	面接
	11. 学外講師特別講義：これからの保育者に望むこと								2	面接
12. 実習のまとめ、実習体験の振り返りと今後の課題（2）：評価票を用いた個別指導								2	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション									
成績評価基準	評価の方法：①レポートなど課題提出 60% ②授業への取り組み 40% 評価の基準：①レポートなど課題提出 ＊ 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度を測定 ・ 幼児教育に関する正確な知識に基づき、適切な日誌・保育指導案を作成することができる。 ・ 授業で得た知識をもとに、実習における活動のあり方を考察することができる。 ・ 実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 ②授業への取り組み ＊ 関心・意欲、態度を測定 ・ 真摯な態度で幼児教育に関する学習を積極的に行うことができる。 ・ グループディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。									
フィードバックの方法	提出物は優れたものを紹介する。									
時間外の学習 について	予習：授業計画を把握し、事前準備に真摯に取り組む。各回 90 分程度。 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。各回 90 分程度。									
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：『実習の手引き』 『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：なし									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	担当者の連絡先は授業内で周知します。									

科目名	教育実習	教員	山田 哲也 上村 有平 (複数)	免許・資格 との関係	保育士	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲		
					幼稚園教諭		必修	②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S278-I00	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	実習	年次	2年前後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	4			⑦	専門的な コミュニケーション能力	○		
						⑧	課題解決能力			
教科及び教職に 関する科目	教育実践に関する科目（幼稚園）									
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習									
授業テーマ	教育実習、幼稚園教諭としての高度な技術と実践力									
授業概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で保育実践に関わることを通して、保育者としての愛情と使命感を深め、将来保育者になるうえで能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的、総合的に理解し、保育実践ならびに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。幼稚園教諭免許を取得するための必修科目である。事前指導を受けた後、幼稚園で20日間の現場実習を行う。20日間は、2年前期に10日間、2年後期に10日間の2段階に分けて実施する。									
到達目標	1. 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解できる。 1) 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 3) 教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。 4) 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 2. 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付け、実践できる。 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。									
履修条件、注意事項	原則として通算 GPA または直前の学期の GPA のいずれかが1.10以上である。 実習参加要件および実習の単位認定規定をよく理解すること。									
授業計画	2年前期：観察・参加・部分実習中心							到達目標	授業方法	
	1. 実習園の保育方針を理解し、教諭の計画・指示に従って保育等に参加する。							1,2	面接	
	2. 子どもの安全や衛生面に配慮した環境構成を学ぶ。							1,2	面接	
	3. 子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録をとる。							1,2	面接	
	4. 絵本・紙芝居やペープサート、手遊び、弾き歌い等を実践する。							1,2	面接	
	5. 教諭の指導のもと、保育指導案を立案し、実践する。							1,2	面接	
	2年後期：参加・部分・全日実習中心							1,2	面接	
	1. 実習園の保育方針を理解したうえで、実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について把握し、それに従って保育等に参加する。							1,2	面接	
	2. 幼児の安全や衛生面に配慮した環境構成を学ぶ。							1,2	面接	
	3. 教諭の指導のもと、保育指導案を立案し、実践・省察する。							1,2	面接	
	4. 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。							1,2	面接	
アクティブ・ラーニング	実習									
成績評価基準	評価の方法：①実習先の評価 60% ②実習手帳の提出と内容 40% 評価の基準：①実習先の評価 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解している。 ・大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付けている。 ②実習手帳の提出と内容 * 知識・理解の定着度および思考力、態度を測定 ・自己の実践について十分な省察を行って改善に繋げることができ、真摯な態度で記録に残すことができる。 ・子どもの思いを理解して深く考察することができる。									
フィードバックの方法	・実習園の評価票にもとづいて指導する。 ・実習手帳は教員が評価し指導する。									
時間外の学習 について	予習：事前準備に真摯に取り組む。各回 90 分程度 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。各回 90 分程度									
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参 考 書：『実習の手引き』 『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料：なし									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配ること。 担当者の連絡先は授業内で周知します。									

科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園)	教員	山田、山本(複数) 森下、永田、難波 杉山、上村、富田 野村(オムニバス)	免許・資格 との関係	保育士	必修	関係性が 最も強い 学修成果	①	主体的に学び続ける意欲	
					幼稚園教諭	必修		②	協調的な生活態度	
								③	教養	
								④	豊かな感性と表現力	
ナンバリングコード	JC-S283-110	学科	保育学科	卒業要件	選択	⑤	保育の計画力			
授業形態	演習	年次	2年後期			⑥	保育の指導力	○		
授業科目の取扱い	面接授業科目	単位	2			⑦	専門的な コミュニケーション能力			
						⑧	課題解決能力	○		
教科及び教職に 関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園)									
各科目に含める ことが必要な事項	教職実践演習									
教科目	必修科目(保育士)									
系列	総合演習									
授業テーマ	保育者として必要な使命感・責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、子ども理解・クラス経営等、保育内容等の指導力、子育て家庭に対する支援を展開する力、学修状況の確認と計画的改善									
授業概要	保育者として必要な資質や能力が身につけているかどうかを確認するとともに、不足している知識・技能等の課題発見とその解決への取り組みの成果を確認する。これにより、実践に裏付けられた確かな理論や技能等を身につけ、保育者としての生活を円滑にスタートできるようにする。									
到達目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情を身につけ、あるべき教師・保育士像を反省・考察し、目標を立てることができる。									
	2. 社会性や対人関係能力を身につけることで、保育現場で同僚や保護者と協調し、保育活動に貢献することができる。									
	3. 子ども理解やクラス経営を行う力を身につけ、保育現場で子どもたちに適切に対応することができる。									
	4. 保育内容等の指導力や、子育て家庭に対する支援を展開する力を身につけ、保育現場で適切な計画を立てることができる。									
履修条件、注意事項	少なくとも幼稚園教諭免許状または保育士資格のうち一方を取得できる見込みであること。なお、履修する年度末に、幼稚園教諭免許状または保育士資格の取得に必要な単位の全てを修得できない場合は、単位を認定しない。 履修にあたっては、履修カルテの必要事項を全て記入した上で提出すること。 実践発表は10～20名程度のグループに分割する。									
授業計画								到達目標	授業方法	
	1. 履修履歴の把握と学修の振り返り、後期に実践する各自の課題を設定(担当:全担当教員)							1,2,3,4	面接	
	2. 指導案の立案(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	3. 小学校教育との連携(担当:山田・山本)							2,3,4	面接	
	4. 実践発表のためのオリエンテーション(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	5. 実践発表に向けた原稿作成:保育の省察(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	6. 実践発表に向けた原稿作成:プレゼン準備(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	7. 実践発表1:教材・活動の選定の仕方、ねらいの立て方(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	8. 実践発表2:導入・まとめの工夫(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	9. 実践発表3:環境構成、言葉かけの工夫(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	10. 実践発表4:子どもの反応とねらいの達成の確認(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	11. 実践発表5:保育におけるPDCA(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	12. 実践発表6:子育て家庭に対する支援(担当:全担当教員)							2,3,4	面接	
	13. 実践発表の振り返り(担当:全担当教員)							1,2,3,4	面接	
	14. 実践発表の総括(グループディスカッション)(担当:全担当教員)							1,2,3,4	面接	
	15. 全体の総括と保育に携わる者としての資質・能力の確認(担当:全担当教員)							1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション									
成績評価基準	評価の方法:①指導案・レポート(40%)、②実践発表(40%)、③授業への取り組み(20%) 評価の基準:①指導案・レポート *知識・理解の定着度および思考力を測定 ・正確な知識を持ち、適切な指導案を作成することができる。 ・実践の省察に基づき、各自の課題を考察することができる。 ②実践発表 *思考力・意欲を測定 ・各自の実践を省察し、問題点を把握することができる。 ・各自の実践に対する指摘を受けとめ、改善に繋げることができる。 ③授業への取り組み *関心・意欲を測定 ・真摯な態度で保育に関する学修を積極的に行うことができる。 ・グループワークに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。									
フィードバックの方法	履修カルテを活用し、各自の課題について、教員より確認と個別指導を行う。実践発表については、一人ひとりの発表に対し、教員よりコメントし、改善に役立てる。									
時間外の学習 について	予習:履修履歴・学修の振り返りをもとに、2年次後期の学修課題を各自で定め、授業時間外において学修に努める。実践発表の際には、事前に配布された資料を熟読する。(各回90分程度) 復習:授業内の学修とともに、授業時間外の学修について整理し、各自の課題の学修状況を確認する。(各回90分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト:『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考書:『日本版保育ドキュメンテーションのすすめ』大豆生田啓友、おおえだけい 著 令和3年教育技術新幼児と保育MOOK 参考資料:適宜配布									
実務経験を活かした 授業について										
担当者からの メッセージ等	各担当者の連絡先メールアドレスは、授業内で周知する。									

専攻科デザイン専攻授業科目

Global English	156
地域課題解決研究Ⅰ（PBL）	157
地域課題解決研究Ⅱ（PBL）	158
リーダーシップ論	159
デザイン表現Ⅰ	160
デザイン表現Ⅱ	161
デザイン研究Ⅰ	162
デザイン研究Ⅱ	163
Webデザイン特論	164
プロダクトデザイン特論	165
修了研究	166

科目名	Global English	教員	尊田 望 (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	主体性	
					③	教養	○
					④	コミュニケーション能力	○
					⑤	専門分野の知識・技能	
ナンバリングコード	JA-L311-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	
授業形態	講義	単位	2		⑦	課題解決力	
年次	前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	グローバルな英語、コミュニケーション能力、自己表現						
授業概要	世界中の多様な人たちの文化や習慣、問題や課題について知り、それについて考え、ディスカッションする。他者の意見に耳を傾け、間違いを恐れずに自分の意見を述べる。						
到達目標	1. 英語が世界中で誰により、どのように使われているかを理解し、他者に説明し、自分の英語学習に役立てられる。						
	2. 間違いを恐れずに進んで英語を使い、コミュニケーションを取る姿勢を養う。						
	3. 与えられたテーマについて他者と会話や意見交換ができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. Introduction to Global English					1, 2, 3	面接
	2. Travel Abroad: Which country would you like to travel? Why? What would you do there?					1, 2, 3	面接
	3. Race and Ethnicity: Choose one racial/ethnic issue, explain it, and give your opinion.					1, 2, 3	面接
	4. Language: What should be the international language for the whole world?					1, 2, 3	面接
	5. Population: How can we stop the decline of Japan's population?					1, 2, 3	面接
	6. Religion: What is the average Japanese attitude towards religion? Do you agree with it?					1, 2, 3	面接
	7. Science and technology: What should be the right attitude towards modern technology?					1, 2, 3	面接
	8. Mid-term project: Give a PowerPoint presentation on "What kind of a world do I want to live in?"					1, 2, 3	面接
	9. Happiness: What is happiness to you?					1, 2, 3	面接
	10. Food lifestyle: What is your healthy food lifestyle?					1, 2, 3	面接
	11. Mysteries: Choose one mystery, explain it, and give your opinion.					1, 2, 3	面接
	12. Ethics & morality: Choose one ethical/moral issue, explain it, and give your opinion.					1, 2, 3	面接
	13. Invention: What is the greatest invention of all time? Why do you say so?					1, 2, 3	面接
	14. Study abroad: How can college education be improved?					1, 2, 3	面接
	15. Globalization: What is globalization? How can you be a global person?					1, 2, 3	面接
	定期試験						
アクティブ・ラーニング	ペアワークまたはグループワーク及び発表を中心とした授業を行う。						
成績評価基準	評価の方法：①授業演習（20%）、②プレゼンテーション（20%）、③宿題（20%）、④中間試験（20%）、⑤期末試験（20%）により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲、態度：ペアワーク、グループワーク及び発表等に積極的に参加している。 ②知識・理解、思考・判断、技能・表現：与えられたテーマについて、適切にプレゼンができる。 ③知識・理解、思考・判断：宿題を確実に実施できている。 ④知識・理解：達成目標を確実に遂行しようとしている。 ⑤知識・理解：達成目標を確実に遂行しようとしている。						
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う；（教員）宿題を評価し、返却する；（履修生）授業後にふり振り返りコメントを提出する。						
時間外の学習について	予習：授業内で指定された課題をした上で授業に臨むこと。（各回 90 分程度） 復習：授業内で発表した内容や学んだことについて振り返りをしておくこと。（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：Nozomu Sonda 著 Global English (first edition) (One World International) ISBN 4-948773-22-6						
実務経験を活かした授業について							
担当者からのメッセージ等	英語はグローバルなコミュニケーションのツールです。世界中の多様な背景の人たちが使っています。誰でも参加できる世界です。恐れずに楽しく使ってみましょう。注：対面授業を基本としますが、状況によっては遠隔授業を実施する場合があるので、念のためにネットワーク環境を整えておいてください。 担当者の連絡先は授業内で周知します。						

科目名	地域課題解決研究Ⅰ (PBL)	教員	柳川 和也 中川 聡(実務経験) 河合 良房 中澤 恵(実務経験) 大野 浩光 (複数)	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	リーダーシップ	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
ナンバリングコード	JA-S362-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	
授業形態	演習	単位	2		⑦	課題解決力	○
開講期	前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	○
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	PBL、課題発見力、課題解決力、チームワーク、コミュニケーション能力、リーダーシップ						
授業概要	地域企業や自治体が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。						
到達目標	1. 連携先(企業・地域)の意向や背景を理解し、目的意識をもってプロジェクトの目標を設定できる。						
	2. ヒアリングやフィールドワーク、調査を通して現状を的確に把握し、課題を整理・定義できる。						
	3. 課題解決に向けた企画アイデアを発想し、具体的な形に落とし込むことができる。						
	4. チーム内で役割分担を行い、互いに協力しながら計画的に作業を進め、状況に応じて柔軟に対応できる。						
	5. 企画内容や成果を分かりやすく他者に伝え、意見交換を通して合意形成を図ることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. ガイダンス・キックオフ講義(JR西日本×大学)					1,4	面接
	2. 教員によるデモンストレーション(企画の考え方)					2,5	面接
	3. 企画準備①(事前理解・観察)					3	面接
	4. 企画実施①〈基礎〉(しんやまエキスポ参加) 5月9日					3,5	面接
	5. 企画実施①〈基礎〉(しんやまエキスポ参加) 5月9日					3,5	面接
	6. 企画振り返り①・フィードバック共有					2,4	面接
	7. 企画考案①(基礎)					3,4	面接
	8. 企画プレゼン①(教員フィードバック)					3,5	面接
	9. 企画プレゼン①(JRフィードバック)					3,5	面接
	10. 企画準備②(改善・再設計)					4	面接
	11. 企画準備③(実施準備)					4	面接
	12. 企画実施②〈応用〉(しんやまエキスポ参加) 6月27日					3,5	面接
	13. 企画実施②〈応用〉(しんやまエキスポ参加) 6月27日					3,5	面接
	14. 企画振り返り②・報告会					5	面接
	15. 前期まとめ・後期への接続					5	面接
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	① 企画内容・取り組み姿勢(40%) ② 授業内課題・制作物(30%) ③ プレゼンテーション(30%) ① 企画内容・取り組み姿勢 ・授業・プロジェクトへの主体的な参加態度・調査・フィールドワーク内容の整理力 ② 授業内課題・制作物 ・企画立案・実施における表現力・技能・課題に対する思考力・判断力 ③ プレゼンテーション ・発表への主体性・意欲・内容理解の深さ						
フィードバックの方法	課題を返却						
時間外の学習 について	予習: 次回の授業に向けて、必要な調査や制作を行う(各回90分) 復習: 授業後にチームと自分自身の活動を振り返り、次回に向けた改善策を検討する(各回90分)						
教材にかかわる 情報	テキスト: 特になし 参 考 書: 特になし 参考資料: 特になし						
実務経験を活かした 授業について	教職経験・企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						
担当者からの メッセージ等	自分たちの生活している山口県(山口市)の喫緊の課題に対して芸術表現学科らしい解決策を提案しましょう。 担当教員の連絡先メールアドレス : kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp (柳川)						

科目名	地域課題解決研究Ⅱ (PBL)	教員	柳川 和也 中川 聡（実務経験） 河合 良房 中澤 恵（実務経験） 大野 浩光 （複数）	関係性が最も 強い学修成果	①	勤労観	
					②	リーダーシップ	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	○
					⑧	変化への適応力	○
ナンバリングコード	JA-S362-000	学科	専攻科デザイン専攻				
授業形態	演習	単位	2				
開講期	後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	PBL、課題発見力、課題解決力、チームワーク、コミュニケーション能力、リーダーシップ						
授業概要	地域企業や自治体が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。						
到達目標	1. 連携先（企業・地域）の意向や背景を理解し、目的意識をもってプロジェクトの目標を設定できる。						
	2. ヒアリングやフィールドワーク、調査を通して現状を的確に把握し、課題を整理・定義できる。						
	3. 課題解決に向けた企画アイデアを発想し、具体的な形に落とし込むことができる。						
	4. チーム内で役割分担を行い、互いに協力しながら計画的に作業を進め、状況に応じて柔軟に対応できる。						
	5. 企画内容や成果を分かりやすく他者に伝え、意見交換を通して合意形成を図ることができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. 後期ガイダンス・企画準備					1	面接
	2. 企画準備					3, 5	面接
	3 全体ミーティング（企画振り返り・共有）					3, 5	面接
	4. 企画準備（改善・再設計）					3	面接
	5. 企画実施③（現地実践②） 10 月 10 日					3, 5	面接
	6. 全体ミーティング（企画振り返り・共有）					1, 5	面接
	7. 中間報告・共有会					5	面接
	8. 企画立案④〈発展〉①企画意図の明確化と具体化					1, 3, 4	面接
	9. 企画立案④〈発展〉②企画の精緻化と最適化					1, 3, 4	面接
	10. 企画準備（統合企画）					4	面接
	11. 企画実施④（現地実践③） 11 月 14 日					3, 5	面接
	12. 全体ミーティング（企画振り返り・共有）					5	面接
	13. 企画実施⑤（最終実践） 12 月 12 日					3, 5	面接
	14. 最終振り返り・成果整理					4, 5	面接
	15. 年度まとめ・成果発表					5	面接
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	① 企画内容・取り組み姿勢（40%） ② 授業内課題・制作物（30%） ③ プレゼンテーション（30%） ① 企画内容・取り組み姿勢 ・授業・プロジェクトへの主体的な参加態度・調査・フィールドワーク内容の整理力 ② 授業内課題・制作物 ・企画立案・実施における表現力・技能・課題に対する思考力・判断力 ③ プレゼンテーション ・発表への主体性・意欲・内容理解の深さ						
フィードバックの方法	課題を返却						
時間外の学習 について	予習：次の授業に向けて、必要な調査や制作を行う（各回 90 分） 復習：授業後にチームと自分自身の活動を振り返り、次回に向けた改善策を検討する（各回 90 分）						
教材にかかわる 情報	テキスト：なし 参 考 書：なし 参考資料：なし						
実務経験を活かした 授業について	教職経験・企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						
担当者からの メッセージ等	自分たちの生活している山口県（山口市）の喫緊の課題に対して芸術表現学科らしい解決策を提案しましょう。 担当教員の連絡先メールアドレス：kyanagawa@yamaguchi-jca.ac.jp（柳川）						

科目名	リーダーシップ論	教員	河合 良房 (実務経験) (単独)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	○
					②	リーダーシップ	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S363-000	学科	専攻科デザイン専攻				
授業形態	講義	単位	2				
開講期	後期	卒業要件	選択				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	リーダーシップ・マネジメント・ウェルビーイング・21世紀型人材・ファシリテーション・デジタル社会・デザイン思考						
授業概要	具体的な人物を取り上げ、どのようにリーダーシップを発揮したかを検証することで、リーダーシップの本質について考える。						
到達目標	1. 21世紀型人材育成とリーダーシップを理解する。						
	2. どのようにして課題を克服するかについて理解する。						
	3. 企業経営者がどのような理念を持ち課題に取り組んできたかを理解する。						
	4. デジタル社会で求められるリーダーの資質について理解する。						
	5. デザイン思考に基づいて社会の課題に取り組む態度を身につける。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. リーダーシップ論を学ぶ意義					1,2	面接
	2. 書籍「リーダーシップの旅」輪読とポートフォリオ作成について					1,2	面接
	3. リーダーシップの本質					1	面接
	4. リーダーシップとマネジメント					1	面接
	5. リーダーシップとウェルビーイング					1	面接
	6. リーダーシップと21世紀型人材育成					1	面接
	7. リーダーシップとファシリテーション					1	面接
	8. リーダーシップとインターネット					1,4	面接
	9. 健康経営企業に学ぶ①日本のリーダー					2,3	面接
	10. 地域活性企業に学ぶ②日本のリーダー					2,3	面接
	11. デジタル社会に学ぶ③世界のリーダー					2,4	面接
	12. デザイン思考に学ぶ④世界のリーダー					2,5	面接
	13. 企業経営とグローバルリーダー					3	面接
	14. まとめ：ポートフォリオ提出					1	面接
	15. 最終レポート：プレゼンテーション					1,2	面接
アクティブ・ラーニング	輪読、ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①各回のレポート（50%）②プレゼンテーション（30%）③最終レポート（20%） 評価の基準：①関心・意欲を測定 ②関心・意欲、知識の理解度、思考力・表現力を測定 ③知識の理解、思考力・表現力・判断力を測定						
フィードバックの方法	授業の教材として各自のレポートを使い討議します。						
時間外の学習について	予習：授業のテーマについて予習（各回 90 分程度） 復習：レポート作成（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：「リーダーシップの旅 見えないものを見る」（光文社新書 野田智義 金井壽宏 2007 年） 参 考 書：「ウェルビーイング」（日本経済新聞出版 前野隆司 前野マドカ 2022 年） 参考資料：配布プリント、紹介図書、インターネット検索情報						
実務経験を活かした授業について	高等学校教員（地歴公民）経験：さまざまな人物のリーダーシップに触れ、リーダーシップとは何か、共に学びましょう。						
担当者からのメッセージ等	図書やインターネットを活用してレポートを作成するとともに、様々な課題解決活動における自分なりのポートフォリオとして情報整理するコツを身につけてください。 河合： 連絡先は授業の際に連絡します。						

科目名	デザイン表現Ⅰ	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	リーダーシップ		
					③	教養		
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能	○	
ナンバリングコード	JA-S321-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	○	
授業形態	実技	単位	2		⑦	課題解決力		
開講期	前期	卒業要件	選択			⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	基礎デザイン、平面構成、イメージ構成、配色、色彩							
授業概要	デザイン実習（イメージ構成）を通して、デザイナーに必要な美的感性（センス）と発想力を養う。							
到達目標	1. デザインの造形に関する知識を理解する。							
	2. テーマに応じたイメージを、平面構成（イメージ構成）に表現化できる。							
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。							
	4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。							
履修条件、注意事項								
授業計画						到達目標	授業方法	
	Ⅰ. 平面構成を学ぶ意義 課題説明					Ⅰ	面接	
	2. 平面構成＜課題Ⅰ＞ アイデアスケッチ、下書き、チェック					1,2,3,4	面接	
	3. // 彩色①					1,2,3,4	面接	
	4. // 彩色②					1,2,3,4	面接	
	5. // 彩色③					1,2,3,4	面接	
	6. // 振り返り					1,2,3,4	面接	
	7. 平面構成＜課題2＞ アイデアスケッチ、下書き、チェック					1,2,3,4	面接	
	8. // 彩色①					1,2,3,4	面接	
	9. // 彩色②					1,2,3,4	面接	
	10. // 振り返り					1,2,3,4	面接	
	11. 平面構成＜課題Ⅰ＞ ＜課題2＞ブラッシュアップ					1,2,3,4	面接	
	12. 平面構成＜課題3＞ アイデアスケッチ、下書き、チェック					1,2,3,4	面接	
	13. // 彩色①					1,2,3,4	面接	
	14. // 彩色②					1,2,3,4	面接	
15. // 振り返り					1,2,3,4	面接		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション							
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20%）②デザイン分析（10%）③色彩構成（70%） 評価の基準：①授業内レポートを通して、関心・意欲を測定 ②デザイン分析、アイデアスケッチを通して、知識・理解・判断・表現を測定 ③色彩構成を通して、技能・表現を測定							
フィードバックの方法	講評での口頭でのフィードバック。							
時間外の学習について	予習：デザインのアイデアスケッチ。スケジュールを意識して計画的に制作を進める。 各回 90 分程度 復習：振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回 90 分程度							
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：プリント配布							
実務経験を活かした授業について	受験講師・デザイナー経験からの視点で、捉え方・技術をお伝えします							
担当者からのメッセージ等	経験と実践の積み重ねの中で、「デザイン力」と「客観的に見る力」を付けていきましょう。 担当者の連絡先・E-mail mnakazawa@yamaquchi-jca.ac.jp（中澤）							

科目名	デザイン表現Ⅱ	教員	中澤 恵（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	リーダーシップ		
					③	教養		
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能	○	
ナンバリングコード	JA-S322-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	○	
授業形態	実技	単位	2		⑦	課題解決力		
開講期	後期	卒業要件	選択			⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	基礎デザイン、平面構成、イメージ構成、配色、色彩							
授業概要	デザイン実習（イメージ構成）を通して、デザイナーに必要な美的感性（センス）と発想力を養う。							
到達目標	1. デザインの造形に関する知識を理解する。							
	2. テーマに応じたイメージを、平面構成（イメージ構成）に表現化できる。							
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。							
	4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。							
履修条件、注意事項								
授業計画						到達目標	授業方法	
	1. デザイン表現Ⅱガイダンス 課題説明					1	面接	
	2. 平面構成＜課題1＞ アイデアスケッチ、下書き、チェック					1,2,3,4	面接	
	3. // 配色・作業計画					1,2,3,4	面接	
	4. // 彩色①					1,2,3,4	面接	
	5. // 彩色②					1,2,3,4	面接	
	6. // 振り返り					1,2,3,4	面接	
	7. 平面構成＜課題2＞ アイデアスケッチ、下書き、チェック					1,2,3,4	面接	
	8. // 彩色①					1,2,3,4	面接	
	9. // 彩色②					1,2,3,4	面接	
	10. // 振り返り					1,2,3,4	面接	
	11. 平面構成＜課題1＞ ＜課題2＞ブラッシュアップ					1,2,3,4	面接	
	12. 平面構成＜課題3＞ アイデアスケッチ、下書き、チェック					1,2,3,4	面接	
	13. // 彩色①					1,2,3,4	面接	
	14. // 彩色②					1,2,3,4	面接	
	15. // 振り返り					1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション							
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（20%）②デザイン分析（10%）③色彩構成（70%） 評価の基準：①授業内レポートを通して、関心・意欲を測定 ②デザイン分析、アイデアスケッチを通して、知識・理解・判断・表現を測定 ③色彩構成を通して、技能・表現を測定							
フィードバックの方法	講評での口頭でのフィードバック。							
時間外の学習 について	予習：デザインのアイデアスケッチ。スケジュールを意識して計画的に制作を進める。 各回 90 分程度 復習：振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回 90 分程度							
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：プリント配布							
実務経験を活かした 授業について	受験講師・デザイナー経験からの視点で、捉え方・技術をお伝えします							
担当者からの メッセージ等	経験と実践の積み重ねの中で、「デザイン力」と「客観的に見る力」を付けていきましょう。 担当者の連絡先・E-mail mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp（中澤）							

科目名	デザイン研究Ⅰ	教員	前田 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	リーダーシップ	
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	○
ナンバリングコード	JA-S323-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	○
授業形態	講義	単位	2		⑦	課題解決力	
開講期	前期	卒業要件	選択		⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	グラフィックデザイン，ケーススタディ，Photoshop，Illustrator，Indesign，ソフトウェア操作，デザイン実践，課題解決						
授業概要	調査に基づきテーマを設定し、テーマに沿った作品制作と、作品に関するプレゼンテーションを行う。						
到達目標	1. 地域や社会の課題を調査し、デザインで解決する課題を設定できる。						
	2. デザインコンセプトを策定し、他者に伝えることができる。						
	3. コンセプトに基づき、作品制作ができる。						
	4. 作品に関するプレゼンテーションができる。						
履修条件、注意事項							
授業計画						到達目標	授業方法
	1. デザイン研究の意義					1	面接
	2. 課題1：課題調査					1	面接
	3. 課題1：課題設定					1	面接
	4. 課題1：コンセプト検討・プレゼンテーション					2,4	面接
	5. 課題1：作品制作① アイディアスケッチ～データ制作					3	面接
	6. 課題1：作品制作② ～仕上げ					3	面接
	7. 課題1：作品のプレゼンテーション					4	面接
	8. 課題2：課題調査					1	面接
	9. 課題2：課題設定					1	面接
	10. 課題2：コンセプト検討・プレゼンテーション					2,4	面接
	11. 課題2：作品制作① アイディアスケッチ～データ制作					3	面接
	12. 課題2：作品制作② データ制作					3	面接
	13. 課題2：作品制作③ データ制作～仕上げ					3	面接
	14. 課題2：作品のプレゼンテーション					4	面接
	15. 振り返り					4	面接
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	評価の方法：①授業内レポート（50%）②課題（25%）③プレゼンテーション（25%） 評価の基準：①意欲・関心を測定 ②表現・技能を測定 ③思考・判断を測定						
フィードバックの方法	授業内レポートを返却						
時間外の学習について	予習：地域や社会の課題に目を向けて、解決方法を検討する（各回 90 分程度） 復習：授業を振り返り、対策と計画を立てる（各回 90 分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：特になし						
実務経験を活かした授業について	デザイナー経験：いままでの業務経験から実践的なデザインのテクニックやデータの作成方法のコツを交えて話をします。						
担当者からのメッセージ等	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail： t0014@yamaguchi-jca.ac.jp （前田）						

科目名	デザイン研究Ⅱ	教員	前田 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	リーダーシップ		
					③	教養		
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能	○	
ナンバリングコード	JA-S324-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	○	
授業形態	講義	単位	2		⑦	課題解決力		
開講期	後期	卒業要件	選択			⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	グラフィックデザイン，ケーススタディ，Photoshop，Illustrator，Indesign，ソフトウェア操作，デザイン実践，課題解決							
授業概要	身の回りのデザイン課題を発見し、調査に基づきテーマを設定し、テーマに沿った作品制作と作品に関するプレゼンテーション・ディスカッションを行う。							
到達目標	1. デザイン課題の調査、発見ができる							
	2. 課題について分析後、解決策・改善策を提案できる。							
	3. 自らが作成した方針に基づきデザインの制作を行う。							
	4. 制作物についてプレゼンテーションができ、またディスカッションを行える							
履修条件、注意事項								
授業計画						到達目標	授業方法	
	1. デザイン研究Ⅱガイダンス					1	面接	
	2. 課題の発見					1	面接	
	3. 課題解決のための調査					2	面接	
	4. 課題解決の方針決定・企画					2	面接	
	5. 企画プレゼンテーション、ディスカッション					2,4	面接	
	6. 制作内容修正～決定					2,3	面接	
	7. 制作スケジュール作成					3	面接	
	8. 制作① 情報収集					3	面接	
	9. 制作② ラフデザイン					3	面接	
	10. 制作③ デザイン制作					3	面接	
	11. 制作チェック					3	面接	
	12. 制作④ デザイン制作					3	面接	
	13. 制作⑤ デザイン制作～まとめ					3	面接	
	14. 作品のプレゼンテーション、ディスカッション					4	面接	
	15. 振り返り					4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション							
成績評価基準	評価の方法：①課題調査レポート（30%）②課題（40%）③プレゼンテーション（30%） 評価の基準：①意欲・関心を測定 ②表現・技能を測定 ③思考・判断を測定							
フィードバックの方法	授業内レポートを返却							
時間外の学習 について	予習：地域や社会の課題に目を向けて、解決方法を検討する（各回 90 分程度） 復習：授業を振り返り、対策と計画を立てる（各回 90 程度）							
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：特になし							
実務経験を活かした 授業について	デザイナー経験：いままでの業務経験から実践的なデザインのテクニックやデータの作成方法のコツを交えて話をします。							
担当者からの メッセージ等	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail： t0014@yamaguchi-jca.ac.jp （前田）							

科目名	Web デザイン特論	教員	前田 和也（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	リーダーシップ		
					③	教養		
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能	○	
ナンバリングコード	JA-S325-000	学科	専攻科デザイン専攻		⑥	創造力	○	
授業形態	演習	単位	2		卒業要件	⑦	課題解決力	
開講期	前期	選択	⑧			変化への適応力		
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	WEB, ウェブサイト, Web デザイン, Figma, グラフィック, プログラム, データベース, PHP, MySQL, SQL							
授業概要	前半は現在の制作現場で使われる Figma の操作方法を習得し、後半は Web でよく使われているプログラム PHP の文法など学習し、簡単なプログラムを作っていながら動作を理解していく。							
到達目標	1. 現在の Web デザイン制作の動向についての理解							
	2. Figma の操作方法を習得							
	3. Figma を使ったデータ制作、運用ができる							
	4. Web 上で動作するプログラムの種類や特性を理解							
	5. PHP の動作を理解							
履修条件、注意事項	HTML や CSS などウェブページを表現するスキルがある程度理解できていることが必要です。							
授業計画					到達目標	授業方法		
	1. Web デザインの現在の動向（ガイダンス）				1	面接		
	2. Figma の使い方基礎 1（基本的なグラフィックツール）				1,2	面接		
	3. Figma の使い方基礎 2（コンポーネント・オートレイアウトなど）				2	面接		
	4. Figma を使った Instagram 広告制作				2,3	面接		
	5. Figma を使った Instagram 広告制作～完成				2,3	面接		
	6. Figma で Web ページデザイン制作（ワイヤーフレーム制作）				2,3	面接		
	7. Figma で Web ページデザイン制作（配色・画像配置など）				2,3	面接		
	8. Figma まとめ				1,3	面接		
	9. Web でのプログラム環境について				4	面接		
	10. プログラム開発環境を整える				4	面接		
	11. PHP プログラムの基本 2（分岐）				5	面接		
	12. PHP プログラムの基本 3（配列・繰り返しについて）				5	面接		
	13. PHP プログラムを作成 1（フォームメール）				5	面接		
	14. PHP プログラムを作成 2（データベース操作）				5	面接		
	15. まとめ				4,5	面接		
アクティブ・ラーニング								
成績評価基準	評価の方法：①制作課題（75％）②授業中の取組姿勢（25％） 評価の基準：①思考・判断・表現技術を測定 ②関心・意欲の測定							
フィードバックの方法	進行の段階ごとに、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする							
時間外の学習 について	予習：次回講義内容について調べる。（各回 90 分） 復習：授業で出した課題について進めておく。（各回 90 分）							
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：特になし							
実務経験を活かした 授業について	デザイナー経験：いままでの業務経験から実践的なデザインテクニックやプログラムの作成方法のコツを交えて話をします。							
担当者からの メッセージ等	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail： t0014@yamaguchi-jca.ac.jp （前田）							

科目名	プロダクトデザイン特論	教員	平川 和明（実務経験） （単独）	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観		
					②	リーダーシップ		
					③	教養		
					④	コミュニケーション能力		
					⑤	専門分野の知識・技能	○	
ナンバリングコード	JA-S326-000	学科	専攻デザイン専攻		⑥	創造力	○	
授業形態	演習	単位	2		⑦	課題解決力		
開講期	後期	卒業要件	選択			⑧	変化への適応力	
授業科目の取扱い	面接授業科目							
授業テーマ	プロダクトデザイン、デザイン、クラフト、エ芸							
授業概要	多面的な視点から生活と環境を踏まえた新たなプロダクトのデザインを発想し、身近な日用品の制作を行う。課題制作を通してプロダクトデザインの基本的なプロセスを理解し、調査・分析能力、発想力を習得する。さらに制作した商品について発表をおこなうことでプレゼン能力を身につける。							
到達目標	1. プロダクトデザインのプロセスを説明できる。							
	2. どのように思考、判断して個々の作品制作に至ったかを説明できる。							
	3. 日常生活でデザインに問題意識を持ち、作品制作に活かすことができる。							
	4. 主体的に制作活動に取り組むとともに、周囲への配慮、協力ができる。							
	5. 多面的な視点から発想ができる。							
履修条件、注意事項								
授業計画					到達目標	授業方法		
	1. ガイダンス				1	面接		
	2. プロダクトデザインについて				1	面接		
	3. 課題設定 商品調査・分析				1	面接		
	4. 課題発表 プレゼン、ディスカッション				1, 2, 5	面接		
	5. 課題設定 アップサイクルについて 調査・分析				1,	面接		
	6. 課題発表 商品アイデア発表、ディスカッション				1, 2, 3, 5	面接		
	7. 課題制作① 課題説明				1, 3, 4	面接		
	8. 課題制作② 調査				1, 3, 4	面接		
	9. 課題制作③ 企画・コンセプト確立				1, 3, 4	面接		
	10. 課題制作④ アイデア展開、制作				1, 3, 4	面接		
	11. 課題制作⑤ 実制作				1, 3, 4	面接		
	12. 課題制作⑥ 塗装				1, 3, 4	面接		
	13. プレゼン資料作成① 物撮り				1, 4, 5	面接		
	14. プレゼン資料作成② パワーポイント				1, 4, 5	面接		
	15. プレゼンテーション、講評				1, 2	面接		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク							
成績評価基準	評価の方法：①授業態度（30％）②課題作品（50％）③発表（20％） 評価の基準：①授業に取り組む意欲を授業態度から測定 ②アイデア発想力や技能を作品の完成度により測定 ③プレゼンテーションの内容でプロダクトデザインの理解度を測定。							
フィードバックの方法	作品の講評、プリント資料の配布							
時間外の学習について	予習：授業内容に沿ってその都度指示。（各回 90 分） 復習：授業内容に沿ってその都度指示。（各回 90 分）							
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参 考 書：「プロダクトデザインの基礎」 日本インダストリアルデザイナー協会編 発行・発売：ワークスコーポレーション 参考資料：適宜配布							
実務経験を活かした授業について	家具デザイン・開発の経験：プロダクトデザインの造形と機能性について講義をおこない、商品開発におけるアイデアの生み出し方、実践的な技術を伝えます。							
担当者からのメッセージ等	材料費は実費になります。 担当教員の連絡先・メールアドレス hira@yamaguchi-u.ac.jp（平川）							

科目名	修了研究	教員	中澤 恵 他 (複数)	関係性が最も強い学修成果	①	勤労観	
					②	リーダーシップ	○
					③	教養	
					④	コミュニケーション能力	
					⑤	専門分野の知識・技能	
					⑥	創造力	○
					⑦	課題解決力	
					⑧	変化への適応力	
ナンバリングコード	JA-S382-000	学科	専攻科デザイン専攻				
授業形態	演習	単位	4				
開講期	前後期	卒業要件	必修				
授業科目の取扱い	面接授業科目						
授業テーマ	修了制作、修了研究、修了演奏、修了制作展、研究発表、展示						
授業概要	各自が設定したテーマについて研究し、制作、演奏、発表を行う。 授業はゼミ形式で行い、教員や他の学生とのディスカッションを通して自身の考えを深め、研究・制作・演奏の質を高める。研究成果を作品、演奏、論文等の成果物にまとめ、最終成果を研究発表会や修了制作展で発表する。						
到達目標	1. 自ら研究テーマを設定して、計画的に研究や制作を進めることができる。						
	2. テーマに関連する資料収集や調査を行い、教員や学生とディスカッションができる。						
	3. 専門性を活かして、創造性の高い作品や表現ができる。						
	4. 研究成果を論文にまとめることができる。または、効果的な展示ができる。						
	5. 来場者を魅了するプレゼンテーション、演奏ができる（研究発表会）。						
履修条件、注意事項							
授業計画	前期)					到達目標	授業方法
	1. 修了研究の意義					1	面接
	2. 研究テーマの検討					1	面接
	3. 研究テーマの決定					1	面接
	4. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 (1)					2	面接
	5. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 (2)					2	面接
	6. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 (3)					2	面接
	7. 課題やコンセプトの設定 (1)					2, 3	面接
	8. 課題やコンセプトの設定 (2)					2, 3	面接
	9. 課題やコンセプトの設定 (3)					2, 3	面接
	10. 調査方法や制作物の検討 (1)					2, 3	面接
	11. 調査方法や制作物の検討 (2)					2, 3	面接
	12. 調査方法や制作物の検討 (3)					2, 3	面接
	13. 調査方法や制作物の検討 (4)					2, 3	面接
	14. 中間報告の準備					4,	面接
	15. 中間報告					4	面接
	後期)						
	1. 修了制作展・演奏会の目的					5	面接
	2. 調査、制作 (1)					3	面接
	3. 調査、制作 (2)					3	面接
	4. 調査、制作 (3)					3	面接
	5. 調査、制作 (4)					3	面接
	6. 調査、制作 (5)					3	面接
	7. 論文や作品紹介 (概要集) の要点整理					4	面接
	8. 論文や作品紹介 (概要集) の構成					4	面接
	9. 論文や作品紹介 (概要集) 執筆					4	面接
	10. 論文や作品紹介 (概要集) の修正					4	面接
	11. 展示物の準備 (1)					4, 5	面接
	12. 展示物の準備 (2)					4, 5	面接
	13. 発表の準備 (1)					4, 5	面接
	14. 発表の準備 (2)					4, 5	面接
	15. 発表の準備 (3)					4, 5	面接
	◎定期試験 (修了研究発表会)						

アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループディスカッション
成績評価基準	評価の方法：①授業への参加意欲・態度（50%）②展示・発表・論文の完成度（50%）により、総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲・態度、思考・判断力を測定：ディスカッション等において、自らよく考え、積極的に発問や発言ができてきている。 ②知識・理解度、技能・表現力を測定：授業で取り上げた理論を理解し、それらの知識を作品制作や論文執筆、音楽演奏に活かして、自らの技能をもって表現できる。
フィードバックの方法	1週間の取り組みに対して、授業内でフィードバックする。
時間外の学習について	予習：テーマに関する社会動向や作品に関心・意欲を持ち、調査・分析を行う。（各回 90 分） 復習：授業で得たアドバイスを基に研究や制作、演奏を行い、完成度を高める。（各回 90 分）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：随時、プリント等で配布
実務経験を活かした授業について	
担当者からのメッセージ等	Email： mnakazawa@yamaguchi-jca.ac.jp （中澤）

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目 7 番 1 号

電 話 (083) 972-2880

F A X (083) 972-4145

URL <https://www.yamaguchi-jca.ac.jp>